

股輪邊兒尼亞

右混和温湯ニ和シ二回分服(牛)
チレピン油 二五〇〇
石灰水 九〇〇〇

右混和頓服(牝牛)

煨製マグネチア
炭酸アムモニウム 各一〇〇〇
白藜蘆根末 各一〇〇〇
右混和一錢ノ亞麻仁煎汁ニ和シ
與フ(牛)

煨製マグネチア

白藜蘆根末 各一〇〇〇

右混和一錢ノ稀釋燒酎ニ和シ與
フ(牛)

食鹽 一五〇〇

硫酸苦土 三〇〇〇

煙草葉末 五〇〇〇

右混和各一錢ノ亞麻仁煎汁ニ和
シ二回ニ分服(牛)

石灰水 一〇〇〇〇

酒精 四〇〇〇

右混和二回分服(牛)制酵劑ト
シテ)

パチロール 二五〇〇

蘆薈丁幾 一〇〇〇

右混和各一錢ノ葛縷子茶劑ニ和
シ二回ニ與フ(牛)

クレオソート

アムモニア水 各五〇〇

稀酒精 一五〇〇

右混和每十乃至十五分一食匙量
宛與フ(羊・山羊)

アムモニア水 二五〇〇

右一錢ノ亞麻仁粘汁ニ和シ食道
探子ヲ用ヒテ與フ(牛)

アムモニア水 二〇〇〇

右一錢ノ冷水ニ克ク混和シテ與

三六一

フ(牛)

アムモニア水 一〇〇〇

酒精 一〇〇〇

右混和四分ノ三「リートル」ノ水
ト混シテ與フ、要スレハ反覆與
フ(牛)

巴豆油 二〇滴

エーテル精 三〇〇

右混和一錢ノ燕麥汁ニ混和シテ
與フ(牛)

木タール 五〇〇

石腦油 一〇〇〇

右混和二回分服(牛)

注意！本劑藥品ハ肉ニ臭氣移
行スルヲ以テ屠肉用動物ニハ注
意ヲ要ス

療法

嵌頓セサル過兒尼亞ハ刺戟藥例之芫菁軟膏ヲ塗布シ八日間起立セシメ十四日ヲ經テ運動セ

股輪邊兒尼亞

Hernia cruralis. (羅)

シム嵌頓ヲ起シタルモノハ仰臥整復ヲ試ミ効ナケレハ過兒尼亞手術ヲ施ス囊ノ切開ハ大ニ過クヘラ
ラス

罅裂

Fissura. (羅)

療法 骨ノ一部罅裂シタルモノニシテ初期ハ繃帶冷濕ニテ癒ユ中期ニハ温卷法・弱刺戟衝動擦劑末
期ニハ強發疱膏ヲ處ス大抵初期療法ニテ癒ユ

骨瘍

Osteitis. (羅)

療法 排膿ヲ能クシ瘻管ハ烙鐵或ハ腐蝕藥ヲ以テ擴開シ或ハ排膿管ヲ裝ス壞死組織ヲ除去シ銳匙
ヲ以テ組織ヲ剝除シ病局ヲ石炭酸・「クレオリン」液ニテ洗滌シ蘆薈丁幾・沒藥丁幾等ヲ注入シ防腐及
肉芽ノ發生ヲ促シ活機ヲ興進スヘシ腐蝕藥例之「クロール」・「亞鉛等」ハ注意ヲ要ス是レ骨瘍ヲ蔓延セシ
ムル虞アリ壞死骨片ハ充分除去スルヲ要ス滋養強壯ノ食ヲ與ヘ攝生ニ注意ス

骨疽

Osteomyelitis. (羅)

Necrosis ossium. (羅)

療法 未タ死骨片ノ分離セサル間ハ主トシテ瘻管ヲ洗淨シ努メテ清潔ニ保チ其分解甚タ緩慢ナル
トキハ濕温・瘻底燒灼・「チレピン」油若ハ蘆薈丁幾ノ注入ニ依リ之ヲ促進スヘシ其既ニ分離セラレタ
ルモノハ自然ニ脫離排出セララルコトアリ或ハ腐骨摘出術ノ執行ヲ要スルコトアリ腐骨片小ナレハ
少シク瘻管ヲ割大シ麥粒鉗子ニテ摘出シ大ナレハ瘻管ノ上下兩方ニ於テ軟部ヲ縱割シテ十分ニ之ヲ
開大シ骨膜起子ヲ以テ骨膜ヲ剝離シ或ハ鋸ト鑿トヲ用ヒ或ハ圓鋸術ニ依リ腐骨片ヲ摘出シ鉛匙ヲ以

罅裂 骨瘍 骨疽

ヲ骨柁内ノ惡肉芽ヲ悉ク搔爬シ骨創ニ「ヨード」フォームガ「ゼ」ヲ栓塞シテ防腐繃帶ヲ施スヘシ

骨脆症

Osteomalacia. Osteoporosis. (羅)

療法

病症重劇トナラサル以前ニ轉地スレハ治癒ス又飼養法ヲ全ク變換スルハ必要ナルモ之モ轉地同様實行困難ナリ然レトモ食物ノ一部ナリトモ變換スルコト肝要ナリ飼料ハ善良ノ乾草・稈・油糟等ヲ與フ牧場ニ放牧シテ青草ヲ自由ニ食セシメ運動ヲ自由ナラシムルハ大ニ効アリ飼料ニハ石灰鹽類ヲ混與ス即チ尙儂病ニ用フルト同様ノ石灰鹽類ヲ多量ニ與フ例之大動物ニハ體重ノ大小・用途ノ輕重ニ從ヒ炭酸石灰三〇—八〇〇〇又ハ一〇〇〇—二〇〇〇〇小反芻獸及豚ニハ一〇—二〇〇〇ヲ三分シテ飼料ニ混與ス又炭酸石灰ト磷酸鹽類(例之磷酸曹達一日三回一食匙宛)トヲ二・三日間宛交互ニ與フルヲ宜シトス、舐病ヲ發スレハ「アボモルヒネ」〇・一—〇・二ヲ皮下注射ス某氏ノ實驗ニ由レハ「ピロカルペン」及「カフエイン」ノ内服ニ依リテ全身營養狀態ノ改善ヲ見タリト云フ

- 肝油 各一〇〇〇〇
- 右爲溶液大犬ニ毎日一食匙(小)
- 粗製磷酸石灰 五〇〇〇〇
- 重炭酸加里 五〇〇〇〇
- 右爲散劑每飼料中ニ一食匙混與
- 粗製炭酸石灰 五〇〇〇
- 右爲溶液每日一食匙宛(馬)
- 磷 〇〇五

- 肝油 三〇〇〇〇
- 右爲溶液大犬ニ毎日一食匙(小)
- 犬ニ一茶匙)ヲ與フ
- 粗製炭酸石灰

- 粗製磷酸石灰 各一〇〇〇〇
- 重炭酸加里 五〇〇〇〇
- 右爲散劑每飼料中ニ一食匙混與
- 粗製炭酸石灰 五〇〇〇
- 右爲散劑每飼料中ニ一食匙混與

(馬)

- 食鹽 三〇〇〇〇
- 磷酸石灰 一〇〇〇〇
- 龍膽末 一〇〇〇〇
- 葛縷子 二〇〇〇〇
- 右混和シ朝夕一—二食匙與フ
- (牛)
- 結晶人工カルルス泉鹽
- 杜松子 各二〇〇〇〇
- 茴香 右朝夕二回一食匙宛飼料ニ混與

人工カルルス泉鹽

- 右一食匙量每飼料ニ混與(馬) 五〇〇〇〇
- 磷酸ナトリウム 一六〇〇
- 白堊 三六〇〇〇
- 食鹽 二〇〇〇〇
- 重曹 三〇〇〇〇
- アブシント草 一二〇〇〇
- 右混和爲散劑每日六食匙宛與フ
- (牛)
- 磷酸ナトリウム 一五〇〇〇
- 右毎日三回一食匙量宛與フ(牛)

炭酸カルチウム

- 右三包ニ分チ二日間三回ニ分與 二〇〇〇〇
- (牛)
- 磷酸カルチウム 各二〇〇〇〇
- 杜松實末 三〇〇〇〇
- 食鹽 五〇〇〇
- 硫酸鐵 右混和爲散劑朝夕一匙量宛飼料ニ混與ス(豚)

骨膜炎

Periostitis. (羅)

療法

初期ニハ溫熱疼痛ヲ減却スル爲メ冷湯ヲ行フ次急性ニアリテハ解凝藥(水銀軟膏・「ヨード」)「ヨード」(「ヨード」加里軟膏)塗布・壓迫繃帶ヲ施ス慢性症ニハ刺戟擦劑(芫菁軟膏・赤複「ヨード」汞・昇汞軟膏一・八)或ハ烙鐵ヲ用フ此等ノ醫療ハ皮膚ニ痂皮ヲ生シ壓迫ヲ與ヘ骨膜ノ贅生ヲ防クノ効アリ烙鐵ハ點狀或ハ線狀ニナス骨膜炎ノ結果トシテ生スル骨瘤ハ皮膚刺戟藥・壓迫及按摩ニヨリテ療ス此法ハ吸收ヲ促進シ骨瘤ヲ縮小セシム細基ヲ有スル骨瘤ハ鈍鑿或ハ鋸ヲ以テ切除シ得ヘシ但此手術ハ舊キ骨瘤ニ用ヒス是レ新骨膜炎ヲ起シ骨瘤ヲ更ニ大ナラシムルノ虞アレハナリ化膿性骨膜炎ハ皮膚刺

骨膜炎

戟藥ニヨリ分解ヲ促シ液動ヲ生スレハ穿刺シテ排膿シ制腐療法ヲ行フ

| | | | | | |
|---------------|------|-----------|-------|----------------------|-------|
| 重クローム酸カリウム | 四・〇 | 樟腦油 | 二五・〇 | ワソリメント | 二五・〇 |
| パラヒン | 五〇・〇 | 右混和塗擦料トス | | 右混和爲軟膏塗擦料トス | |
| 右爲軟膏頑性骨膜炎ニ塗擦ス | | ヨードカリウム | 五・〇 | ヨードカリウム軟膏 | |
| 灰白水銀軟膏 | 二〇・〇 | 灰白水銀軟膏 | | アムモニア樟腦擦劑 | 各一五・〇 |
| 樟腦 | 二〇・〇 | パラフィン軟膏 | 各三〇・〇 | 右混和爲擦劑外用(新鮮症ノ場 合) | |
| カリ石鹼 | 一〇・〇 | 右混和毎日一回塗擦 | | クローム酸カリウム | 四・〇 |
| 右混和爲軟膏外用 | | ヨード | 二・〇 | 含水ラノリン | 三〇・〇 |
| 灰白水銀軟膏 | 二五・〇 | ヨードカリウム | 五・〇 | 右混和爲軟膏塗擦料トス | |
| カリ石鹼 | 五・〇 | 水 | 二・〇 | カンタリス末 | 四・〇 |
| 亞麻仁油 | 一五・〇 | 豚脂 | 三〇・〇 | テレピンチーナ | |
| 右混和爲塗擦料 | | 右混和爲軟膏外用 | | 豚脂 | 各一〇・〇 |
| カリ石鹼 | 一〇・〇 | ヨード | 〇・五 | 右混和爲軟膏毎日一回塗擦 | |
| 灰白水銀軟膏 | 五〇・〇 | ヨードカリウム | 二・五 | | |

骨 炎 Ostitis (羅)

療法 本病ノ機轉ハ一部ハ治病上ノ必要アルヲ以テ之ヲ障礙スヘカラス是レ治療的介助ヲ施スコト稀ナル所以ナリ化骨性骨炎ハ臨牀上多クハ決定シ能ハサルニヨリテ療法ヲ施スコト尠シ反之化膿性骨炎ニ於テハ軟部ノ化膿ノ如ク適當ノ治療ヲ施シ膿汁ヲシテ可及的速ニ排泄流利セシムルヲ努メ

且壞死骨片ヲ除去スヘシ吾人ハ每常壞死骨片ト健全ナル骨トノ連絡ヲ試査シ若シ動搖性トナレハ之ヲ除去ス其後ニ遺存シタル肉芽創面ハ一般原則ニ從テ所置ス稀釋セル鹽酸(一%鹽酸)ハ壞疽骨片ノ融解及其分離ヲ促スノミナラス同時ニ制腐的ニ作用スルヲ以テ本病ニ多ク之ヲ應用ス

化骨性骨炎 Ostitis ossificans (羅)

療法 本症ハ臨牀診斷上ニ確診スルコト稀ナリ從テ治ヲ加フルコト尠シ休憩・局所冷濕・水銀軟膏又ハ「ヨード」軟膏塗布ヲナス

稀鬆性骨炎 骨脆症 Osteoporosis (羅)

骨軟症參照

骨 腫 Osteoma (羅)

療法 結紮或ハ刀切ヲ用フル能ハス下顎骨瘤ハ鑿或ハ鋸ニテ切除ス頭骨竇ニアルモノハ手術難シ

骨 折 Fractura (羅)

療法 骨折ノ療法ニ三要旨アリ整備・保定・保護是ナリ皮下骨折ニ於テ第一ノ要務ハ破折セル骨ヲ其常位ニ整備スルニアリ(整備或ハ整骨)而シテ後之レヲ治療スル迄保定スルニアリ(保定)不全骨折(罅裂及屈曲)ニ於テハ通常動物ハ治機ノ間休憩ヲ命スレハ足ル反之複骨折ニ於テハ尙特別ノ手段ヲ施スヘシ

第一、整備 管狀骨ノ多クノ骨折ニ於テハ縱經轉位ヲナス故ニ整備ハ通常患肢ノ強力ナル牽引ヲナス

骨炎 骨腫 骨折

即チ骨折ノ末梢部ヲ牽引シ(舒伸)同時ニ中心部ニ反對牽引(反對舒伸)ヲ行フ茲ニ於テ筋肉・腱・腱膜・軟部ノ彈力性及筋肉ノ自働性收縮ヲ克服セシメサルヘカラス筋肉ノ自働性收縮ヲ制スルニハ迷蒙、馬ニ於テハ鼻捻棒ヲ用フ蓋シ迷蒙ハ動物ノ疼痛ヲ節減シテ之ヲ安靜ナラシムルノ利益アリテ之ニヨリテ施術及繃帶ノ應用ヲ容易ナラシム、馬ニ於テハ此場合ニ「モルヒネ」ヲ用ヒス是レ此應用ニヨリテ適當動物ヲ不安ナラシムレハナリ、大動物ニ於テハ豫備繃帶ノ施設ヲ必要トス特ニ骨折ノ整復後及固定性繃帶ヲ裝スル場合ニ然リトス、整復ニハ適當ナル位置ヲ要ス起立動物ニ於テモ舒伸及反對舒伸ノ應用ニヨリテ整復ヲ試ムヘシ牽引力ハ徐々トシテ一様平均ニナス大動物ニ於テハ滑車ヲ用フ小動物ニ於テハ助手ヲシテ兩手ヲ以テ強ク牽引セシムヘシ術者ハ舒伸間骨斷片ヲ摺移シテ整復ヲ試ミ骨片轉移ノ種類ヲ顧慮ス是ハ充分ナル觸診ニヨリテ以前ニ決定セサルヘカラス整復ハ骨片或ハ軟部(筋肉)カ斷片間ニ嵌入スルニヨリ或ハ斷折セル骨ヲ握取或ハ固定スル能ハサルニヨリテ困難ヲ來スコトアリ例之腸骨翼ノ骨折ノ整復ハ殆ト不能ナルカ如シ往々四肢ノ下部ノ姿勢及其長度ハ整復ノ適當ナル種類及方法ヲ決定ス四肢ニ於テハ特ニ蹄尖ノ方向ニ注目シ肢端ノ廻轉ニヨリテ周圍轉位ヲ治ムルヲ得ヘシ他ノ場合ニ於テハ骨折擬位ニ於テ癒ヘ之ニ由リテ著シキ用役障礙ヲ來ス

第二、保定 保定ハ人ニアリテハ場合ニヨリ肢ノ適當ナル安臥ニヨリ充分ナリト雖動物ニ於テハ此目的ニ注意的ニ施設セル繃帶ヲ要ス之ニ必要ナル材料ハ前以テ準備シ置クヘシ、骨折後二十四時間ニシテ著シキ腫脹ヲ起ササルトキハ固定性繃帶ヲ行フ他ノ場合ニ於テ或ハ固定繃帶ノ材料ナキトキハ先ツ豫備繃帶ヲ行フ此繃帶ハ通常動物ヲ運搬スルトキニ必要ナリ之ニ依リテ患肢ノ運動ヲ制限シ軟部ノ損傷ヲ防キ且皮膚ニ穿孔ヲ禦クニアリ豫備繃帶ハ單純ノ卷軸帶或ハ骨折部ヲ布片囊或ハ藁ヲ以

テ纏絡ス尙大強固ヲ望マハ此等ノ材料ノ上ニ副木(一對ノ棒或ハ板)ヲ抵シテ縫絲或ハ繩ヲ以テ固着スヘシ四肢ニ骨折アル大動物ハ後縁ヲ除去セル車ニ於テ運搬シ小動物ハ籃ヲ以テ運搬スルヲ便宜トス強度ノ腫脹ヲ發セサレハ小動物(犬)ニ於テハ直ニ固定性繃帶ヲ行フ時トシテハ増加スル腫脹ニ伴フ疼痛或ハ繃帶ノ嵌頓ニヨリテ翌日換裝ス犬ニ於テハ多クノ場合ニ於テ此必要ナシ此動物ニ於テハ骨折部ヲ綿ヲ以テ包ミ肢ノ正常ノ姿勢即チ完全ノ整復後固定繃帶ヲ行フ之ニ屬スル主ナルモノ左ノ如シ(一)石膏繃帶又ハ「ギプス」繃帶(二)糊泥繃帶(三)水硝子繃帶(四)「グッタベルカ」繃帶(五)樹脂繃帶(六)副木繃帶、各種ノ繃帶ヲ詳論スルニ先チ繃帶一般ニ就テ左ニ主要ノ性狀ヲ述ヘン(イ)繃帶ハ必ス固ク患肢ヲ保定シ之ヲシテ適好ノ長サ及方向ヲ得セシムヘシ(ロ)繃帶ヲ施スニ弛緊宜シキニ適スルヲ要ス弛ニ失スレハ解說シ易ク緊ニ過クレハ壓迫疼痛ヲ來シ患畜爲ニ騷擾ス甚シキニ至テハ血行ヲ碍ケ壞死ヲ來ス(ハ)繃帶ハ其價廉ナルノミナラス纏絡解脫共ニ容易ニ爲シ得ヘキヲ要ス而シ合併症アルモノニアリテハ蒸湯若ハ冷湯スト雖爲ニ變敗セサル繃帶ヲ選フヲ要ス

(一)石膏繃帶・「ギプス」繃帶・硫酸石灰繃帶 「ギプス」ハ速ニ硬結スルノ性ヲ有シ硬化性固定繃帶ニ應用セラレタル物質中第一位ヲ占ム「ギプス」即チ石膏(CaSO₄+2H₂O)ハ抱水性ノ硫酸石灰ニシテ固ノ化合物ヲ構成シ三乃至五分時ニ凝結シテ固塊ヲ形成ス、石膏繃帶ハ種々ノ方法ニヨリテ應用セラルト雖其最モ便宜ナルハ石膏卷帶繃帶ニシテ長サ二―五迷突幅五乃至十纏ノ綿紗帶ヲ取りテ之ヲ卷收スル毎ニ石膏粉末ヲ撒布シテ全帶ニ其ノ粉末ヲ含シテ後之ヲ數秒間水ニ入レテ水泡ヲ發セサルニ至レハ取り上ケテ輕ク搾リテ直ニ襪襪ヲ生セサル様ニ患肢ニ纏絡スヘシ纏絡中少許ノ石膏粉ヲ

每輪ニ撒布シ必要アレハ水ニテ潤スヘシ最終輪上ニモ尙石膏粉ヲ撒布シ患肢ハ五分間正常ノ位置ニ保持スヘシ通常繃帶ハ骨折部ノ兩端ニアル關節ニ達セサルヘカラスト雖每常必シモ然ルニアラス人醫ニアリテハ柔軟ナル「フランネル」帶等ニテ皮上ヲ被覆シ或ハ脂肪或ハ「ワセリン」ヲ皮上ニ塗布ス下雖家畜ニアリテハ緻密ナル被毛アルヲ以テ膏ニ不必要ナルノミナラス繃帶ヲ固定スル能ハサルノ不利アリ被毛長キニ失スルモノハ繃帶施設前ニ之ヲ短剪スルハ勿論ナリ近年石膏繃帶ノ代用トシテ「トリポリス」(Tripolith)ヲ賞用ス此物質ハ「ギプス」・炭酸石灰及炭酸苦土・炭及砂ノ混合ニシテ石膏ヨリ凝固迅速ニシテ且硬固塊ヲ形成ス此物ハ石膏ニ比スレハ堅牢ニシテ容易ニ破損セラレス空氣及濕氣ノ感作ヲ防禦スルノ利アリ往時用ヒシ石膏型造法ハ實用ニ適セサルノミナラス施設困難ニシテ堅牢ナラス「ギプス」繃帶ヲ纏絡スル際各層間ニ麻ヲ挿入スレハ一層堅固ナラシムルヲ得ヘシ(ビーリー氏(Berry)大動物ニ於テハ場合ニヨリテ必要ナリ、繃帶全ク纏絡シ終ラハ更ニ薄「ギプス」粥ノ一層ヲ其上ニ塗布スヘシ此「ギプス」粥ハ皿中ニ於テ「ギプス」ト水(大約等分)ヲ混攪シテ製ス此粥ハ手ニテ塗擦シ以テ均等ニ分布シ且ツ平滑ナラシムヘシ但其量多キニ過クレハ繃帶ノ過重トナルノ虞アリタルマンズ氏曰ク「繃帶ヲ多用セヨ」ギプスヲ過用スル勿レト繃帶施設後ハ患畜ヲ安靜ニ保チ大動物(牛馬)ハ懸吊器ニ依リテ保定スルヲ適當トス往時用ヒシ寒冷療法ハ繃帶ヲ既ニ施設シタル後ニハ用ヒス是レ濕氣ニヨリテ表皮ハ軟和シ爾後皮膚ニ爛斑ヲ來シ易ケレハナリ繃帶施設後ハ凡テノ場合ニ於テ患肢ノ濕潤ヲ禁止スヘキモノトス骨折發生後第一日ニ於テ繃帶ヲ施セハ二十四時間ノ後患脚ニ發生セシ腫脹ノ結果トシテ嵌頓ヲ起セシヤ否ヤヲ檢證セサルヘカラス此檢證ノ場合ニ於テハ患肢ノ末梢部ニ注目シ若シ此部ニ強度ノ腫脹顯著ナレハ直ニ繃帶ヲ改装スヘシメラー氏ニヨレハ斯ル偶

發ヲ防ク爲メ繃帶ヲ纏絡スルトキ其下端末梢部ヲ少シク緩ク施シ若シ嵌頓ヲ發生スル虞アレハ其部ノ皮上ニ綿ノ一層ヲ置キテ必要ニ應シテ之ヲ除去スレハ血行恢復シ嵌頓ヲ防止シ繃帶ノ改装ヲ略スルヲ得ヘシ患肢ノ嵌頓部ニ腫脹ニ兼ヌルニ厥冷脱覺ヲ發スレハ如何ナル場合ニ於テモ繃帶ヲ撤去セサルヘカラス繃帶施設後二十四時ニ於ケル再檢ハ最モ緊要ニシテ此間ニ發現セシ嵌頓ハ特ニ著シキ惡結果ヲ來サス且此時ヲ經過シテ嵌頓ノ發スルハ唯稀有ニ屬ス其後ハ畜主或ハ看護人ヲシテ患肢ノ腫脹ニ注意セシメテ其ノ報告ヲ待ツヘシ新鮮ナル骨折ニ於テハ繃帶緊ニ過クヘカラス既ニ骨折部ニ腫脹現存スレハ繃帶ヲ緊縛スヘシ

(一) 糊泥繃帶 糊泥繃帶ハ他ノ繃帶材料ヲ缺クトキニ用フ乾固遅徐ナルヲ以テ動物ニハ應用尠シ唯小動物特ニ鳥類ニ於テ用フルヲ得ヘシ其施設法次ノ如シ、先ツ尋常ノ繃帶ヲ纏絡シ凹處アレハ棉花若ハ麻織糸ヲ以テ之ヲ填シ更ニ他ノ繃帶ヲ施シ屢々纏包シ毎層糊漿ヲ塗布シ若ハ更ニ糊漿ヲ塗布シタル繃帶ヲ纏絡スヘシ蓋シ繃帶ヲ纏絡スルヤ層々相重疊シ後ニ纏フモノハ前ニ纏フモノノ一半ヲ覆フカ如クナラシムルヲ要ス糊繃帶ノ層數ハ常ニ四五ヲ超エス但層數ハ患部筋力ノ強弱ニ從テ一定セス後ニ纏フ所ノ糊繃帶ハ前ニ纏フタル尋常繃帶ノ兩部ヲ超過スルナキヲ要ス糊繃帶ハ三十分若ハ一時間ヲ經レハ乾燥凝固シテ復タ移動スヘカラス至ル、糊漿ハ澱粉或ハ膠ヲ烹テ之ヲ製シ小獸ニアリテハ或ハ蜂蜜二分蠟一分ノ合劑ヲ用フルコトアリ

(二) 水硝子繃帶或ハ硅酸加里繃帶 ハ最モ輕便ニ施設シ得ヘク且廉價ニシテ耐久性アリ極メテ硬ク其重量輕ク水濕ヲ透過セス然レトモ其乾燥硬固トナルハ遅徐ニシテ十二乃至二十四時間ヲ要スル不便アリ最佳ナルハ中性硅酸加里(加里水硝子)ノ新製溶液ヲ用フルニアリ此繃帶ヲ施スニハ先ツ綿紗

帶ヲ骨折セル肢ニ纏絡シ其上ニ筆ヲ以テ水硝子ヲ塗布ス或ハ綿紗帶ニ水硝子ヲ浸飽セシメテ大約五乃至六層ヲ纏絡ス安靜ナル小動物ニ適ス

(四)「グツタベルカ」繃帶 小動物(鳥類)ニ於テハ「グツタベルカ」ヲ以テ容易ニ繃帶ヲ施シ得ヘシ大約二乃至三耗ノ厚サヲ有スル「グツタベルカ」ヲ溫湯中ニ於テ軟和シ骨折部ニ抵シテ絲ヲ以テ其上ニ纏絡シテ固定ス繃帶ノ設施容易ニシテ肢ニ好ク適合シテ固定シ便益ナリ

(五)樹脂繃帶 大動物ニ於テハ前記ノ繃帶ハ充分固定ノ目的ヲ達セサルコトアリ特ニ肢ノ上部ニ於テ然リトス蓋シ此部ニ於テハ繃帶容易ニ下部ニ滑脱スレハナリ此理ニヨリ獸醫術ニ於テハ往々樹脂繃帶ヲ應用ス強靱ナル麻布或ハ革片・麻卷帶ニ樹脂二分蠟一分ノ合劑(ストルツ氏 Stoll)或ハ「グツタベルカ」五分・脂肪二分・樹脂一・ $\frac{1}{4}$ ノ合劑(フリツケル氏 Fricker)ヲ溫メテ設施スヘシ必要ニ應シテ瀝青或ハ堅膠等ヲ伍用ス然レトモ此等ヲ用フルトキハ皮膚ノ火傷ヲ起ササル様注意スヘシ此等ハ被毛ト膠著スルヲ以テ繃帶ノ滑脱ヲ防クヲ得ヘシ又副木ヲ併用スレハ一層強固トナル

(六)副木繃帶・副板繃帶・夾板繃帶 副木繃帶ハ副板・縛帶・紐及壓定巾ヨリ成ル副板ニハ諸種アリ厚紙若ハ鞣革ノ平片・木板・鐵板ノ如キ是ナリ蓋シ馬ニ用フル副板ハ木・鐵若ハ鯨骨ヲ以テ製シ羊豚犬ニハ書冊ノ表紙・板紙若ハ木ノ薄片ヲ用ヒ鳥類ニハ骨牌製用ノ厚紙ヲ利用ス此等ノ副板ハ卷帶・絲若ハ紐ニテ固定ス此繃帶ヲ施スニハ次ノ要件ヲ服膺スヘシ(イ)副板ハ堅牢ニシテ能ク患脚ヲ保定スルヲ要ス(ロ)副板ハ或ハ扁平或ハ狹長ヲ爲シ或ハ凹形ヲナシ其ノ形狀患部ニ適フヲ要ス(ハ)副板ハ其長短宜シキニ適ヒ須ラク隣接ノ上下ニ關節ヲ超過スヘシ(ニ)副板ハ兩端圓滑ヲナシ小孔ヲ具ヘ紐ヲ繫クノ便ニ供ス(ホ)副板ハ直ニ皮膚ニ接スヘカラス但皮膚ト副板トノ間ニ麻織子若ハ綿花ヲ填スルヲ

要ス(ヘ)繃帶ハ其長短廣狹共ニ患部ノ厚薄細大ニ準ス但長サハ六尺乃至一丈幅ハ一寸乃至四寸ヲ常トシ平時ナレハ之ヲ捲テ收ム、右ニ掲クル諸件ヲ服膺シ次ニ示ス如ク施スヘシ

先ツ麻布ヲ以テ患部ヲ纏包シ以テ折骨部ヲシテ密ニ相接着シ且固ク保定スルヲ得セシメ凹處アレハ麻織子若ハ棉花ヲ以テ之ヲ填シ從テ副板ヲ加ヘ更ニ繃帶ヲ纏絡ス但副板ノ中央ハ骨折部ニ抵スルヲ要ス場合ニヨリテハ「ビーリー」氏副板ヲ用フ其法ハ副板ニ適當スル長サヲ有スル苧捻絲ヲ新調シタル「ギフス」粥ニ浸飽シ之ヲ糸ヲ以テ患肢ニ固ク縛着ス、馬ニ於テ鐵副木ヲ用フルトキハ特別ノ蹄鐵(有孔)ヲ裝シテ蹄鐵ノ孔ニ副木ノ一端ヲ挿入シテ固定スルヲ便トス

骨折繃帶ノ解除 骨折繃帶ノ解除ヲ要スル事情次ノ如シ(一)繃帶弛緩シ或ハ設施不適ナルカ或ハ嵌頓ヲ起シタルトキ、斯ル場合ニハ通常患畜ノ舉動即繃帶ヲ除去セントスル傾向アルニヨリテ知ルヲ得ヘシ(二)骨折全治シタルトキ、骨折ノ全治ハ患肢ノ負重快復ニヨリテ知ルヲ得ヘシ即肢ハ體重負擔ニ耐ユルニ至レハ繃帶ヲ解除スルハ勿論ナリ石膏繃帶及「トリボリス」繃帶ノ解除ニハ特別ニ形成セル缺所謂「ギフス」缺ヲ用フ此缺ナキトキハ刀ヲ以テ外方ヨリ繃帶ヲ薄削シ強及ノ缺ニテ切斷シ得ル度ニ達セシムヘシ茲ニ於テ缺ヲ挿入シテ上方ヨリ下方ニ向テ繃帶ヲ缺斷スヘシ斯ノ如クスレハ動物ニ著シキ疼痛ヲ與ヘシテ繃帶ヲ解除スルヲ得ヘシ解除シ終ラハ肢ノ廻轉運動ヲナシテ癒著完全ナルヤ否ヤヲ試ムヘシ縱令癒合完全ナルモ通常當該患肢ハ跛行ヲ呈スルモノトス是レ筋肉ノ萎縮及

腱膜・靱帶特ニ關節囊ノ收縮ニ由ルト雖輕キ運動ヲ命スレハ暫時ニシテ消散ス

複骨折 傳染毒ノ侵入ヲ防ク爲ニ嚴密ノ消毒ヲ施シ化膿ヲ豫防シ單骨折ニ於ルカ如キ療法ヲ施ス、複骨折ニアリテハ挫傷ヲ伴ヒ漏出血液及壞死組織ハ細菌ノ發育壤ヲ與フ特ニ醗膿菌ノ發育ニ適スル

ヲ以テ消毒液ヲ間斷ナク應用シ且傳染毒ノ血中侵入ヲ防クヘシ故ニ創部ヲ精檢シ骨片或ハ斷裂組織等ヲ排除シ消毒液ニ浸シタル繃帶ヲ纏フ必要ノ場合ニハ排泄管ヲ裝ス適當ナル整復ノ後石膏繃帶或ハ硅酸加里繃帶ヲ行フ患畜發熱セス疼痛甚タシカラサレハ繃帶ハ八日乃至十日間放置ス日々體溫ヲ檢測シテ患畜ノ容態ヲ察スヘシ繃帶交換期ニ排泄管ヲ換ヘ(必要ナケレハ除去ス)創液ヲ除去シテ新繃帶ヲ施ス其際創面ノ性質ヲ檢査ス小創ニシテ軟部著シク損傷セス且創液多量ナラサレハ再石膏繃帶ヲ行ヒ之ニ穿孔シテ排泄孔ヲ開キ置クヘシ之ヲナスニハ創面ニ綿或ハ綿紗ヲ抵シテ其上ニ繃帶ヲ行ヒ後銳刀ヲ以テ繃帶ノ一部(綿ノ抵シアル部)ヲ切除スレハ創面ハ開放シ治療ヲ施スニ適ス早晚肉芽發生シ骨折ハ漸次化骨スルモ單骨折ヨリ長時日ヲ要ス、化膿惹起スレハ治療困難ナルノミナラス生命ニ危險ナリ此場合ニハ創口ヲ消毒清潔ニシ膿ノ停留ヲ制シ全身蔓延(膿毒症)及膿汁沈降ヲ防キ創ハ毎日檢査シ防腐ス膿瘍ハ切開シ或ハ反對孔ヲ設ケ或ハ排泄管ヲ裝ス壞疽骨片ハ排除ス膿汁及腫脹減小スレハ善兆ナリ片碎骨折ニ兼ヌルニ皮膚創傷アルトキハ治療益々困難ナリ止ムヲ得サレハ斷脚術ヲ施ス血管ノ創傷ハ大出血ヲ起シ死ヲ來スコトアリ或ハ神經ノ損傷ハ麻痺及疼痛ヲ起ス此等ノ際ニハ豫後及治療法ニ適切ナル判定ヲ要ス

第三保護 保定終レハ充分ノ注意ト保護トヲ加ヘテ外來ノ刺戟ヲ避ケ癒合機ヲ妨クル諸感作ハ都テ防遏除去シ以テ繼患ノ誘發ヲ防禦スヘシ繃帶ノ解脫ヲ防キ不適當ナレハ改裝シ其都度患部ヲ檢視シ動物ニハ全休養ヲ與ヘ馬ハ吊馬器或ハ柁ニテ懸吊シ横臥セルモノハ褥創ヲ豫防シ柔軟ニシテ厚キ褥ヲ給シ時々體ノ位置ヲ變換シ易消化滋養物ヲ給ス排尿排糞ニ注意スヘシ

骨髓炎

Osteomyelitis. (羅)

療法 膿瘍ヲ切開シテ排膿ヲナシ腐骨ヲ除去スヘシ時トシテ波動部ヲ穿刺シテ排膿セシム腐骨ノ溶解ヲ促カシ同時ニ消毒ノ目的ニテ稀釋鹽酸(鹽酸一・一〇)或ハ乳酸ヲ注入ス同目的ニテ白熾烙鐵ヲ膿瘍内ニ挿入ス消毒ノ効ナキモ腐骨ノ分散ヲ促進ス

肛瘻

痔瘻

Fistula ani. (羅)

療法 刺擊藥若ハ腐蝕藥例之ピラット氏液ノ注入ハ効ナキニシモアラスト雖直腸ニ達シテ之ヲ刺戟シ或ハ腹膜腔ニ達シテ腹膜炎ヲ起スコトアリ注意スヘシ最良ノ手段ハ切開スルニアリ切開スルトキハ可成肛門括約筋ヲ損傷セサル様ニスヘシ雙口瘻ハ先ツ有溝探子ヲ進メ左ノ示指ヲ以テ直腸内ノ瘻口ヲ檢シ指ニ沿フテ瘻管ヲ切開シ或ハ鉛線ニテ瘻管ヲ貫通シ線ノ兩端ヲ引キ瘻壁ヲ切裂スヘシ肛瘻瘻ハ貫線ヲ施シ或ハ瘻孔大ニシテ陰門ノ近傍ニアレハ縫合スヘシ切開後ハ創傷療法ノ通則ニ從ヒ處置シ食餌攝生ニ注意ス

紅斑

Erythema. (羅)

療法 本病ハ多クハ治療ヲ要セス唯癢痒及疼痛劇甚ナルトキ治療ヲ施スニ過キス此場合ニハ冷水・鉛水・グウラード水ニテ冷卷シ或ハ酒精ニテ濕シ又ハ撒布劑ヲ撒布シ若ハ乾燥軟膏(鉛糖又ハ酸化亞鉛軟膏)ヲ施ス

ギアヒロン軟膏

ワゼリン

各二五・〇

右混和毎日塗布

肛瘻 紅斑

抗癰 執拗 Gibbing. (英)

療法 高度ノ抗癰ハ矯正ノ望ナシ唯輕症竝初期ニ於テハ精神鎮靜ノ醫藥ヲ投シ慈愛・慰撫ヲ加ヘ忍耐以テ厚待セハ庶幾クハ輕減セシムルコトヲ得ンカ 戒具ヲ施シ懲罰スルカ如キハ害アリテ益ナシ概シテ本症ハ不治ノ惡癰ト看做シテ可ナリ

交突傷 Speedy cut. (英)

療法 交突ハ(一)體格(肩及尻ノ幅狹キモノ・體格尪弱ナルモノ・馬術的平均ヲ得サルモノ・筋腱韌帶ノ強健ナラサルモノ・疲勞病後ノ衰弱)(二)肢勢(外向廣踏・狹踏肢勢及其他凡テ關節ノ疾病及疼痛)(三)乘馭及調教(騎者一側ノ偏重・手脚左右不等ノ操作・體力ニ比シ過重ノ負擔・偏口・過度ノ伸暢・歩度不法ノ回轉・駟歩手前ノ錯誤・半身關節近部ノ凝固等)(四)地況(不平垣・坂路・磽角・滑走・泥濘・軟地及砂地)(五)裝蹄過失(左右不等ノ削蹄・過度ノ半狹半廣蹄・肢勢ニ一致セサル削蹄過高・過低ノ蹄踵・過大過重ノ蹄鐵・甚シキ下廣ノ鐵緣・釘節ノ突出・巨大及過廣ノ蹄形・其他諸種ノ變形蹄・踏着ノ不平垣・改裝ノ懈怠)等ナリ豫防及療法トシテ原因ヲ除去スルヲ第一トスト雖原因不明ナルカ或ハ之ヲ除去スル能ハサル場合ニハ蹄ノ抵觸部ヲ檢索シ其部ニ該當スル蹄鐵緣ノ一部ヲ直線ニ切斷シ踵壁ノ全厚三分一ヲ鐵緣ヨリ溢出セシメ以テ他肢ノ突傷ヲ防クヘシ或ハ要アレハ四分ノ三鐵ヲ裝ス或ハ蹄ノ外側ヲ多ク削リ蹄ノ内外兩側ヲ同地ニ着地セシメ蹄鐵及蹄ノ内側ヲ鑢削圓滑ナラシム鐵ノ内枝ヲ外枝ヨリ厚カラシメ其外枝ヲ少シク内方ニ傾カシメ蹄ノ内側甚タ低キモノハ鐵ト蹄負緣トノ間ニ革片ヲ挿ミ裝蹄ス交突傷ハ能ク洗滌消毒シ「タール」或ハ「クレオリン」ヲ塗布ス球節ノ内側ハ革帶ニテ

被ヒ置クヘシ既ニ皮下織ノ「フレグモーネ」ヲ發スレハ防腐液ニテ洗滌シ濕溫卷法ヲ行ヒ或ハ消毒湯ノ脚浴ヲ行ヒ夜中ハ汞軟膏ヲ塗布シ「フランネル」繃帶ニテ溫包ス疼痛及腫脹ヲ減スレハ靜ニ運動セシメ皮下織ノ炎症産物ヲ吸收セシム腱膜下織ノ「フレグモーネ」ヲ發スレハ特ニ注意ヲ要ス球節又ハ屈腱附近ニ發スレハ昇汞水・石炭酸水・「クレオリン」水若ハブロー氏液ノ微溫脚浴ヲ行フ波動アレハ切開ス既ニ關節及韃鞘ヲ侵ストキハ切開スルモ効ナシ蹄冠大ニ腫脹スレハ近傍ノ蹄壁ヲ薄削ス皮膚ノ壞疽及慢性贅生炎ハ水疔ノ療法ヲ用フ

喉頭偏癱 Hemiplegia laryngis. (羅)

喘鳴症參照

喉頭炎 Laryngitis. (羅)

喉頭加答兒(急) Laryngitis catarrhalis. (羅)

療法 患畜ヲ靜養セシメ外界ノ刺戟ヲ避クルヲ第一トス此目的ニハ畜舎ノ空氣ヲ疎通シ溫度ヲ調節シ喉頭部ヲ溫包シ專ラ青草・胡蘿蔔等ヲ與フ咳嗽ノ發作頻繁ナレハ「モルヒネ」(鹽酸「モルヒネ」)・「苦扁桃水」(「コデイン」)一日二・三回十滴乃至十五滴ヲ犬ニ與フ「コデイン」(磷酸「コデイン」)〇・六・餉水一五〇〇・〇每三時一乃至二食匙ヲ犬ニ與フ「ヘロイン」(鹽酸「ヘロイン」)〇・一・餉水一五〇〇・〇溶液トナシ每六時一乃至二食匙ヲ犬ニ與フ)大家畜ニハ以上ノ藥物ヲ皮下注射ス其他臭素鹽類ヲ單味又ハ「コデイン」ト混用スルコトアリ 喉頭部ニハブリースニッツ氏卷法(每一時乃至四時交換)ヲ行フハ急

喉頭偏癱 喉頭炎

慢性性共ニ良効アリ水蒸氣ノ吸入ハ本病ノ序期ニ於テ粘膜乾燥シ且知覺過敏ナル場合ニ卓効アリ粘
 靱ナル粘液ハ溶解藥(食鹽・重曹又ハ炭酸曹達)ノ吸入ニ依リ液化セラル多量ノ稀薄
 液ヲ漏出スルトキハ收斂藥及「バルサム」劑ヲ處ス即チ明礬(一―三%)「クロール」鐵(〇・一―〇・
 三%)「クレオリン」(二―三%)「クレオソート」(〇・五―一・〇%)「硝酸銀」(〇・一―〇・五%)「テレ
 ビン」油「タール」等ノ如シ慢性喉頭加答兒ニハ喉頭粘膜ニ藥液ヲ塗布シ又ハ撒布スレハ良効ヲ奏ス
 撒布ニ使用スル藥物ハ「タンニン」酸・明礬・硝酸銀及白糖ノ等分「コカイン」・「イウカイン」・「オルソ
 フォルム」(以上各〇・〇―一ヲ白糖〇・二―〇・三ニ混ス)塗布藥ハ硝酸銀五%溶液ヲ最良トスチーカ
 ホッフ氏ハ喉頭ノ後方ニ於テ咽頭ノ方向ニ向ツテ注射針ヲ刺入シ之ヨリ大動物ニハ三―四〇〇小
 動物ニハ四―五・〇ノ藥液例之明礬・「タンニン」酸或ハ硫酸亞鉛〇・五%溶液・醋酸鉛〇・三%溶液・硝
 酸銀〇・一%溶液ヲ注入シ大動物ニ於テ咳嗽頻發スレハ「モルヒネ」一%溶液(一〇―二〇〇)ヲ注射
 スヘシ慢性症ハ喉頭部ニ刺戟藥ヲ塗布シ其部ヲ温包スヘシ

- 苦扁桃水・茴香水 各二〇〇
- 右一日三回一〇―一五滴ヲ與フ
- 苦扁桃水 二〇〇
- 茴香水 三〇〇
- 右一日三回一茶匙乃至一食匙ヲ與フ(犬)
- 金硫黃 三〇〇
- 茴香末 六〇〇
- 甘草末 一〇〇
- 右混和爲紙劑一日ニ與フ
- 鹽酸モルヒネ 〇・〇五
- 苦扁桃水・茴香水 各二〇〇
- 右一日一〇―一五滴ヲ與フ(犬)
- 鹽酸アポモルヒネ 〇・〇〇五―〇・〇一
- 鹽酸モルヒネ 一・〇
- 芒硝 一五〇
- 炭酸加里 五〇
- 甘草根末 二〇〇
- 右爲紙劑日々數回一刀尖宛與フ(牛・馬)
- 芒硝 三〇〇
- アルテア根末 一〇〇
- 食鹽 一五〇
- 右爲紙劑一日ニ與フ(馬)
- 人工カルルス泉鹽 一五〇
- アルテア根末 一〇〇
- 麵粉及水 適量
- 右爲紙劑日々數回一刀尖宛與フ(豚)
- 鹽酸モルヒネ 〇・二
- 苦扁桃水 二〇〇
- グリセリン・餛水 各一〇〇
- 右一日一〇―二〇滴宛與フ(犬ノ咳嗽)
- 礮砂 五〇
- 食鹽・甘草末 各一〇〇
- ヒヨス末 三〇
- 右爲紙劑二日分服或ハ散劑トナシ毎食一食匙ヲ混與(馬慢性症)
- 次硝酸蒼鉛 五
- 餛水 一〇
- 右爲溶液二・三回 喉頭内注射(同上)
- 臭素ナトリウム 一〇
- 鹽酸モルヒネ 一
- 餛水 一五
- 右一日三回一食匙宛内服(犬)
- 茴香加礮砂精 二
- 苦扁桃水 八
- 單舍利別 四
- 右三回分服(犬)
- ラウレル水 五
- 鹽酸モルヒネ 〇・〇五
- 右混和一〇滴宛吸入液ニ和シテ

- 茴香 五〇
- アルテア根末 適量
- 右爲紙劑三日分服(馬)
- タンニン酸 一
- グリセリン 二五
- 餛水 一〇
- 右爲溶液日々二〇乃至三〇
- 宛咽喉内注射(慢性症)
- 灰白水銀軟膏 五〇
- ヨード加里 一〇
- 軟石鹼 五〇
- 右喉頭部ニ塗布
- 硝酸銀 〇・五
- 餛水 一〇
- 右爲溶液一日二〇―三〇宛
- 喉頭内注射
- ヨード 一〇
- ヨード加里 二―三
- 餛水 三〇
- 右爲溶液氣管内注射(慢性症)
- 喉頭炎
- 芒硝 一五〇
- 炭酸加里 五〇
- 甘草根末 二〇〇
- 右爲紙劑日々數回一刀尖宛與フ(牛・馬)
- 芒硝 三〇〇
- アルテア根末 一〇〇
- 食鹽 一五〇
- 右爲紙劑一日ニ與フ(馬)
- 人工カルルス泉鹽 一五〇
- アルテア根末 一〇〇
- 麵粉及水 適量
- 右爲紙劑日々數回一刀尖宛與フ(豚)
- 鹽酸モルヒネ 〇・二
- 苦扁桃水 二〇〇
- グリセリン・餛水 各一〇〇
- 右一日一〇―二〇滴宛與フ(犬ノ咳嗽)
- 礮砂 五〇
- 食鹽・甘草末 各一〇〇
- ヒヨス末 三〇
- 右爲紙劑二日分服或ハ散劑トナシ毎食一食匙ヲ混與(馬慢性症)
- 次硝酸蒼鉛 五
- 餛水 一〇
- 右爲溶液二・三回 喉頭内注射(同上)
- 臭素ナトリウム 一〇
- 鹽酸モルヒネ 一
- 餛水 一五
- 右一日三回一食匙宛内服(犬)
- 茴香加礮砂精 二
- 苦扁桃水 八
- 單舍利別 四
- 右三回分服(犬)
- ラウレル水 五
- 鹽酸モルヒネ 〇・〇五
- 右混和一〇滴宛吸入液ニ和シテ

喉頭炎

與フ(犬) 〇・〇五
 チオニン 〇・〇五
 アラビヤゴム 各〇・一
 重曹 各〇・一
 右混和爲散劑一包其六包ヲ作リ
 毎日二乃至三回一包宛與フ(犬)
 |慢性咳嗽ノ場合)|
 鹽酸モルヒネ 〇・一—〇・二
 苦扁桃水 各二〇・〇
 餾水 右混和毎日三回一〇乃至一五滴
 宛與フ(犬)
 鹽酸モルヒネ 〇・二
 苦扁桃水 二〇・〇
 餾水 三〇〇・〇

三七八

右混和毎日三回一食匙量宛與フ
 (犬慢性咳嗽ノ場合)
 プロームナトリウム 一〇・〇
 鹽酸モルヒネ 一〇・〇
 餾水 一六〇・〇
 右混和毎日三回一食匙量宛與フ
 (犬—右同)
 オルトフォルム 〇・〇一
 白糖 〇・二
 右混和爲散劑一包其六包ヲ作リ
 毎日二—三包宛與フ(犬)
 タニン酸 〇・五
 餾水 一〇〇・〇
 右爲溶液氣管内(又ハ喉頭内)注
 射料トス

ヨード 一・〇
 ヨードカリウム 五・〇
 餾水 二〇〇・〇
 右混和爲溶液(ルーゴル氏液)
 氣管内(又ハ喉頭内)注射料ト
 ス 二〇〇・〇
 硝砂 二〇〇・〇
 アルテア根末 各五〇・〇
 甘草根末 適量
 水 右混和爲散劑毎二時胡桃大量ノ
 小塊一個宛與フ(馬—慢性咳嗽
 ノ場合)

格魯布性喉頭炎

Laryngitis crouposa. (羅)

療法 「クルップ」義膜ヲ咯出セシムル爲メ小動物ニハ吐劑(硫酸銅〇・〇五—〇・五、吐根〇・五—
 二・〇、吐酒石〇・一—〇・三)ヲ與フ若シ嚔下困難ナレハ此等ノ藥物ノ灌腸ヲ行フヘシ或ハ「アボモル

ヒネ(犬〇・〇〇三—〇・〇一猫〇・〇〇二—〇・〇〇五)ノ皮下注射ヲ試ム豚ニハ「ヴェラトリン」(〇・
 〇二—〇・〇三酒精ニ溶解ス)ヲ皮下注射ス又義膜ヲ剝離スルニハ重曹・石灰水ノ反覆吸入(每一時乃
 至二時)ヲ宜シトス窒息ノ虞アレハ氣管截開術ヲ行フ喉頭部ニ水銀軟膏ヲ塗擦シ又ハ濕溫器法ヲ行
 ヒ或ハ衝動劑(酒精・葡萄酒)ヲ與ヘ患畜ニハ滋養物ヲ給スヘシ

喉頭浮腫

聲門浮腫

Oedema glottidis. (羅)

療法 窒息ノ危険アレハ直ニ氣管截開術ヲ行フ然ラサレハ喉頭部ニ刺戟劑例之芥子精八一〇%
 ナ塗擦シ其他刺戟・緩下劑・氷片嚔下・水蒸氣吸入・收斂藥ノ塗布・水銀軟膏ノ擦入ヲ行フヘシ又舌ヲ反
 覆口外ニ引キ出シ之ニ依リテ全癒セシメタル一例アリ

喉嚢加答兒

Catarrhus sacci aerophori. (羅)

療法 病ノ初期ニハ喉嚢ヲ切開シ反覆洗滌スレハ全治スト雖既ニ甚シク腫脹シ且周圍組織ニ癒着
 シタル場合ニハ豫後不良ナリトス

礬化銅・石炭酸 各一〇・〇 右爲溶液注射用 一〇・〇
 餾水 五〇〇・〇 クレオソート水 五〇〇・〇 右爲溶液朝夕二回注入

喉嚢鼓脹

Tympanitis of the guttural pouch. (英)

療法

喉嚢穿刺ヲナス瓦斯ヲ排除ス

睪丸炎

Orchitis. (羅)

喉頭浮腫 喉嚢加答兒 喉嚢鼓脹 睪丸炎

療法 動物ノ運動ヲ禁シ陰囊繃帶ヲ施シ創傷性睪丸炎ニハ鉛糖水又ハ防腐消毒液ヲ灌漑シ一ヨードフオルム、コロヂウムヲ塗布スヘシ下劑ハ陰囊及睪丸ノ腫脹顯著ナルモノニ對シ誘導劑トシテ効アルコトアリ水銀軟膏(「ヨードカリウム」及「ベラドンナ」越幾斯ヲ配合セルモノ)塗擦ハ發病後數日ヲ經過シ急性炎症減退セルモノニ、亂刺ハ陰囊ノ腫脹顯著ナルモノニ効アルコトアリ、去勢術ハ(一)陰囊ノ腫脹輕微ニシテ睪丸ノ腫脹顯著ナルモノハ直ニ(二)陰囊及睪丸ノ腫脹俱ニ顯著ナルモノニハ陰囊ニ亂刺ヲ施シ囊ノ腫脹減退スルノ後(三)總テ傳染性睪丸炎ノ精系炎ヲ伴ヒ發熱スルモノニハ可成迅速ニ之ヲ實施スルヲ良策トス、陰囊膿瘍ハ速ニ切開スヘシ

咬創 Vulnere morsu. (羅)

療法 無菌性ノモノハ一般創傷療法ニ依リ毒性ノモノハ毒創ニ對スル療法ヲ施ス

項瘰 Genickstarre. (獨)

療法 頭部ヲ冷却シ下劑(「ピロカルピン」・「アレコリン」等)及鎮痙劑(「モルヒネ」・抱水「クロロアル」等)ノ如キ對症療法ヲ試ムルニ過キス然レトモ多クハ無効ナリ

項腫 Pali evil. (英)

療法 新鮮無菌ノ粘液囊炎ニハ冷湯ヲ施ス之ニ防腐藥ヲ加ヘテ傳染ヲ豫防スヘシ又囊内ノ滲出液ヲ吸收セシムル爲輕壓ヲ加フヘシ馬ハ放馬房ニ容レテ繫留セス急性炎ノ徵候減退セハ刺戟藥或ハ發泡藥例令昇汞軟膏(一・一・一〇)ヲ塗布ス之ニ由リテ起ル皮膚ノ腫脹ハ絶ヘス囊内ノ滲出物ヲ壓迫シテ

吸收ヲ促ス時宜ニヨリ數日ノ後再ヒ強刺戟藥ヲ塗布ス烙鐵之ニ適ス既ニ化膿スレハ速ニ切開排膿ス但切開ニ當リ後頭動脈若ハ其囊ヲ損セサル様注意スヘシ若シ動脈ヲ傷クレハ結紮ヲ行フ大抵項韌帶ノ壞疽ヲ併發スルニ由リ切離刀ヲ以テ切斷ス其他壞死筋部及組織ヲ悉ク切除シ毎日一二回膿瘍底ヲ消毒排膿セシム此部ノ切開ハ可成頸ノ縱徑ニ沿フヲ要ス橫徑ニ從ヘハ創ノ癒合惡シ頸ノ側面ニ於テハ敢テ方向ヲ論セス就中瘻管ヲ生スレハ其方向ノ如何ニ關セス切開シテ其底止スル所ニ至ルヘシ膿汁筋肉間ヨリ潛行シ益々沈下スルトキハ殊ニ然ルヲ要ス

硬口 蟲(馬) Clorostomiasis equorum. (羅)

療法 本蟲ノ驅除法ハ蛔蟲ニ同シ「テレピン」油(八〇〇〇)ニ蓖麻子油(五〇〇〇)ヲ混シテ與フ又「アトキシール」又ハ亞砒酸「カリウム」液(〇・五ヨリ二・〇迄増量のニ與フ)ノ應用ヲ試ムヘシ

硬蹄 Too dry hoof. (英)

療法 生蹄膜ノ異常ヨリ硬蹄ヲ來セル場合ニ於テハ姑息療法ヲ施スノ外良策ナシ此目的ニハ屢々脂肪ヲ塗リテ蹄ヲ軟化シ彈力性ヲ有セシムルニアリ、蹄非常ニ乾燥シ動物跛行スルニ至レハ韃布又ハ脚踏ヲ用ヒ次テ脂肪ヲ用フヘシ脂肪ヲ用フルニハ蹄ノ表面乾燥スルヲ待テ用フルヲ良トス、蹄漆及蹄壁部ニハ殊ニ注意シテ用フヘシ、蹄軟膏ハ「タール」脂肪等分或ハ「タール」一分脂肪二分トシ裝蹄ハ殊ニ注意スルヲ要ス就中蹄ノ負縁ト蹄鐵面トハ密接スル様ニスヘシ蹄鐵過短ナレハ不可ナリ又釘ハ可成的細小ナルモノヲ用フヘシ蹄ノ外壁ハ可成的鑷削スヘカラス、硬蹄ヲ有スル馬ハ硬地上ノ使役ニ用ヒント欲セハ革片若ハ護膜ヲ蹄鐵ト蹄トノ間ニ挿入スヘシ蹄又大ナレハ鑷鐵ヲ用フルモ可ナ

Dieta. (羅)

療法 加答兒性口炎ニ同シキモ之ヨリモ一層強力ナル治療ヲ加フヘシ本病ハ口蹄疫ト誤診シ易ク又ハ傳染性ヲ帶フルコトアルヲ以テ全治ニ至ル迄患者ヲ隔離スルヲ要ス

潰爛性口炎 Stomatitis ulcerosa. (羅)

療法 加答兒性口炎ト同様ノ藥物ヲ以テ口腔ヲ反覆洗浄スルノ外熔製硝酸銀ヲ以テ潰瘍ヲ燒灼ス之ニ依リテ創面ニ良性肉芽發生セハ一二%硝酸銀溶液・二―三%「クロール」亞鉛溶液・五―一〇%「タンニン」酸溶液・二%クレオリン溶液・〇・三%過「マンガン」酸加里溶液ヲ以テ洗滌ス治療中ハ液狀又ハ喫食シ易キ滋養食(乳汁・肉汁)ヲ給シ營養ノ衰頹ヲ防クコト肝要ナリ弛緩セル齒ハ拔去ス

膚列虞蒙性口炎 Stomatitis phlegmonosa. (羅)

療法 不良ノ飼料ニ原因セハ之ヲ變換ス口内洗滌ヲ行フコト他ノ口内炎ニ同シ化膿性及腐敗性炎ニ對シテハ適當ナル外科的治術ヲ加フ

- 食鹽 一〇〇〇〇
- 醋 五〇〇〇
- 右一手桶ノ水ニ混シ口内洗滌用 (馬)
- 薄荷油 各一〇
- ヴァニラ油 各一〇
- クマリン丁幾
- 右爲溶液洗滌用(犬)
- ザロール 四〇〇
- 酒精 一〇〇
- 薄荷油 各一〇
- ヴァニラ油 各一〇
- クマリン丁幾
- サツカリン 各〇・五
- 右混和口腔防臭藥トス
- 阿仙藥丁幾 一〇〇
- 薄荷水 一五〇
- 右混和一酒杯ノ水ニ一食匙ヲ混シ口腔洗滌用

- 鹽剝 五〇〇
- 餾水 二五〇
- 右爲溶液犬ノ口腔洗滌用
- チモール 〇・二五
- 安息香酸 三〇〇
- ウカリ丁幾 一五〇
- 薄荷油 〇・七五
- 酒精 一〇〇
- 右爲溶液一杯ノ水ニ潤濁スル迄滴下シ口腔洗滌用
- 鹽剝 二〇〇
- 餾水 一〇〇
- 右爲溶液口内洗滌用
- 過マンガン酸カリウム 二〇〇
- 餾水 二〇〇
- 右同(但驚口瘡ノ場合)
- 過マンガン酸カリウム液 〇・一・三〇〇
- 右五―一〇滴宛一茶匙量ノ水ニ混和シ口内洗滌料トシテ與フ
- 口炎
- 硼砂 二〇〇
- 右一刀尖宛一酒杯量ノ水ニ和シ口内洗滌料トス
- 硼砂 五〇
- 餾水 二〇〇
- 右爲溶液口内洗滌用トス(贖・家禽―驚口瘡ノ場合)
- 硼砂 四〇
- 醋及餾水ヲ加ヘテ全量 八〇
- トナシ口腔洗滌用トス
- 硼砂 各五
- アンチフォルミン 二〇
- 蜂蜜 一〇
- 薔薇水 一〇
- 右混和塗布料トス(驚口瘡ノ場合)
- サリチール酸フェニール 六〇
- 酒精 一〇
- 右爲溶液其一茶匙量ヲ一酒杯量ノ水ニ和シ口内洗滌料
- ナフトール 二五
- 酒精 一〇
- ニ溶シ其一茶匙量ヲ一酒杯量ノ水ニ和シ口内洗滌料
- チモール 〇・五
- 餾水 六〇
- 右口内洗滌料
- チモール 〇・一
- 安息香酸 三〇
- オイカリプツス油 一〇
- 餾水 一〇
- 用法右同
- メントール 一
- ラタニア丁幾 各五
- 酒精 各五
- 右同
- ラタニア丁幾 三〇
- ミルラ丁幾 一〇
- 右混和其一茶匙量ヲ二〇〇ノ水ニ和シ口内洗滌用トス

口蹄疫 虹彩癒着 虹彩脱 虹彩断裂症 三八六
 流動石炭酸 五〇— カミルレ花浸九〇〇・九〇〇〇— カミルレ花浸一五〇・一五〇〇
 グリセリン 一〇〇〇— 右混和口内洗滌用 右刺戟緩和性口内洗滌用

口蹄疫 Foot and mouth disease. (英)

流行性鷲口瘡参照

虹彩癒着 Synechia iridis. (羅)

療法

虹彩炎ノ結果トシテ生ス散瞳藥(「アトロピン」)ヲ點眼シテ癒着ヲ開離スヘシ新シキモノハ癒ユルモ經久ノモノハ縱令一タヒ開離スルモ再ヒ癒着ヲ來ス

硫酸アトロピン〇・〇二—〇・〇九 サリチール酸エゼリン 〇・〇三
 餉水 一〇〇〇 餉水 一〇〇〇
 右爲溶液每三時乃至五時點眼 右爲溶液前藥ト交互シテ每三乃至五時ニ點眼ス

虹彩脱 Prolapsus iridis. (羅)

單純虹彩炎参照

虹彩断裂症 Iridodialis. (羅)

療法ナシ

虹彩損傷 Injuries of the iris. (英)

療法 創傷若シ單純ニシテ幸ニ速ニ摘出シタル後ハ他ニ危險ナル繼發症ナクハ不良ノ結果ナクシテ全治スヘシ然レトモ炎症性症候ヲ帶フルトキハ「アトロピン」ヲ點眼シ壓定繃帶ヲ用ヒ專ラ消炎法ニ努ムヘシ其危篤ナル續發症ヲ生セシトキハ豫後甚タ惡ク到底治癒ヲ望ムヘカラス

虹彩缺損 Coloboma iridis. (羅)

療法ナシ

虹彩炎 Iritis. (羅)

單純虹彩炎 原發性虹彩炎 Iritis idiopathicas. simplex. (羅)

療法 靜養・暗厩ニ繋キ病眼ヲ覆フ虹彩ノ癒着ヲ防ク爲メ「アトロピン」點眼・「ハートウヒ氏ハ」ヒヨス「越幾斯・甘末末各一分」オレーフ「油十五分」擦劑ヲ賞用スジ・ダムグロツキー氏ハ誘導法(背部ニ串線法)ヲ用フ眼球ノ強劇ナル緊張ニ於テハ虹彩切除術ヲ用ヒ儂麻質斯諸病ニ併發セルモノハ原病ヲ治療ス内服ニハ下劑及「サリチール」酸曹達ヲ用フ

鹽酸コカイン 〇・一 鹽酸コカイン 〇・二
 餉水 五・〇 豚脂 一〇・〇
 右爲溶液黑色瓶ニ容レ點眼料ト 右混和爲軟膏眼軟膏トシテ與フ
 シテ與フ(知覺脫失劑トシテ) (疼痛アル場合) 白色ワゼリン 一五・〇

虹彩損傷 虹彩缺損 虹彩炎

虹彩炎

三八八

右混和爲軟膏眼軟膏トシテ與フ
(炎症疼痛アル場合)

硼酸 一・〇
鹽酸コカイン 五〇・〇
餛水 右爲溶液點眼料トシテ與フ 一・〇
昇汞 一・〇

餛水 三〇〇〇・〇
右爲溶液綿織絲ニ浸シ壓抵料ト

ナス

ブローム水素酸スコボラミン 〇・〇一
餛水 一〇〇・〇
右爲溶液毎日數回點眼

ヒヨス越幾斯

甘汞

オレーフ油

右毎日一回眼險塗布

灰白水銀軟膏

ヒヨス油

右一日二・三回眼險塗布

各一分
十六分

一五・〇
五・〇

症候性虹彩炎

轉移性虹彩炎

Iritis symptomatica s. metastatica. (羅)

療法

虹彩癒着ヲ豫防スル爲メ「アトロピン」ノ點眼ヲ實用ス「アトロピン」ハ又虹彩及毛様筋ヲ麻痺スルノ効アルヲ以テ炎症刺戟物蔓延ヲ幫助スヘキ筋ノ收縮ヲ制止スル利アリ前房ニ滯溜セル炎症性滲出物殊ニ膿液ヲ排除スル爲ニ往々角穿孔術ヲ行フ然レトモ注意ヲ要ス

創傷性虹彩炎

Iritis traumatica. (羅)

療法

角膜縁ノ創傷ニ對スル療法ハ昇汞水(千倍)・硼酸水・「クロール」水ヲ以テ清淨法ヲ嚴行シ啣筒ヲ以テ結膜囊ヲ洗滌スヘシ患畜ヲ暗所ニ繋キ防腐藥液ニ浸セル布片ヲ以テ眼ヲ覆フヘク凡テ繼發スヘキ合併症ニ對シ深キ注意ヲ以テスヘク角膜ノ創傷ハ其性狀ニヨリテ對症療法ヲ施スヘシ

硼酸 二・〇
餛水 一〇〇・〇
右爲溶液洗滌料トス

プロタルゴール 一・〇
餛水 一〇〇・〇
右爲溶液洗滌料トス

昇汞 一・〇
餛水 一〇〇〇・〇
右爲溶液洗滌料トス

化膿性虹彩炎

Iritis suppurativa. (羅)

症候性虹彩炎參照

虹彩脈絡膜及毛様體炎

Iridochorioiditis et cyclitis. (羅)

療法

月盲症ノ場合ニ能ク目撃スル症ニシテ一般定則ニヨリ攝生ニ注意シ「アトロピン」ノ點眼ニ依リ一ハ毛様筋ニ安靜ヲ與ヘ一ハ其散瞳的藥効ニヨリ虹彩後癒着ヲ豫防スルニアリ

虹彩充血

Hyperaemia iridis. (羅)

眼冷湯ヲ行フ

虹彩顫動

Iridodonsis s. Iritis tremulans. (羅)

療法

或疾病ニ由リ水晶體其位置ヲ變シ若ハ治療ノ爲メ之ヲ摘出シタル後虹彩ハ其支礎ヲ失フニヨリ眼筋ノ收縮ニヨリテ眼球ノ運動スル毎ニ虹彩ノ震動スル現象ヲ云フ、療法ナシ

咬傷

Morsus. (羅)

療法

皮膚ニ創ナキモノニシテ挫傷ト同様ノ病的變化ヲ呈スルニヨリ之ト同療法ヲ施ス、挫傷參照

網傷

Injuries by the holter-rope. (英)

療法

一般創傷療法原則ニ據ル

甲狀腺腫

Struma. (羅)

虹彩炎
甲狀腺腫

虹彩脈絡膜及毛様體炎
虹彩充血
虹彩顫動
咬傷
網傷

三八九

療法

「ヨードカリウム」ノ内外應用ヲ試ム乃チ「ヨードカリウム」内服及同軟膏塗擦之ナリ「ヨード」
「丁幾」ノ腺實質内注射モ効アリ其法ブラバー氏注射器ノ針ヲ腺實質ニ刺入シ五—一五滴ノ「ヨード」
「丁幾」ヲ注入ス注入後炎症性症狀ヲ呈スルモ八一—四日ニシテ消散ス犬ニハ一〇%ノ「パパヨチン」液
(Papa yotin Jösung)ヲ注入シ四十八時ヲ經テ腺腫全ク軟化ス之ヲ刺シテ軟化乳様液ヲ排除スレハ腺
腫縮小ス某氏ハ人類ニ於テ動脈血紫法ヲ試ミ某氏ハ腺腫ヲ絞斷器ニテ切除シ某氏ハ甲狀腺ヲ露出シ
テ指ヲ以テ牽引シ捻轉數回ニシテ結紮シメラール氏ハ皮膚ヲ切り指ヲ以テ腺ヲ露出シ血管現出スル毎
ニ直ニ之ヲ結紮シ終リニ強キ糸ヲ以テ瘤根ヲ結紮シ其解脱ノ虞アルヲ以テ少許ノ腺質殘株ヲ遺シテ
瘤ヲ切除ス

- ヨードカリウム 一三〇〇
- 軟石鹼 五〇〇
- グリセリン 一〇〇〇
- 右混和爲擦劑毎日腺ニ塗布ス
- ヨード丁幾 二〇〇
- 右局所ヲ剔毛シテ二—三日間塗布
- ヨードカリウム 五〇〇
- 餵水 一五〇〇
- 右爲溶液毎日一茶匙(小犬)乃至一食匙(大犬)宛内服
- ヨードカリウム 二〇〇
- 豚脂 一五〇〇
- ヨード丁幾 二五滴
- 右爲軟膏塗布
- ヨード 一〇〇
- 豚脂 二〇〇
- 右混和爲軟膏外用
- ヨード 一〇〇
- ヨードカリウム 五〇〇
- ワゼリン 各一〇〇
- ラノリン 各一〇〇
- 右混和爲軟膏塗擦
- ヨード 〇・五
- ヨードカリウム 各五〇〇
- 餵水 一〇〇〇
- 豚脂 四〇〇
- ラノリン 一〇〇
- 右混和爲軟膏塗擦
- ヨード丁幾 一〇〇
- 無水アルコホル 三〇〇
- 右爲溶液小腺腫ニハ一回、大腺腫ニハ數回〇・五—一〇宛實質

療法

梅毒ニ同シ良性症ニハ石炭酸、昇汞・「クレオリン」・「リゾール」・明礬等溶液ノ洗滌ヲ以テ足

- レリトス
- フオルムアルデヒド 各二〇〇
- グリセリン 二〇〇〇
- 常水 二〇〇〇

梅毒

梅毒

Bischoffschlag. (獨)

- 内注入 一五〇〇
- ヨード丁幾 各五〇〇
- 右腺腫部切開後注入料トス
- ヨード丁幾 二五〇〇
- 石鹼精 一〇〇〇
- 右毎日一回塗擦
- ヨード丁幾 〇・一—〇・二
- 無水アルコホル 各一〇〇
- 右混和毎回〇・五—一〇宛實質内注入(犬)
- ヨード丁幾 三五〇〇
- 酒精 一五〇〇
- 右爲溶液外用
- ヨードフオルム 一〇〇
- オレトフ油 各五〇〇
- 硫酸エーテル 右混和其〇・五—一〇宛實質内注入(犬)
- ヨードチリン 〇・一—〇・二
- 右爲散劑一包其六包ヲ作り毎日一包宛肉片ニ混シテ與フ(犬)
- チレオイヂン錠 一個
- 右一日量トシテ與フ(犬)
- ヨード蛋白ナトリウム (ヨードアイゴンナトリウム) 五〇〇
- 單舍利別 二〇〇
- 水 一三〇〇
- 右混和毎日二—三食匙量宛與フ(大犬)小犬ニハ二—三茶匙量宛同様ニ與フ
- ヨード蛋白ナトリウム 三〇〇
- 精製蜂蜜 二五〇〇
- 右混和一週間三回ニ分與(犬)馬及牛ニハ「ヨード」蛋白「ナトリウム」一〇〇ヲ一回量トシテ數回用フ

- 右混和洗滌料トス(陰部・包皮内注入及其附近洗滌用)
- 硫酸亞鉛 二〇〇

- 硼酸 五〇〇
- 右混和爲撒布劑腔粘膜面ニ撒布ス

糠枇疹 黒内障及弱視

ヨードフォルム

二〇〇

硫酸銅

各三〇〇

檫皮末

右混和爲散劑撒布ス

右混和撒布劑或ハ溶液トナシ與

鉛糖水

右爲溶液塗布ス

七〇〇〇

明礬

硫酸銅

各六〇

硫酸鐵

硫酸亞鉛

糠枇疹 Pityriasis (羅)

慢性鱗屑濕疹參照

黒内障及弱視

Amaurosis et Amblyopia. (羅)

療法 原病ニヨリテ處置ス腦震盪ニ由ルモノハ外誘導法ヲ用ヒ項部ニ串線打膿法・挿環法・刺擊擦劑ヲ用ヒ峻下劑内服・衝動劑・「アルニカ」煎汁ニ稀酒精ヲ加ヘテ眼器法・顛顛窩ニ烙鐵・「テレピン」油塗布・轉移ニ由ルモノハ峻下劑・利尿劑・誘導法・炎症ニ由ルモノハ下劑内服・衝動吸收藥塗布・芳香劑液ノ器法・水銀軟膏ノ塗布・中毒ニ由ルモノハ鹽類下劑・刺絡・頭部冷湯・阿片少量ヲ用フ殊ニ出血ヲ防止スルコト・豐饒ノ榮養ヲ給スルコト・看護ノ懇篤ナルコト等ハ主要ナルモノニシテ榮養失常ノ如キハ可能的速ニ之ヲ補ヒ以テ視神經ヲ十分ニ榮養スヘク原病ノ炎症作用ニ起レルヲ知ラハ病期ニヨリテ治ヲ施スヘク中毒ニ基クハ毒物ニ對スル措置ヲ行フヘシ但中毒ニ因スル視力ノ障害ハ幸ニシテ危險ナラサルヲ常トス藥物ハ主トシテ「ストリキニーネ」ヲ賞用ス番木鱈末五・〇ヲ一日量トシ「ヨード」加里ト交用ス本症ノ原因ト認ムヘキ病的變化ヲ發見スル能ハサルトキハ藥劑ノ處スヘキモノナシ故ニ治療ニ長日月ヲ要ス網膜及視神經ニ變化ヲ呈セルモノ殊ニ視神經ノ瘦削ヲ來セルモノニアリ

テハ「ストリキニーネ」ノ効薄弱ナリ

黒腫 Melanoma. (羅)

療法 發育迅速、局所障害(閉塞排尿困難等)轉移等ヲ來ス速ニ施術除去スヘシ

溷睛虫 Filaria pellucida. (羅)

療法 手術ニヨリ寄生虫ヲ除去ス此手術ハ良効ヲ奏ス先ツ手術前患眼ニハ完全ナル麻醉ヲ要スルヲ以テ「コカイン」ノ局所麻醉ヲ施シ次ニ角膜ノ周邊ニ於テ白内障手術ノ如ク一刺ヲ行ヒ鑷子ヲ以テ寄生虫ヲ撮除スヘシ但角膜穿孔ノ際此虫往々房水ト共ニ射出スルコトアリ術後ハ白内障手術ニ於ケルト同シク患畜ヲ暗厩ニ移シ數日間飲食攝生ニ注意ス

壞疽 脫疽 Necrosis. Mortificatio. Gangraena. (羅)

療法 一度壞死シタル組織ハ之ヲ再生セシムルコト能ハス故ニ療法ノ要旨ハ(一)壞疽ヲ豫防シ既ニ壞死シタル部分ハ無害ナラシムルニアリ、豫防法トシテハ横臥セル動物ハ褥創ヲ防ク爲メ多量ノ軟褥ヲ給シ屢々臥位ヲ變換ス尙生活組織ノ血行及榮養ニ及ホス種々ノ障碍例之寒熱・壓迫・挫傷等ヲ遠サケ炎症部ノ強度ノ腫脹ハ切開(亂刺)シテ滲出液ヲ排除シ緊張ヲ輕減シ又外科手術ノ際器械ニ由ル傳染ヲ防ク爲メ消毒ヲ嚴行ス特ニ壞疽部ニ觸タル器械ニ於テ然リトスメラ一氏ニ依レハ嘗テ消毒セル外科刀ニテ四十頭ノ馬匹ヲ去勢セシニ皆死ヲ來シタル例アリ(二)乾壞疽ニ於テハ化膿ヲ促シ壞死片ノ軟化及壞疽竈ノ脫離ヲ促進セサルヘカラス此目的ニハプリースニツツ氏卷法或ハ琶布ノ形狀

黒腫 溷睛虫 壞疽

ニ於テ濕温ヲ應用シ夜間ハ脂肪ヲ塗布シ置クヘシ皮膚分離ヲ始ムレハ外科的手術ニヨリテ之ヲ除去ス即チ壞死片ヲ鑷子或ハ鉗子ヲ以テ把シテ裂除ス壞疽組織ヲ除去シタル後ニ遺留セル組織缺損ハ創傷療法ノ汎則ニ從ヒ所置スヘシ(創傷療法及潰瘍療法參照)(三)濕壞疽ハ患部ノ近圍ヲ保護シ敗液ノ吸收ヲ防止スヘシ強力ノ制腐法ヲ主眼トス此目的ニハ石炭酸・昇汞・クレオリン・樟腦等ヲ用フ爲シ得ヘクンハ制腐液ノ連續灌溉或ハ温浴ヲ行ヒ壞疽竈ヲ不斷清潔ニシ敗液ノ停滯ナカラシムヘシ之ニヨリ病機ノ蔓延進行ヲ防キ且腐敗傳染ヲ遏止スルヲ得ヘシ若シ脚浴連續灌溉等ヲ行フ能ハサレハ屢々制腐液ニテ洗淨シ同液ヲ浸シタル繃帶ヲ纏フ樟腦ヲ最モ宜シトス(樟腦ヲ酒精ニ混シテ泥狀トナシテ用フ)又場合ニヨリ患部ヲ亂刺若ハ切開シテ敗液ヲ排除シ穿孔ヨリ制腐液ヲ注入スルモ可ナリ壞疽限界スレハ壞死片或ハ崩解部ハ外科的手術ニヨリテ除去スヘシ全身敗血症候ヲ發スレハ衝動強壯劑ヲ與フ

壞疽性皮膚炎

Dermatitis gangraenosa. Gangraena cutis. (羅)

療法 初期ニハ乾燥(鉛・鉛糖)又ハ消毒(「ヨードフォルム」・石炭酸・硼酸)軟膏ヲ塗擦ス壞死セシ部分ハ外科刀ヲ以テ切除シ潰瘍面ハ外科ノ原則ニ從テ處置ス壞疽ノ分離ハ温卷法又ハ琶布ヲ應用スレハ迅速ニ行ハル

炎症

Inflammatio. (羅) Phlogosis. (希)

療法 原因ヲ除去シ且原因的刺戟ノ再襲ヲ防キ殊ニ有害ナル微生物ノ侵入門戸タル創傷ヲ消毒スルヲ要ス患部ハ安靜ニ保タシメ或ハ全身ノ休靜ヲ命シ外界ノ感作ヲ防止ス、炎症療法ノ通則左ノ如シ

冷却法又寒冷法

(一)氷囊 「ゴム」囊・膀胱・硫酸紙・「ゴム」布囊・防水布囊等ニ氷片ヲ盛り繃帶ニテ縛著シ或ハ絲ニテ吊リ皮膚ニ直接スルコトアリ或ハ布片ヲ介スルコトアリ、(二)「ライテル」氏管二條ノ錫管平行旋回シテ圓板形ヲ爲シ水ハ「サイホン」作用ニ依リ一管ヨリ入り他ノ一管ヨリ出テ絶エス管中ヲ流通ス、(三)冷濕布・冷卷法又冷水被包吸收性ニ富メル繃帶若ハ布帕ニテ患部ヲ包ミ氷冷水ニテ頻々之ヲ濕潤シ或ハ大ナル不透性布囊・硝子壘・「イルリガートル」若ハ桶樽ニ氷冷水ヲ盛りハ流注ス、夏季牧場ニ於テ材料缺乏ノ場合ニハ細キ軟キ綠草ヲ患部ニ厚ク纏絡シ紐帶ニテ縛定シ其上ヨリ頻々冷水ヲ灌注シ且綠草ヲ時々交換スヘシ、粘土ヲ指ノ厚ニ塗布シ其上ニ冷水若クハ醋水ヲ注クコトアリ土質ヲ撰ハサレハ強直症ヲ來ス虞アリ皮膚ニ損傷アレハ淡水ヨリモ石炭酸・「クレオリン」・「クレゾール」・硼酸・昇汞・明礬・鉛糖ノ如キ防腐藥ヲ加ヘタルモノヲ用フルヲ安全トス、糾草土ヲ掘リ其草面ヲ皮膚ニ接シ繃帶ニテ縛定シ置キ土面ノ上ニ冷水ヲ注クコトアリ皮膚ニ缺損アレハ強直症ヲ來ス虞アリ、(四)冷浴法 大動物ニ於テ肢ノ下部殊ニ蹄ノ炎症ニ應用シ得ヘシ小判形ノ淺キ若ハ深キ分厚ノ桶若ハ飼槽ニ水ヲ適宜ノ深ニ盛リ其中ニ一足若ハ兩足ヲ浸漬シ或ハ厩牀ニ「コンクリート」ノ凹陷又淺池ヲ設ケ其中ニ立タシメ(西洋風呂ノ如ク給水排水ノ口ヲ設ケ水ノ新陳代謝ニ便スヘシ)或ハ河ノ清流又ハ池沼中ニ立タシム冷浴中感冒ニ罹ルコトアルヲ以テ體ヲ温包シ或ハ厩舎ヲ温暖ニスル要アリ、(五)結晶鹽類 芒硝・硝石・硼砂・硝砂等ヲ布囊ニ入レ之ヲ患部ニ貼シ水ヲ灌注シテ濕潤セシム往昔氷塊ノ供給不自由ナル時代ニハ盛ニ應用サレシカ自由ニ氷ヲ需メ得ラルル今日ニ在リテハ復々其要ヲ見ス唯鉛糖ノミハ一二%水溶液即鉛水又鉛糖水トシテ古來盛ニ應用セラル鉛糖ハ營

炎症

ニ水ヨリ溶解熱ヲ奪フノミナラス醋酸ヲ遊離揮發セシメ以テ直接ニ患部ノ熱ヲ奪却シ且幾分カ防腐
 止血ノ効アリ鉛水ハ藥局方ノ鉛醋又ハ次醋酸鉛液ニ水ヲ加ヘテ製スルヲ便トス鉛糖ハ明礬ト研和(鉛
 糖三―五分・明礬一分)シテブロー氏液トシテ用ヒラル硫酸鉛ヲ析出スルヲ以テ防腐冷却ノ効アリ芒硝・卵白・キ
 ナル殺菌力ニ富メル醋酸礬土ヲ生成シ醋酸ノ一部ヲ遊離スルヲ以テ防腐冷却ノ効アリ芒硝・卵白・キ
 ワダ末ノニ味ヲ研和シ軟膏トシテ塗布スルハ古來本邦實地家ノ賞用セシ所ナリ、(六)揮發劑「エ
 ーテル」噴霧若ハ「エーテル」濕布ハ急性骨膜炎(管骨・指趾骨ニ於ケル)ニ於テ滲出及壓迫ヲ減シ疼痛
 ヲ去ル目的ニテ用フルコトアレトモ過用スレハ皮膚ノ壞死若ハ凍傷ヲ來ス虞アルノミナラス費用モ
 亦多クシテ永ク持續スルヲ許サス醋水劑(稀醋酸一分・水一〇分)ニテ罨法又被包布ヲ潤ス屢々之ニ尋
 常酒精二分ヲ加ヘテ用フルコトアリ此酒精加醋水ハ冷却・衝動及防腐ノ効アリ之ヲ舐ムルモ中毒ノ虞
 ナキヲ以テ犬猫・反芻獸ノ如キ鉛毒ニ感シ易キ家畜ニハ鉛糖水ニ代用スルヲ常トス、(七)包攝劑(緩
 和軟膏) 初期ノ皮膚炎・皮下織炎・淋巴管炎等ニ於テハ灰白水銀軟膏(四倍ノ豚脂ヲ加ヘテ稀薄ス)五
 乃至一〇%亞鉛華或ハ硼酸「ワゼリン」ヲ厚ク塗布シ能フヘクハ軟膏ヲ塗布シタル布片ニテ患部ヲ
 被覆スルヲ良トス皮膚ヲ糜爛セシムルコトナキヲ以テ數日間連用スルモ妨ケナシ

濕熱療法 濕熱若ハ乾熱ヲ應用ス
 (甲)濕性罨法 (一)濕性罨法又韃布 能ク濕氣ヲ保存スル 澱粉及粘液質ニ富メル 粘稠物質ヲ熱湯
 ニテ攪キ或ハ湯中ニ煮タル後適宜ノ溫度ニ冷却シテ之ヲ患部ニ貼布ス通常罨ヲ用フレトモ亞麻仁油
 糟・泥炭・乾葉・乾瓢・凍豆腐・蕪菁・胡蘿蔔・大根・南瓜・馬鈴薯・甘藷・蒟蒻・米飯等ヲモ必要ニ應シテ用
 フルコトアリ罨ノ韃布ヲ製スルニハ紐附ノ布囊ニ罨ヲ盛り囊ト共ニ水中ニ煮テ適宜ニ絞リ且冷却シ

テ患部ニ貼布縛定シ水ノ蒸發熱ノ放散ヲ防ク爲メ毛布ニテ被覆スヘシ又淡水ヨリモ防腐液「クレオリ
 ン」若ハ硼酸水中ニ煮ルヲ可トス韃布ハ患部ニ密接セシテ之ト皮膚トノ間ニ冷氣流通シ或ハ冷却ス
 ルモ放置シテ再ヒ暖メサル時ハ反對ノ結果ヲ來シ有害トナル家畜ニ之ヲ應用スルハ稍困難ニシテ嚴
 ナル監督ト深キ注意トヲ要ス、(二)ブリースニツツ氏罨法又濕布 脫脂綿・綿「フランネル」・「リン
 ト」・麻織絲等ノ如キ能ク水分ヲ保存スル 繃帶品ヲ三%醋酸礬土水若ハ硼酸水〇・五―一%石炭酸水
 又ハ千倍昇汞水ニ浸シ水ノ滴ラヌ程度ニ絞リ之ヲ患部ニ纏ヒ油紙ニテ濕布ヲ外ニ露ハレサル様ニ包
 ミ更ニ脫脂綿ニテ厚ク覆ヒ或ハ毛織繃帶ニ依リ固定ス患部ノ血管ハ冷液ノ作用ニ由リ烈シク收縮シ
 テ一時ハ貧血ヲ來スモ遂ニ血管ノ筋纖維疲勞麻痺シ却テ大ニ擴張シ血液多量ニ灌漑集中シテ患部ノ
 增熱ヲ來スコト遙ニ韃布ヨリモ顯著ナリトス油紙ハ水分ノ蒸發ヲ防キテ濕氣ヲ永ク保タシムルカ爲
 ニ脫脂綿若ハ毛布ハ濕熱ノ放散ヲ防キテ溫度ヲ永ク保タンカ爲ニ用フルモノニシテ兩者共ニ每常缺
 クヘカラサルモノナリザルツウエーデル氏 Salzwedel ハ九六%酒精ヲ用ヒテ便宜ヲ得タリ濕布ハ未
 タ全ク乾燥セサル内ニ乃チ約三時間毎ニ取外シ再ヒ溶液ニテ潤シ當日最終ノ濕布ハ翌朝ニ至テ交換
 スルモ差支ナシ又酒精ハ濕布ヲ取外サス單ニ間隙ヨリ注入スルモ可ナリ (乙)溫浴法・脚湯(脚浴)・溫
 蒸法 溫湯ヲ櫛桶ニ盛リ其中ニ一足若ハ兩足ヲ浸漬シ時々湯ヲ加減シテ成ル可ク一定ノ溫度(攝氏
 四五―五〇度)ヲ保タシメ浴後ハ緩和軟膏ヲ塗り溫包シ置クヘシ溫浴法(數月間)ハ競走用馬匹ノ慢
 性腫炎ニ試ミテ効アリ乳牛ノ乳房炎ニハ溫湯浸漬法ヲ實行シ難キヲ以テ熱湯ニ浸シタル厚キ軟布ヲ
 絞リテ之ヲ貼布シ頻々之ヲ反覆シ(溫蒸法是ナリ)後緩和軟膏ヲ塗布シ吊帶ニテ被包ス、(丙)乾熱モ
 亦大ニ疼痛ヲ緩解シ兼テ炎症ヲ治癒セシムル効アリ溫石・熱鹽・湯「タンボ」・懷爐・溫金屬板等之ニ屬

ス但家畜ニハ應用頗ル困難ナリ
解凝吸收劑 灰白水銀軟膏・「ヨード」加里軟膏・「ヨード」ヨード「加里軟膏・炭酸加里軟膏・軟石鹼等ヲ
塗擦ス

誘導法 (甲)局所瀉血 水蛭^{スイツクベ}・吸血・亂刺之ニ屬ス家畜ハ皮膚ニ硬毛ヲ密生スルヲ以テ水蛭及吸血
ハ應用シ難キモ亂刺ハ之ヲ賞川ス亂刺ハ皮下又粘膜下織ノ漿液浸潤(炎症性浮腫)多量ニシテ容易ニ
吸收シ難ク鬱血腫脹及緊張ノ顯著ナル場合ニ用フレハ營ニ緊張疼痛ヲ輕減スルノミナラス病原菌及
其生産ニ係ル有毒物ヲ排除シ組織ノ壞死ヲ豫防シ炎症ノ癒機ヲ促進スル効アリ

(乙)皮膚刺戟法 ハ主トシテ慢性炎症ニ之ヲ施シ急性炎症ニ於テハ呼吸器及消化器ノ炎症ヲ腹胸壁ノ
皮膚ニ誘導センカ爲ニ之ヲ行フ種々ノ誘導藥若ハ腐蝕藥ヲ用フ

引赤藥 刺戟力ノ緩和ナルモノニシテ「テレピン」油一分・「アムモニア」擦劑二分・樟腦精四分ノ合劑
即四三合劑ハ日常賞用セラルル方劑ナリ「テレピン」油若ハ「アムモニア」擦劑ト樟腦精トノ合劑或
ハ單味ノ「アムモニア」劑ヲ用ヒ或ハ「テレピン」油・軟石鹼及亞麻仁油ノ等分合劑ヲ用フルコトアリ芥
子泥及芥子精ハ主トシテ呼吸器ノ炎症ニ於テ胸壁ニ應用セラレ「ユウカリブチス」油ハ犬ニ用ヒ「ヨ
ード」丁幾モ亦屢々試用セラル

發疱藥 芫菁劑例之芫菁軟膏・芫菁硬膏・芫菁油等ノ如キ芫菁製劑ヲ用フルモ馬ニハ肩胛及股關節ノ
如キ廣大ナル面積ニ對シテ油ヲ用ヒ飛節ノ如キ凹凸狹小ナル部位ニハ軟膏ヲ用ヒ管部ノ屈曲ニハ
硬膏ヲ用フルヲ便トス牛ノ皮膚ハ感覺鈍キカ故ニ芫菁劑ニ龍骨木末ヲ混和シテ刺戟力ヲ増スヲ規ト
スレトモ該末ハ現行日本藥局方ヨリ除外セラレ之ヲ求ムルノ便ナシ豚ニハ概ネ巴豆油ヲ用フ英吉利

赤發疱膏即チ赤色沃度末軟膏(赤色沃度末一分・豚脂四一五―七一〇―一五―二〇分ノ比例ニシテ
一ト七ヲ普通トス)ハ有効ニシテ世間多クハ之ヲ使用ス昇末軟膏(昇末一分・豚脂五一〇分)モ屢々
應用セラル

發疱劑塗擦前ニハ善ク剃毛若ハ剪毛シ酒精ニテ皮膚ヲ洗滌シ五―一五分間指頭若ハ竹篋ニテ丁寧ニ
擦リ込ミ可成ハ脫脂綿ト繻帶ニテ被覆シ翌日亞鉛華澱粉ヲ撒布シ或ハ亞鉛華軟膏ヲ塗布スヘシ

腐蝕藥 既ニ硬變ニ傾キタル慢性頑固ノ限局性炎症ニ使用ス發烟硝酸・強硫酸・昇末線・昇末ノ「エ
ーテル」酒精溶液(昇末一分・「エーテル」二分・酒精一分)・「クローム」酸・亞砒酸・ピントツ氏擦劑(昇
末三・七五・芫菁末及龍骨木末各六・五五・發烟硝酸一〇・三・強硫酸一四ノ割ニテ製シ猛烈苛酷ノ擦劑
ニシテ往昔ハ胸腫及飛節内腫ニ用ヒシカ反應ハ燒烙ヨリテ強劇ナリ)等之ニ屬ス

燒烙 烙鐵ハバケラーン氏・デヂーヴ氏及テセリー氏燒烙器・灸點法等之ニ屬ス
ビール氏鬱血法 ニ左ノ二法アリ

(一)括約法 護謨帶ヲ以テ可及的患部ヲ離レテ其中樞部ヲ結縛スル法ニシテ主トシテ四肢及尾ニ施
ス局所ノ皮膚ニ鮮紅色乃至帶青赤色ヲ呈シ著シク浮腫スル迄帶ヲ緩メサルモ之カ爲ニ患畜ヲシテ疼
痛ヲ感シ不安ナラシムヘカラス帶ハ急性炎症ニ在リテハ二〇乃至一二時間縛定シ置キ次テ二時間之
ヲ解除ス(解除中ハ局所ヲ高舉シ以テ浮腫ヲ減退セシムルヲ要スレトモ家畜ニ於テハ遺憾ナカラ尾ヲ
除クノ外ハ此高舉法ヲ實施シ難シ)斯テ再三同法ヲ反覆シテ炎症ノ減退スルヲ見ハ漸次鬱血時間ヲ
短縮スヘシ又炎竈部既ニ軟化ニ傾ケルモノニ於テハ豫メ之ヲ切開スヘシ家畜ニ於テハ臍炎・管部骨膜
炎・壞疽性水疔・球節・指趾骨ノ炎症ニ對シ腕節若ハ飛節ノ上方ニ帶ヲ結縛ス

(一) 吸引療法 前項ノ括約法ヲ施行シ得サル部位例之軀幹・顔面等ニ施スモノニシテ吸角ト同形ノ硝子鐘ヲ患部ニ貼付シ其他端ニ附シタル護謨管・護謨球若ハ排氣「ポンプ」ニテ鐘内ノ空氣ヲ稀薄ナラシムルトキハ局部ノ充血ヲ起スヲ得ヘシ病竈既ニ稍々軟化セルトキハ豫メ小切開ヲ施シ以テ膿汁ヲ吸引排泄セシムルヲ要ス吸引器ハ通常五分間貼付シ三分間休歇シ更ニ五分間貼付シ一回ノ療法ニハ長クトモ四十五分間ヲ超ユヘカラス

按摩法

(一) 擦過法 手掌ヲ可及的密ニ體部ニ當テ中心部ニ向テ輕ク按撫スルノ法ニシテ之ヲ一定筋簇ニ施サントセハ手掌ヲ筋簇ニ最モ密ニ貼著シ拇指ト他ノ四指トノ間ニ筋簇ヲ挾ミ指尖ヲハ筋簇ヲ分界スル溝ニ沿ヒ中心部ニ向テ滑動セシメ筋ノ起始部ニ至リ拇指ト示指ト會合セシメ擦過ハ常ニ健康部ニ始マリテ患部ヲ過キ又健康部ニ終ルカ如クスヘシ腱・靱帶ノ如キ細長ナル器官ハ拇指ト他ノ一・二指トノ間ニ挾ムヘシ家畜ニ於テハ密生スル硬毛ノ方向ト反對ニ進行スルカ故ニ皮膚ヲ刺戟糜爛シ易シ能ク剃毛若ハ剪毛シ豫メ緩和油ヲ塗リ或ハ薄キ滑カナル布帕ニテ包ミ其上ヨリ擦過法ヲ行フヲ良トス

(二) 揉捏法 腫瘤・一定ノ筋若ハ腱又ハ筋簇ヲ拇指ト他ノ四指トノ間ニ把握シテ在下ノ骨面ヨリ可及的提舉シ壓搾シツツ漸次中心部ニ向テ進行ス但之ヲ行フ前後ニハ必ス前項ノ擦過法ヲ施スヲ例トス

(三) 摩擦法 手指ヲ以テ局部ヲ強ク壓迫摩擦スル法ニシテ多クハ指端就中拇指腹ヲ以テ環狀ニ壓迫摩擦シ且時々兩手ヲ以テ中心部ニ向テ強ク摩擦シ或ハ患部ヲ左右ノ小指間ニ壓迫摩擦ス此法ハ溢血・

炎症性滲出物等ヲ周圍ノ組織内ニ驅除スルヲ目的トスルヲ以テ必スシモ中心部ニ向テ進行スル必要ナキモ亦之ニ擦過法ヲ併用スレハ甚タ妙ナリ此法關節ノ疾患ニモ用ヒテ効驗アリ

(四) 打敲法又叩打法 手掌或ハ手ノ尺骨側或ハ中三指ノ背面若ハ其尖端ヲ以テ局部ヲ叩打スル法ニシテ馬ノ肩跛行ニ於テ肩部ニ應用シ得ヘシ肩ノ如キ廣大ナル局部ニハ手ノ代リニ端太ノ圓棍・太鼓ノ撥・彈力性ノ細柄ヲ附シタル球若ハ硬キ「タンボン」ヲ使用スルヲ便トス

患部ノ疼痛劇甚ニシテ直接ニ該部ヲ按摩シ得サルトキハ其上方即中心部ニノミ按摩ヲ行フコトアリ之ヲ誘導按摩術ト稱シ缺クヘカラサル要法トス按摩術ニ溫浴・濕溫卷法・熱氣療法等ヲ併用スレハ慢性炎症性滲出物ノ吸收ヲ促スニ最モ妙ナリトス

運動法 ハ按摩術ト密接ノ關係アル有力ナル器械的療法ニシテ關節ノ攣縮及強直ニ於テ其癒着ヲ剝離シ萎縮セル關節囊及靱帶ヲ伸展セシムル効アリ

全身瀉血 特殊ノ場合ノ外ハ漫リニ執行セス、急性蹄葉炎ニハ缺クヘカラサル療法ニシテ一時ニ多量瀉血スルヲ良トス急性腸炎ニモ亦屢々良効ヲ奏スルコトアリ血中ニ存スル有毒性物質ヲ血液ト共ニ體外ニ排泄スルニ因ルナランカ過激ノ運動ニ由ル急性肺充血ノ場合ニ瀉血スレハ肺炎ヲ未發ニ防キ危険ヲ救ヒ得ルコトアリ

内服藥 ハ發炎ノ病原タル微生物ノ種類及全身症狀ニ由テ撰擇取捨シ放線狀菌ニ原因スルモノニハ「ヨード」劑ヲ用ヒ骨軟症ニ原因スル關節炎ニハ「ヨード」劑若ハ「サリチール」酸曹達ヲ處シ炎症性熱高クシテ脈搏弱キトキハ「サリチール」酸「カフェイン」・「ヂギタリス」浸劑・酒類等ノ如キ強心劑ヲ用ヒ高熱稽留スルトキハ時々解熱藥ヲ用ヒ尙其他日常人工「カルルス」泉鹽・「ブルリヒ」鹽・芒硝等ヲ飲

食ニ和シ與ヘテ便秘ヲ防キ利尿ヲ促シ消化ヲ善クスルコトニ努ムヘシ
注射 炭疽性炎症ニハ血清若ハ之ト減毒培養トノ共働注射ヲ施シ連鎖狀菌ニ原因スルモノニハ「アン
チストレプトコクセン」血清ヲ、蛇毒ノ場合ハ馬ノ免疫血清ヲ、實布の里性炎ニハ實布の里血清ヲ注射
シ、其他脈搏甚々微弱ナルトキハ生理的食鹽水ノ皮下若ハ靜脈内注射ヲ行フヘシ
攝生法 消化シ易クシテ滋養多キ食物ヲ給シ努メテ榮養ヲ維持シ過食便秘ヲ豫防シ透光通氣ヲ善ク
シ室内ヲ清潔溫暖ニシ感冒・腐敗ヲ避クヘシ

圓錐角膜 Keratocornus. (羅)

療法 特ニ施スヘキ療法ナシ切除ハ有害無効ニシテ角膜穿孔ヲ招クノ危險アリ

蹄角剝脫 Exungulatio. Decapsulatio. (羅)

療法 本病ハ頑性水疔及蹄皮ノ壞疽ニ由リテ起ル、豫防法トシテ水疔ヲ療シ蹄皮ニ疽壞ヲ發スレ
ハ直ニ壞疽竈ヲ切除シ敗膿ノ排泄ヲ計リ其蔓延ヲ防ク壞疽ヲ發スレハ角質灰黃色ニ變シ局所ニ疼痛
及出血ナキニヨリ徵知スルヲ得ヘシ一部ノ剝脫ニアリテハ其剝脫部ヲ刀除シ洗淨消毒シテ防腐繃帶
ヲ行フ全角剝脫ノ治療ハ高價ノ馬匹ニ行フ大約三乃至四ヶ月ヲ要ス尙使役ニ供スル迄ニ乃至三ヶ月
ヲ要ス全蹄角剝離ヲ起セハ直ニ蹄冠及繫部ノ毛ヲ剪除シ其部ノ皮膚及局部ヲ千倍昇末溫液ニテ洗滌
シ或ハ千倍昇末水脚浴ヲ行フ肉壁及肉底ハ昇末水ヲ浸セル綿ヲ以テ纏絡シ適度ノ壓迫ヲ加フ綿ノ上
ニ綿紗ヲ纏ヒ其上ニ繃帶ヲ施ス繃帶ハ創液ニテ浸出スル迄或ハ疼痛及增溫ヲ見ル迄交換ヲ要セス繃
帶ヲ撤去スル前昇末溫液ニテ濕シ後撤去消毒シ「ヨードフォルム」ヲ撒布シ前ノ如ク繃帶ハ十四日間

乃至二十日間ニシテ角質生成ヲ始ム一部ニ贅生肉ヲ發芽スレハ明礬末ヲ撒布シテ綿ヲ抵シ繃帶ニテ
壓迫ヲ與フ爾後五乃至六日毎ニ繃帶ヲ改装ス三乃至四ヶ月ニシテ角質ヲ生ス

蹄火傷 Verbrennung der Huflederhaut. (獨)

療法 如何ナル場合ニテモ先ツ蹄鐵ヲ撤去シ之ヲ検査スルニ蹄底ハ普通ヨリハ暖ク知覺モ敏ニシ
テ之ニ輕壓輕打ヲ加フレハ馬匹ハ速ニ肩ヲ聳立ス又屢々蹄角質ノ黃色・褐色或ハ黑色トナリテ蹄底火
傷ノ痕跡ヲ顯ハスコトアリ、蹄火傷ノ輕症ナルモノハ冷布ト繃帶トヲ用ヒテ治療セシムルヲ得ヘシ
一二日ヲ經ルモ消散スルコトナク却テ疼痛ヲ増セハ是レ肉底及蹄底間ニ滲出物アリテ此兩部ヲ分離
スルニ由ルナリ此際亦注意シテ檢蹄ヲ爲セハ患部ニ大疼痛アルヲ知ルヘシ括削刀ヲ以テ此點ノ角質
ヲ削ルカ若ハ蹄鑿ヲ以テ一孔ヲ穿チテ貯溜液ニ排泄道ヲ與ヘ次ニ分離セル角質ヲ去リ孔縁ヲ圓ム角
塊ヲ薄クシ毫モ患肉又ニ壓迫ヲ起ササラシメ蹄ヨリ十分ニ液ヲ排泄セル後機ヲ失フコトナク微溫繃
帶ヲ用ヒ其後一二回注意シテ創面ヲ清潔ニシ肉底ヲ被覆シ置ケハ創傷次第ニ閉合治療スヘシ、高度
ノ蹄火傷ニテ化膿シ肉底及肉壁ヲ侵蝕シ蹄肉部ヲモ犯セハ時ヲ失ハスシテ適當ノ療法ヲ施スヘシ蓋
シ斯クノ如キ重症ニ於テ療法其當ヲ得サレハ障害増進シ瘻管等ヲ生シ其治療ニハ多日ヲ要スルモ尙
豫後疑問ニ屬スルコトアルヲ以テナリ、裝蹄法ハ輕キ蹄火傷ニハ幅廣クシテ鐵負緣密ニ蹄ノ負緣ニ
合シ且斜面ノ大ナル蹄鐵効アリ火傷度ヲ進メタルモノニテハ板鐵ヲ用フヘシ殊ニ全蹄底面ニ保護ヲ
要スルカ或ハ繃帶ヲ裝セサルヘカラサルノ際ニ最モ必要ナリ

蹄 癌 Cancer of the frog. (英)

蹄火傷 蹄癌

療法 角壁ノ知覺部ト分離シタル患部ノ角質ヲ除去シテ蹄皮ノ患局ヲ暴露シ柔軟海綿様塊ハ銳匙ヲ以テ剝除スヘシ次テ全蹄及ヒ露出肉壁ヲ消毒ス藥物ニハ防腐及收斂・腐蝕劑ヲ用フ即局所ヲ消毒シテ充分乾燥シタル後此等ノ藥品ヲ患部ニ汎ク觸接使用シタル後壓迫繃帶ヲ行フ蹄角ノ裂孔ニハ綿ヲ挿入シ蹄底ニハ麻織子塊ニテ適度平均ノ壓迫ヲ加フ壓迫繃帶ハ石膏或「グツタベルカ」ヲ用フルヲ宜シトス繃帶ハ最初日々交換ス其際蹄ヲ千倍昇汞水ニテ消毒ス壞解痂皮及灰白粘狀物ハ銳匙ニテ剝除ス此際軟部ノ損傷及出血ヲ起ササル様注意スヘシ要スルニ均一ノ壓ヲ與フル壓迫繃帶・局所消毒防腐・收斂腐蝕藥ノ應用贅生崩壞組織ノ除去等ヲ以テ治方ノ要領トス就中壓迫繃帶ハ有効ナリ治療後ハ鐵板或ハ繃帶用蹄鐵ヲ裝ス

- | | | | |
|-----------------------|------|---|------|
| クロール亞鉛 | 一〇〇〇 | ヨードアミール | 各二五〇 |
| 水 | 一〇〇〇 | 右混和撒布粉トシテ與フ | |
| 右腐蝕劑トシテ塗擦若ハ點滴ヲナスヘシ | | 粗製硫酸銅末 | 各五〇〇 |
| クロール亞鉛 | 各二〇〇 | 粗製硫酸鐵末 | 各五〇〇 |
| 小麥粉 | 適量 | 右混和爲散劑撒布粉トシテ與フ | |
| 餾水 | | 昇汞 | 六〇〇 |
| 右混和爲泥膏カンコワン氏腐蝕泥膏トシテ與フ | | 木タール | 二〇〇〇 |
| カルチウムカルピット | 一〇〇〇 | 亞砒酸 | 三〇〇 |
| 醋酸銅 | | 右混和爲泥膏強腐蝕泥膏トシテ與フ | |
| | | 亞砒酸 | 三〇〇 |
| | | 粗製炭酸カリウム | 各一五〇 |
| | | 餾水 | 七五〇 |
| | | 右混和十五分間煮沸シタル後外用トシテ與フ | |
| | | 重クローム酸カリウム | 五〇〇 |
| | | 餾水 | 一〇〇〇 |
| | | 右爲溶液腐蝕劑トシテ與フ本藥ノ作用ヲ更ニ強カラシムル爲ニハ昇汞酒精(一〇〇・一〇〇)ヲ加フヘシ | |
| | | 硫酸銅 | 三〇〇 |

- | | | | |
|-----------|------|-------------------|------|
| 硫酸鐵 | 六〇〇 | 假性石灰 | 一〇〇〇 |
| トルメンチルラ根末 | 九〇〇 | 右混和爲撒布劑 | |
| 右爲粉未撒布用 | | 砒石 | 一五〇 |
| 粗製硫酸銅 | 五〇〇 | 硫酸銅 | 九〇〇 |
| 常水 | 五〇〇 | 右混和爲撒布劑 | |
| 右爲溶液注入用 | | サリチール酸 | 各五〇〇 |
| 昇汞 | 五〇〇 | トルメンチルラ根 | 各五〇〇 |
| 酒精 | 五〇〇 | 右混和爲撒布劑 | |
| 右爲溶液腐蝕用 | | クレオソート | 一五〇 |
| クロール石灰 | 各三〇〇 | 酒精 | 六〇〇 |
| 櫛皮 | 各三〇〇 | 右繃帶用 | |
| 右混和爲撒布劑 | | クローム酸 | 三〇〇 |
| クロール亞鉛 | 五〇〇 | 餾水 | 九〇〇 |
| | | 右繃帶用 | |
| | | 砒石 | 二五〇 |
| | | 苛性加里 | 四〇〇 |
| | | 餾水 | 六〇〇 |
| | | 右混和蘆薈末四〇ヲ加ヘ繃帶用トナス | |
| | | クロール亞鉛 | 五〇〇 |
| | | 餾水 | 五〇〇 |
| | | 右繃帶用 | |
| | | ヨードフォルム | 一〇〇 |
| | | 硫酸エーテル | 一〇〇 |
| | | 右繃帶用 | |

蹄冠炎 Caronitis. (羅)

療法 石鹼ヲ以テ患部ヲ洗滌シ肥厚ノ角壁ヲ剝除シ硼酸軟膏・石炭酸軟膏(三%)・硫黃軟膏(硫黃二分・脂肪及「ラノリン」各五分)・「タンニン」酸(二〇)・「グリセリン」(一〇〇)・「クレオリン」(三〇)・五〇ノ合劑ヲ用フヘク又濕性ノモノニアリテハ壓定繃帶ヲ有効トス

蹄冠躡傷 Treads on the coronet. (英)

蹄冠炎 蹄冠躡傷

療法 局所剪毛・清水又は消毒液ノ清洗・剝起セル角質ノ截除ヲ爲シ冷湯殊ニブロー氏液ノ冷濕ヲ行フ重症ニシテ肉冠ノ腫脹甚シケレハ負傷ノ下部ニ於テ角壁ヲ半月狀ニ鑿削シ指壓ニ應スルヲ度トシ以テ肉冠ノ壓迫ヲ減シ炎症疼痛ヲ緩和シ壞疽ヲ防ク全蹄ヲ洗滌消毒シ(千倍昇汞水或ハ三%石炭酸水或「クレオリン」液)特ニ創部ハ該液ニテ充分ニ洗滌シ「ヨードフォルムタンニン」(五・一〇)或ハ「ヨードフォルム」ヲ撒布シテ「デルマトール」・「グルトール」・「蘆没丁幾合劑」ヲ用ヒ消毒繃帶ヲ纏フ、適當ナルハ昇汞水或ハ石炭酸水ニテ濕シタル繃帶ヲ施ス繃帶ハ創液ニテ汚潤セラルル迄改裝ヲ要セス或ハ腫脹増加シ發熱シタル場合ニハ改裝ス劇シキ創傷ニテハ冷湯ヲ禁忌ス繃帶ヲ撤去スレハ局所消毒シ壞死組織ヲ剪除シ再ヒ裝ス壞疽ノ分離困難ナレハ昇汞五・〇小麥粉五・〇水適量ニテ糊劑ト爲シ之ヲ塗布ス壞疽分離シ肉芽發生シ其贅生ヲ起ス場合ニハ「ヨード」丁幾ヲ塗シ壓迫繃帶ヲ施ス若シ炎症波及シテ蹄軟骨癭或ハ蹄骨壞疽ヲ起セハ壞疽軟骨及骨片ヲ除去ス疼痛減少創面乾燥スレハ缺損部ハ徐々ニ恢復セラルルモ一般ニ注意スヘキ件ハ蹄冠部ニ炎症腫脹現存スル際ニハ新生角質ヲ除去シ或ハ濕温若ハ温浴ヲ用ヒテ(石鹼或ハ加里瀾汁ヲ加ヘタルモノ)新生角質ヲ軟和スヘシ

- | | | | | |
|---------------|-------|---------|-------|----------------|
| 醋酸鉛 | 三〇・〇 | 安息香酸 | 一・五 | 右混和塗布用 |
| 明礬 | 一五・〇 | 右混和塗布用 | | |
| 水 | 三〇〇・〇 | ヨードフォルム | 一〇〇・〇 | 右爲粉未撒布用 |
| 右爲溶液蹄冠部灌注又ハ塗布 | | ヨードフォルム | 一〇〇・〇 | 昇汞 |
| コロヂウム | 五〇・〇 | 右混和塗布用 | | 小麥粉 |
| 石炭酸 | 五・〇 | コロヂウム | 一二・〇 | 右壞疽崩解ヲ促ス爲局所撒布用 |
| タンニン酸 | 二・五 | 過クロール鐵液 | 二・〇 | |

蹄葉炎 Podophyllitis s. Laminitis (羅)

療法 初期三日間ニハ刺絡ヲ施ス瀉血量ハ多キヲ要ス馬ノ大小ニ從ヒ五乃至八疋ヲ行フ之ニ由リ疼痛ヲ去リ炎症ヲ輕減ス、蹄冠及蹄底ノ局所放血ハ効力尠ナシ此刺絡創ヨリ化膿ヲ起シ易シ故ニ局所刺絡ヲ行ハントセハ消毒法ヲ施スヲ要ス、次テ冷湯ハ良効アリ或ハ冷水ノ洗浴或ハ蹄ニ繃帶ヲ施シ冷水灌溉ヲナシ或ハ氷嚢布ヲ纏布ス初メ一兩日間ハ晝夜兼行ス之ト同時ニ皮膚及消化器ニ誘導法ヲ行フ特ニ樓麻質斯性ノモノニアリテハ揮發衝動藥ヲ皮膚ニ塗布シ體ヲ温包ス腸管ノ誘導ハ特ニ食物性蹄葉炎ニ有効ニシテ下劑例之蘆薈・芒硝ヲ用フフリス氏ハ鹽酸「ピロカルピン」(〇・三―〇・五)ヲ用ヒテ良効ヲ得タリ劇痛ニハ鹽酸「モルヒネ」ヲ皮下注射ス其他必要ナルハ減食ニアリ發病當初ヨリ穀食ヲ禁シ夏ハ青草、冬ハ乾草或ハ少量ノ麩汁ヲ與フ水ハ患畜ノ欲スル儘飲用セシム廣キ厩舎ニ容レ少量ノ臥薬ヲ給シ攝生ニ注意ス英國獸醫ハ患畜ヲ横臥セシムルノ可ナルヲ説ケリ是レ蹄骨ノ轉位ヲ幾分カ防クコトヲ得ヘシト雖辱創ニ注意セサルヘカラス劇痛久シク側趾動脈ノ搏動亢盛ニシテ罷マサルハ化膿ノ徵トス既ニ化膿ヲ起セハ十分ニ切開排膿スヘシ切開ニハ先蹄底ノ局部ヲ廣ク其周圍ヨリ漸次ニ薄削シ中央部指壓ニ應スルニ至リ之ニ適當ノ孔ヲ穿テ膿汁排出セハ三%ノ石炭酸又ハ「グ」リセリン「温溶液」ヲ以テ患部ヲ洗滌シ創口ニハ沒藥丁幾又ハ蘆薈丁幾ヲ塗布シ麻織子ヲ加ヘテ壓定繃帶ヲ施スヘク繃帶ニハ幅五乃至八仙迷突ナルヲ用ヒ後ニ藥履若ハ革靴ヲ穿タシム、蹄骨ノ轉位ヲ防グ爲食鹽及醋ノ混合液ヲ以テ浸シタル麻織子塊ヲ蹄底ニ當テ鐵製ノ圓板ヲ以テ之ヲ被ヒ蹄底ニ輕壓ヲ如フルノ可ナルヲ主唱セル人アリペーター氏ハ病初ヨリ麻織子及繃帶ニ依リ蹄底ノ後半部ヲ填縛

シテ蹄尖ノ地ニ觸ルルヲ避クルノ法ヲ用ヒタリ、蹄骨既ニ轉位ヲ起セハ蹄底ノ角質ヲ薄削シ蹄骨壓迫ノ爲ニ生スル疼痛ヲ減シ若シ蹄底ニ穿孔排膿ヲ來セハ充分ノ消毒ヲナシ昇汞水(千倍液)ニ浸セル綿ヲ抵シ繃帶ヲ施ス、蹄冠部ニ蹄漆ノ分離ヲ來シ液體ノ流出スル場合ニハ消毒液ヲ以テ消毒シ膿ノ排泄ヲ便ニシ白線部ニ反對孔ヲ穿テ角帽ノ脫離ヲ防クヘシ

裝蹄法 毫モ變形ナキ蹄ニアリテハ蹄鐵ハ特殊ノモノヲ用フルノ要ナク尋常蹄鐵若ハ連尾蹄鐵ヲ裝スルヲ以テ足ルヘキモ削蹄ニハ可成前全部ヲ愛惜スヘク蹄尖過長ノ觀ヲ呈スルニ至ラハ外方ヨリ其彎出部ヲ鑿削スヘク負線ハ主トシテ蹄踵ヲ削リ釘ハ後方ニ整着スヘク蹄尖部若シ蹄鉗子ノ試壓ニ疼痛ヲ示サハ前鐵唇ヲ廢シ前側鐵唇ニ代ヘ上彎ハ通常之ヲ設ケス要アラハ鐵尾ニ低キ鐵尾鐵唇ヲ設ケ以テ蹄鐵ノ滑動ヲ豫防スヘシ

蹄既ニ其形ヲ變シ蹄底薄ク壓平若ハ實際シ白線部擴張シテ其實ヲ脆化シ蹄側部蹄壁負線ヲ存セサルニ至レルモノニアリテハ連尾鐵ノ鐵頭部ヲ廣クシテ以テ蹄底體ノ薄キヲ庇護シ前側及鐵尾鐵唇ヲ設ケ蹄側及蹄踵ヲシテ十分ニ負重セシムヘキ裝蹄法ヲ行フヘシ、蹄尖壁變形シテ瘤狀ヲ呈セル蕪蹄ニシテ新生ノ角壁蹄冠直下ニ於テ直線ノ方向ヲ示セルモノニアリテハ裝蹄ニ依リテ蹄形ヲ修正スルコトヲ得ヘシ其法ハ蹄尖壁ノ瘤狀塊ヲ鑿削シテ健蹄ニ於ケルカ如ク蹄冠以下一直線ノ方向ヲ造爲シ廣頭連尾鐵ヲ裝着シ過短ノ蹄尖部ニハ假蹄膠ヲ以テ其足ラサルヲ補ヒ蹄踵ノ過高部ハ盡ク削除スヘシ

- アドレナリン溶液(千倍) 二〇〇〇 芒硝 右爲紙劑頓服
- 右五〇宛兩前距ノ内外部ニ皮 蘆薈越幾斯 硝石 五〇〇〇
- 下注射 アルテア根及水 適量 芒硝 二五〇〇

- 右爲散劑一日五回食物ニ混與
- 鹽酸ピロカルピン 一〇〇 水 一五〇〇
- 右爲溶液其半量宛二十四時間ヲ 右爲紙劑二回分服 適量
- 經テ皮下注射 ギキタリス葉末 二五〇
- 重曹 一〇〇〇
- 芒硝 五〇〇〇 適量
- アルテア根末及水 右爲紙劑五塊一日二塊宛與フ
- アルテア根末 一〇〇〇
- 水 〇〇〇
- 右爲溶液皮下注射 五〇

蹄軟骨瘻 Quittor. (英)

療法 豫防ヲ必要トス蹄冠部ニ創傷ヲ發シタル場合ニハ病毒侵入ヲ防キ又滲出物ノ排泄ニ注意シ患部ヲ消毒シ滲出物ノ排泄ヲ流利シ「フレグモーネ」ノ發生ヲ防ク等必要ナリ消毒法ハ木病ニ對スル最良ノ豫防法トス「フレグモーネ」性ノ病變ハ蹄冠下結締組織若ハ蹄軟骨圍組織ニアルニ關セス濕温ヲ以テ蹄ヲ軟和シ以テ炎症部ノ壓迫ヲ防キ兼テ壞疽ヲ防ク此目的ニハ微温消毒液ノ脚浴又ハ琶布ヲ施スヘシ温度高キニ過レハ化膿ヲ促進スルノ害アリ膿瘍ヲ發スレハ瘻管ヲ生スルヲ防ク通常膿瘍ヲ切開シテ「クロール」亞鉛(一〇%)液ニテ洗滌シ後昇汞水千倍液ヲ注キ繃帶ヲ行フ若シ瘻管ヲ發セハ患部ノ化膿機能ヲ促進シ壞疽ノ脫離ヲ促シ瘻孔ノ胼胝壁ヲ破壞スルヲ努ムヘシ此目的ニハ瘻管ヲ切開シテ患部ヲ暴露スル法アルモ困難ナリ故ニ收斂防腐藥ヲ瘻管ニ應用ス例之ビラット氏液・一〇%硫酸銅液・礬化銅ヲ用フ又昇汞一〇%酒精溶液或ハ石炭酸酒精溶液ヲ賞用ス藥物ノ應用ハ巧ミナルヲ要ス消毒防腐液ハ瘻管底ニ達セサルヘカラス其應用法ハ先表面ヲ清拭シタル後腫脹部ニ一樣ノ壓迫ヲ與フルトキハ膿ハ流出セムトスルニヨリ細小ノ化膿ニテモ其位置廣狹ヲ知ルヲ得ヘシ次テ清水若ハ

ノ治療法ニ依リテ治療ス然レトモ其表層ニ於テ稍ヤ硬固ナル角質ヲ生スルニ至ル迄用役ニ供スヘカ
ラス如此角質ヲ以テ被ハレタル後ハ「タール」若ハ石炭酸油(一〇・一〇)ヲ塗布スヘシ初メヨリ「ヨ
ド」丁幾ヲ用フレハ効アリ、腐又深部ニ達スレハ清拭甚タ困難ナルコトアリ斯ル場合ニハ藥液ヲ注入
シ又時トシテハ烙鐵ヲ用フルコトアリ然レトモ蹄又ノ大部分侵サレタル場合ニ於テハ知覺又ヲ傷ク
ルコトアルニ由リ注意スヘシ既ニ治療シタル後ニ於テモ蹄ヲ清拭セサレハ必ス再發ス腐又若シ窄蹄
ノ一症候トシテ發シタル場合ニ於テハ窄蹄ノ條下ニ於テ述ヘタル治療法ニ從ヒ治ヲ施スヘシ窄蹄全
治スレハ腐又モ亦治ス

蹄球炎 Verballung. (獨)

療法 休憩・多量ノ蘚蘘・蹄球部ニ創傷ナケレハ冷脚或ハ冷湯ヲ行フ角壁剝離或ハ損傷セハ之ヲ除
去シ皮片モ亦鋏切ス被毛ヲ剪去シ創部ハ洗滌消毒シ消毒繃帶ヲ纏ヒ皮創面ニ乾燥撒布藥(明礬末・糊
皮末各二〇〇或ハ「タンニン」酸一〇〇)「ヨード」フォルム(二〇)實質炎ニアリテハ炎症蹠枕及蹄軟
骨ニ蔓延スルノ虞アリ炎症現象全ク消散セハ適當ノ裝蹄法ヲ蹄踵ノ負重ヲ免スルカ如ク裝蹄ス

明礬末
糊皮末

右混和撒布用
各二〇〇〇 — タンニン酸

ヨードフォルム
一〇〇 — 右混和撒布用

二〇〇

蹄皮炎 Pododermatitis. (羅)

蹄皮炎ニハ急性及慢性アリ急性ニハ更ニ蹄皮表層炎及蹄皮表實質炎ノ二種アリ

蹄皮表層炎 Pododermatitis superficialis. (羅)

療法 本病ハ蹄皮ノマルベギー氏層及乳嘴體ノ表面ニ局限スル炎症ニシテ深部ヲ侵サルルモノニ
シテ其療法ハ原因ヲ除去シ休憩ヲ命シ無菌性ノモノニアリテハ冷湯法ヲ施ス其法或ハ患脚ヲ冷水中
ニ起タシメ或ハ冷水灌漑又ハ冷葛布ヲ施ストキハ數日ニシテ治ス化膿スレハ膿ノ排泄ヲ流利スル爲
患部ノ角質ヲ除去シ既ニ蹄冠部ニ穿孔シ膿液ノ排泄ヲ見レハ該下部ノ白線部ニ反對孔ヲ穿テハ充分
ニ排膿セシムルコトヲ得穿孔大ニ過クレハ不潔物ノ侵入及知覺部ノ脫出ヲ來スノ虞アリ、穿孔部ハ
洗滌消毒(石炭酸・昇汞水・クレオリン)水)シテ麻織子又ハ石炭酸綿紗・「ユーテ」等ヲ孔ニ抵シ繃帶ヲ
行フ繃帶ハ疼痛増加シ或ハ創液浸出セサル間ハ改裝ヲ要セス此場合ニハ一日二三回宛少許ノ消毒液
ヲ繃帶ニ注キ蹄ニ濕分ヲ與フヘシ穿孔部ヨリ知覺壁脫出ノ虞アレハ壓迫繃帶ヲ施ス疼痛(跛行)去リ
排膿止メハ孔ニ麻織子「タール」ヲ填メ相當ノ鐵ヲ裝ス硬地上ニハ直ニ使役スルヲ得ルモ軟地又ハ軟
泥ニハ四五日間使役ヲ止ムヘシ

蹄皮實質炎 Pododermatitis paronychymatosa. (羅)

療法 蹄皮實質炎トハ蹄皮ノ深層及皮下織ノ炎症ヲ云フ、其療法ハ初期ハ冷湯ヲ施シ化膿ヲ發ス
レハ速ニ排膿ヲ圖リ隣部ニ膿ノ浸潤ヲ防キ炎症ノ蔓延ヲ防禦シ化膿部ニ肉芽贅生セハ之ヲ切除ス、
本症ニアリテハ排膿手術ヲナスニ注意ス是レ知覺部著シク腫起スル爲其脫出及嵌頓ヲ來シ易ク一度
脫出スレハ著シキ刺戟ヲ受ケ炎症益々蔓延スルノ虞アレハナリ之ヲ防クニハ切開部近傍ノ壓迫ヲ減
スル爲メ患部及其周圍ノ角質ヲ薄削シ穿孔シタル後ハ壓迫繃帶ヲ施シ單純ノ溫浴若ハ芳香藥ヲ加味
セル溫浴(例之「カミツレ」煎汁・甘草浸汁)或ハ消毒藥液ノ溫浴ヲ用フ疼痛甚シキトキハ「ヒヨス」
蹄皮炎

蹄皮炎

慢性蹄皮炎

四一四

「ペラドンナ」等ノ鎮痛藥ヲ加ヘタル琶布ヲ用フ、知覺部脫出シテ復舊困難ナルトキハ收斂藥・腐蝕藥ヲ用フ例之硝酸銀(一〇—二〇%) 硫酸鐵・硫酸銅・硫酸亞鉛・銅礬・「クローラ」鐵及ビラット氏液・「クローラ」亞鉛(一〇%)等ヲ用ヒ尙効無クハ外科刀ニテ切除ス、化膿良性ニシテ膿瘍ナキトキハ石炭酸「グリセリン」(一〇%)・石炭酸油(一〇%)「オレーフ」油ヲ用ヒ壓迫繃帶ヲ行フ、知覺部脫出シテ潰爛セハ「タンニン」其他ノ收斂藥ノ濃液ヲ用フ効ナケレハ腐蝕若ハ切除ヲ行フ、蹄冠部ニ穿孔シテ瘻管ヲ生スレハ周到ノ注意治療ヲ要ス先ツ探子ヲ以テ其瘻管ノ淺深廣狹ヲ探リ消毒液ニテ洗滌シビラット氏液或ハ昇汞水(一〇%)ノ注入若ハ昇汞「ブージー」ヲ挿入シ繃帶ス、蹄皮壞疽ニ陥レハ外科刀ヲ以テ壞疽部ヲ除去シ防腐藥ニテ洗滌繃帶ス化膿止ミ創面ニ上皮新生セハ「タール」ヲ塗布シ繃帶ヲ施ス或ハ假角質ヲ以テ充填スルモ可ナリ蹄底ノ切開部ニハ麻織子ニ「タール」ヲ塗リタルモノニテ填塞スヘシ

慢性蹄皮炎 Pododermatitis chronica. (羅)

療法 初メ患部ノ角質ヲ除去シ壓迫疼痛及腫脹ヲ減シ知覺壁未タ甚シキ變狀ヲ呈スルニ至ラサレハ不潔物ノ侵入ヲ防カンカ爲ニ繃帶ヲ施スヘシ「ヨード」丁幾・過「クローラ」鐵液・「クローラ」亞鉛(一〇%)ヲ以テ洗滌スルトキハ治効アリ、蹄壁ニ贅生物アレハ烙鐵ニテ燒烙ス又腐蝕藥例之硝酸銀・昇汞・硝酸等ヲ用フ繃帶ヲ改裝スルニ當リ更ニ新病變ナキヤ否ヤヲ檢シ若シ之ヲ發見セハ更ニ該部ノ蹄壁ヲ除去シ後肉壁ノ表面ヲ洗滌消毒スヘシ患部乾燥シ薄キ角質ニ依リ被ハルルトキハ通常ノ裝蹄ヲ施スヘシ但廣キ鐵唇ヲ附シ患部ニ假角質ヲ用フヘカラス

疥 病 Jacksnucht. (獨)

異嗜參照

「テキサス」熱 Texas-fever. (英)

壁蝨熱參照

天疱瘡 大水疱瘡 Pemphigus. Dermatitis bullosa. (羅)

療法 皮膚發炎セルモノニハブロー氏液ノ冷湯法ヲ行フ水疱ハ切開シ内容漿液ヲ排除シ洗淨後撒布劑ヲ施シ又痂皮ヲ生シタルモノニハ緩和軟膏ヲ塗布ス犬ニハ懈皮煎汁溫浴ヲ用フ又石炭酸・「クレオリン」(二—五%)液洗滌ヲ行フ

樟腦 一〇・〇〇 — 硫黃華 四・〇〇 —
アルテア根末 一五・〇〇 — 石灰水 五〇〇・〇〇 —
右混和洗滌用

轉 捩 Distorsio. (羅)

療法 療法ハ先ツ關節ヲ休憩ノ状態ニ保チ劇痛及顯著ナル炎症ニ對シテハ關節ヲ繃帶ニテ緊縛シテ冷湯スヘシ其後ハ濕溫・器械的壓迫或ハ按摩法ヲ用フ即チブリースニツツ氏卷法ト卷帶ノ施用トニ據ル器械的壓迫ヲ併用スヘシ若シ之ヲ用フル能ハサレハ刺戟軟膏又ハ烙鐵ヲ施ス休養久キニ亘ルトキハ關節囊及靱帶裝置ノ萎縮・内皮ノ増殖等ニ由リテ關節ノ絕對的又ハ長時ニ亘ル不動ヲ來スト雖大動物ニ於テハ人ニ於ケルカ如ク關節ノ運動全ク廢絶スルコト無シ小動物特ニ肉食獸ニ於テハ四肢ヲ

舐病 「テキサス」熱 天疱瘡 轉捩

四一五

容易ニ永續的ニ休養セシムルコトヲ得ルヲ以テ關節ノ他動的運動ヲ爲シテ關節癒著ヲ防クヲ必要トス、大動物ニ運動ヲ試ミントセハ出來得ル丈ケ安靜ニシ且正路ノ軟地上ニ行フヘシ既ニ跛行ノ全減前ニ至ルモ柔軟平坦ナル地上ニ於テ注意シテ運動セシムルヲ必要トス又治療後ト雖初メハ通常作業ヲ避ケ特ニ乘馬ニアリテハ短折又ハ平坦ナル硬土上ノ運動ヲ忌ム、適當ナル裝蹄ヲ行フヘシ

腎草傷 Injuries by the breaching of harness. (英)

療法 一般ノ創傷療法及鞍傷療法ヲ参照シ病徴ニヨリ適宜處置スヘシ

癲癇 Epilepsia. (羅)

療法 本病治療藥中臭素加里ノ大量且持長内服最モ卓効アリ即チ本藥ヲ犬ニハ三―四・〇〇(日量)羊・豚ニハ五・〇〇―六・〇〇(日量)大動物ニハ二〇・〇〇―五〇・〇〇(日量)ヲ舐劑又ハ飲劑トシテ二乃至四週間與フ鳥類ニハ臭素加里一―五%液ヲ飲水トシテ與フルヲ便トス又犬ニハ「プロミピン」一茶匙又ハ一食匙ヲ與フ臭素中毒殊ニ皮膚ノ濕疹又ハ癩腫現ハルレハ服藥ヲ中止ス平素食物ニ注意シ消化シ易キ飼料ヲ與ヘ適當ノ運動ヲ命シ癲癇發作ノ刺戟トナルヘキ感作ヲ避ケ本病ニ罹レルモノハ全然蕃殖用ニ供セス癲癇發作中ハ負傷ヲ豫防シ「クロロフォルム」又ハ「エーテル」ノ吸入或ハ「モルヒネ」ノ注射ヲ行フ繼發性癲癇ニ對シテハ原病ノ治療ヲ加フ癲癇樣痙攣ノ治方ハ眞性癲癇ニ同シ

臭素加里 一食匙ヲ與フ(犬) 五・〇〇

餉水 三〇〇・〇〇

右爲溶液一日三四回一茶匙乃至

臭素加里 各一〇〇・〇〇

臭素ナトリウム 各一〇〇・〇〇

右爲溶液前方ノ如ク用フ

臭素加里 一五〇・〇〇

右五包ニ分チ一日一包宛飲水ニ

混與(馬)

臭素ナトリウム 二五・〇〇

繡草根・アルテア末 各一五・〇〇

右爲散劑一包其六包ヲ作り一日

二回一包宛内服(牛)

臭素加里 五・〇〇

餉水 二五〇・〇〇

右爲溶液毎日二食匙ヲ與フ(雞)

硝酸銀 〇・一

グリセリン 一〇〇・〇〇

餉水 一二〇・〇〇

右爲溶液一日四回一茶匙乃至一

食匙ヲ與フ(犬)

臭素カリウム 一〇〇・〇〇

甘草根末 各五〇・〇〇

アルテア根末 適量

水 適量

右混和爲舐劑二回ニ分與(馬)

癲癇

臭素加里 一〇〇・〇〇

右爲散劑三包每三時一包宛一

「リトリトル」ノ水ニ和シ灌腸料ト

ス(馬)

プロウムカリウム 二五・〇〇

エーテル精 二〇・〇〇

右混和一罐量ノ「カミルレ」茶劑

ニ和シテ與フ(馬)

プロウムカリウム 三〇・〇〇

繡草根浸 (二〇・〇)二〇〇・〇

橙皮舍利別 二五・〇〇

右混和毎日三乃至四食匙量宛與

フ(犬)

プロウムカリウム 各〇・五

白糖

右混和爲散劑一包其十包ヲ作り

毎日三回一包宛繡草茶劑ニ混シ

テ與フ(犬)

プロウムカリウム末 三〇・〇〇

右毎日少量ノ食鹽ト共ニ飼料ニ

混與、但一週間持續ス要スレハ

反覆應用ス(馬・牛)

プロウムアムモニウム 一〇〇・〇

酸鹽モルヒネ 〇〇・五

茴香水 一八〇・〇

右混和毎日二乃至三回一匙量宛

與フ(犬)

酸化亞鉛 〇・五

アラビアゴム 各二・五

砂糖 適量

餉水 適量

右混和爲丸劑一個其十個ヲ作り

毎日三回一個宛與フ(犬)

酸化亞鉛 五・〇

白糖 適量

右散劑十包ニ分チ毎日二回一包

宛與フ(犬)

繡草根 一〇・〇

硫化亞鉛 〇・一

四一七

電擊

右混和爲散劑一包其六包ヲ作り
 毎日三回一包宛與フ(犬)
 食鹽 一〇〇〇〇
 纈草根末 二五〇〇〇
 右混和毎日一手掌量宛飼料ニ混
 シテ與フ、但連續應用スヘシ
 (馬)
 阿魏丁幾 五〇〇〇
 右「カミルレ」茶劑ニ和シ灌腸料
 トス(馬)
 硫酸アトロピン 一〇〇〇〇
 餛水 三滴
 硫酸 三滴
 右爲溶液毎日其一〇〇〇宛皮下
 注射(馬・牛)

電擊 Thunder clap (英)

硫酸アトロピン 〇・一
 甘草根末 各適量
 甘草蒸 各適量
 右混和爲丸劑十五個毎日二回一
 個宛與フ(犬)
 苦扁桃水
 餛水 各二五〇〇
 桂皮舍利別
 右混和毎日三乃至四回一茶匙量
 (犬)乃至半茶匙量(小犬)宛與
 フ
 ヘドナール 一〇〇
 白糖 〇・二五
 右混和爲散劑一包其三包ヲ作り
 毎三乃至五時一包宛與フ(犬)

四一八

鎮靜劑トシテ
 ヒブノン 一〇〇
 白糖 〇・五
 右混和爲散劑一包其五包ヲ作り
 毎二日一包宛與フ(犬)
 ウレタン 一五〇〇
 アニース水 一〇〇〇
 右混和朝夕各一匙量宛與フ(豚・
 犬)
 ルプリン 〇・二
 鹽酸モルヒネ 〇・二五
 白糖 二〇〇
 右散劑五包ニ分チ每三時一包宛
 與フ(犬)

療法 對症療法ヲ施スニ過キス即チ卒倒ニ對シテハ樟腦・酒精・「エーテル」・礮砂精・「ヴェラトリ
 ン」・「カフエイン」等ヲ試用シ麻痺ノ場合ハ摩擦・按摩・電氣・刺戟擦劑ヲ試ムヘシ

傳染性肋膜炎

肺炎 Pleuropneumonia contagiosa bovum. (羅)

療法 治療ハ多クハ効ヲ奏セス豫防法ヲ肝要トス
豫防法 本病ノ豫防接種法ハウイルムス氏(Williams)ノ行ヒタル法ニシテ病肺ヨリ淋巴液ヲ搾取
 シ之ヲ尾端ヨリ一〇仙迷突ヲ隔ツル部下ニ注射スルニアリ又右ノ病毒ヲ膿ノ胸垂ノ皮下ニ接種
 シ此部ニ生シタル滲出液ヲ接種材料ニ用フルコトアリ免疫性ハ約一ケ年間持續ス然レトモ一―三%
 ノ接種損失ト五―一五%ノ尾端壞疽アリ又ノカール氏(Nocard)ハ本病病原體ヲ、マルチン氏(Martin)
 ハ「ブイヨン」ニ純粹培養シ其八分ノ一―二分一c.c.ヲ尾端ノ皮下ニ接種ス
獸醫警察法 本病ノ豫防ニハ獸醫警察法ヲ勵行シ病牛ヲ撲殺シテ病原ヲ斷チ又嚴重ナル消毒法
 ヲ施ス消毒セル空厩ハ長ク使用セス一年乃至一年半モ牛ヲ繫カサルヲ可トス消毒藥ハ最モ強キモノ
 ナ選川シ病毒ハナルヘク火熱ヲ用ヒテ滅却スヘシ

- | | | | | |
|----------------|------|----------------|----------------|------|
| テレピン油 | 六〇〇〇 | 個宛與フ | 礮砂 | 一五〇〇 |
| 樟腦精 | 三〇〇〇 | 杜松子末 | 吐酒石 | 四〇〇 |
| 右混和爲外用刺戟擦劑 | | アルテア根末・麵粉 | 右爲粉末其二十包ヲ作り一日二 | |
| 樟腦精 | 各二〇〇 | 炭酸加里 | 回一包宛「リートル」ノ水ニ和 | |
| 水 | | 右混和餌劑十二個ヲ作り牛ニ與 | シテ用フ | |
| 麵粉及甘草末 | 各適量 | | | |
| 右混和十二丸ヲ作り一日二回一 | | | | |

傳染性肋膜炎

傳染性流産

Abortus enzooticus. (羅)

豫防法及療法

牛群中流産ノ徵アルモノヲ發見セハ直ニ隔離シ既ニ流産スルトキハ自餘ノ妊牛
 他舍若ハ牧場ニ移シ特別ノ牧夫ヲシテ管理セシムヘシ感染動物ヲ發見スルニハ血清診斷法ヲ要ス
 動物ノ隔離既舍ハ嚴重ニ消毒シテ汚穢ナル敷藁ハ殘食ト共ニ燒棄スヘシ或ハ敷藁ノ代リニ砂ヲ用フ
 ルコトアリ動物ノ外陰部ハ無刺戟ノ防腐藥ニテ消毒シ且腔ヲ洗滌スヘシ胎兒ノ屍體ハ娩隨ト共ニ燒
 棄シ或ハ強力ノ消毒液ヲ注キタル後深ク埋没スヘシ流産牛又ハ疑ハシキ牝牛ト交尾シタル牝牛ハ陰
 筒口ノ毛ヲ剪リ交尾ノ前後〇・五—一・〇%「リゾール」液又ハ一・〇%「ソーダ」水ニテ洗滌スヘシ羊群
 及豚群ハ消毒ノ實施困難ナルヲ以テ流行期間交尾ヲ全廢スルヲ可トス
 流産セル母畜ノ陰腔及子宮ハ灌水器ヲ使用シテ微温ノ消毒液ニテ洗滌シ殊ニ子宮ノ洗滌ニハ柔軟ナ
 ル護膜管ヲ深ク子宮内ニ送入スヘシ外陰部ノ消毒藥トシテ應用スヘキモノハ昇汞(一・八〇〇〇—
 一〇〇〇〇〇)(濃厚溶液ハ劇シキ窘迫ヲ惹起スルヲ以テ注意ヲ要ス)一—二%「クレオリン」又ハ「リゾ
 ール」液一%過「マンガン」酸「カリウム」液等トス大動物ニハ三—四「リトール」小動物ニハ半「リ
 トール」ヲ應用ス初メハ一日一回乃至二回後ニハ二—三日毎ニ一回注入ヲ行ヒ分泌全ク熄ミタル後尙
 二—三日間繼續ス而シテ更ニ一—二週間動物ヲ隔離シ早クモ二ヶ月間ハ交尾セシムヘカラス新ニ購入
 セル牝牛ハ尾・後身・外陰部及四肢ヲ洗滌消毒シ成ルヘク分娩期日マテ隔離シ種牝牛ハ交尾ノ前後其
 陰莖及包皮内ヲ消毒スヘシ

昇汞
稀酒精

五〇〇

グリセリン

各五〇〇

右混和二〇「リトール」ノ水ニ溶

解シ子宮内注入料及防腐的洗滌
料トス

クレオリン

五〇〇

右五「リトール」ノ温湯ニ溶シ注

入料トナス

フオルムアルデヒド

グリセリン

水

右混和爲溶液注入料又ハ洗滌料

トス

石炭酸

餽水

右爲溶液每十四日二〇〇〇乃至

三〇〇宛脚部ニ皮下注射ス(此

方法ハ妊娠五ヶ月ヨリ分娩ニ至

ル迄十四日毎ニ反覆ス)

石炭酸

餽水

右爲溶液每十四日其一一〇〇乃

至一二〇宛脚部ニ皮下注射ス

但本方ハ妊娠三ヶ月ヨリ七ヶ月

ニ至ル間ニ行フ(プロイエル氏

傳染性流産

處方)

石炭酸

右爲一%溶液五—十日間毎日一

乃至一・五「リトール」宛内用

(但本方ハ豫防トシテ妊娠中ノ

動物竝ニ曾テ流産セル動物ニ用

フルコトヲ得)

石炭酸

右爲一%溶液子宮内注入料又ハ

洗滌料トス

クレゾール石鹼液(「クレオリン」

「リゾール」・「バチロール」等)

右爲一乃至二%溶液子宮内注入

料又ハ洗滌料トス

過クロール鐵液

右爲四%溶液用法同前

炭酸ナトリウム

右爲一乃至二%溶液用法同前

硫酸銅

右爲三%溶液用法同前

過マンガン酸加里

水

右爲溶液二—四「リトール」ノ水

ニ混シ毎日三回子宮内ニ注入

昇汞

常水

食鹽

右爲溶液二—三「リトール」ノ水

ニ混シテ一日三回子宮内注入

(牛ハ水銀劑ニ中毒シ易キカ故

ニ他藥ニ代用スヘシ)

クレオリン

常水

右爲溶液二—四「リトール」ノ水

ニ和シ日々三回子宮内注入

石炭酸

常水

右混和爲溶液二—四「リトール」

四二一

傳染性無乳症

ノ水ニ和シ日々三回子宮内注入 常水

傳染性無乳症

Agalactia infectiosa. (羅)

一〇〇・〇

ノ水ニ和シ一日三回子宮内注入

四二二

療法

乳房血液ノ循環ヲ善クシ滲出物ノ吸收病原菌ノ蝕滅ヲ促ス目的ヲ以テブリースニツツ氏卷法ヲ施セハ効驗アルヘキ筈ナレトモ乳房ニ之ヲ實施スルハ至難ノ業ナルニ由リ唯其原理ニ基キ左記ノ如キ變法ヲ根氣能ク熱心ニ執行スヘシ

大幅ノ麻布(麩粉ノ包裝ニ用ヒタル空袋)ヲ幾重ニモ折り又疊ミ清冽ナル井水ニ浸シテ輕ク搾リ之ニテ乳房ヲ包ミ置クコト五乃至八分間ノ後西洋手拭ニテ拭キ乾カシ強ク摩擦スヘシ毎日三回此法ヲ執行スレハ新發症ニ於テハ數日ノ後乳質著シク改善シ一〇乃至一四日ノ後ニハ正常ノ狀態ニ復スヘク慢性症ニ於テハ輕快ヲ見ルモ病原菌ノ全滅ハ必期シ難ク治療ヲ停止スレハ即チ再發スルコトアリ再發シタルモノハ乳用ヲ廢シ肥養シテ肉用ニスヘシ、右ノ外二乃至四%硼酸水若ハ〇・五%「テラボーゲン」水ノ注入及包攝藥ノ塗布モ亦必用トス

豫防法

本病ハ傳染性ヲ有スルモノアルヲ以テ之カ豫防ニ注意シ新購入ノ乳牛ハ入舎前ニ乳房ノ臨牀的検査・トロムスドルフ氏白血球試驗及乳汁ノ細菌的検査ヲ行ヒテ乳房ノ健否ヲ檢定シ全舎ノ乳牛一般ニ對シテモ隨時同一ノ検査及試驗ヲ行ヒテ成ルヘク早く患牛ヲ發見シ多數ノ感染ヲ免ルル様ニスヘク搾乳前ニ清潔ナル布巾ニテ摩擦シ脂ヲ塗布スヘク脂ノ代リニ乳汁ヲ塗ル習慣ハ傳染ノ危險ヲ増スヲ以テ宜シク改ムヘク新二分婉シタルモノハ微温ノ石鹼水ニテ後肢・乳房及尾ヲ洗淨シ婉隨停滯・白帶下・子宮炎等ヲ患フルモノハ可成隔離シ屢々舎牀ノ消毒ヲ勵行シ搾乳者ハ時々手ヲ洗ヒ

淨メ乳房ハ努メテ清潔ニ處置シ患牛ハ隔離シ得ヘケンハ之ヲ隔離シ、得サル場合ハ特ニ搾乳者ヲ指定シ置キ或ハ健牛ノ搾乳ヲ了リ最後ニ患牛ヲ搾乳スヘク乳汁ハ舎牀ニ飛散セサル様特殊ノ罐中ニ搾取シ且消毒藥ヲ用ヒテ處分シ以テ病毒ノ散蔓ヲ防キ患牛ノ乳ハ人之ヲ飲用セハ病ムコトアリ須ラク注意スヘシ、不治ノ患牛ハ搾乳ヲ停止シ肥養シテ肉用ニ供シ以テ病毒ノ源泉ヲ涸渴スヘシ

傳染性膿疱口炎

(馬) Stomatitis pustulosa contagiosa equorum. (羅)

療法

輕症ノモノハ攝生療法ノミニテ治癒ス即チ綠草・練飼・乾草ヲ給シ頻回ノ水與ヲ行フ又一日三―四回消毒液(二%硫酸銅又ハ硫酸鐵・二―三%クレオリン)又ハ「リゾール」液等ヲ以テ口内ヲ洗淨スルトキハ恢復更ニ速ナリ皮膚ノ潰瘍モ亦消毒液ニテ洗滌シ又ハ撒布劑ヲ散布シ結膜侵サルレハ硫酸亞鉛ノ水溶液(一%)ヲ點眼スヘシ

豫防法

病馬及其近接馬ヲ隔離シ特別ノ看護人ヲ附シ手入具・水飼與具等ハ一切別ニ、ヘシ一群ノ馬匹中本病蔓延セハ經過ヲ短縮スル爲メ緊急接種ヲ行フヘシ其法ハ病馬ノ唾液ヲ健馬ノ唇内面ニ塗擦スルニアリ(豫メ唇粘膜面ヲ粗布ヲ以テ摩擦シ置クヘシ)本病終熄セハ厩舎及其用具ハ熱瀟汁ヲ以テ洗滌スヘシ(處方ハ口炎參照)

傳染性膿疱性皮炎

カナダ馬痘

Dermatitis pustulosa contagiosa (羅) Acne contagiosa.

(羅) Canadian horsepox. (英)

傳染性膿疱口炎 傳染性膿疱性皮炎

四二三

傳染性貧血

四二四

療法 患畜ハ使役ヲ免シ患部ヲ消毒藥(千倍昇永水・二%石炭酸水・「クレオリン」・「リゾール」液・ブーロー氏液)ヲ以テ洗滌シ又ハ一〇%ノ「ナフタリン」・「ナフトール」・「サリチール」酸軟膏ヲ塗布スレハ治癒ス患馬ハ隔離シ之ニ川ヒタル馬具及梳拭具ハ消毒ノ後ニアラサレハ健馬ニ用フヘカラス獸疫調査所ニ於テ製造セル「アクネ」抗毒血清ハ豫防竝ニ治療ノ効アリ其用量ハ豫防ノ目的ニハ幼駒ニ一〇—二〇・〇〇壯馬ニ三〇—五〇・〇〇トシ治療ノ目的ニハ三—四倍ヲ用フヘシ

- | | | | | | |
|-------------------|-------|----------|-------|-----------------|-------|
| 醋酸鉛 | 一五〇・〇 | 硫酸銅 | 六〇・〇 | グリセリン | 五〇・〇 |
| 粗製明礬 | 七五・〇 | 餵水 | 三〇〇・〇 | 右混和外用(痂皮軟化劑トシテ) | |
| 樟腦 | 二〇・〇 | 右爲溶液洗滌用 | | ナフタリン | 一〇〇・〇 |
| 右混和爲散劑一瓶ノ水ニ溶解シテ外用 | | サリチール酸 | 三〇・〇 | ラノリン | 八〇・〇 |
| 硼酸・樟腦 | 各五〇・〇 | 炭酸鉛 | 一〇〇・〇 | 右混和爲軟膏外用 | |
| パラフィン軟膏 | 五〇・〇 | 豚脂 | 一〇〇・〇 | ベタナフトール | 一〇〇・〇 |
| 右爲軟膏深潰瘍ニ用フ | | 右混和爲軟膏外用 | | ラノリン | 五〇・〇 |
| | | 石炭酸 | 三〇・〇 | 右混和爲軟膏外用 | |

傳染性貧血

Anaemia infectiosa equorum. (羅)

療法 看護・攝養ヲ主トス滋養ニ富メル消化シ易キ飼料ヲ與ヘ使役運動ヲ停止シ寒暑・風雨若ハ霜雪ノ暴露ヲ避クヘシ「アトキシール」・「鹽酸」キニーネ「ペルーバルサム」等ノ醫藥ハ殆ント効ナシ心臓藥・補血藥・消化藥・臟器藥等ハ對症療法トシテ効アルノミ

豫防法 牧場ニ於テハ病馬ト健馬トノ混牧ヲ禁シ病馬ハ放牧セシムヘカラス牧場ニ於ケル病馬

ノ發見ニハ日々ノ體溫檢測ヲ最良ノ法トス疑アルモノハ直ニ隔離シ厩舎ニ收容スヘシ新ニ購入セル馬匹ハ其來歴ヲ尋ネ若シ流行地ヨリ輸入シタルモノナレハ外觀健全ナルモ他ノ健馬ト混牧スヘカラス又多數ノ病馬ヲ收容セル厩舎ハ時々清潔消毒法ヲ行フノ要アリ斯ノ如キ厩舎ニハ健馬ヲ收容スヘカラス病毒濃厚ナルトキハ經口感染ノ虞アレハナリ

- | | | | | | |
|------------------|-------|-------------------|--------|---------------------|--------|
| レチチン | 〇・五 | 人工カルルス泉鹽 | 各一〇〇・〇 | クロールナトリウム | 各一〇〇・〇 |
| 滅菌食鹽水(〇・六%) | 一〇〇・〇 | アニス實末 | 二〇〇・〇 | ゲンチアナ根末 | 五〇・〇 |
| 右混和爲乳劑皮下注射但數日間連用 | | 右混和爲散劑一食匙量宛每飼料ニ混與 | | 右混和爲散劑毎日一食匙量宛每飼料ニ混與 | |
| 鐵粉 | 二〇・〇 | 硫酸鐵 | 二五・〇 | 亞砒酸カリウム液 | 一〇〇・〇 |
| クロールナトリウム | 二五〇・〇 | クロールナトリウム | 五〇〇・〇 | 右毎日一食匙量宛與フ | |
| カールム實末 | 五〇・〇 | アエース油 | 五〇・〇 | 硫黃華 | 五〇・〇 |
| 右混和一食匙量宛每飼料ニ混與 | | 右混和一食匙量宛每飼料ニ混與 | | 重炭酸カリウム | 二五〇・〇 |
| 硫酸鐵 | 一〇〇・〇 | 亞砒酸 | 五〇・〇 | クロールナトリウム | 五〇〇・〇 |
| クロールナトリウム | | 重炭酸ナトリウム | | 右混和一食匙量宛每飼料ニ混與 | |

「アカルス」癬

Acariasis. (羅)

毛囊虫疹參照

「アカルス」癬

四二五

蛇 悪性加答兒熱

アブ

Tabanus. (羅)

四二六

療法 動物ノ體表ニ「クレオリン」溶液・魚油・「タール」油・又ハ硫黄・「タール」・亞麻仁ノ合劑ヲ塗擦シテ成蟲ノ襲來ヲ防キ又動物體ヲ梳拭シテ附着セル卵及仔蟲ヲ除去ス而シテ秋冬ノ候牧場ニ火入ヲ行ヒ地上ニ存スル卵子ヲ焼却スヘシ

悪性加答兒熱

(牛)

壞疽性鼻炎 頭病

Febris catarrhalis bovum maligna.

Coryza gangraenosa bovum. (羅)

療法 豫防法トシテハ牛舎ヲ十分ニ消毒シ下水ヲ疏通シ常存地方ニ於テハ不透質ノ牀ヲ設ケ鼻洩ハ頻々拭淨消毒シ且病牛ヲ隔離スヘシ本病ニ對シテハ未タ特效藥ナシ石炭酸又ハ「クレオリン」五〇乃至一〇〇ノ内服・吸入及其軟膏ノ外用ヲ賞用スル者アリ或ハ「クレオリン」二%溶液ヲ以テ鼻腔ヲ洗滌シ頭部ヲ冷卷ス(氷囊・冷水彈瀉・冷濕布)或ハ「コロイド」銀(一・二〇〇〇)ノ靜脈内注射ヲ賞用ス其他稀鹽酸(一五〇水五〇〇〇)・解熱劑・アルカリ鹽類祛痰劑・緩和劑・強心劑等ヲ以テ對症療法ヲ施スニ過キス近時頭部冷卷法・「クレオリン」吸入法・生理的食鹽水(〇・九%液一五〇〇〇)ノ皮下注射ニ依リ奏効シタリト報スル者アリ

コラルゴール

一〇〇

バチロール

一五〇

服

餉水

一二〇〇

酒精

一〇〇〇

ヨード

一〇〇

右爲溶液靜脈内注射料(一回分)

右混和一邊ノ大麥煎汁ニ混ジ頓

ヨードカリウム

五〇〇

餉水

一〇〇〇

キナ皮煎

五〇〇

餉水

三〇〇

右爲溶液ルゴール氏液トシ其一

右混和一回ニ與フ

右爲溶液皮下注射料二回分トス

〇〇乃至二〇〇宛氣管内注入

キナ皮煎(一〇〇〇)一五〇〇〇

(心臟衰弱ノ場合)

亞麻仁餅煎

一〇〇〇〇

次亞硫酸ナトリウム 二五〇〇〇

純石炭酸

各五〇〇

鹽酸キニーネ

各三〇〇

右混和シ二乃至三回ニ分與ス但

酒精

各五〇〇

稀鹽酸

各三〇〇

病ノ初期ニ用フ

常水

五〇〇〇

右混和朝夕二回ニ與フ

サリチール酸ナトリウムカフェイ

常水

右混和爲溶液四時間宛ヲ經テ三

鹽酸

三〇〇

ン

一五〇

回ニ分與

悪性貧血

Anaemia perniciosa progressiva. (羅)

療法 滋養食ヲ給シ既舎ノ換氣ヲ好クシ適度ノ運動ヲ課スル等攝生療法ヲ行ヒ藥物トシテハ鐵劑及砒素劑ヲ用フ、即チ鐵粉二一五〇ヲ食鹽・芳香藥ニ伍用シ或ハ硫酸鐵二一五〇ヲ炭酸加里及苦味芳香劑ニ混和ス「ホーレル」水・「アトキシール」亦効アリ解熱劑トシテハ「アンチピリン」・「アンチヘブリン」・「キニーネ」等ヲ試ムヘシ

粗製硫酸鐵

一〇〇〇〇

杜松子末

二五〇〇

(貧血參照)

硫酸ナトリウム

五〇〇〇〇

右爲散劑羊ノ自由紙劑

悪性永腫

Oedema malignum. (羅)

療法 浮腫部ヲ切開シテ空氣ニ觸レシメ次テ皮下織ニ貯溜セル漿液ヲ排除シ創ヲ消毒シ且浮腫ノ周圍ニ消毒藥ノ皮下注射ヲ行フ

悪性貧血 悪性水腫

四二七

豫防法 皮膚粘膜ノ創傷及泥土ノ汚染ヲ避クルニアリ、既ニ染毒セハ充分ニ消毒法ヲ行フ殊ニ難産後テハ腫及子宮ヲ「イルリガートル」ニテ完全ニ消毒洗滌スヘシ、本病ノ豫防ニ對シテ免疫血清注射ヲ賞用スル者アリ

アンギナ Angina. (羅)

咽頭炎・喉頭炎參照

鞍傷 Saddle galls. (英)

療法 (一)皮膚腫起ヲ發セハ初メ溢血ヲ止メ次ニ之カ吸收ヲ促スニアリ、溢血ハ冷湯ニ依テ血管ノ收縮ヲ起シ以テ之ヲ止メ吸收ハ濕溫ヲ用ヒテ促ス發病後十二乃至二十四時間ハ冷湯シ爾後ハ濕溫及按摩ヲ施ス冷湯ニ加フルニ輕壓及按摩ヲ以テスレハ更ニ効アリ、冷湯ハ氷片ヲ布ニ包ミ或ハ氷囊・鉛糖水・ブロー氏液等ヲ用フ舊法ノ糾草土及礫囊冷湯ハ用ヒス是レ草土ハ化膿及強直症ヲ來シ礫囊ハ壞疽ヲ起シ易ケレハナリ右ノ如クセハ大抵十二時乃至二十四時間ニシテ消散スト雖若シ未タ消散セサレハ濕溫ヲブリースニツツ氏卷法ノ形ニ於テ用ヒ按摩ヲ兼ネ施ス「アルニカ」丁幾ノ塗布効アリト雖特効ヲ見ス皮膚既ニ壞疽ヲ發スレハブリースニツツ卷法或ハ亞麻仁膏ヲ施シテ分界ヲ促ス死片弛解セハ剪除若ハ截去シ創傷療法ノ原則ニ從ヒ肉芽ノ發生ヲ促シ肉芽面ニ痂皮ヲ結ヘハ治療ヲ止ム既ニ癰痕ヲ結ヒ周圍ノ腫起消退スレハ再ヒ騎乘ニ供シ得ヘシト雖皮膚裸出シ薄弱ナルヲ以テ蠟ヲ塗布シタル滑軟布ヲ以テ鞍褥ヲ裏シ以テ摩擦ヲ防クヘシ (二)皮下滲出及溢血ニ原因スル髻甲及背巾ノ腫起ハ稍ヤ療法ヲ異ニス初メ二十四時間ハ冷湯スヘシト雖按摩及壓迫ハ施スヘカラス摩擦ハ

却テ溢血ヲ増シ壓迫ハ疼痛ヲ劇クシテ之ニ耐ヘス二十四時間後ハ〇・三%ノ昇汞水ノ濕溫ヲ施シ夜間ハ灰白汞軟膏ヲ塗布ス疼痛少ク溢血腫大ナルトキハ按摩ヲ用フレハ効アリ、波動顯著ナレハブラバ氏注射器ニテ溢液ヲ吸除シ被覆物ヲ以テ適當ノ壓迫ヲ加ヘテ再溜ヲ防クヘシ切開ハ化膿ヲ誘ヒ種々ノ危險症ヲ誘發スルカ故ニ切開ハ化膿スルニアラサレハ行ハス疑ハシキ場合ニアリテハ疼痛減退スレハ芫菁軟膏・昇汞軟膏・赤復沃度汞軟膏ノ如キ刺戟藥ヲ塗布シ消散又ハ膿潰ヲ促ス鞍壓其他ノ原因ニ由リ髻甲ノ一側若ハ兩側ニ掌大扁平ニシテ少シク炎症ヲ帶ヒ波動アル腫起ヲ發スルコトアリ是レ即チ第五乃至第七背椎棘突起ノ頂ニアル粘液囊ノ發炎膨滿ニ由ルモノニシテ漿液性滲出若ハ血液性滲出液ヲ容ル其腫起ハ徐々トシテ發シ漸次増大シ大抵兩側ニアリ以テ淋巴液及血液ノ皮下溢血ト區別スヘシ皮下溢血ハ頓發シテ爾後多クハ増大セス大抵一側ニアリ其粘液囊腫ヲ誤認シテ膿瘍トナシ或ハ溢リニ切開スレハ「フレグモーネ」・瘻管・壞疽等ノ危險症ヲ來ス膿瘍ト鑑別ヲ要ス膿瘍ハ周圍ニ成形性滲出(淋巴液・纖維素・肉芽)ヲ生スルヲ以テ邊緣ハ硬固ナリ之ニ反シ粘液囊腫ハ其周緣大抵柔軟ナリ確診セントセハ吸取管或ハ探子ヲ用ヒテ探刺シ内容液ヲ漏出セシムヘシ内容液ヲ排スレハ消毒被覆物ヲ抵シ或ハ昇汞軟膏ヲ塗布ス、背巾及髻甲ノ鞍傷化膿スレハ癒ヘ難シ要旨ハ排膿ヲ能クシ惡性肉芽及壞死組織ヲ盡ク除去スルニアリ瘻管瘻竇アレハ全ク之レヲ切開シ或ハ排膿管或ハ串線ヲ通シ以テ膿汁ノ貯溜沈下ヲ防キ肉芽發生ハ消化軟膏・防腐液布ヲ用ヒテ促進スヘシ背椎棘突起壞死スレハ極メテ癒ヘ難シ死片ノ剝離ヲ自然ニ任セハ長時日ヲ要シ或ハ年ヲ超ヘテ癒ヘス其間膿汁益々沈トシ突起ノ死片ヲ剔除スレハ從ツテ又壞死シ殆ント停止スル所ナシ剔除後連續防腐液灌漑ヲ施セハ治癒スルコトアリト雖周圍ノ「フレグモーネ」及化膿尙持續スルトキハ剔除灌漑ノ効

一時ニ止マリ再ヒ棘突起ノ壞死ヲ見ル膿汁肩胛部ノ内方ニ沈下スレハ治癒最モ難シ初メ肩胛及髻甲ノ腱膜化膿壞死シ次ニ肩胛骨及軟骨ノ内面ニ波及シ殆ト直接療法ヲ術スノ術ナシ肩胛部ノ後ニ反對孔ヲ穿テ排膿管ヲ通スルノ法アリト雖多ハ奏効セス(三)皮膚ニ擦傷アレハ防腐液ヲ以テ洗滌シ「ヨードフォルムタンニン」「ヨードフォルム」硼酸・華攝林・脂肪等ヲ塗リ冷湯若ハブリースニツツ氏卷法ヲ施ス治後滑軟布ヲ鞍褥ニ裏シ再發ヲ豫防スヘシ

豫防法 騎乗後直ニ脫鞍シテ壓迫ヲ去レハ近傍ヨリ血液灌漑シ來リテ受鞍部ノ空虚血管迅カニ充血緊張シ破裂シテ溢血ヲ來スカ故ニ騎乗後半乃至一時間ハ鞍ヲ止メ置ケハ血管ノ空虚漸々平均シ以テ溢血踵起ヲ免ルルコトヲ得ヘシ

- | | | | | | |
|---------------------|-------|-------|------|----------------------------|-------|
| 硝砂 | 三〇〇〇 | 粗製明礬 | 五〇〇 | 錫水 | 五〇〇 |
| 硝酸カリウム | 九〇〇〇 | 次醋酸鉛液 | 二五〇〇 | 右爲溶液收斂防腐性器包料(細帶料又ハ浴料)トシテ與フ | |
| 硝水 | 一八〇〇〇 | 錫水 | 五〇〇〇 | ピオクタニン | 一〇〇 |
| 右混和シニウムツケル氏冷湯劑トシテ與フ | 三六〇〇〇 | 粗製明礬 | 五〇〇 | 錫水 | 一〇〇〇 |
| 硝砂 | 一〇〇〇 | 醋酸鉛液 | 一〇〇〇 | 右糊帶料トシテ與フ(化膿傷ノ場合ニ用フ) | |
| 水 | 一〇〇〇 | 錫水 | 五〇〇〇 | テレピンチーナ | 各三〇〇〇 |
| 醋 | 二〇〇〇 | 明礬 | 一〇〇 | 黑瀝青 | |
| 右爲溶液冷器包劑トス | | 醋酸鉛 | 二〇〇 | 右加燒混和シルンド氏膏トシテ | |

- | | | | | | |
|--------|------|--------|------|---------------------|--|
| 塗布ス | | 右爲溶液外用 | | 右混和腐蝕藥トシテ(潰瘍ノ場合ニ)與フ | |
| タロール亞鉛 | 八〇〇 | タロール亞鉛 | 一〇〇〇 | | |
| 錫水 | 一〇〇〇 | 酒精 | 二五〇〇 | | |

鞍癬 Sattelbrände. (獨)

濕疹參照

挫創 Vulnura contusa. (雜)

療法 挫創ハ無敗性ニ保ツテ主要トス特ニ樞要器官ニ接近シタル場合ニ於テ然リトス若シ無敗性ニ保ツ能ハサルトキハ先ツ分裂斷離シタル組織塊ヲ外科剪刀ヲ以テ除去シ適當ニ創部ヲ洗淨シ重傷ニ於テハ暫時連續灌漑ヲ行フヘシ出血止リタル後ハ三十八度ノ溫湯ヲ用ヒ軟部ノ壞死ヲ防クヘシ創傷清淨ニハ防腐藥或ハ單純ナル沸騰水ヲ用ヒ特別ノ要示ナケレハ(例之止血法ノ如キ)縫合及糊帶等ヲ用ヒス開放創傷療法ニ依ルヘシ之ニ依リ創傷ハ乾燥痂皮下ニ於テ癒合ス唯哆開甚タシクシテ皮膚ヲ儉惜スル創傷ニ在リテハ一二ノ縫合ヲ施シテ皮膚ノ收縮ヲ防クヘシ大創ニ在リテハ決シテ細織ナル絲ヲ以テ縫合スヘカラス是レ創縁ノ斷裂シ易キ虞アレハナリ結束ヲ二乃至四日間留メ置クトキハ創縁ニ成形性浸潤ヲ生シ既ニ著シク創縁ノ收緊ヲ見ス

挫腫 蹄血斑 Corns. (英)

療法 原因ヲ除去スルヲ主眼トス即チ過長ノ蹄尖或ハ過高若ハ不等ノ蹄踵ヲ削リテ蹄形ヲ整ヘ蹄

鞍癬 挫創 挫腫

機ニ害ナキ蹄鐵ヲ裝シ病患ノ蹄踵ニアルモノニアリテハ下釘前一乃至二密迷突蹄踵ノ後部ヲ鑿削シ蹄鐵上ニ間隙ヲ存スヘシ但此間隙ハ蹄ニ疼痛ノ存セサルモノニ限ル、疼痛劇シク出血多キモノニアリテハ蹄鐵ヲ脱シテ原因ヲ除キ消炎ノ爲ニ冷卷法ヲ持續シ以テ患部ノ化膿ヲ豫防スヘシ頑性炎症ノ存遺スルモノハ化膿ノ兆タリ化膿點ハ通常發見スルニ難カラス排膿孔ハ排泄ニ容易ナル位置ヲ撰テ穿ツヘク其大サハ膿ヲ排泄スルニ足ルヲ度トシ蹄冠部既ニ破壊セルモノニアリテハ更ニ排膿孔ヲ患部ノ蹄底ニ設クルヲ要ス膿瘍及排泄孔ハ十倍昇汞水或ハ三%石炭酸水ニテ洗滌シ繃帶ス、治療其法ニ適ヒ疼痛去リテ馬ヲ使役シ得ルニ至ラハ患部ノ負重ヲ免スル爲メ連尾蹄鐵ヲ用フヘク排膿孔存スルモノニハ麻綴子ニ没藥又ハ蘆薈丁幾ヲ浸シテ填實スヘシ經久性挫踵ニアリテハ連尾蹄鐵ニ革底ヲ兼用シ或ハ患部ニ當ルヘキ一部ヲ切斷セル連尾蹄鐵ヲモ用フルコトアリ又蹄軟骨ノ化骨アリテ連尾蹄鐵ヲ用ヒ得サル場合ニアリテハ革底及填充物ヲ有スル尋常蹄鐵ヲ裝スヘシ

挫傷

Contusio. (雜)

療法

挫傷ノ療法ニ三要旨アリ(第一)出血ヲ抑制ス(第二)血液及挫滅組織ノ吸收ヲ促ス(第三)再生機轉ヲ促進シ以テ組織ノ缺損ヲ補フ
第一要旨ニハ寒冷法及壓定法ヲ新發挫傷ニノミ應用シ二十四時間ヲ過クレハ之ヲ用ヒス蓋シ挫傷ハ血行障碍及活力損傷ヲ來スカ故ニ強度ノ寒冷ヲ連用スレハ組織ノ壞死ヲ起シ易キカ故ニ氷囊冷卷法ハ永ク使用スヘカラス、又皮膚挫傷ハ縱令僅微ニシテ表皮剝離又ハ爛斑ニ過キサルモ病毒侵入シ易キヲ以テ寒冷法ノ液體ニハ昇汞・石炭酸・「クレオリン」・明礬・鉛糖ノ如キ制腐藥ヲ加ヘ化膿傳染ヲ防止スヘシ之ト同時ニ壓迫ヲ與ヘ四肢ノ如キハ繃帶ヲ施シ以テ適當ノ壓迫ヲ加フレハ能ク出血ヲ抑制シ

腫脹ヲ減シ得ヘシ

第二要旨即血液及挫滅組織ノ吸收ニ關シテハ自然療法ニ任セテ可ナリ然レトモ濕溫及壓迫ヲ應用スレハ大ニ吸收ヲ促スヤ疑ヲ容レスプリースニツツ氏卷法最モ之ニ適ス其他壓定法及按摩法ヲ施ス按摩法ハ劇痛消退スルノ後ニ於テ用フ按摩法ハ溢出セル血液成分ヲ循環血中ニ導入スルニ最モ適ス一日少クトモ一・二回行ヒ其後壓定繃帶ヲ用ヒテ平均一樣ノ壓迫ヲ加フ但表皮剝離・爛斑其他ノ皮膚傷アレハ按摩法ハ禁忌トス、又大血腫ニハ初朝ニハ注意シテ用ヒサレハ却テ出血ヲ増スノ虞アリ、按摩法ハ指端ニテ輕ク摩擦スルカ(摩擦法)或ハ強壓ヲ加ヘテ摩擦スルカ(環摩法)或ハ捏粉狀ノ患部ヲ捻揉スルカ(捻壓法)或ハ手若ハ他ノ器械ヲ以テ敲打ス(敲打法)摩擦ハ中心即チ血流及淋巴流ノ方向ニ沿フテ行フ、通常吸收ヲ促進スル爲ニハ誘導按摩法ヲ用フ、此法ハ患部ヨリ心臟ニ近ツキタル健部ヲ中心ニ向テ摩擦スルノ法ニシテ之ニ依リ靜脈及淋巴管ハ空虚トナリ患部ニアル病的物ノ吸收ニ便トナル按摩者ノ手間ニハ特ニ塗油スヘシ

摩擦ハ被毛アル動物ノ皮上ニ於テハ人ノ如ク有効ナラス是レ強力ノ摩擦ニ依リ毛子容易ニ斷切磨滅スレハナリ、此法ハ動物ニ疼痛ヲ與フルニ由リ須カラク革紙ヲ被毛上ニ抵シテ摩擦スヘシ敲打ハ手拳或ハ木槌ヲ用フ、按摩法ハ毎回十乃至二十分間行フ是レ獨リ病狀ノミナラス組織ノ性狀ニ關係シテ長短アリ按摩ニ兼テ壓迫繃帶及ブリースニツツ氏卷法ヲ用ヒ末期ニハ刺戟擦劑ヲ用フ刺戟擦劑ヲ塗用スレハ皮膚發炎緊張シ患部ニ平等ノ壓迫ヲ與ヘ吸收ヲ促進スルノミナラス適當ナル應用法ニ依レハ按摩ト同効ヲ奏ス又解凝吸收法トシテ屢々水銀軟膏或ハ「ヨード」劑ヲ塗用ス
大血腫ニアリテハ内容永久吸收セラレスシテ時ニ腐敗シテ危險ヲ來スコトアリ 血腫無敗性ノ經過ヲ

取リ又人工ニテ内容ヲ排除スルコトナクシテ消散スレハ善良ノ轉歸ニシテ其消散或ハ吸收ハ前記セシ如ク按摩・均一ノ壓定法及濕温ノ應用ニ依リテ促進セラレ此法ニシテ用フル能ハサルトキハ大動物特ニ馬ニ在リテハ刺戟藥ヲ用フ刺戟劑ハ恰モ壓定繃帶ノ如キ効ヲナシ吸收ヲ促ス血腫ノ切開ハ三乃至四日ヲ經過セサル前ニ行フヘカラス是レ著シキ後出血ヲ來スノ虞アレハナリ特ニ牛ニ於テハ注意ヲ要ス是レ牛ノ血液ハ凝固迅速ナリト雖生シタル血塊ハ血腫ノ壁ヨリ纖維層ト共ニ剝離シ爾後ノ血液凝固及規則的ノ血塞形成ヲ緩慢ニス故ニ大血腫ニ切開ニ先手波動ノ有無ヲ檢シ増大ノ傾キアルヤ否ヤヲ檢スルヲ要ス波動止ミ増大ノ傾キナキヲ待テ切開スレハ危險ナシ、血腫深ク且廣キトキハ多量ノ血液塊ヲ除去シ其後創腔ハ制腐液ヲ以テ洗滌ス斯ハ内容變敗ヲ來シタル場合ニ必要ニシテ他ノ場合ニハ心要ナラス制腐適當ナレハ化膿セスシテ癒ユ、血腫ノ周圍發炎シ或ハ全身障得ノ症候(熱)顯著トナレハ化膿或ハ腐敗ヲ來シタルモノナレハ速ニ切開シテ完全ニ制腐療法ヲ行フヘシ

皮下ノ溢血長ク吸收セラレサルトキハ犬ニ於テハ強キ破壊法ヲ用フ即チ一手若ハ兩手ヲ以テ血腫ヲ握リ強度ノ壓迫ヲ加ヘテ其腫囊ヲ破壊ヒシムヘシ然ルトキハ其内容ハ隣圍ノ組織空隙ニ入り終ニ吸收セラレメラ一氏ハ此法ニ依リ犬ノ皮下織及馬ノ管部ニ於ケル血腫ヲ瞬時ニシテ吸收セシメタリトシテハ再ヒ腫脹ヲ發現スルコトアリ故ニ此法ハ出血セル血管ノ血塞生成完全セサル以前或ハ敗性ニ陥リタリ血腫ニハ應用スヘカラス

壓迫壞疽又ハ組織ノ碎碎ヲ來シタル挫傷ニ在リテハ壞死組織ノ腐敗及全身傳染病等ノ虞アルヲ以テ壞疽療法ノ原則ニ隨ヒ處置スヘシ濕壞疽ニハ制腐液ノ持續的灌漑・乾壞疽ニハ濕温卷法ヲ施シ以テ死片ノ分離ヲ促スヘシ

淋巴溢血ハ速ニ切開スヘカラス五乃至六日ヲ經テ切開スヘシ寒冷法ノ應用ニ依リテ淋巴漏出ヲ制止スルハ無効ナルノミナラス肥厚ノ遺存ヲ助ク穿刺ハ嚴密ナル防腐ノ下ニ行フ長キ切開ヲ施シ濃厚防腐液(三―五%石炭酸・一〇%クロール)ニテ洗滌シ藥液ヲ排除シタル後縫合シ壓迫繃帶ヲ施ス、又皮膚ハ其在下組織ト共ニ縫合スル法ヲ用フ然ラザレハ獨リ皮膚ハ癒合スルモ再ヒ内腔ニ淋巴液ヲ充滿スルコトアレハナリ溢血及淋巴漏ヲ切開スルニ特別ノ注意ヲ要スルハ臍膜上及其近傍ニアルモノナリ此際消毒充分ナラサレハ化膿及臍膜或ハ靱帶(項靱帶)ノ壞疽ヲ發シ重症不治ノ「フレグモ」ネヲ發スメラ一氏ハ斯ル場合ニハ切開セスシテ吸收ヲ促ス爲メ刺戟軟膏ヲ塗用セリ或ハ消毒セル有溝針ニテ内容ヲ排除ス又「ヨード」「丁幾・ルーゴール」液ノ注入ヲ試用スヘシ

挫 跖 Contusion of sole. (英)

療法 休憩乾燥柔軟ノ褥ヲ給シ冷湯ヲ行フ

瘰癧及癰腫 Acne et furunculosis. (羅)

療法 原因ヲ除去シ馬ハ休養セシム局所療法トシテ初期ハ消毒藥ヲ以テ洗滌ス「タール」軟膏ヲ背示トス、「イヒチオール」水溶液又ハ「ホーレル」水(馬日々五―一〇〇・犬一〇―二〇滴)ヲ内服セシム或ハ「サルヴァルサン」ノ靜脈内注射ヲ試ム(四日毎ニ)膿瘍ハ壓搾若ハ切開シ「ヨード」「丁幾・ピオクタンニン」(五%)・昇汞水(千倍)ヲ施シ疼痛アレハ頻々ブロー氏液ヲ施スヘシ

鞍下瘰癧ハ「クレオリン」又ハブロー氏液ノ卷法ヲ施シ次テ「ワゼリン」・鉛糖軟膏又ハ硼酸軟膏ヲ施ス或ハ昇汞二分・クレオソート五分・グリセリン」及「アルコホール」各百分ヲ以テ洗ヒ「バチロー

挫跖 瘰癧及癰腫

擦傷

ル「カリ」石鹼及「ペルーバルサム」各二分・アルコホール「百分ノ合劑ヲ施ス乘馬ハ成ルヘク騎乗ヲ見合スヘシ皮膚薄弱ノ乘馬ニハ一日三回「ヨソープトル」溶液 Josophat (四―五%) 又ハ硼酸水 (5%) ナ施ス場合ニ依リテハ緩和包攝ノ散藥ヲ撒布ス豫防法トシテハ外部ノ刺戟ヲ避ケ鼻梁ノ癩腫ニ於テハ口籠ヲ全廢シ或ハ之ニ軟褥ニ装着シ以テ再發ヲ防クヘシ

四三六

- イヒチオール 四・〇
- 餉水 八〇・〇
- 右一日三回一匙量宛與フ(犬)
- ナフトール 一〇・〇
- 沈降硫黃 五〇・〇
- ワゼリン 二〇・〇
- カリ石鹼 二〇・〇
- 右爲軟膏小刀背ノ厚サニ塗リ二十分ヲ經テ濕リタル布片ヲ以テ除去ス
- ナフトール 五・〇
- カリ石鹼 五〇・〇
- 右混和爲軟膏塗擦料トス
- サリチール酸 五・〇
- ラノリン 二〇・〇
- オレーフ油(或ハ「グリセリン」) 一〇・〇
- 右混和爲軟膏(初期ノ瘡瘡)
- レゾルチン 各四・〇
- 精製硫黃 各四・〇
- 濃粉 各四・〇
- 酸化亞鉛 各四・〇
- ワゼリン 二〇・〇
- 右混和「バスタ」トナス(エツスネル氏「バスタ」)
- ペルーバルサム 四・〇
- ワゼリン 各二〇・〇
- ラノリン 各二〇・〇
- 右混和爲軟膏(初期ノ瘡瘡)
- クレオリン 一・〇
- 硼酸 四〇・〇
- 右混和外用但膿疱痂皮ヲ除去シタル後ニ用フ
- 抱水クロラール 一・〇
- ヨードフォルム 一〇・〇
- 右混和撒布劑トス(但硝子壘ニ容レ腐蝕藥ヲ以テ病變部ヲ破壞セル後ニ用フ)

擦傷 Excoriation. (羅)

療法 表皮ヲ剝脫シタルモノハ硼酸軟膏塗布ニテ足ル稍々深部ニ達セルモノモ消毒ヲナシ防腐藥

ヲ撒布ス

齧癖 嘔氣癖 嚙癖

Crib-biting. Winel-sucking. (英)

療法 初期ニ於テハ治療ノ望ミアルモ久シキヲ經タルモノハ治セス從來試ミラレタル方法ハ(一)常ニ驅使シテ惡癖ニ耽ル暇ナカラシメ(二)支點トナルヘキ物品ヲ撤去シ又飼槽ト反對方向ニ繫留ス(三)動搖的飼槽ヲ用ヒ或ハ其内面ニ鐵板ヲ張り又ハ其緣ト底トニ鋸ヲ附ス(四)口網ヲ用ヒ或ハ狹キ革帶ヲ以テ喉頭及頸ヲ緊壓ス又中空ニシテ孔ヲ穿テル金屬筒ヲ口ニ箝ス(五)肩胛舌骨筋又ハ胸骨頸骨筋ヲ截斷ス豫防法トシテ此ノ癖アル馬ヲ隔離スヘシ

窄蹄 Contracted hoof. (英)

蹄踵狹窄 Hoof contracted at heels. (英)

療法 療法ノ目的ハ一ニ狹縮セル三角形ノ蹄又截痕ヲ開キ蹄又ノ發育ヲ促進シテ蹄ノ形狀ヲ回復スルニアリ其法ハ蹄ノ硬變セルモノニアリテハ屢々之ヲ溫湯ニ浸醃スルカ或ハ之ニ琶布ヲ用ヒテ蹄ヲ軟化スヘク蹄踵過高ノモノニアリテハ該部ヲ短削シテ蹄又ノ機能ヲ促進スヘシ其他窄蹄ノ療法トシテ枚舉スヘキモノ頗ル多シ今之ヲ分類スレハ(甲)反動ノ缺如ヲ回復スル法(一)跣行(二)半月狀蹄鐵(三)薄尾蹄鐵(四)革底ヲ有セル尋常蹄鐵(五)非底有無兩様ノ連尾蹄鐵(六)填底法(乙)蹄踵ヲ開披スヘキ器械的療法(七)穿蹄鐵(獨稱バントツフェル)(八)蹄支鐵唇ヲ有スル蹄鐵(甲)反動ノ回復

齧癖 窄蹄

四三七

法 (一) 既行此法ハ課役輕クシテ土地柔軟ナルカ或ハ久シク患馬ノ休養ヲ得ヘキ時ニ行フヘキモノニシテ四乃至六月間ノ持長ヲ要ス其期ノ三ヶ月ニ滿サルハ無効ナルヘク蹄踵薄弱ニシテ甚シク内方ニ彎曲セルモノ亦例外タリ蹄鐵ヲ剝離セル後無要ノ角質ヲ除キ緣角ヲ鑿削シ彎曲セル蹄支角ノ延長部ヲ截除シ蹄又尖及其體ノ蹄負緣ヨリ高ク突出セルモノハ刮リテ同列ナラシムヘシ但蹄又枝ノ少シク高キハ却テ利アリトス準備成レハ患馬ヲ牧野ニ放遊セシム牧野無キ時ハ圍境ノ放牧地或ハ寬厩ニ之ヲ放ツヘシ然レトモ軟地ニ於ケル輕役ノ乘馭及輓曳ハ特ニ禁止スルノ要ナシ又半狹窄ノ甚シキ蹄ニアリテハ既行多クハ其効ヲ見ス宜ク適理ノ蹄鐵ヲ裝スヘシ (二) 半月狀蹄鐵 其作用ハ既行ニ異ラス患馬ニ休業ヲ命スルノ煩ナク蹄ノ磨滅ヲ防クノ利アリ但此蹄鐵ハ高蹄及正蹄ニ適應スヘク低蹄ニハ不適當トナス以上ノ二法ハ蹄ノ生長ヲ促シ其彈力ヲ回復シ血行ヲ亢盛スルヲ以テ自ラ蹄ノ後半部ヲ擴張スルノ効アリ (三) 薄尾蹄鐵 此鐵モ亦正及高蹄ニ用フヘキモノニシテ低蹄ニ適セス其作用ノ主要ナルモノハ蹄又チシテ地ニ接觸セシムルニアリ故ニ蹄又ノ太々萎縮シタルモノニ其効多シ (四) 革底ヲ有スルカ或ハ之ヲ有セサル無鐵蹄ノ尋常蹄鐵 此蹄鐵ハ凡テ狹窄重カラス蹄又ノ發育善良ニシテ能ク地ニ接觸スルモノニ適應ス殊ニ其應驗ハ前回ノ裝蹄ニ於テ甚シキ過失アルモノニ於テ著シク之ニ革底ヲ加フレハ其効更ニ偉ナルヘシ (五) 連尾蹄鐵 連尾蹄鐵ハ蹄又ノ腐爛セサル蹄ニ撰用スヘキモノニシテ殊ニ蹄負緣ノ缺損挫踵若ハ裂蹄ヲ存スルトキニアリテハ其効遙ニ尋常蹄鐵ニ優レリ此際ニ於ケル此蹄鐵ノ裝着法ハ蹄尖及蹄側部ノミヲ以テ蹄鐵ニ接觸セシメ蹄踵ニハ少シク間隙ヲ存スヘシ又蹄又ノ中及側溝ニ假蹄膠ヲ填塞スレハ其効一層顯著トナル穿蹄若シ過小ニシテ連尾部接觸セサレハ其全部ニ假蹄膠革片或ハ彈力護膜ヲ填塞シテ間接ニ壓力ヲ傳フルノ法ヲ講スヘシ

(六) 填底法 其効驗ハ常ニ緩徐ナリ之ニ撰用スヘキ填底法ハ藥底(絲瓜底)及栓樹皮底ニシテ假蹄膠モ亦克ク蹄下面ノ凹凸ニ密合スヘキ形成ヲ作ルニ宜シク從テ壓力平等ニ行ハルルヲ以テ良好ノ成績アリ茲ニ注意スヘキハ凡テ填底ヲ行フニハ十分ニ蹄又枝ヲ被覆スヘキコト及動モスレハ併發ノ虞アル蹄又腐爛ヲ防クカ爲ニ特ニ護蹄ノ懇篤ヲ期スルノコト是レナリ半窄蹄ニアリテハ革底連尾蹄鐵ヲ用ヒ病側蹄又溝ニハ固ク繖絲ヲ填充スヘシ但填充物ノ壓力ハ必要ニ應シテ適宜増減スルヲ要ス (七) 器械的作用ニ據ル療法 (七) D. シ. ブル. 氏窄蹄蹄鐵 此蹄鐵ハ其接觸面總テ外方ニ傾斜シ體重ノ壓力ニヨリテ負緣ヲ諸方向ニ開披スルニ供ス然レトモ此法ニヨルトキハ蹄壁ノ開披急劇ニ過キ白線ヲ分裂スルノ虞アルヲ以テ稱用スルモノ少シ此鐵ノ變種トシテ鐵尾接觸面ノ一部分ノ外方ニ傾斜スルモノアリ兩踵狹窄ニアリテハ兩鐵尾・蹄踵狹窄ニアリテハ該當ノ一鐵尾ヲ斜向ス此蹄鐵ハ稍前者ニ優ルモノアルモ斜面ノ度及長短ハ常ニ深キ考慮ヲ要スヘク跛行ヲ呈スルモノニアリテハ其度ノ強キヲ忌ミ外緣ノ厚徑ハ内緣ヨリ一乃至二密迷突低キヲ以テ足ルヘク斜面ノ長サハ蹄踵壁ノ地面ト鈍角(正角以上)ヲナスニ至ルノ部分ニ達スルヲ以テ限リトスヘシ要アレハ連尾蹄鐵ニモ亦上記ノ斜面ヲ設クルコトヲ得ヘシ (八) 蹄支鐵唇ヲ有スル蹄鐵 其一、デフ. エイ. 氏蹄鐵 此蹄鐵ハ兩鐵尾ノ内緣ニ鐵唇ヲ有スル平面ノ蹄鐵ニシテ其鐵唇ハ蹄又側溝ニ入りテ蹄支ノ後内面ニ接觸シ其方向ハ蹄支ニ一致スヘシ又唇端ハ蹄又ノ溝底ニ達スルヲ戒メ鐵尾ノ上面ハ正ニ水平ナルヘシ此蹄鐵ヲ裝着スルノ前鐵質ヲ軟化スルカ爲先ツ灼熱シテ自然ニ放冷シ裝着ノ後ハ螺旋開蹄器ヲ以テ兩鐵尾ヲ開披スルナリ此法ハ蹄ノ擴張ニ有力ナル作用ヲナスヲ以テ急劇ニ行フコトヲ戒メ蹄ノ後部壓迫ノ爲ニ劇痛ヲ存スルカ如キ要急ノ場合ニ非サレハ用フヘカラス又螺旋器使用毎回ノ開披ハ二乃至三密迷突ヲ

以テ限リトスヘク次回ノ開披ハ前回展擴シタル空間ノ角質ノ爲ニ填實スルヲ俟テ行フヘシ而シテ其日數ハ大約十乃至十四日トス 其二、ハルトマン氏開蹄蹄鐵 此蹄鐵ハ鐵枝細クシテ内緣適宜ノ部位ニ裂間ヲ有ス此裂間ハ鐵鋸ヲ以テ設クヘキモノニシテ蹄ノ兩側ヲ開披センコトヲ望ムモノニアリテハ鐵頭部ニ於テスヘク蹄ノ一側ヲ開カントスルモノニアリテハ同側一枝ノ内緣ニ之ヲ設ク 其三、アインジードル氏自開蹄鐵 此蹄鐵ハ蹄支鐵唇ヲ有シ鐵尾ノ上面輕ク外方ニ傾斜ス蹄鐵適合ノ後兩鐵枝ヲ各ニ密突開展シテ之ヲ装着ス此蹄鐵ハ其名ノ如ク馬體ノ體重ニヨリテ自然ニ開蹄スルヲ期スルモノニシテ其奏効ハ緩徐ナルヘキモ確實ニシテ害アルナシ一側ノ狹窄ニアリテハ該當ノ一鐵枝ニ限リ斜面ヲ設ク凡テ蹄支鐵唇ヲ設クヘキ蹄鐵ハ蹄踵甚タ低ク且蹄又側溝ノ淺キモノニハ禁忌タリ

蹄冠狹窄 Coronary contraction. (英)

療法 蹄ノ濕度ノ乾燥之カ原因タルノ虞アラハ豫防法トシテ時々之ニ琶布ヲ施シ後蹄油ヲ塗布シ以テ其乾燥ヲ防クヘシ要アラハ填底法ヲ用ヒテ蹄壁過度ノ負擔ヲ輔減スヘク蹄鐵ニハ接蹄面ニ傾斜ヲ設ケテ蹄壁負緣ノ擴張ニ拮抗スヘク蹄又ハ努テ地ニ接觸セシムルヲ要ス鐵臍ハ禁忌タリ、變形既ニ成レルモノニアリテハ連尾蹄鐵ヲ用フヘク填底法ハ時ニ良効ヲ奏スルコトアリ變形ノ甚タ頑固ナルモノ或ハ其患蹄踵ノ一部ニ局限スルモノニアリテハ局部ニ鑢ヲ加ヘテ蹄壁ヲ薄削シ續テ冷却ヲ施ストキハ直ニ跛行ヲ去ルコトヲ得ヘシ 此蹄ノ治療中屢蹄ヲ軟化シ爾後ノ乾燥ヲ豫防シ患馬ヲ誘フテ常歩ノ運動ヲナサシムヘキハ常ニ服膺スヘキ要件トナス

洞蹄 Planter contraction. (英)

療法 要ハ象緣ノ狹縮ヲ擴張スルニアリ蹄底ノ中央若シ疼痛ヲ存セハ該部ヲ薄削シテ指壓ニ應スルニ至ラシムヘク蹄尖ヲ十分ニ削切シ上彎ノ外ハ全部水平ナル蹄鐵ヲ裝シ常ニ濕潤ヲ存スルニ努ムヘシ又一法トシテ蹄踵狹窄ニ用フヘキ蹄支鐵唇ヲ有スル蹄鐵ヲ装着シ開蹄器ヲ以テ蹄ヲ擴張スルコトアリ釘ヲ下スニハ成ルヘク變形部ヲ避クヘシ療法ノ最モ有効ナルモノハ蹄鐵ヲ脱シテ矯正ノ削蹄ヲ施シ六乃至八週間ノ放牧ヲ行フコト是ナリ但其間二週日毎ニ矯正ノ削蹄ヲ要ス

散瞳症 Mydriasis. (羅)

療法 原因ヲ詳ニシテ原因療法ヲ施シ對症療法トシテ瞳孔縮小藥硫酸「エゼリン」・鹽酸「ピロカルピン」・ムスカリン」等ヲ點眼ス

| | | | |
|----------------|------|------|----------------|
| 硫酸エゼリン | 〇・〇二 | 入 | 右爲溶液毎回一滴宛結膜囊ニ點 |
| 鹽酸ピロカルピン | 三・〇 | 〇・一 | 入 |
| 右爲溶液毎回一滴宛結膜囊ニ點 | | 一〇・〇 | 入 |

產毒敗血(膿毒) Febris puerperalis, Septicaemia s. Pyaemia puerperalis. (羅)

敗血性產毒熱ノ療法 ルーゴル氏溶液ノ如キ防腐藥ヲ產道ニ注入スヘシ又内服トシテハ「ザル曹」・ヨードカリウム」等ヲ用フヘク強心藥トシテハ「チギタリス」・「ストロファンツス」・「丁幾」・「ブラン」酒等モ可ナリ又解熱藥トシテ「アンチフェブリン」・「アンチピリン」等ヲ用フ又腹膜炎ヲ併發シタルトキハ芥子精ヲ塗擦スヘシ豫防法トシテハ(一)本病ヲ發生シタルトキハ患畜ヲ隔離シ器具器械及其室

散瞳症 產毒熱

房ヲ充分消毒スヘシ (二)斃畜及其毒糞排泄物ハ燒棄スルカ又ハ生石灰ヲ撒布シテ地中深く埋没スヘシ (三)患畜ト同畜舎ニアリタル妊畜ハ産後約一週日迄ハ他ノ畜舎ニ移シ置クヘシ (四)前項ノ妊畜ニシテ産道ニ創傷潰瘍等アルヲ發見シタル時ハ良ク洗淨消毒スヘシ (五)娩隨停滯難産等ニ於テハ殊ニ消毒ニ注意シテ處置スヘシ

膿毒性產毒熱ノ療法

本症ハ關節・髓鞘・肺・心及乳房ニ轉移性炎症ヲ發シ其關節ニ轉移シタルトキハ微温湯ニテ關節ヲ良ク洗淨シ五%ノ石炭酸水ヲ用ヒテフリースニツツ氏卷法ヲ試ムヘシ効無キトキハ「ヨード」軟膏「ヨード」一〇〇沃剝一〇〇〇豚脂一〇〇〇〇ノ如キ解凝劑ヲ用フヘシ若シ效ヲ奏セサルトキハ赤色「ヨード」汞軟膏ヲ塗擦シ化膿シタルトキハ截開シテ排膿セシメ防腐藥液ヲ注入シテ創口ノ癒合ヲ試ムヘシ、髓鞘ニ轉移シタルトキモ關節ト同一ノ所置ヲ爲シ肺ニ轉移シタルトキハ強心劑・胸壁擦劑・濕温卷法ヲ試ミ心臟ニ轉移スレハ強心劑ヲ與フルカ如シ

- | | | | | |
|----------------|------|-----------------|--------------|------|
| 巴豆油 | 五〇〇 | 宜ノ亞麻仁煎汁ニ和シ與フ | アルテア根末 | 三五〇 |
| アムモニア水 | 五〇〇 | 硝酸ストリキニ一ネ | 右混和爲丸劑與フ(馬) | |
| 樟腦精 | 一五〇〇 | 餾水 | クレオリン | 一五〇 |
| 石鹼精 | 一五〇〇 | 右爲溶液皮下注射料トス | テレピン油 | 一〇〇〇 |
| 右混和外用塗擦料トス | | 千倍鹽化アドレナリン液 | アラビヤゴム | |
| 白黎蘆根末 | 二〇〇〇 | 右皮下注射料トス「ユーベル氏」 | アルテア根末 | 各適量 |
| 繭草根末 | 七五〇 | アランチピリン | 右爲散劑一日ニ與フ(馬) | |
| 芒硝 | 二〇〇〇 | 樟腦 | アランチフェブリン | 一〇〇 |
| 右混和爲散劑二分シ其各分ヲ適 | | 酒精 | タンニン | 〇・三 |

- | | | | |
|----------------|--------|----------------|---------|
| 白糖 | 〇・五 | 亞麻仁煎 | 六〇〇〇 |
| 右混和丸劑三個ヲ作り犬ニ與フ | | 右混和シ一日一乃至二回ニ分與 | |
| 樟腦 | 三〇〇 | (牛) | |
| エーテル | 一〇〇 | 樟腦 | 三〇〇 |
| 右皮下注射一回量トス | | 酒精 | 一五〇 |
| 石炭酸 | 五〇—一〇〇 | 右爲溶液三回ニ皮下注射(犬) | |
| 稀酒精 | 一〇〇〇 | 蘆薈 | 四〇〇—五〇〇 |

產毒麻痺

乳熱

Paresis puerperalis. (羅) Milk-fever. (英)

療法

(一)乳房内空氣送入法 先ツ患畜ヲ横臥保定シ充分搾乳シタル後(送氣前乳汁カ乳房ニ充滿スル時ハ送氣不十分ナリ)乳房殊ニ乳頭ヲ充分洗淨消毒シテ之ヲ拭ヒ良ク消毒セル清潔ナル布巾ノ上ニ之ヲ置キ機牀ニ近キ乳房ヨリ順次著手スヘシ即嚴重ニ消毒シタル送風管ヲ乳頭ノ管内ニ挿入シ乳房緊張スル迄空氣ヲ送入スヘシ而シテ乳房緊張シタル時風管ヲ抜き去リ乳頭ノ先端ヲ指ニテ良ク揉ミ空氣ノ噴出ヲ防ク可シ各乳房悉ク送氣シ了レハ保定ヲ解キ全身ノ皮膚ヲ充分摩擦シ體ヲ温包スヘシ如上ノ療法ニ依リ患畜ハ睡眠ノ状態ヲ呈シ通例數時間以内ニ恢復スレトモ若シ劇症ニシテ四時間ヲ經過タルモ恢復ノ微ナキ時ハ空氣ヲ搾出シテ更ニ前記ノ療法ヲ反覆スヘシ又搾乳ハ送氣後二十四時間ハ施行スヘカラス (二)「ヨード」加里注入法 一〇〇〇〇ノ水ヲ煮沸シテ約四十度ニ冷却シ之ニ一〇〇〇ノ「ヨード」加里ヲ溶解シ之ヲ乳房ノ四區ニ注入ス、注入後液ヲ普遍ニ頒配セシカ爲メ乳房ヲ丁寧ニ按摩シ一二—一八時間ヲ過キ輕快ノ微ナクンハ尙一回注入スヘシ、前記療法

ノ外強心劑トシテ「サリチール」酸「ナトリウムカフェイン」若ハ安息香酸「ナトリウムカフェイン」
 五〇〇〇チニ二〇〇〇ノ餾水ニ溶解シテ皮下ニ注入シ又刺戟劑トシテ「テレピン」油・樟腦精等
 ナ全身ノ皮膚ニ塗擦ス又初期未タ嘔下麻痺ヲ起ササル場合ニ於テ便秘尿閉ノ徴アラハ内用藥トシテ
 硫酸 マグネシウム・硝酸 カリウム」ノ如キ利尿・下劑ヲ與ヘ又酒精ノ如キ強心劑ヲ用フルコトアリ
 豫防トシテハ分娩前二三週日ヨリ分娩各五日迄ハ飼料ノ質ト量トヲ節約スヘシ

- グエラトリン 〇・一五
- 酒精 五・〇
- 右爲溶液皮下注射 五・〇
- 硝酸ストリキニーネ 一〇・一
- 餾水 一〇・〇
- 右爲溶液皮下注射 一〇・〇
- サリチル酸ナトリウムカフェイン 一〇・〇
- 餾水 二五・〇
- 右爲溶液皮下注射量一回分 二五・〇
- プローム水素酸アレコリン 〇・〇五
- 餾水 五・〇
- 右爲溶液皮下注射量一回分トス 五・〇
- 但要スレハ本方ヲ反覆應用ス
- 鹽酸ピロカルピン 〇・三
- 餾水 五・〇
- 右爲溶液皮下注射 五・〇
- 硫酸フィゾスチグミン 〇・一
- 餾水 五・〇
- 右爲溶液皮下注射 五・〇
- 白藜蘆根末 二〇・〇
- 纈草根末 七五・〇
- 芒硝 二〇〇・〇
- 右混和爲散劑亞麻仁漿ニ和シ三時間内二回ニ分與 二〇〇・〇
- 白藜蘆丁幾 一五・〇
- 硫酸エーテル 五〇・〇
- 酒精 二五〇・〇
- 右混和亞麻仁漿ニ和シテ與フ 二五〇・〇
- ヨードカリウム 一〇・〇
- 餾水 一〇〇〇・〇
- 右爲溶液四個ノ乳頭ヨリ注入但注入各乳房部ニ按摩ヲ施スヘシ 一〇〇〇・〇
- 巴豆油 五・〇
- アムモニア水 五・〇
- 樟腦精 一五・〇
- 石鹼精 一五・〇
- 右混和外用塗擦料トス 一〇〇・〇
- 硫酸マグネチウム 一〇〇・〇

- アニース實 五〇・〇
- 甘草根末及水 適量
- 右混和爲散劑一日内ニ與フ(豚)
- 吐酒石 二五・〇
- 芒硝 五〇〇・〇
- 泥菖根 一〇〇〇・〇
- 右爲粉末五包ニ分チ每二時一包宛ヲ麥酒ニ混シ與フ
- 蘆薈末 四〇〇・〇
- 芒硝 二五〇・〇
- 右咖啡湯ニ混シテ二回分服
- 硫酸エゼリン 〇・二
- 餾水 一〇〇・〇
- 右爲溶液皮下注射 三〇・〇
- 番木鱧 一五・〇
- 吐酒石 一〇〇・〇
- 食鹽 五〇〇・〇
- 芒硝 五〇〇・〇
- 右混和爲六包每三時若ハ一時間ニ一包宛與フ
- サリチール酸ナトリウムカフェイン 五・〇
- 硫酸エゼリン 〇・一五
- 餾水 二五・〇
- 右爲溶液一回乃至二回ニ皮下注射 二五・〇
- 樟腦精 一五〇・一五〇
- 右皮下注射 一五〇・一五〇
- 樟腦油 一五〇・一五〇
- 右皮下注射 一五〇・一五〇

產後膀胱翻轉 Inversio vesicae postpartum. (羅)

療法 新鮮ナルモノハ丁寧ニ洗滌消毒ノ上慎重ニ整復ヲ行ヒ努責ノ止ムマテ絶エス常歩運動ヲ爲シ弱キ收斂防腐液ヲ數回注入シテ加答兒ヲ豫防スヘシ經久ノモノハ直ニ整復スルコト不可能ニシテ數日間引續キ温湯ヲ行ヒ而シテ後ニ整復ヲ試ムヘシ整復前仔細ニ検査シテ創傷ノ有無ヲ確メ透穿創アレハ密ニ縫合シ或ハ輸尿管ノ開口ヲ塞カサル様膀胱ヲ結紮シテ自然ノ脱落ヲ待ツヘシ整復後尿道甚タ廣クシテ再發ノ虞アルトキハ膈ノ下壁尿道開口部ニ數箇ノ縫合ヲ施シテ尿道孔ヲ狹窄スヘシ

產後膀胱翻轉

產後臍臟轉兼脫出 產後起立不能

產後臍臟轉兼脫出

Inversio et prolapsus vaginae postpartum. (羅)

療法 不全脫臍ハ微温ノ防腐收斂藥(硼酸・明礬・タンニン)醋酸「アルミニウム」ニテ洗淨シ壓定繃帶若ハ球狀挿入保定器(子宮脫參照)ヲ用ヒテ全脫ヲ豫防スヘシ陰門縫合・臍環ハ局部ノ刺戟ヲ増スヲ以テ賞用ニ値セス全脫臍ニ於テハ新鮮ナレハ收斂藥ノ冷液ニテ冷濕シ經久ノモノハ該藥ノ温液ニ浸漬シ努メテ容積ノ縮小ヲ圖リ後方ニ推シ出タサレタル膀胱緊滿シテ整復ノ防礙トナルトキハ「カテーテル」ヲ通シ或ハ套管鍼ヲ刺シテ排尿シ努責強ケレハ「モルヒネ」ノ皮下注射・「クロロホルム」ノ吸入・抱水「クロラール」ノ内服若ハ灌腸ヲ行ヒ粘膜ニ創傷アレハ特ニ消毒ヲ綿密ニシテ縫合ヲ施シ注意シテ臍ヲ還納シ收斂藥ヲ注入シ適宜ノ壓定繃帶ヲ施シ後身ヲ高クシ置クヘシ整復不可能ナラハ速ニ屠殺シ或ハ脫臍ヲ切斷スヘシ

產後起立不能

Festliegen nach der Geburt. (獨)

療法 軟キ藥ヲ多量ニ敷キ日ニ二回宛體ヲ廻轉反側シテ尊創ノ豫防ニ努メ三日ヲ經ルモ起テ能ハサルトキハ人力ヲ藉リテ屢々扶ケ起シ滋養ニ富ミ消化シ易クシテ鼓脹ヲ來ス虞ナキ食物ヲ與ヘ腰部・十字部・臀部(膝關節迄)ニ衝動刺戟劑(芥子精・テレピン)油・恢復液・「アムモニア」擦劑等)ヲ塗リテ摩擦シ且強キ感應電流ヲ通シ(皮膚ヲ濕シ置キテ)背ニハブリースニツツ氏卷法若ハ熱布ヲ施シ「コヒーネ」・硫酸「エゼリン」・「ペラトリリン」・「ストリキニーネ」ヲ皮下注射シ或ハ乳房ノ空氣療法ヲ試ミ飛節及以下ノ部分ニブリースニツツ氏卷法ヲ施シ或ハ其代リニ「テーゲノール」ノ一〇%軟膏毎日一若ハ二回宛蹄冠ヨリ飛節上方迄塗擦シ其上ニ毛織ノ繃帶ヲ纏ヒ置クヘシ

ウエラトリリン

〇・一

スルヲ可トス(牛)

酒精

五・〇

硫酸ウエラトリリン

〇・一五

右爲溶液皮下注射料但反覆應用

グリセリン

五・〇

右爲溶液皮下注射料一回分

產後急癇

Eclampsia puerperalis. (羅)

療法 牛ニ於テハ隨意運動ヲ爲サシメ外來ノ刺戟ヲ遮斷シ舍室ヲ暗暝ニシ冷灌腸ヲ施シ次テ抱水「クロラール」ノ灌腸ヲ行ヒ頭ニ冷濕布若ハ氷囊ヲ施シ頻ニ搾乳シ緩下劑・臭素劑ヲ處シ豚ニモ臭素劑ヲ用フヘク山羊ニモ麻酔劑ヲ處シ犬ニハ鹽酸「モルヒネ」〇・〇二―〇・〇四ノ皮下注射最モ効アリ之ヲ補フニ「クロロホルム」吸入ヲ以テシ或ハ「ウレタン」五乃至二〇及「ヒブノン」〇・二五乃至一・〇ヲ用ヒ「エーテル」若ハ「クロロホルム」ノ舍利別ヲ飲マシム

產後子宮出血

Haemorrhagia uteri postpartum. (羅)

療法 出血少量ナルトキハ子宮ノ收縮ニ由リテ自然ニ止血スルヲ以テ特ニ療法ヲ要セサレトモ異常出血ニ在リテハ自然ニ放任スヘカラサルヲ以テ麥角劑ノ皮下注射又ハ「ヒドラスチン」近時稀ニハ鹽化「アドレナリン」溶液ノ皮下注射ヲ試ムル者アレトモ眼科ニ本劑ヲ使用スル如キ効果ヲ治ムルコト能ハサルモノトス又明礬・「タンニン」・硫酸亞鉛等ノ收斂劑ノ溶液ヲ外用トシテ試ムヘシ又創傷大ニシテ縫合ヲ要スルモノハ之ヲ施シ大血管ノ損傷スルモノハ結紮シテ止血セシムヘシ

產

狂

Mania puerperalis. (羅)

療法

安靜・軟毒・暗室・通氣・瀉血・後頭部刺戟劑塗擦・下劑ニ依リ鎮靜セサルトキハ臭剝一五〇・

產後急癇

產後子宮出血

產狂

産前浮腫 産前截癱又産前起立不能 霰粒腫 山羊蹄

○ヲ六時間以内ニ二回ニ分與スヘシ

産前浮腫 Oedema antepartum. (羅)

療法 天氣好晴ナレハ毎日數回一時間宛舍外ニ於テ牽運動ヲナシ分娩數日前乳頭ヨリ乳汁流出スルトキハ搾乳スヘシ搾乳セサレハ乳房緊張シ乳牛ハ伏臥セス徒ラニ疲勞スルノミ摩擦及刺戟擦劑(樟腦精・「アムモニア」擦劑ノ類)ハ必要ナラス畜主ノ安心ヲ買フタメニ用フルノミ亂刺ハ傳染ヲ來シ易キヲ以テ施スヘカラス利尿劑ノ如キモ害アリテ益ナシ

産前截癱又産前起立不能 Paraplegia antepartum. (羅)

療法 消化シ易キ榮養分ニ富ミタル可成容積少ナキ飼料ヲ與ヘ稀鹽酸ノ如キ清涼劑ヲ内服セシメ便通緩慢ナレハ洗腸ヲ施シ或ハ緩和劑ヲ投シ臥薬ヲ多量ニ給與シ毎日一二回患畜ノ横臥スル位置ヲ轉シ辱創ヲ豫防シ腰部・骨盤部ニハ酒精若ハ樟腦精ヲ塗擦シ按摩法ヲ行フヘシ若シ分娩後症狀消散セサルトキハ番木鱈丁幾若ハ「ストロキニーネ」ノ如キ神經衝動藥ヲ經口若ハ皮下注射トシテ用フルカ又ハ電氣應用ヲ可トス

霰粒腫 Chalazion. (羅)

療法 「メイボーム」腺排泄液ノ滯溜シタル症ニシテ温湯穿刺

山羊蹄 Club foot. (英)

療法 裝蹄法ハ其軌一ナラス肢勢ノ不平衡ヲ賠償スル山羊蹄即繫ノ直立シタルモノ或ハ熊脚ニ於

ケルモノノ如キ(原因ノ一)ニアリテハ素ヨリ其原形ニ準スヘク跂行馬(駒兒)ニアリテハ蹄尖過度ノ磨滅ノ爲ニ蹄ノ峻立シタルモノ(原因ノ二)アリテハ單ニ蹄踵ヲ削リ矯正ノ削蹄ヲ行フヘク單純ノ削蹄其効ヲ奏セサレハ半月狀鐵或ハ薄尾鐵ヲ装着スヘシ、蹄尖ノ過削ニ因スルモノ(原因ノ三)ニアリテハ薄尾鐵ニシテ鐵頭部ノ下廣ナルモノヲ装着シ或ハ蹄尖ニ假蹄膠ヲ添加シ或ハ漸次蹄踵ヲ削切シテ之ヲ矯正スヘシ原因ノ蹄ニアラスシテ肢ノ病態ニ存スルモノ(原因ノ四)ニアリテハ鐵臍或ハ厚尾鐵ヲ以テ踏及支撐ヲ匡正スヘシ例令ハ低蹄ノ馬ニシテ突然劇症ノ腱炎ニ罹レルカ如キ場合ニアリテハ一時法ニヨリ蹄踵ヲ高フシ病勢退散スルニ從ヒ漸ク蹄ヲ原形ニ復スヘシ山羊蹄ヲ一時ニ尋常ノ蹄形ニ復セントスルカ如キ急激ノ變化ハ不法ノ裝蹄ニ因スル甚キ舉踵蹄ノ矯正或ハ屈腱切斷術後ニ於ケル時ノ有數ノ場合ニアラサレハ行フコトナシ
普通ノ使役馬ニシテ突球及多少著シキ高蹄若ハ山羊蹄ヲ有スルモノニアリテハ鐵頭部ノ早キ磨滅ヲ防クカ爲メ堅牢ノ鐵臍或ハ強大ノ前鐵唇ヲ要スルアリ或ハ適宜ノ上彎及後鐵臍ヲ要ス凡テ鐵臍ノ高サハ馬ノ駐立中蹄踵ノ地上ニ安スルヲ以テ度トナスヘシ

三叉神經麻痺 Palsyis nervi trigemini. (羅)

療法 挫傷ニ基ク麻痺ニハ患畜ノ人工營養ヲ專一トス即チ液狀食ヲ「カテーテル」ニテ胃ニ送入シ又ハ粥・固形食ヲ舌根ニ齧シテ嚙下セシム其他摩擦又ハ電氣療法ヲ試ムヘシ

蟻洞 Seedy-toe. (英)

療法 本症ハ不治症ニアラサルモ經久ニ及フテ常トス裝蹄ハ患部ノ負重ヲ免レシメ空洞ヲ清潔ニ
三叉神經麻痺 蟻洞

シ洞内ニ麻織糸及「タール」・「テレピンチナ」或ハ黄蠟ヲ填充スヘク其蔓延ノ甚シキモノニハ連尾蹄鐵ヲ装スヘク患部ニ釘ヲ下スヲ禁ス
白線裂及蟻洞ノ根治的療法ハ分裂セル蹄壁ノ全部ヲ剝離スルニアリ此手術ハ久シク馬ノ使役ヲ禁セサルヲ得サルノ不利アリテ實行シ難シト雖軟地ニ使役スルモノニアリテハ此法ヲ賞用ス

氣管異物

Foreign bodies in the trachea. (英)

療法

豫防法トシテ液藥ヲ與フル際注意スヘシ殊ニ犬馬ニ於テ然リ頭ヲ常位置ヲ超ヘテ高く保定スヘカラス牛ニ於テハ危險少ナシ藥物ノ殊ニ充分溶解セサルトキハ注意ヲ要ス藥物ヲ内服セシメ咳嗽ヲ發スレハ一時中止ス液藥ヲ投スルニ頸ヲ摩擦スルハ不用ナルノミナラス咳嗽ヲ發シ易カラシム出血性手術ヲ氣管ニ施ス場合ニハ栓塞氣導管ヲ用ヒ或ハ頭ヲ垂レテ施術ス異物ノ大且硬固ナルモノハ普通氣管截開術ニヨリ除去ス必要ニ應シテ截開口ヲ設ケ大小ヲ酌量ス適當ノ鉗子或ハ小兒ノ手ヲ挿入シテ異物ヲ除去ス時トシテ氣管ヲ截開シタルノミニテ異物ハ呼吸ト共ニ開口ヨリ呼出セララルコトアリ腫瘍ハ截開後手術ニヨリ除去ス

氣管變形

Deformation of the trachea. (英)

Tracheostenosis. (羅)

療法

氣管狹窄ハ人醫ニアリテハ彈力性管ヲ喉頭ヨリ挿入シテ氣管ヲ擴張スト雖獸醫術ニアリテハ困難ナリ呼吸困難ヲ救フ爲メ氣管截開術ヲ行フ其部位ハ狹窄ノ場所及廣狹ニヨルト雖通常狹窄部ノ下位ニ於テスリヒコルソン氏ハ變位狹窄セル氣管輪ノ切除ヲ試ミラホツツ氏ハ狹窄部ノ下位ヲ截開シ之ヨリ「コルク」圓筒ニ麻織子ヲ纏絡シタルモノヲ狹窄部ニ挿入シ糸ヲ以テ結着保定シ十日ヲ經

テ撤シ別管ヲ裝シ六週間放置シタリシニ氣管ハ擴張シ其後氣導管ナクシテ使役スルヲ得タリステイケル氏ハ金屬螺旋線ヲ以テ氣管ヲ擴張セシメタリト稱ス

氣管支炎

Bronchitis. (羅)

氣管支加答兒(急)

Catarrhus bronchialis. (羅)

療法

患畜ヲ安靜ニシ且新鮮ノ空氣ヲ供給スルハ本病療法ノ第一義ナリ之カ爲患畜ハ溫暖清潔ノ厩ニ容レ賊風ノ侵入ヲ防キ又換氣ニ注意スヘシ大動物ハ全ク勞役ヲ免シ消化シ易ク且塵埃ヲ混淆セサル飼料ヲ與ヘ新鮮ナル飲水ヲ給ス咳嗽ノ發作急劇ナレハ喉頭炎ニ用フルト同様ノ麻醉劑ヲ處ス乾性氣管支炎ニ於テハ動物ヲ濕潤セル空氣中ニ置クヲ宜シトス殊ニ室内ニ飼養スル愛翫動物ニハ此方法ヲ施スヲ得ヘシ其法ハ平カナル皿ニ水ヲ盛リテ暖爐ノ傍ニ置キ或ハ噴霧器ヲ用フ、吸入ニハ喉頭炎ト同様ノモノヲ用ヒ若シ呼吸惡臭アレハ昇汞水(二千倍)・「クレオリン」水(二―三%)・石炭酸水(一―二%)ノ吸入ヲ行フ又藥液ノ氣管内注射ヲ賞用スル者アリ之ニ用フル藥物ハ重曹(二―三%)・皓礬(〇・五%)・硝酸銀(〇・一%)・ルーゴル氏液(一・五・一〇〇―二〇〇)・「テレピン」油(「オリーブ」油ト等分等)ニシテ大動物ハ水溶液ノ二〇―四〇〇、小動物ハ二―三・〇ノ注射ニ耐ヘ油ノ混合劑ナレハ大動物一五―二〇〇・〇小動物一・〇トス、腐敗性氣管支加答兒ニハ「クレオソート」(「クレオソート」一〇ヲ酒精四〇〇・〇水四〇〇・〇ニ混シ其二〇〇ヲ一日二回氣管内注射)又「クレオソート」ノ代用トシテ四%ノ「フォルマリン」液ヲ用フ右溶液中ニ亞片丁幾(一―二%)ヲ加ヘ刺戟ヲ緩解スヘシ「内服藥」ノ効驗ハ疑ハシ通常祛痰及解凝劑ヲ用フ大動物ニハ丸劑及舐劑、小動物ニハ水劑ヲ與フ之ニ供用スル

氣管支炎

藥物ハ金硫黄(一〇―二〇〇或ハ〇・五―一・〇)・礮砂(八―一五・〇或ハ〇・二―一・〇)・「セネガ」根(犬ニ煎劑一〇・一五〇ヲ用フ)・吐根(〇・五・一五―一食匙宛)之ニ「アムモニア」・茴香水二―三%ヲ加ヘ小動物ニ與フ馬ニ「ヨードイピン」ヲ反覆皮下注射シテ良効ヲ見タル例アリ粘液ノ分泌多量ニシテ呼吸困難ノ徵アレハ小動物ニハ吐劑ヲ與フ之ニ屬スルモノハ鹽酸「アボモルヒネ」(「アボモルヒネ」)・吐酒石(一・〇〇五―一・〇〇一)・水五〇〇ニ鹽酸「モルヒネ」〇・〇五ヲ加ヘ毎三時一食匙宛犬ニ與フ)・吐酒石(一・〇〇五―一・〇〇〇)・每十五分一食匙宛)・吐根(一―二・〇〇一五)・水(一五〇〇水)又「アトロピン」(牛馬〇・〇三―〇・〇五犬)・〇・〇二―一・〇〇一皮下注射)ハ分泌ヲ制限シ一時呼吸困難ヲ緩解ス又胸壁ニプリースニツツ氏器法ヲ行フ老獸及幼獸ニハ營養状態ニ注意シ衰憊ノ徵アレハ衝動劑(樟腦・「エーテル」・酒精・「カフェイン」等)ヲ與フ大動物ハ一日二回全身摩擦ヲ行フヘシ

- 礮砂・甘草羔 各五〇〇
- 吐酒石 〇・五
- 茴水 三〇〇〇
- 右一日三回一茶匙乃至一食匙宛
- 與フ(犬)
- 遠志根浸 一〇〇・一五〇〇
- 茴香礮砂精 五〇〇
- 右一日二回一食匙乃至一茶匙宛
- 與フ(犬)
- 金硫黄 五〇〇
- 芒硝 二五〇〇
- 甘草根末 一〇〇〇
- 茴香 五〇〇
- 麵粉及水 適量
- 右爲散劑二・三日間ニ與フ(馬)
- ベルーバルサム 〇・五以上
- 右膠囊十個ヲ作り毎日一個宛與
- フ(犬)
- 吐酒石 〇・一
- 茴水 一五〇〇
- アルテア根舍利別 二〇〇〇
- 右爲溶液每三時一食匙宛ヲ與フ
- (犬)
- 礮砂 一〇〇〇
- 芒硝 一〇〇〇
- アニス末 二五〇〇
- 右爲三包毎日一包宛半瓶ノ亞麻
- 仁煎ニ加ヘテ與フ(犢・羊・山羊)
- 礮砂 一〇〇〇
- 甘草末 五〇〇

- 右蜂蜜ニ伍シ爲散劑毎日一食匙宛與フ(豚)
- アラビヤゴム 二五〇〇
- テレピン油 一〇〇〇
- 橙花水 二五〇〇
- 右一日三回一茶匙乃至一食匙宛
- 與フ(犬)
- アルニカ花浸五〇〇・一五〇〇
- アムモニア 五〇〇
- 茴香精・甘草羔 各五〇〇
- 右爲溶液每三時一食匙(犬)乃至一茶匙(小犬)ヲ與フ
- 吐根浸 一〇〇・一五〇〇
- アルテア舍利別 二〇〇〇
- 右爲溶液每三時一食匙與フ(犬)
- 安息香酸 二〇〇
- 白糖 一〇〇〇
- 右散劑十包ニ分テ毎日一回一包宛與フ(犬)
- 鹽酸アボモルヒネ 〇・〇五

- 鹽酸 一〇〇
- 茴水 二五〇〇
- 右爲溶液每三時一食匙ヲ與フ
- (犬)
- 鹽酸アボモルヒネ 〇・〇五
- 甘草羔・甘草末 各適量
- 右爲二十九每二時一丸宛與フ
- (犬)
- 人工カルルス泉鹽 二〇〇〇
- アルテア根末 一〇〇〇
- 適量
- 右爲散劑二日分服(馬)
- 重曹 五〇〇
- 食鹽 一五〇〇
- 金硫黄 三〇〇
- 右爲散劑每食一食匙宛混與
- 食鹽 一〇〇〇
- 礮砂 五〇〇
- 甘草根末 二五〇〇
- 右爲散劑每食一食匙宛混與(馬)

- 芒硝 一〇〇〇
- 吐酒石 二〇〇〇
- 茴香 適量
- 茴水 五〇〇
- 右爲丸劑四個日日二丸ヲ與フ
- (馬)
- 食鹽 二五〇〇
- 黑硫化アンチモニウム 一〇〇〇
- 杜松子 一五〇〇
- 右爲散劑每食餌ニ一食匙ヲ混與
- (馬)
- ヒヨス越幾斯 五〇
- 礮砂 二〇〇
- 茴香浸 七〇〇
- 右一回量(牛)
- 吐酒石 〇〇五
- 吐根酒 二五〇
- 右一食匙宛與フ(犬)
- 吐酒石 〇〇三
- 礮砂・甘草羔 各五〇

氣管支炎

茴香水 一五〇・〇
 右爲溶液一日數回一茶匙乃至一
 食匙ヲ與フ(犬)
 鹽酸モルヒネ 〇・二五
 吐根浸 二〇〇・二〇〇
 甘草蒸 二〇〇・〇
 右每三時一茶匙乃至一食匙與フ
 (犬)
 鹽酸モルヒネ 〇・〇五
 苦扁桃水 二五〇・〇
 餵水 二五〇・〇
 右一日三回一茶匙乃至一食匙宛
 與フ(犬)
 重曹 五〇
 金硫黃 一〇〇・〇
 白糖 二五〇・〇
 右爲散劑日日四・五回一刀尖宛
 ヲ與フ(犬)
 アムモニア茴香水 五〇
 セネガ根浸 五〇〇・二〇〇・〇

甘草蒸 二五〇・〇
 右每三時一茶匙乃至一食匙ヲ與
 フ(犬)
 亞砒酸 〇・五
 金硫黃 一〇〇・〇
 黑硫化アンチモニウム各一〇〇・〇
 右混和爲散劑飼料ニ混與
 硝酸銀 一〇〇
 餵水 一五〇・〇
 右爲溶液氣管内注入
 テレピン油 一〇〇・〇
 アラビヤゴム 一五〇・〇
 餵水 三〇〇・〇
 右爲乳劑每日三回一食匙宛與フ
 (犬)
 タール 三〇
 甘草末 適量
 右爲丸劑日日數回一丸宛與フ
 (犬)
 食鹽 五〇〇・〇

四五四

黑硫化アンチモニウム 一〇〇・〇
 胡蘆巴末・甘草末 各五〇・〇
 右爲散劑每飼料ニ一食匙ヲ混與
 (馬)
 クレオソート 一五〇・〇
 甘草末 五〇・〇
 アルテア根末及水 適量
 右爲三丸每日一丸宛與フ(馬)
 芒硝・食鹽 各一五〇・〇
 甘草末 二〇〇・〇
 右爲散劑每飼料一食匙混與(馬)
 硫黃華 各二五〇・〇
 粗製硫化アンチモニウム 各二五〇・〇
 芒硝 二五〇・〇
 甘草末・茴香水 各一〇〇・〇
 右爲散劑每食餌一食匙ヲ混與
 (馬)
 ペルーバルサム 五〇
 單舍利別

アラビヤゴム 各一〇〇・〇
 餵水 一五〇・〇
 右爲飲劑每三時一食匙ヲ與フ
 吐酒石 一五〇・〇
 芒硝 一五〇・〇
 茴香 一〇〇・〇
 右混和更ニ裸麥粉ヲ加ヘテ紙劑
 トナシ二日間四回ニ分與(馬ノ
 帶熱性管枝炎)
 吐酒石 五〇
 茴香 一五〇・〇
 重碳酸ナトリウム 各一〇〇・〇
 クロールナトリウム 各一〇〇・〇
 右混和爲散劑一食匙量宛每飼料
 ニ混與(馬)
 黑硫化アンチモニウム 一〇〇・〇
 アニース實末 各七五・〇
 甘草根末 一五〇・〇
 重碳酸ナトリウム 一五〇・〇
 右混和爲散劑一食匙量宛每飼料

氣管支炎

ニ混與(馬)
 人工カルルス泉鹽 二〇〇・〇
 黑硫化アンチモニウム 五〇・〇
 杜松實 一五〇・〇
 右混和毎日一乃至二回一―二食
 匙量宛飼料ニ混與(馬・牛)
 テノビノール 七五・〇
 黑硫化アンチモニウム 一〇〇・〇
 コロムボ根末 一五〇・〇
 アルテア根末 適量
 右混和爲紙劑三日間ニ分與
 (馬・牛)但馬ニハ「テレピン」油
 (百倍乃至二十倍水溶液)ノ吸入
 ヲ行フ
 硝砂 八〇・〇
 食鹽 二〇〇・〇
 甘草根末 各一〇〇・〇
 アルテア根末 各一〇〇・〇
 右混和爲散劑每日三回一乃至二

四五五

食匙量宛飼料ニ混與(馬・牛)
 硝砂 各一〇〇・〇
 クロールナトリウム 各一〇〇・〇
 重碳酸ナトリウム 五〇・〇
 甘草煎 二〇〇・〇
 右混和毎日數回一食匙量宛與フ
 (犬ノ慢性咳嗽アル場合)
 硝砂 三〇・〇
 茴香末 各二五・〇
 アニース實末 一〇〇・〇
 アルテア根末 適量
 水 適量
 右混和爲紙劑二回分服(馬)
 含鐵硝砂
 安息香酸 各〇・二
 甘草根末 各〇・二
 右混和爲散劑一包其十包ヲ作り
 每日一―二包宛與フ(犬ノ祛痰
 劑)
 食鹽 二五〇・〇

氣管支炎

重炭酸ナトリウム 各一〇〇〇
 茴香 右混和爲散劑毎日一乃至三回一
 亞麻仁 二食匙量宛飼料ニ混與(馬・牛)
 食鹽 三〇〇〇
 木タール 五〇〇
 杜松實末 一五〇〇
 右混和爲散劑毎日一匙量宛燕麥
 紛塊ニ混與(羊)
 セネガ浸 (一〇〇)二〇〇
 人工カルルス泉鹽 一五〇
 アムモニアアニス液 一〇〇
 右混和爲水劑毎日三回一小兒匙
 量宛與フ(犬ノ祛痰劑)
 アムモニアアニス液 五〇
 セネガ根浸 (一〇〇)一五〇
 右混和每三時一食匙量宛與フ
 (犬)

鹽酸モルヒネ 〇・二
 苦扁桃水 二〇〇
 右爲溶液黑色點滴瓶ニ容レ毎日
 三回十滴宛與フ(犬ノ刺戟性咳
 嗽)
 酸鹽アポモルヒネ 〇・一五
 グリセリン 一〇〇
 餾水 一五〇
 右混和毎日三回一茶匙一食匙
 量宛與フ(犬)
 鹽酸モルヒネ 〇・二
 鹽酸アポモルヒネ 〇・五
 餾水 一〇〇
 右混和每三時一食匙量宛與フ
 (犬)
 鹽酸モルヒネ 〇・二
 鹽酸アポモルヒネ 〇・二
 苦扁桃水 一五〇
 麥角越幾斯 三〇〇

四五六

アニス水 一五〇〇
 右混和一日數回一匙量宛與フ
 (犬)
 チオニン 〇・三—〇・五
 アラビヤゴム漿 適量
 右混和一日量トシテ二乃至三回
 ニ分與(犬)
 (アラビヤゴム)ノ代リニ重曹
 フ用ヒ散劑トスルモ可)
 抱水チアノクロール 〇・一二
 鹽酸モルヒネ 〇・二
 餾水 二五〇〇
 右混和每三時一食匙量宛與フ
 (犬)
 硼砂
 ヨードカリウム 各五〇〇
 アニス實末 適量
 アルテア根末及水
 右混和爲丸劑四個毎日一個宛與

フ(馬・牛)

フノイミン錠一(個含量〇・五) 八個
 右毎日三回宛與フ(犬)
 ヨードアイゴンナトリウム 五〇〇
 餾水 一二〇〇
 セネガ舍利別 三〇〇
 右混和毎日三回一茶匙一食匙
 量宛與フ(犬)
 ヨードワソゲン(一〇%) 二〇滴
 甘草煎 適量
 右混和一日分トシテ興フ(犬)馬
 ニハ五〇—一〇〇ヲ與フ
 抱水テルピン 三〇
 酒精 二五〇
 茴香水 一〇〇〇

アルテア舍利別

アルテア舍利別 二五〇
 右混和一日二—三回一匙量宛與
 フ(犬ノ慢性症)
 安息香酸ナトリウム 各〇・一
 テルピノート 〇・二五
 砂糖 右混和爲散劑一包共十包ヲ作り
 毎日一包宛與フ(犬ノ慢性症)
 食鹽 三〇〇
 木タール 五〇〇
 杜松實 一五〇
 右混和爲散劑一匙量宛燕麥塊ニ
 混與(羊ノ慢性症)
 木タール 五〇〇
 礫砂 八〇〇
 杜松實 一〇〇
 アルテア根末及水 適量

右混和爲丸劑二個毎日一個宛與

右混和爲丸劑二個毎日一個宛與
 フ(馬ノ慢性症)
 クレオソート 一五〇
 甘草根末 五〇〇
 アルテア根末及水 適量
 右混和爲丸劑三個毎日一個宛與
 フ(馬ノ慢性症)
 處方)
 硝酸銀 一〇
 餾水 一五〇
 右爲溶液毎日五〇宛氣管内注
 射
 テレピン油 一〇〇
 アラビヤゴム 二〇〇
 餾水 一八〇
 右混和爲乳劑毎日三回一食匙宛
 與フ(犬ノ慢性症)

格魯布性氣管支炎 Bronchitis crouposa. (羅)

療法

氣管截開術ハ急ヲ救フニ足ラサルヲ以テ治療ハ概ネ無効ナリ小家畜ニハ石灰水ノ蒸氣吸入

氣管支炎

及吐劑ヲ試ミ牛ハ速ニ屠場ニ送ルヘシ

傳染性氣管支炎 斯加兒麻 Scaldma. (英)

療法 通氣善良・溫厩・易消化飼料ヲ與ヘ食思ヲ催進ス内服ハ重曹・龍膽末・樟腦精ノ皮膚塗擦・「テレピン」油ノ吸入・胸壁ノプリースニツツ氏卷法、肋膜炎ニハ芥子精ノ胸壁塗布・呼吸困難ヲ來セハ醋酸礬土・次硝酸蒼鉛・「クロール」酸加里(一―二%)或ハ若扁桃水ノ喉頭内注射ヲ三日毎ニ行フ

| | | | | |
|------------|-------|-----------------|-------|----------------|
| 重曹 | 一五〇・〇 | 醋酸礬土 | 一・五 | 料トナス |
| 食鹽 | 一〇〇・〇 | 餾水 | 一五〇・〇 | プロームカリウム |
| 龍膽末 | 七五・〇 | 右三日毎ニ喉頭内注射(三回分) | 一〇〇・〇 | 蒸餾水 |
| 麵粉及水 | 適量 | テレピン油 | 一〇〇・〇 | 右爲溶液喉頭内注入料トス―但 |
| 右爲紙劑二日間ニ分服 | | 右飲馬桶半量ノ熱湯ニ和シ吸入 | | 毎三日反覆注入(馬) |

氣管折傷 Fracture of the trachea. (英)

療法 氣管ノ新折傷ニハ呼吸困難アレハ氣管截開術ヲ行フ此際栓塞套管ヲ氣管内ニ挿入シテ血液ノ氣管内流入ヲ防クヘシ套管ハ麻織子・綿花又ハ海綿ヲ用フ

氣胸 Pneumothorax. (羅)

療法 胸壁ノ貫通創ニ由ルモノハ創口ヲ閉鎖シ創口内部ニアリテ處置ヲ施ス能ハサレハ胸壁ヲ穿刺シテ胸腔内ノ瓦斯ヲ排除スヘシ

氣腫 Emphysema. (羅)

療法 療法ハ氣腫ノ性質ニヨリテ異ル氣腫若シ氣管切創(氣管截開術)ニ原因シ或ハ氣管ノ偶然創傷ニ基クトキハ創傷ヲシテ呼吸ノ際自由ニ空氣ヲ通過セシムルカ如クシ結締織ニ竄入スルヲ防クヘシ此目的ニハ創傷ヲ潤開シ創傷上ニアル結締組織及筋肉ヲ切除シ管ヲ挿入スヘシ創縁接近シ管ノ用意ナキトキハ厚キ鐵線ニテ一對ノ鉤ヲ創縁ニ通シ縫合絲ヲ以テ頸ヲ越テ結ヒ合セ創縁ヲ離スヘシ氣腫カ挫傷ニヨル氣管ノ破裂ニ由リテ發スルトキハ氣管ノ裂口ニ對スル部分ノ皮膚ヲ切開シテ自由ニ空氣ヲ流通セシムヘシ氣腫若シ牛ノ鼓腸症ニ由リテ發スレハ套管針ヲ第一胃ヨリ除去シ原始ノ開口部或ハ皮膚ニ多數ノ切開ヲナシテ之レヨリ空氣ヲ驅除スヘシ、肘節窩ノ創傷ニヨツテ發スレハ動物ヲ安靜ニ保ツ氣腫消散セス或ハ高度ナルトキハ多數ノ切開ヲナシテ空氣ヲ壓出スヘシ皮下織ニ炎症ヲ發スレハ膚列虞蒙ノ療法ヲ行フ

氣腫疽 Gangrena emphysematosa. (羅)

療法 本病ハ經過急劇病性險惡ナルヲ以テ治療ノ違ナキモ然ラサルトキハ病初治療ヲ試ムヘシ即チ腫瘍ヲ充分ニ切開シテ空氣ニ曝露シ強力ノ消毒藥例之ニ三%石炭酸水、〇・一%「サリチール」酸液〇・一%「フォルマリン」水、「ヨード」丁幾ヲ以テ反覆洗滌ス又腫瘍ノ周圍所々ニ三%石炭酸ノ注入ヲ行フ四肢ニ發スレハ肢ノ上端ニ護謨結紮ヲ施シ腫脹ハ亂刺シ且局部ニ氷雪ノ卷法ヲ施シ或ハ「テレピン」油ヲ塗布ス近時血清療法ヲ賞揚ス即チ獸疫調査所製造ノ血清ヲ一歲以上ノ牛ニハ一五〇―三〇〇・〇、二歲以下ノ牛ニハ一〇〇―一五〇・〇ヲ靜脈内ニ注射スレハ傳染ノ初期ニアリテハ良効アリ

豫防法

本病ノ常存地方ニ放牧ヲ禁ス、土地改良法トシテ排水・開墾・耕耘ヲ努ムヘシ又本病ハ創傷ヨリ傳染スルヲ以テ舍飼シテ足部ノ負傷ヲ避ケ舍内ニ於テ乾芻ヲ給スヘシ但舍飼ノ動物全ク發病セサルニアラサルモ甚タ稀ナリ、本病常在地方ニ於テハ豫防接種法ヲ行フヘシ獸疫調査所ニ於テ製造スル豫防液ハ本菌ノ肝片加「ブイヨン」ニ乃至三週間培養ノ游離毒素ニシテ一回ニ五—一〇〇ヲ皮下ニ注射ス、又同所製造ノ血清ハ豫防注射量ニ歲以上ノ牛一〇〇—一五〇〇、二歲以下ノ牛五〇—一〇〇〇ナリ外國ニ於テ應用セラルル豫防接種法數種アリ即チ左ノ如シ

一、アローアン、コーネヴァン、トーマ氏 Arving, Cornevin and Thomas. 法又里昂法 強弱二種ノ滅毒乾燥筋肉ヲ接種スルノ法ニシテ其第一苗即チ弱接種素ハ筋肉ヲ百度ニ七時間熱シ第二苗即強接種素ハ九〇—九四度ニ同時間熱シタルモノナリ共ニ帶黃赤色ノ乾燥粉末ニシテ每牛各其〇・一ヲ五倍量ノ煮沸滅菌水ニ密ニ研磨混合シテ注射ス通常十頭分即チ一・〇ヲ五・〇ノ水ニ混和ス接種部ハ尾ノ下面ニシテ先ツ尾端ヨリニ手幅隔テ下部ノ皮下ニ第一苗ヲ注射シ後十日ヲ經テ尾端ヨリニ手幅隔テ下部ニ第二苗ヲ注射ス注射部ハ縋帶スヘシ放牧牛ニハ第二回注射ヲ肩ノ後方ニ施スヲ宜シトス通常注射局所ニ僅微ノ腫脹ヲ發スルノミ但注射創汚染セラルルトキハ尾椎ノ壞死ヲ來スコトアリ

二、キット氏 Kitt ノ民顯法 ハ攝氏九七度ノ流通蒸氣ヲ以テ(又ハ六時間八五—九〇度ニ熱シ)滅毒シタル肉粉ヲ單ニ一回尾ノ下面ノ皮下ニ接種スルニアリ此接種材料ノ〇・二—一〇・六ハ尙羊ヲ斃ス之ヨリモ少量ハ中等ノ熱ヲ發セシム

三、トーマ氏 Thomas ノ「ブラックレギン」 Black-legine 此法ハ芽胞ヲ附着セシメタル絹絲又ハ綿絲ヲ尾ノ皮下ニ挿入シ絲ハ其儘放置スルノ法ナリ

魚鱗癬 Ichthyosis. (羅)

象皮病參照

虚脱 Collapsus. (羅)

療法 樟腦油・茴香「アムモニア」・酒精・「エーテル」・「カフェイン」等ノ皮膚刺戟劑等ヲ用フ

蕎麥疹 Fagopyrismus. (羅)

療法 飼料ヲ一變シ動物ヲ冷涼被陰ノ場所ニ移シ緩下劑(蓖麻子油五〇—二五〇〇)・鹽類下劑(五〇—一〇〇〇)ヲ與フ、炎症症狀劇シケレハ局所療法トシテ冷水若ハ鉛水ノ罨法ヲ施シ石灰水ニテ洗滌シ次テ石炭酸油(一・一〇)又ハ石灰水及亞麻仁油ヲ引赤皮膚面ニ塗擦ス又乾燥藥(亞鉛華及澱粉ノ等分)ヲ試ムヘシ

胸壁損傷 Injuries of the thorax. (英)

療法 胸壁ノ貫通創ハ小家畜特ニ犬ニアリテハ注意シテ縫帶シ大家畜ニアリテハ假令第一期癒合ヲ期待シ得ヘキ望ナキ場合ト雖必ス之カ縫合スヘシ探診ハ一般ニ之ヲ禁止スヘシ然レトモ萬止ムヲ得サル場合ニアリテハ根本的ニ消毒シタル指ヲ以テスヘシ膿胸ニ對シテハ穿胸術若ハ肋骨切除術ヲ行ヒ以テ胸腔ノ防腐的洗滌並排膿法ヲ施スヲ要ス

胸革傷 Injuries by the breast-collar. (英)

魚鱗癬 虚脱 蕎麥疹 胸壁損傷 胸革傷

輓索傷・鞍傷参照

胸骨瘻

Fistula sterni. (羅)

療法 可成の初期ニ於テ十分ナル手術療法ヲ施スニ非サレハ奏効ヲ期シ難シ即チ瘻管ハ長ク且深ク切開シテ胸骨ヲ露出セシメ瘻管ノ周圍ニ存スル硬變塊ハ之ヲ切り取り腐骨片ハ槌ト鑿若ハ銀匙ヲ以テ之ヲ除去スルヲ要ス但何レノ場合ニ於テモ手術創ノ癒合ニハ長時日ヲ要ス

胸疫

馬ノ傳染性肋膜炎

Pleuropneumonia contagiosa e. equorum. (羅)

療法 定型的ノ良經過ヲ取ルモノハ殊ニ醫治ヲ要セス攝生ニ注意スレハ足ル即チ患馬ヲ安靜ニ保チ通氣ニ注意シ滋養易消化ノ飼料ヲ給スレハ自ラ治癒ス近時「サルヴアルサン」ヲ賞用ス發熱ノ初メ「サルヴアルサン」〇〇一(體重一基瓦ニ付)ヲ靜脈内ニ注射スレハ二―四日ノ發體溫平温ニ復シ心臟強力トナリ食欲ヲ生シ來リ比較的早ク治癒ス非定型ノ重症患馬ニハ對症療法ヲ施ス即チ心臟衰弱ニハ樟腦(樟腦油日量一〇〇―二五〇)又ハヂギタリス(一回量浸劑ナレハ八一〇〇散劑又ハ丸劑ナレハ三一五〇)ヲ與フ熱稽留スレハ「アンチフエプリン」(三〇〇)ヲ一日三回ニ分服)ヲ用フルヲ最良トス肋膜炎ニハ胸壁ニ芥子油(六%酒精溶液)又ハ芥子液、便秘ニハ蘆薈丸(二〇〇)ヲ宜シトス滲出物ノ吸收ヲ促スニハ「アルカリ」劑(人工カルルス泉鹽三〇―五〇)ヲ内服セシム但肋膜炎ノ滲出物ハ必要ニ應ジ穿胸術ヲ施シ之ヲ排除スヘシ

樟腦
ストロファンツス丁幾

一〇〇
アルテア根末

各五〇〇
適量

右混和爲丸劑二個毎日一乃至三個宛與フ(心臟衰弱)

樟腦油 五〇〇
ストロファンツス丁幾 三〇〇
甘草根末 各五〇〇
アルテア根末 各五〇〇
右混和爲散劑一日間ニ與フ(高熱アル場合ニ強心劑)
ストロファンツス丁幾 二〇〇
杜松實末 五〇〇
アルテア根末 二〇〇
水 適量
右混和爲散劑二回ニ與フ
ストロファンツス丁幾 二〇〇
杜松實末 六〇〇
アルテア根末 適量
右混和爲散劑一日間ニ與フ
硫酸マグネチウム 二五〇
ゲンチアナ根 五〇〇
アルテア根末及水 適量
右混和爲散劑一日三回ニ分與
人工カルルス泉鹽 二五〇

胸疫

吐酒石 二五〇
茴香 各一五〇
亞麻仁 右混和爲散劑五包其一包宛飼料ニ混與
クロールナトリウム 二五〇
礮砂 七五〇
甘草根末 一〇〇
右混和爲散劑一匙量宛麥粉軟塊ニ混與(祛痰劑)
硫酸ナトリウム 適量
クロールナトリウム 各五〇
礮砂 二五〇
甘草根 右混和爲散劑一匙量宛每飼料ニ混與(祛痰劑)
礮砂 五〇
クロールナトリウム 一〇〇
甘草根末及アルテア根末 各五〇

水 適量
右混和爲散劑一匙量宛(祛痰劑)
礮砂 五〇
重碳酸ナトリウム 一〇〇
甘草根 一五〇
右混和爲散劑一匙量宛軟飼料ニ混與(祛痰劑)
テレピンチーナ 三〇〇
テレピン油 一五〇
杜松實末 一八〇
小麥粉 四五〇
水 適量
右混和爲散劑每三時其六分ノ一量(又ハ四分ノ一量)宛與フ(利尿劑)
礮砂 各二五〇
酒石酸カリウム 四〇〇
テレピン油 各二五〇
アルテア根末 適量
右混和爲散劑一日間ニ與フ

四六三

胸疫

テレピン油 各五〇・〇
 甘草根末 七五・〇
 亞麻仁末 二五・〇
 アラビヤゴム漿 二五・〇
 右混和爲散劑一日間ニ與フ(利尿劑)
 樟腦 七・五
 重碳酸ナトリウム 六〇・〇
 ゲンチアナ根 五〇・〇
 小麥粉及水或ハ麵粉 適量
 右混和爲丸劑四個與フ(心臟衰弱)
 芥子油 五〇・八
 酒精 一〇〇・〇
 右混和外用塗擦料トナス
 巴豆油 十滴
 テレピン油 三〇・〇
 右混和外用塗擦料トス但皮膚ノ粗厚ナル馬ニ用フ
 樟腦油 一〇〇・〇乃至二五〇・〇

右皮下注射料トシ一回二〇・〇乃至五〇・〇宛用フ
 サリチール酸ナトリウムカフエイ 五・〇
 右爲溶液皮下注射料一回分
 水 一〇・〇
 サルヴアルサン 三・〇
 〇・一%減菌食鹽水・一五〇・〇
 右完全ニ溶液トナシ「ナトロン」磷汁ヲ加ヘテ弱アルカリ性トナシ血温 三六乃至三八度ニ温メ靜脈内注入
 調劑ノ全處置ハ總テ無菌的ニ行フヘシ(「サルヴアルサン」ノ用量ハ體重四百基瓦以上ノ馬ニハ三・〇、其以下ノモノニハ二・〇トス)
 蘆薈末 四五・〇
 カリ石鹼 一〇・〇
 アルテア根末 適量

四六四

右混和爲大丸劑蘆薈丸トシテ一回ニ與フ(下劑)
 甘朮 一〇・〇
 硫酸ナトリウム 二〇〇・〇
 アルテア根末及水 適量
 右混和爲丸劑四個二日間ニ與フ(下劑・腸管消毒劑)
 甘朮 五・〇
 アルテア根末 二五・〇
 水 適量
 右混和爲大丸劑一回ニ與フ(緩下劑・腸管消毒劑)
 アセトアニリド 一〇〇・〇
 單舍利別 二〇〇・〇
 右混和爲散劑一日三回ニ分與(高熱)
 アセトアニリド 七五・〇
 アルテア根 三〇・〇
 水 適量
 右混和爲大丸劑二―三回ニ分與

(過度ノ發熱)

ヂギタリス葉 一〇・〇
 アセトアニリド 三〇・〇
 アルテア根末及水 適量
 右混和爲丸劑二個毎日一個宛與フ(稽留熱)
 サリチール酸ナトリウムカフエイ 二五・〇
 キナ皮末 五〇・〇
 右混和爲散劑更ニ蜂蜜ヲ加ヘテ散劑トナシ二日間内三回ニ分與ス(心臟衰弱)
 サリチール酸ナトリウムカフエイ 二〇・〇
 餉水 五〇・〇
 右爲溶液必要ニ應シ一〇・〇宛皮下注射(心臟衰弱・肺氣腫)
 クレオソート 一五・〇
 甘草根末 五〇・〇
 アルテア根末及水 適量
 胸疫

右混和爲丸劑三個毎日一個宛與フ(フレイナー氏處方)
 金硫黃 五〇・〇
 人工カルルス泉鹽 二〇〇・〇
 甘草根末 一〇〇・〇
 右混和一匙宛飼料ニ混與
 磷砂 八〇・〇
 食鹽水 二〇〇・〇
 甘草根末 各一〇〇・〇
 アルテア根末 各一〇〇・〇
 右混和爲散劑毎日一乃至三回一乃至二食匙量宛飼料ニ混與
 磷砂 三〇・〇
 アニース實末 各二五・〇
 茴香末 各二五・〇
 水 適量
 アルテア根末 一〇〇・〇
 右混和爲散劑二回ニ分與
 硼砂
 ヨードカリウム

四六五

アニース實 各五〇・〇
 アルテア根末及水 適量
 右混和爲丸劑四個毎日一個宛與フ
 サリチール酸ナトリウム 一五〇・〇
 規那皮末 二五・〇
 甘草根末 適量
 水 適量
 右混和爲散劑毎日其三分一ヲ與フ
 ギギタリス葉末 一〇〇・〇
 赤酒 五〇〇・〇
 右爲溶液頓服
 重曹 一〇〇・〇
 甘朮 二〇・〇―三〇・〇
 泥葛根末 九〇・〇
 右混和爲散劑或ハ振盪合劑トナシ一日間ニ與フ
 硝酸カリウム 二〇〇・〇

胸疫

礮砂 四〇〇—六〇〇
 吐酒石 六〇〇
 右混和砥劑或ハ振盪合劑トシテ 一日ニ與フ
 重曹 一二〇〇
 龍膽越幾斯 三〇〇
 タンニン酸 三〇〇
 右混和砥劑或ハ振盪合劑トナシ 一日間ニ與フ
 次亞硫酸曹達 一二〇〇
 樟腦 五〇—一〇〇
 甘草根末 五〇〇—九〇〇
 土木香根末 用法ハ右ニ同シ(衰弱)
 ギギタリス葉末 四〇〇—一二〇〇
 礮砂 四〇〇
 杜松子末 一〇〇
 右混和砥劑或ハ振盪合劑トナシ 一日二回ニ分服
 テレピン油 一〇〇—二〇〇

麵粉 各適量
 常水 右混和丸劑十個ヲ作り一日間ニ與フ
 鹽酸ピロカルピン 〇・二—一〇・二
 餛水 一〇〇
 右爲溶液皮下注射
 吐酒石 一五〇
 次亞硫酸曹達 一〇〇
 杜松子末 九〇〇
 右混和砥劑或ハ振盪合劑トシテ 一日三回ニ分服
 吐酒石 一五〇
 炭酸カリウム 五〇〇
 テレピン油 二〇〇
 茴香末 五〇〇
 右混和亞麻仁粘汁ニ和シ三時間 毎ニ其三分ヲ與フ
 カフェイン 二〇—五〇
 餛水 一〇〇

四六六

右爲溶液皮下注射(衰弱)
 硫酸アトロピン 〇〇五—一〇〇
 餛水 五〇
 右爲溶液皮下注射(衰弱)
 樟腦 五〇—一〇〇
 甘汞 五〇
 アルテア根末 六〇〇
 右混和爲砥劑一日三回分服(衰弱)
 硫酸鐵 二〇〇—三〇〇
 次亞硫酸曹達 一五〇
 茴香末 九〇〇
 右混和爲砥劑快復期ニ與フ
 鹽酸ヒヨス 一〇〇
 餛水 一〇〇
 右爲溶液二回ニ注射(衰弱)
 醋酸鉛 一五〇
 大黃根末 四〇〇
 右混和粘汁ニ伍シ與フ(一日量)
 硝酸ストリキニーネ 〇〇五

胸腫

餛水 五〇
 右混和皮下注射料(喘鳴) 七五〇
 ホーレル水 一〇〇—二〇〇
 右内服一日量 一〇〇
 巴豆油 二〇滴
 右混和胸壁塗布

テレピン油 七五〇
 右混和兩胸壁ニ塗布
 芥子油 一〇〇
 酒精 一五〇
 右混和胸壁塗布

テレピン油 七五〇
 右熱石上ニ點滴シテ蒸氣ヲ吸入セシム

療法

包裹セラレタル筋膿瘍殊ニ其陳舊ナルモノニ在リテハ藥劑塗布ノ如キ姑息療法ニ據ラスシテ眞ニ手術ヲ斷行スヘシ即腫脹ノ縱軸ニ沿フテ可成大ナル切開ヲ行ヒ順次ニ深部ノ膿竈ニ向ツテ創ヲ深クスヘシ本症ハ通常膿瘍壁非常ニ厚クシテ容易ニ中心部ニ達セサルモノナルカ故ニ截開創ヨリ套管針ヲ刺入シテ略ホ膿竈ノ位置ヲ定ムルヲ宜シトス膿竈ニ達シタレハ出來得ル限リ排膿ニ便ナル様創ヲ擴大シテ「ガーゼ」ヲ挿入シ開放療法トナスヘシ全腫脹部即厚キ包膜ヲ摘出シ縫合スルノ法ハ操作却テ困難ナリトス急性又ハ次急性經過ヲ呈スル普通ノ膿瘍ニ過キサル場合ハ單純切開ヲ以テ足レリトス但要スレハ豫メ濕溫布其他ノ方法ニ依リテ硬性腫瘍ノ化膿及軟化ヲ促進スヘシ胸腫ノ手術トシテ中心部即チ膿竈ニ向ツテ穿刺燒烙ヲ施スノ法アレトモ燒烙針尖カの中ヲ誤マル時ハ奏効セサルモノトス、豫防法トシテハ軛具ヲ改良シテ一層幅廣キ頸環ヲ用ヒ且平滑ナル頸環襻ヲ附シ又ハ全然軛具ノ様式ヲ變換シテ胸革式ハ頸環式トナシ又ハ頸環式ハ却テ胸革式トナスヘシ

ヨード 二〇〇
 ヨード加里 二〇〇
 胸腫 二〇〇—ワゼリン
 右混和ルーゴル氏軟膏トナシ局所刺毛石鹼洗滌後腫瘍部ニ塗擦
 各一〇〇〇〇
 四六七

胸水 Hydrothorax. (羅)

療法 原病ヲ治療スルニアリ窒息ノ危險迫ルトキハ穿胸術ヲ施スヘシ然ルトキハ症狀一時輕快スルモ液ハ再ヒ滯溜ス

- チギタリス浸 二〇〇・三〇〇・〇
- ヂウレチン 各五〇
- ストロファンツス丁幾 各二五〇
- 醋酸加里液・杜松子羔 各二五〇
- 右混和一食匙宛三日間ニ與フ

- 右爲散劑五包飼料中ニ混與(馬)
- 醋酸加里・食鹽 各二〇〇・〇
- 杜松子末 一〇〇・〇
- 右爲散劑每食餌一食匙宛混與(馬)
- テレピン油 二五〇
- 杜松實末 一五〇・〇
- アルテア根末及水 適量

- 右混和爲大丸劑一日内ニ與フ(馬)
- 醋酸ナトリウム 各一〇〇・〇
- 重曹 二〇〇・〇
- 食鹽 三〇〇・〇
- 杜松實末 右混和爲散劑一食匙量宛每飼料ニ混與(馬)

強直症 破傷風 Tetanus. (羅)

療法 醫藥ヨリモ攝生療法ニ最モ重キヲ置キ努メテ病畜ノ興奮ヲ避ケサルヘカラス則チ閑靜ノ潤房ニ放チ日光ヲ遮リ軟褥ヲ敷キ已ムヲ得サレハ吊起帶ヲ施シ滋養物ヲ給スヘシ粗硬ノ食ハ喫スル能ハサルヲ以テ頻々少量ノ青草・麩粥・麥粉湯ノ類ヲ給シ又屢々清水ヲ與フヘシ大ニ發汗スレハ數々毛布ヲ變換シ二便秘滯スレハ直腸ニ手ヲ挿入シテ宿糞ヲ排除シ且膀胱ニ輕壓ヲ加フ小獸ニ於テハ灌腸

ヲ施スヘシ醫藥ハ專ラ麻醉藥ヲ用フ例之抱水「クロラール」ノ灌腸(馬ニハ一回量五〇乃至一〇〇・〇ヲ二回若ハ數回亞麻仁煎ニ混シ灌腸ス)「モルヒネ」ノ皮下注射(馬ニハ鹽酸「モルヒネ」〇・二乃至〇・四)「クロロフォルム」ノ吸入「エーテル」ノ直腸注入(一回量二五乃至五〇・〇)ノ如シ牙關緊急アルカ爲内服藥ヲ投スヘカラス創傷ノ初期消毒・異物除去・傳染部切開・腐蝕等適宜ノ處置ヲ施スヘシ、創傷治療ノ必要アルモ實行スルヲ得サレハ「クロロフォルム」ヲ吸入セシメ麻醉中ニ治療スヘシ、最近硫酸「マグネチウム」(二五%水溶液)〇〇・〇乃至一五〇・〇宛一日二回)及石炭酸(三乃至五%水溶液)二〇乃至三〇・〇ノ皮下注射ヲ推奨スルモノアリ

豫防法 破傷風有毒地ニ於テ創傷(去勢・斷尾・臍「ヘルニア」手術・蹄ノ創傷等)泥土・糞便ニ汚染シ而モ完全ナル消毒ヲ行フ能ハス隨テ本病感染ノ虞アルトキハ血清注射ヲ行フヘシ經驗ニ徴スレハ其量〇・五乃至一・〇(五乃至一〇免疫單位)ノ皮下注射ハ約二箇月以上ニ亘ル豫防ノ効アリ在習志野軍隊ニ於テハ此豫防注射ヲ施セシ以來本病ノ發生ヲ見ス

- ブrooms 水素酸キニーネ 一〇〇
- アンチピリン 三〇〇
- 抱水クロラール 一〇〇・〇
- 亞麻仁煎汁 適量
- 右混和一日二回灌腸(馬) 一五〇・〇
- 臭素加里 右三包ニ分チ每三時一包宛ヲ半
- リートルノ水ニ溶シ灌腸(馬) 〇・二
- 鹽酸モルピネ
- 右爲溶液四回ニ皮下注射(中等大ノ犬) 二〇〇
- 餵水
- 右爲溶液氣管内注射 〇・一六
- クラール 〇・一六
- 右顔面皮下ニ注射 一二〇・〇
- ヨヂピン 一二〇・〇
- 右三日間皮下注射シ五日間休止

強直症

蟻虫 鞏膜創及鞏膜損傷 鞏膜炎 狂犬病

蟻虫 Oxyuris. (羅)

療法 最モ有効ナル療法ハ醋水又ハ石鹼水ヲ數回灌腸シ必要ト認ムレハ二千倍ノ昇汞水ヲ灌注スルコトアリ

| | | | | |
|--------------|---------------|-----------------|---------------|---------------|
| 縮馬根 | 100.00 | 右毎日一回宛灌腸料トス(犬) | カリ石鹼 | 50.00 |
| 右冷水ヲ加ヘテ煮沸濾過シ | | シナ花浸 | (15.00)100.00 | 臭性獸油 |
| 藥用石鹼 | 5.000 | 右灌腸料トス(犬) | | 200.00ヲ |
| 食鹽 | 200.00ヲ | アブシント草 | 80.00 | 加ヘ灌腸料一回分トス(馬) |
| 加ヘ灌腸料トス | | 右水200.00ヲ加ヘテ浸漬シ | | |
| 大蒜球煎 | (10.00)100.00 | 濾過シ更ニ | | |

Wounds and injuries of the sclera. (英)

療法 防腐療法トシテ布片ヲ以テ患眼ヲ纏ヒ消毒藥ニテ之レヲ濕潤シ或ハ點滴法ヲ以テ化膿性全眼球炎ヲ豫防スヘク眼球ニ對スル強壓力ハ努メテ避クヘシ故ニ診查ノ際ニモ強壓ヲ加フヘカラス、脈絡膜ノ脫出スル場合ニハ之レヲ還納シ久キヲ經タルモノハ切除ス大創傷ニアリテハ縫合ヲ行フ

鞏膜炎 Scleritis. (羅)

療法 溫卷法及「アトロピン」點眼・劇性ニハ局所放血内服「サリチール」酸末期ニハ按摩法ヲ賞用ス

狂犬病 Rabies (羅)

豫防法

本病ハ發病ノ後治療ヲ施スモ無効ナリ故ニ豫防ニ重キヲ置カサルヘカラス狂犬ニ咬レタルトキハ其咬傷部ニ烙鐵ヲ施シ或ハ硝酸・硫酸等ヲ以テ之ヲ腐蝕スヘシ又狂犬ニ咬レタルトキハ豫防接種ヲ行フヲ確實ノ方法トス之ニハ種々ノ方法アリ(一)バスタール氏法(Pasteur) 人工的ニ感染セシメタル家兎ノ脊髓ヲ乾燥ニ依リテ毒力ヲ弱メ之ヲ接種素ニ供スル法ナリ自然ニ感染シタル患犬ノ病毒(街上毒)ハ家兎ヲ通過セシムルニ從テ毒力漸次増強シ終ニハ最強度ニ達シテ其力一定不變トナリ且其後ニ何程ノ家兎ヲ通過セシムルモ其力ヲ保持ス(固定毒)此ノ如クシテ得タル固定毒ヲ以テ家兎ヲ感染セシメ、其死スルニ先チテ之レヲ殺シ脊髓ヲ取り出シ苛性曹達ヲ盛レル罐内ニ懸垂シテ乾燥セシム乾燥ノ日數長キ程毒力ハ弱ルナリ故ニ先ツ其最弱キモノ(十四日乾燥苗)ヲ接種シ次テ毎日一日宛乾燥日數ノ少キモノヲ接種シ最後ニ三日乾燥苗又ハ一日乾燥苗ニ至ル、傳染病研究所ニテハ此方法ヲ改良シ第五日苗以上ノ強毒ヲ使用ス (II)ヘギエス氏法(Hogyes) 新鮮ナル強毒脊髓乳劑ヲ生理的食鹽水ヲ以テ五千倍・二千倍・五百倍・二百倍・十倍ニ稀釋シ先其最モ稀釋ナルモノヨリ始メテ皮下ニ接種ス此法ハ犬及馬ニ適シ營ニ感染前ノミナラス感染後即チ己ニ咬傷ヲ愛ケタル動物ニモ有効ナリ (III)サルチエール氏法(Saltier) 狂犬病犬ノ延髓(街上毒)ヲ乳劑トナシ之ヲ稀釋シ次テ濾過シ毎二日ヲ隔テ靜脈内ニ注入ス此法ハ殊ニ反芻獸ニ適スト云フ (四)免疫血清 狂犬病毒ヲ綿羊・犬又ハ馬ニ接種シテ製ス然レトモ其豫防力ハ疑ハシ免疫血清ト固定毒トノ共働接種ハ之ヨリモ稍々有効ナルカ如シ

獸醫警察法

本病ノ豫防法トシテ獸醫警察法ヲ勵行シテ野犬ヲ撲殺シ又畜犬稅ヲ課シテ犬頭數ヲ明ニシ狂犬ハ發見スルヤ直ニ之ヲ撲殺スヘシ犬ニ口網ヲ裝スル方法ハ實行困難ナル如シ又近時犬

狂犬病

疆梗 翹蹄 局限角膜葡萄腫 局所麻痺 舉踵

ニ豫防注射ヲ行フ

疆梗 Catalapsia. (羅)

療法 「モルヒネ」ノ皮下注射・臭素加里ノ内用・冷水灌注・電氣療法ヲ試ムヘシ

翹蹄 Pied rampin. (佛)

療法 連尾鐵ニテ蹄又ニ體重ヲ負ハシム必要ニ應シテ之ニ革底ヲ加フヘシ又蹄踵負縁ニハ鐵上間隙ヲ存シ下釘ハ蹄尖部ニ於テス

局限角膜葡萄腫 Staphylococci corneae partiale. (羅)

全角膜葡萄腫參照

局所麻痺 Monoplegia. (羅)

療法 局所麻痺ハ體ノ一部ノ麻痺ニシテ腦ノ或部局ノ病變ニ基クテ以テ其原因ヲ探究シ之ニ對スル療法ヲ施シ對症療法トシテ麻痺ノ一般療法ヲ施ス(麻痺參照)

舉踵 Pied à talons inégaux. (佛)

療法 裝蹄法ハ過高部ヲ十分ニ削除ス裝着宜シキヲ得タル半月狀鐵及連尾蹄鐵ハ固ヨリ卓効アレトモ合理的純良ナル尋常ノ裝蹄ニシテ能ク之ヲ治スルニ足ル外向蹄ノ内舉踵ハ外蹄尖及内蹄踵ヲ多削シ眞個ノ外向蹄タラシムルニアルヲ以テ削蹄ハ敢テ困難ナラサルモ新削面ノ平垣ナラサルカ爲メ

蹄鐵ノ適合頗ル困難トナリ未熟無識ノ工手ノ如キハ到底其効驗ヲ期スルヲ得ス舉踵ノ甚シキモノニアリテハ十分ニ矯正ノ削蹄ヲ行ヒ蹄鐵ノ適合完全ヲ得ルノ後再舉上ノ蹄踵負縁ニ鐵ヲ加ヘ第一釘孔ノ直下ヨリ漸次後方ヲ削リ蹄踵ノ後端ニ至リ蹄ト鐵トノ間ニ三―五密突ノ間隙ヲ生スルニ至ラシメ而後蹄踵ヲ釘着スレハ裝蹄ノ直後既ニ此間隙ノ大半ヲ填實スルニ至ルヘク數日ヲ經ルニ至リ蹄踵ハ全ク鐵面ニ接着スルニ至ルヘシ世間ニ於テ往々見ルカ如ク削蹄法ニ矯正ヲ加ヘス徒ニ蹄踵ニ少度ノ間隙ヲ設クルカ如キハ寧ろ害アルモ其効アルコトナシ、内舉踵ノ輕キモノニアリテハ精巧ナル外踵ニ比シテ一珊迷突ヲ超ヘス角質ニ變化ナク蹄踵ノ狹窄甚シカラサルモノニアリテハ精巧ナル一回ノ矯正裝蹄ハ以テ能ク之ヲ醫スルニ至ルヘシト雖變形既ニ久シキヲ經テ組織ノ變狀ヲ來セルモノニアリテハ共ニ蹄骨枝ヲモ變形セシメ一時ニ過長部ヲ削除スルコトヲ得スシテ往々過削ノ出血ヲ生シ或ハ同時ニ火傷又ハ壓鐵等ノ不慮アルヲ以テ之カ全治ニハ二三回ノ改良裝蹄ヲ要スヘシ蹄又甚タ萎縮スルモ腐爛ノ重カラサルモノハ患部ヲ清洗防腐スル後連尾蹄鐵ヲ裝シ蹄又ノ間隙ニハ假蹄膠ヲ填充シ以テ其發育ヲ促スヘク腐爛ノ甚タシキモノハ平常交換シ得ヘキ填底法ヲ施シ日々患部ヲ清淨防腐スヘシ總テ蹄又部ノ填實法ハ能ク蹄又ノ發育ヲ促シ從テ狹窄セル舉踵ヲ擴張スルニ著効アリ

牛 虻 Oestrus bovis. (羅)

療法 畜牛ノ營養ヲ障碍シタルトキハ滋養易化ノ飼料ヲ與ヘ且内服トシテハ強壯劑ヲ投スヘシ又牛體上部ノ結節ハ之ヲ切斷シテ蠟子ヲ以テ幼蟲ヲ摘出シタル後稀薄ノ消毒藥液ヲ以テ洗滌スルヲ良

牛虻

毒藥容器一・二個・手洗鉢・小卓又ハ臺・毛刈鋏・布片手巾・注射器・注射針・血清容器・消毒盤等ハ使用ニ臨ミ毎回二十倍ノ石炭酸水ヲ用ヒ又ハ煮沸シテ嚴密ナル消毒ヲ要ス (一) 注射器及注射針ヲ消毒スルニハ豫メ消毒盤ニ盛リタル二十倍ノ石炭酸水ヲ吸入スルコト數回ニシテ石炭酸水ヲ吸ヒ入レタルマ、消毒盤ノ石炭酸水中ニ約三十分間浸シ置キ後之ヲ注出シテ煮沸冷却セル水ヲ用ヒ内部ニ殘レル石炭酸水ヲ洗ヒ去ルヘシ血清注射中ハ時々石炭酸水ヲ含メル布片ヲ以テ注射器及注射針ノ外部ヲ淨拭スヘシ他ノ容器ノ消毒法モ右ニ準ス

血清取扱法 血清ハ必ス冷暗乾燥ノ場所ニ貯フヘシ血清ヲ注射スル際ニハ可ル可ク赤色又ハ黑色ノ布片ヲ以テ容器ヲ覆ヒ光線ヲ遮ルヲ要ス一回栓ヲ抜キタル瓶内ノ血清ハ保存ニ耐ヘサルヲ以テ成ル可ク即日使用シ盡スヲ可トス

豫防血清量

| | | |
|------------------------------|------------------|----------------|
| 成牛 | 大(體重一〇〇貫以上ノモノ) | 二〇〇〇 |
| | 中(體重八〇―九〇貫以上ノモノ) | 一五〇〇 |
| | 小(體重六〇貫) | 一〇〇〇 |
| 但種牡牛ノ如キ體格偉大ナルモノハ本標準量ニ依リ増量スヘシ | | |
| 犢 | 大 | 八〇〇 |
| | 小 | 五〇〇 |
| | | c.c. c.c. c.c. |

右ノ用量ハ一時ニ注入スルモノトス之ヲ治療制過ノ用ニ供セントセハ約倍量以上ヲ使用スヘシ但一般症候ヲ發現シ時日ヲ經過シタルモノニハ應用スヘカラス

注射法 (一) 血清瓶ヲ開口スルニハ先ツ二十倍石炭酸水ニ浸セル布片ニテ瓶口ヲ消毒淨拭シ「バラフィン」ヲ去リ尚ホ一回淨拭シタル後注意シテ栓ヲ抜キ其血清ヲ消毒セル容器ニ移スヘシ但血清ニハ多少ノ沈澱アルヲ以テ栓ヲ抜ク前ニ能ク振盪スヘシ (二) 注射部位ハ頸側若ハ背側ノ皮下ヲ使トス豫メ剪毛シ二十倍ノ石炭酸水ヲ用ヒテ其部ヲ消毒シタル後注射スヘシ注射針ヲ抜キタル後尚一回注射部ヲ消毒スルヲ可トス

血清注射應用概要 (一) 牛疫血清ハ毫モ危險ナキ有力ノ豫防液ナレトモ單ニ之ニ依頼シ須要ノ豫防消毒ヲ怠ルヘカラス (二) 牛疫發生シ未タ感染ノ危險ナキ地ト認メタルトキハ豫防量ヲ使用スヘシ (三) 牛疫發生シタル附近又ハ流行地方ニ於テハ假令牛疫ノ症候ヲ呈セサルモ己ニ牛疫ニ感染シ潜伏期中ノモノナキニ非ルカ故ニ此ノ如キ區域ニハ前記豫防倍量以上ノ血清ヲ用フルモノトス (四) 前二項ノ場合ニ於テハ往々治療應用ニ移ルコトアルヲ以テ其際ニハ治療牛ノ一般狀態ニ留意シ應急ノ處置ヲ怠ルヘカラス

獸醫警察法 牛疫ハ傳播猛烈ナル傳染病ナルヲ以テ獸醫警察法ノ勵行ヲ要ス即チ外國ヨリ牛疫ノ侵入ヲ豫防セン爲ニハ或ハ有病地ヨリ生牛・皮革其他副産物ノ輪移入ヲ禁止シ又ハ輪移入港ニ行フ海港檢疫ヲ施行シ少クトモ二週間生牛ヲ繫留觀察シ病毒汚染ノ虞アル物體ニハ消毒ヲ行フ疫病一度發生セハ畜牛及反芻獸ノ移動ヲ停止シ告示ヲ發シテ一般ニ警戒ヲ與ヘ其他隔離・消毒・交通遮斷・撲殺・健康診斷・豫防注射等ヲ行フ

急痾 急性腦膜腦炎

急痾 Eclampsia. (羅)

四七八

療法

臭素加里・「モルヒネ」・抱水「クロラール」等ノ麻醉藥ヲ用フ

急性腦膜腦炎

Meningo-encephalitis acuta. (羅)

療法

先ツ患畜ヲ靜穩冷涼ノ廣キ厩舎ニ容レ日光ヲ遮リ風ヲ通シ茲ニ自由ニ運動セシム、犬ハ人或ハ他犬ヲ咬ムコト能ハサル犬房ニ移スヘシ草食獸ニハ良乾草・根菜類又ハ新綠草ヲ與ヘ時々麩粥ヲ給ス肉食獸ニハ牛乳・「スーブ」又ハ細挫生肉ヲ與フ且「ブランデー」又ハ葡萄酒ハ妙ナリ、患畜若シ自ラ食ヲ攝ヲサレハ之ヲ口内ニ投入スレハ食ス神經細胞營養ノ目的ヲ以テ馬ニ「レチヂン」〇・五―一・〇(豫メ酒精溶液トナス)ヲ含有スル水又ハ食鹽水ヲ注射ス内服藥トシテ鹽類下劑・蓖麻子油・甘汞(犬〇・三―〇・四)ヲ與フルモ若シ咽頭麻痺アレハ胃「カテーテル」ヲ用ヒテ投藥スヘシ其他冷水又ハ氷ヲ以テ頭蓋ヲ冷却シ腦血壓ヲ減スル爲「ピロカルピン」(馬〇・二―一・〇・四)又ハ「アレコリン」ノ皮下注射ヲ行フ炎症滲出物ヲ吸收スルヲ以テ「ヨード」加里ノ内服(大動物一〇〇―一五〇小動物一―二・〇)亦可ナリ不安甚タシケレハ抱水「クロラール」ノ灌腸・「モルヒネ」ノ皮下注射ヲ行フ

樟腦油

一日數回 一〇―二〇〇宛皮

水

右爲低劑與フ(馬ノ昏呆)

適量

アルニカ丁幾

各一五〇〇

炭酸アムモニウム

三〇〇〇

アレコリン

右爲低劑與フ(馬ノ昏呆)

〇・五

デギタリス葉末

各八〇〇

白蔘根

六〇〇〇

右爲溶液皮下注射十回量(牛・馬)

一〇〇〇

甘汞

各八〇〇

亞麻仁

一〇〇〇

テレピン油

適量

アルテア根末及水

適量

右混和爲丸劑二日間三回ニ分與(馬)

巴豆油

二〇〇滴

減菌食鹽水(〇・六%)

一五〇〇

右散劑六包ニ分チ毎日一乃至二

包宛卵黃ニ和シテ與フ(犬)

テレピン油

各三〇〇

鹽酸モルヒネ

〇・一

ヒブノン

一〇〇〇

亞麻仁油

右混和頸部ニ塗擦(馬)

犬ノ犬瘟熱性腦膜炎)

一〇〇〇

アラビヤゴム漿

各七五〇

鹽酸ピロカルピン

〇・六

ウレタン

五〇〇

右混和毎日二乃至三回一食匙量

宛與フ(中等大ノ犬)

餽水

右爲溶液皮下注射料一回分(馬)

白糖

〇・五

一包宛與フ(中等大ノ犬)

レチヂン

〇・五―一・〇

球睫軟腫

Wind galls. (英)

球睫軟腫

球節軟腫

Fetlock galls. (英)

滑液膜炎參照

丘疹

Papula. (羅)

發疹參照

髻甲腫

Fistulous withers. (英)

球睫軟腫

球節軟腫

丘疹

髻甲腫

四七九

療法 鞍傷ノ條下ニ述ヘタル如ク本病ハ脊椎棘突起ノ頂ニアル粘液囊ノ炎症ニシテ其囊内ニ漿液性若ハ血液性滲出物ノ滯溜シテ腫起シタルモノニシテ濫リニ切開スルトキハ「フレグモーン」瘻管・壞疽等ヲ起スニ由リ充分消毒防腐ヲ嚴ニシ「プラバート」注射器ヲ挿入シテ内容液ヲ吸取シ割口ハ「ヨードフォルムコロヂウム」ニテ塞ク或ハ溫罨法・按摩・刺戟藥ノ塗布等ヲ施シ自然ノ吸收ヲ促スヘシ其他粘液囊腫ノ一般療法ニ從フヘシ(鞍傷參照)

寄生性氣管支肺炎

肺蟲疫

Bronchitis et bronchopneumonia verminosa. (羅)

療法

殺蟲藥ノ氣管内注射ヲ良法トス即チ「テレピン」油・「タール」製劑・石炭酸(一%石炭酸水二〇—五〇〇ヲ羊ニ注入)等ヲ用フ又「クレオソート」二〇分苦扁桃油百分ノ合劑五〇ヲ犢ニ四日間注入シ「ピクリン」酸加里〇・一%二〇—六〇〇ヲ犢ニ注入シ良効ヲ得タル實驗アリ注入ニ代フルニ藥液ノ噴霧ヲ患畜ヲシテ吸入セシムル法アリ此法ハ藥液ヲ深部ニ進入セシムルニ便ナリ又刺戟性燻烟或ハ瓦斯吸入モ効アリ此法ハ角片・「タール」・臭性獸油等ヲ灼熱セル鐵板上ニ載セ密閉セル室内ニ患畜ヲ容レテ燻烟ヲ吸入セシム又ハ「テレピン」油ヲ蒸發スル迄熱シ其蒸氣ヲ吸入セシム患畜ニ右ノ瓦斯又ハ蒸氣ヲ吸入セシメテ咳嗽ヲ連發セシム治療中病畜ニハ滋養ニ富メル食ヲ與ヘ以テ營養ノ衰憊ヲ防止スルコト必要ナリ

豫防法

低濕沮湖ノ牧場ヲ避ケ霖雨ノ季節ニハ幼獸ヲ殊ニ保護スヘシ本病流行地方ニ於テハ牧場ニ動物ヲ放ツ前ニ飲水ヲ與ヘ牧場ニ於テ水ヲ飲マシメサルヲ可トス患畜ノ喀痰・糞便・臥藁ハ滅却ス

ヘシ羊群ニ本病發生スレハ幼羊ヲ其群ヨリ隔離ス其他畜舎及水與場ハ消毒ヲ行フ

| | | | | | |
|----------------|-------|----------------|---------|-----------------|-------|
| テレピン油 | 各一〇〇〇 | クレオソール | 五〇 | 宛與フ(羊) | |
| オレーフ油 | 各一〇〇〇 | 右混和氣管内注射用 | | アブシント草 | 各二〇〇〇 |
| クレオソール | 一〇〇 | 硝酸銀 | 一〇 | 光澤烟煤 | 各二〇〇〇 |
| 右混和羊ニハ其五〇・犢ニハ一 | | 餽水 | 一〇〇—一五〇 | テレピン油 | 五〇〇 |
| 五—二〇〇ヲ二回氣管内注射 | | 右爲溶液一〇〇宛三日間ニ氣 | | 硫酸鐵 | 二五〇 |
| 丁香油・テレピン油各五〇 | | 管内注射 | | 右混和毎日三〇〇宛與フ(仔 | |
| 石炭酸・カヂニン油 | 各一〇 | 臭素加里 | 二—五 | 豚) | |
| 右混和犢ニ一回一〇〇宛注射 | | 清水 | 一〇〇 | クレオソート | 一〇 |
| 液狀パラフィン | | 右爲溶液毎日三回二〇〇宛蒸 | | 稀酒精 | 一 |
| テレピン油 | 各一〇〇 | 氣吸入 | | 餽水 | 各五〇 |
| 丁香油・石炭酸 | 各二〇 | クレオソート | 五 | 右爲溶液フリック氏注射器ヲ用 | |
| 右混和犢ニ毎日一〇〇宛四日 | | テレピン油 | | ヒテ連續三日間氣管内注射(牛) | |
| 連用 | | オレーフ油 | 各一〇〇 | クレオソート | 二〇 |
| オレーフ油 | | 右混和五〇宛氣管内注射(羊) | | 苦扁桃油 | 一〇 |
| テレピン油 | 各一〇〇 | 木タール | | 右混和五〇ヲ氣管内注射尙四 | |
| 石炭酸・臭性獸油 | 各二〇 | 硫酸亞鉛 | 各五〇 | 日宛ノ間隔ヲ設ケテ二〇宛 | |
| 右混和一〇〇宛三日間氣管内 | | タナセツム草 | | 數日間連用(犢) | |
| 注射 | | アブシント草 | 各一〇〇 | 臭性獸油 | 六〇 |
| 油・テレピン油 | 各一〇〇 | 右混和更ニ碾割麥ニ混シ一匙量 | | 阿魏 | 三〇 |

寄生性氣管支肺炎

筋萎縮 筋肉短縮 筋癱瘓質斯

亞麻仁汁 五〇〇・〇

右混和毎日二量匙(羊ニハ一匙量)宛與フ(犢)

ピクリン酸カリウム 〇・一%

右五〇〇・〇ヲ氣管内注射(牛)

ピクリン酸カリウム 〇・一

餵水 五〇〇・〇

右爲溶液其五・〇ヲ氣管内注射

ピクリン酸カリウム 〇・二

餵水 一〇〇〇・〇

右爲溶液其四〇〇・〇—五〇〇・〇宛

内用(右同)

石炭酸一%

右二〇〇・〇宛氣管内注射(牛)羊ニハ五・〇宛

筋萎縮

筋瘦削

Atrophy of the muscle. (英)

療法

器械的動作ノ按摩法ハ營養ヲ調節スル有効ノ法ナリ不働性萎縮ハ該法ニ依リテ全ク治療セラルルヲ得ヘシ他ノ萎縮ニ於テモ病機ヲ歇止スルヲ得

筋肉短縮

Contraction of the muscle. (英)

療法

短時間ニ發シタル短縮ハ例之骨折ニ於ケル繃帶ノ除去等ニ由リ消散シ又小動物ニ於テ他働的伸張ニヨリテ常態ニ復歸セシムルヲ得經久セル短縮ハ唯手術ニ依ルノ外途ナシ即截筋術ニヨル然レトモ該手術ハ稀ニ用ヒラルルニ過キス

筋癱瘓質斯

Rheumatismus musculorum. (羅)

療法

病カ一小部ニ限局スルトキハ皮膚刺戟劑(樟腦・石鹼精・芥子油ノ酒精溶液)ヲ塗擦シテ按摩

ヲ施シ其後卷法又ハブリースニツツ氏卷法ヲ行フ、發汗療法亦効アリ其法ハ大動物ニハ全身ニ溫濕布ヲ纏ヒ小動物ハ溫蒸氣浴ヲ爲サシム馬ニハ鹽酸「ピロカルピン」(〇・二—〇・五)ノ皮下注射ヲ賞用ス本病ニハ「サリチール」酸及其鹽類ハ良効ヲ奏ス又「ザロール」・「ザリピリン」・「アンチピリン」・「ア」ンチヘブリン」・「キニーネ」モ亦効アリ馬ノ慢性頑固ノ肩胛癱瘓質斯ニハ「ヴェラトリン」(〇・〇五—〇・一)ヲ皮下注射ス然レトモ「モルヒネ」ト「アトロピン」ノ合劑注射ハ致死的疼痛ヲ誘起スル虞アルヲ以テ用フヘカラス

クロロフォルム

樟腦油 各五〇・〇

右混和塗擦

酒精 三〇〇・〇

テレピン油 一〇〇・〇

右外用塗擦(馬)

サリチール酸曹達 一〇〇・〇

茴香末・甘草末 各五〇・〇

小麥粉 適量

右爲紙劑馬ニ三回分與

鹽酸ピロカルピン 〇・五

餵水 一五・〇

右爲溶液皮下注射

筋癱瘓質斯

ザロール

右爲一包其十包ヲ作り一日三包宛與フ(犬)

サリチール酸曹達 一〇〇・〇

甘草末 二五・〇

アルテア根末及水 適量

右調合爲紙劑每三時其三分一ヲ與フ(馬)

サリチール酸曹達

アルテア根末 各一〇〇・〇

右混和爲散劑四包ニ分チ每三時一包宛水ニ和シ振盪合劑トシテ與フ(牛)

サリチール酸曹達

アルテア根末 各一〇〇・〇

右混和爲散劑四包ニ分チ每三時一包宛水ニ和シ振盪合劑トシテ與フ(牛)

サリチール酸曹達

アルテア根末 各一〇〇・〇

(馬ニハ紙劑トシテ與フ)

サリチール酸 五〇・〇

ラノリン 五〇・〇

右混和塗擦料トナス(犬)

アスピリン

白糖 各〇・五

右爲散劑一包其五包ヲ作り二日間ニ分與(犬)

ロイマチン

白糖 五・〇

右混和散劑五包ニ分チ二日間ニ分與(犬)

アスピリン

白糖 二・五

アスピリン 三・〇

筋創傷

白糖 一〇〇〇
 右混和爲散劑十包ニ分チ毎日三
 包宛與フ(犬) 一五〇〇
 ザロール 一五〇〇
 右一回量トシ毎日二回飲料ニ混
 與(馬)
 フェナセチン 各三〇〇
 ザロール 二〇〇
 カフェイン 二〇〇
 右混和爲散劑八包ニ分チ毎四時
 一包宛與フ(犬) (小犬ニハ半
 包宛與フ)
 吐酒石 一〇〇〇
 餾水 一五〇〇
 右爲溶液一日三回飼料ニ混與
 (馬・牛)
 プローム水素酸アレコリン

餾水 〇〇八
 右爲溶液皮下注射(馬ノ誘導劑) 八〇〇
 プローム水素酸アレコリン 〇〇一
 餾水 一〇〇〇
 右爲溶液每三十分皮下注射、三
 回分(馬ノ分泌機能催進劑)
 食鹽溶液(一〇%) 二〇〇〇
 右注射料トス(症狀頑固ナル場
 合)
 アンチピリン 五〇〇
 餾水 一〇〇〇
 右爲溶液每三時一食匙量宛與フ
 (犬ノ發熱)
 硫酸アトロピン 〇〇五
 鹽酸モルヒネ 〇〇二五
 餾水 二〇〇〇

四八四

右混和一日三回皮下注射(馬)
 阿片丁幾
 サリチール酸 各一五〇〇
 クロロフォルム 二五〇〇
 酒精 一〇〇〇〇
 オレーフ油 三〇〇〇
 右混和塗擦料トス
 クロロフォルム
 亞麻仁油 各二五〇〇
 右混和患部ニ塗擦

筋創傷

Wounds of the muscle. (英)

療法

創傷ヲシテ外氣ノ刺戟ヲ避ケシムルヲ要ス先ツ創内ヲ清潔ニシ異物ヲ除去シ防腐液ニテ洗

滌シ「ヨードフォルム」或ハ「タンニン」ヲ創面ニ撒布ス之ニ依リテ黑色ノ痂皮ヲ形成シ化膿ナクシテ癒合ス化膿ヲ發スレハ切開反對孔ヲ設ケ串綿或ハ排膿管ヲ裝シ分泌液ノ排泄ヲ流利スヘシ又時トシテハ定位縫合ヲ用フルコトアリ要スルニ筋肉創傷ノ療法ハ困難ナラス廣大ナル組織ノ分裂例之挫創ニ於テモ出血甚タシカラス

筋劇伸及破裂

筋裂

Sprain and rupture of the muscle. (英)

療法

安靜及破裂端ヲ接着セシムルハ療法ノ本旨ナリ按摩ニヨリ溢血ノ吸收ヲ促シ破裂セル筋肉ヲ縫合シ或ハ筋肉塊ノ移植術ハ動物ニアリテハ無効ナリ

筋膜破裂スレハ筋實質ハ其ノ裂孔ヨリ突出ス之レヲ筋「ヘルニヤ」(Muscle-hernia)ト稱ス馬ノ後肢ニ於テ時トシテ目撃ス筋「ヘルニヤ」ハ創傷ヲ合併シ筋脫出ヲ發シタルトキ始テ緊要ナル關係ヲ生ス

筋炎

Myositis. (羅)

療法

筋炎ノ療法ハプリースニツツ氏電法及按摩法トス末期ニハ強烈ナル皮膚刺戟及「ヴェラトリン」ノ皮下注射ヲ用フ僂麻質患筋ノ輕度ノ運動ハ病機ノ經過ヲ善良ナラシム往々用フル「ピロカルピン」ハジイダムグロツキー氏ニ據レハ何等ノ効用ナシト云フジエームス (James) 氏ハ馬ニ「サリチール」酸四五〇ヲ用ヒテ良好効ヲ見タリ

筋挫傷

Contusion of the muscle. (英)

療法

挫傷尙新鮮ニシテ吸收消散ノ期望アレハ濕溫電法ヲ行フ緊張甚シケレハ脛ノ後緣ニ於テ皮

筋劇伸及破裂 筋炎 筋挫傷

筋腫 膿息肉 膿炎 膿腫瘍

四八六

膚最モ菲薄ナル部ヲ外科刀或ハ烙鐵ニテ穿孔シ内容物ヲ排除スヘシ皮膚厚キトキハ烙鐵ヲ費用ス穿孔後ハ内容ヲ全ク排除シ普通ノ創傷療法ニヨレハ肉芽ヲ發生シテ癒ユ發熱或ハ膿毒症狀ヲ呈スレハ直ニ膿瘍ヲ切開排除スヘシ

筋腫 Myoma. (羅)

療法 良性腫瘍ニシテ臨牀上必要少ナシ

膿息肉 Epulis. (羅)

療法 銹或ハ刀ヲ以テ息肉ヲ切除シ或ハ硝酸銀ノ腐蝕ヲ行ヒ或ハ「ヨード」丁幾ヲ塗布ス出血若ハ潰瘍アレハ濃厚ナル腐蝕藥ヲ塗布ス

齦炎 Gingivitis. (羅)

療法 齒石ヲ除去シ患齒ヲ拔去ス拔齒ハ容易ナリ大動物ニハ特別ノ拔齒鉗子(ギユンター氏)ヲ用ヒ小動物ニハ人醫用ノモノヲ代用ス拔取後ハ日々「クレオリン」・硼酸水・明礬水・過「マンガン」酸加里液ニテ齒槽ヲ洗滌シ潰瘍面ニハ蘆薈丁幾及沒藥丁幾ノ合劑ヲ塗布シ齒窩ニハ消毒液(「クレオソール」液)ヲ綿ニ浸シテ填塞スヘシ

齦腫瘍 Tumors of the gingiva. (英)

療法 腫瘍ハ切除スヘシ但シ位置ニヨリ手術ニ困難ナリ施術ハ疼痛甚シキ故ニ全身迷朦ヲ用ヒ外科刀或ハ銳匙ヲ以テ出來得ル限リ腫瘍ヲ切除削除スヘシ或ハ白熾烙鐵ニテ燒烙スバクエリン氏燒烙裝置ヲ用フルヲ便トス

烙裝置ヲ用フルヲ便トス

菌腫 Champignon. (佛)

療法 菌腫ハ銹切或ハ烙切或ハ結紮或ハ腐蝕藥ニテ切除腐蝕ス其手術式ハ先ツ縫線ヨリ約一・二仙迷突ヲ隔テテ體ノ中軸ニ沿フテ十乃至十五仙迷突ノ長サニ前ヨリ後ロニ横切ヲナシ次テ其中心ヨリ鼠蹊ニ向テ八乃至十五仙迷突ノ縱切ヲナス故ニ恰モ倒丁字形ナリ續テ前後創唇及縫線附近ニ深く結束糸ヲ通シ以テ手術間ハ創唇開張ノ用ニ供シ手術終レハ所謂結紮或ハ包攝縫合ノ用ヲナス、此ノ如ク用意整フトキハ術者ハ瘻口圍ヨリ數仙迷突ノ部即チ皮樣膜ノ稠密部ハ之ヲ刀切シ已ニ鬆粗ナル部ニ達スレハ努メテ破切ヲ實行シ刀ヲ使用セサルヲ可トス是レ陰莖部附近ハ巨大ノ靜脈叢ニ富有ナルカ故ナリ十分ニ菌腫顯ハルルトキハ之ヲ切除ス是ニハ結紮法・烙鐵法・絞斷法アリ便宜撰用スヘシ烙鐵法即燒斷法ヲ宜シトス

銜傷 受銜部損傷 Contusion by the bit. (英)

療法 銜傷ハ假令骨質ノ侵サレタル場合ト雖一般ニ豫後良トス無菌性銜傷ハ一般ニ銜ノ裝著ヲ中止スルノミニシテ治癒スルモ染毒性銜傷ハ消毒防腐ヲ必要トス輕症ナルモノハ毎採食後二%明礬水或ハ二%「クレオリン」水ヲ以テ口内ヲ洗滌シ創内ニ食物ノ嵌留スルヲ防キ尚患部ニ「ヨード」丁幾ヲ塗布スヘシ稍々重症ニアリテハ腐骨部ヲ搔爬シ或ハ腐骨片ヲ除去シタル後栓塞子ヲ填充シテ毎日之ヲ交換スヘシ重症ニシテ下顎骨ノ化膿性炎症ヲ發シ或ハ下顎骨瘻トナレルモノハ下顎骨ノ下緣即

菌腫 銜傷

四八七

「メイボーム」腺炎 脈絡膜炎 眠狂 耳漏

四八八

瘻管部ヲ開鑿シテ所謂瘻管療法ヲ講スヘシ凡テ治療中ハ絶對ニ銜ノ装着ヲ禁スヘシ、豫防法トシテハ常ニ先ツ普通ノ大勒又ハ小勒ヲ廢シテ代フルニ護謨又ハ革ヲ以テ包ミタル圓キ太キ且輕キ銜ヲ以テシ或ハ中央ニ關節ヲ有スル大勒ヲ用フヘシ其他屢々受銜部及銜ヲ検査スヘシ

「メイボーム」腺炎 Meibomitis. (羅)

療法 初期ハ冷湯化膿ヲ發スレハ切開ス

脈絡膜炎 Chorioiditis. (羅)

療法 原因ヲ除去ス若シ異物存在スレハ直ニ之ヲ除ク疼痛甚タシケレハ麻醉藥器法及「コカイン」點眼ヲ賞用ス光線ノ遮斷及「アトロピン」ノ點眼ヲ施ス是レ「アトロピン」ハ脈絡膜炎ニ於テ最モ忌ムヘキ虹彩及毛様體ノ運動ヲ制止スル効アレハナリ豫防法トシテ眼球創傷・虹彩或ハ毛様體炎ノ諸症ニ遭遇セハ須ク先ツ其炎症作用ノ脈絡膜ニ波及スルヲ防クヘシ

眠狂 Dummkoller. (獨)

慢性腦水腫參照

耳漏 Otorrhoea. (羅)

療法 膿汁ヲ漏出シ聽道皮膚上ニハ肉芽發生シ時々顚顚骨疽ト併發ス又鼓膜ノ穿孔内耳炎ヲ見ル消毒收斂藥(藥液又ハ粉末)ヲ處シ肉芽ハ腐蝕ス其他外聽道炎ノ療法ニ從フ

タンニン酸 五・〇一酒精

二五〇〇一 右爲溶液滴耳用

| | | | | | |
|---------|------|------|------|--------|------|
| クレオリン | 三〇〇 | 酒精 | 三〇〇〇 | 右同上 | 二五〇〇 |
| 酒精 | 三〇〇〇 | 右同上 | | | |
| 右爲溶液滴耳用 | | ザロール | 五〇〇 | 硼酸 | 〇・五 |
| 石炭酸 | 三〇〇 | 酒精 | 二〇〇〇 | クレオリン | |
| | | | | 右耳内吹入藥 | |

耳下腺炎 Parotitis. (羅)

療法 ブリースニツツ氏器法ヲ行フ(單冷水ノ代ニ石炭酸水ヲ用フ)尙吸收ヲ促ス爲軟膏(一〇%「ヨード」加里軟膏・一〇%樟腦軟膏・水銀軟膏)ヲ塗擦ス膿瘍ハ切開ス、慢性腫脹ニ對シテハ「ヨード」丁幾、芫菁軟膏・赤複「ヨード」秉軟膏ノ塗布・「ヨード」丁幾又ハルーゴル氏液ノ注射ヲ行ヒ「ヨードカリウム」ヲ内服セシム(「ヨード」療法ハ殊ニ牛ノ放線菌病ニ特効アリ)

| | | | | | |
|--------------|------|-----------------|-----|----------|-----|
| 灰白水銀軟膏 | 各二五〇 | 石炭酸 | 三〇〇 | ヨードカリウム | 各三〇 |
| 綠石鹼 | | 緩和軟膏 | 三〇〇 | 餽水 | 五〇〇 |
| 右混和爲軟膏毎日二回塗擦 | | 右爲軟膏局所塗擦 | | 豚脂 | 二〇〇 |
| ヨードカリウム | 七・五 | ヨード丁幾 | 五〇〇 | ラノリン | 二〇〇 |
| 灰白水銀軟膏 | 五〇〇 | グリセリン | 二五〇 | 右混和爲解澱軟膏 | |
| 右混和爲軟膏塗擦料 | | 右爲合劑朝夕二回塗擦(腺硬化) | | | |

耳内肉腫 Othypersarcoma. (羅)

療法 「テルモコテール」ガルバノコテールヲ用ヒテ破壊ス或ハ腐蝕藥(「クローム」酸・「クロール」亞鉛等)ヲ注入ス耳門ニ近キモノハ結紮ヲ行フ其他腫瘍療法ノ通則ニ從ヒ處置ス

耳下腺炎 耳内肉腫

四八九

耳癢 耳血腫 耳出血 脂漏症

四九〇

耳瘻 Ohrfistel. (獨)

療法 瘻管ハ基底迄切開シテ齒囊腫ヲ除去シ其囊壁ハ腐蝕藥「クロール」亞鉛・「クローム」酸(一・一〇)ニテ腐蝕ス四―六週間ニシテ癒ユ

- クロール亞鉛 三・〇〇 右一日二回注入
- 硝酸銀 八・〇〇
- 右爲溶液黃色瓶ニ容レ一日二回注入
- 昇汞 三・〇〇
- 酒精 三・〇〇
- 右爲溶液瘻管内注入
- 右一日二回注入
- 四〇・〇〇
- 四〇・〇〇
- 四〇・〇〇
- 四〇・〇〇
- 酒精

耳血腫 Othaematoma. (羅)

療法 小血腫ハ按摩ニ依リ吸收ニ促進ス耳ノ縱徑ニ從ヒ血腫ヲ切開シ内容ヲ排除洗滌シテ創内ニ麻織子或ハ綿紗ヲ挿入シテ皮膚ノ癒着ヲ防クヘシ然ラサレハ皮膚ハ第一期癒合ヲ爲シ再ヒ其内ニ血液・漿液或ハ膿汁ヲ貯溜シ再切開ヲ要スレハナリ創面ヲ清保スル爲メ「ヨード」丁幾塗布或ハ「ヨード」フオルム」ヲ撒布シ耳ハ繃帶ニテ頭部ニ縛着シ置クヘシ

耳出血 Othaemorhoea. (羅)

療法 收斂乾燥藥ヲ撒布シ(枯礬末・槲皮末各二五・〇〇)麻織子栓子ヲ施ス其他一般止血法ノ原則ニ據ル

脂漏症 Seborrhoea. (羅)

療法 皮膚ノ營養及管理ニ注意シ必要アレハ毛ヲ剔去シ原病ヲ除ケハ本症ハ通常治癒ス乾性脂漏症ニハ「ワゼリン」又ハ「ラノリン」ヲ塗布シ或ハ「アルカリ」溶液ニテ洗滌ス癢痒甚シケレハ「サリチール」酸「グリセリン」(「サリチール」酸一分・「グリセリン」三分・酒精六〇分)ヲ施ス或ハ五―一〇%「レゾルチン」若ハ「サリチール」酸軟膏ヲ用ヒ良効ヲ得ルコトアリ頑固ノ症ニハ月餘モ治療ヲ持續ス

- 精製硫黃 五・〇〇 右混和爲軟膏外用(ヘブラ硫黃)
- 酸化亞鉛 各一〇・〇〇 軟膏)
- 澱粉 各一〇・〇〇
- ワゼリン 二五・〇〇
- 右混和爲泥膏外用
- 沈降硫黃 四〇・〇〇
- ラノリン 一〇・〇〇
- 醋 三〇・〇〇
- ワゼリン 二〇・〇〇
- 右混和爲泥膏外用(ウンナ氏硫黃泥膏)
- 黃泥膏) 二〇・〇〇
- 炭酸加里 一四・〇〇
- 沈降硫黃 一〇・〇〇
- 苦扁桃水 二〇・〇〇
- 酒精 各一〇・〇〇
- 脂漏症
- 右混和爲軟膏外用(ヘブラ硫黃)
- カリ石鹼 七五・〇〇
- 右混和皮膚清淨料トス
- サリチール酸 二・〇〇
- 亞鉛華 各二四・〇〇
- 澱粉 各二四・〇〇
- ワゼリン 五〇・〇〇
- 右混和「サリチール」酸泥膏トス
- サリチール酸 一〇・〇〇
- 安息香酸脂 五〇・〇〇
- 右混和爲軟膏
- サリチール酸 二・五〇
- 菜油 五〇・〇〇
- 右混和「サリチール」酸油トシテ
- 與フ
- サリチール酸 四九二

脂肪

精製硫黃
藥用石鹼
右混和塗用
サリチール酸

各五〇〇
九〇〇

酸化亞鉛
グリセリン
カリ石鹼
右混和塗用

二〇〇〇
七〇〇〇
八〇〇

タンニン
酒精
右混和塗用

一〇〇〇
一〇〇〇

四九二

脂肪 肥胖病

(Mesitas. (羅))

療法 飼料ヲ減シ適當ノ運動ヲ課ス、脂肪及炭水化物ヲ含有スル飼料ヲ制限シ同時ニ飲水ヲ減量スルニアリ、犬ニハ「カルルス」泉鹽ヲ正規的ニ飲用セシム(犬ニハ半乃至一食匙ヲ一日一回乃至三回食前ニ與フ) 甲狀腺ノ内服ハ脂肪ノ燃燒ヲ促シ大ニ効アリ即新鮮ナル甲狀腺ヲ用ヒ或ハ其製劑タル「チレオイジン」(犬ニハ〇・二―〇・三―〇・七五或ハ其千倍液ヲ一日三回一茶匙宛内服)或ハボエール氏「チレオイジン」(〇・三―〇・六)「ヨードチリン」(〇・一―〇・三)ヲ與フ

鹽酸ピロカルピン

餵水

一五〇〇

餵水

一〇〇〇

右爲溶液皮下注射料一回分トス

右爲水劑毎日一食匙(大犬)乃至一茶匙量(小犬)宛與フ

右爲溶液(〇・一%)一日三回一

(馬ノ誘導劑)

ボエール氏チレオイジン

〇・三―〇・六

ノクチン氏精製チレオイジン

〇・一

ヨードチリン

右毎日三―四回宛與フ(犬)

餵水

二〇〇

一包宛肉片ニ混與(犬)

ノクチン氏精製チレオイジン

右爲溶液一〇―三〇宛皮下注射(犬)

ヨードカリウム

〇・一

脂肪腫 Lipoma. (羅)

療法 腐蝕藥及烙鐵ノ應用ハ治癒困難ナル創ヲ遺スヲ以テ結紮法及牽裂法ヲ用フヘシ或ハ刀切ス手術前腫瘍ノ深在組織ト結着スルヤ否ヤヲ精檢ス若シ結着スルトキハ手術困難ナリ殊ニ筋間結締織ト結合スル場合ニ於テ然リトス然ラサレハ凡テノ脂肪腫ノ除去ハ容易ナリ

脂肪心 Cor adiposum. (羅)

療法 肥胖病療法ニ同シ心臟衰弱ニ對シテハ強心劑ヲ用フヘシ

齒換不正 Irregularities in replacement of the teeth. (英)

療法 馬ニ時々目撃ス特ニ隅齒ニ多シギユンター氏拔齒鉗子ヲ以テ乳齒ヲ拔取スヘシ(乳齒ハ前方ニ永久齒ハ後方ニ占位ス)柔軟ノ飼料ヲ給與ス

齒瘻 Fistula dentalis. (羅)

療法 瘻管ノ切開・銳匙ニテ削除・烙鐵ニテ燒烙・或ハ腐蝕藥「クロール」亞鉛(一・一〇)ニテ腐蝕スル等外科的療法ニ從フ某氏ハ瘻管ニ乳酸ノ注入ヲ賞用ス齒槽ニ疾患アレハ齒ヲ拔取スレハ自然ニ瘻管癒ユ治療ヲ助クル爲メ日々齒槽ヲ消毒液ヲ浸シタル麻織子ニテ洗滌スヘシ又瘻管ニ沒藥丁幾・蘆蒼丁幾ノ合劑ヲ注入ス

齒磨過早 Premature wear of the teeth. (羅)

療法 柔軟ノ飼料ヲ與ヘ咀嚼ヲ容易ナラシム乃チ挽割飼或ハ粉汁等ヲ與ヘ可成永ク勞役ニ服セシ

脂肪腫 脂肪心 齒換不正 齒瘻 齒磨過早

四九三

齒磨不正 齒石 齒槽骨膜炎 條蟲
ムル様攝生ニ注意スル外療法ナシ

齒磨不正 Irregularities of wear in the teeth. (英)

療法 動物ハ起立ノ儘開口器ニテ口ヲ開キ齒砲ニテ齒ノ銳突角ヲ擊碎シ或ハ鑿及槌ヲ用フ銳角ヲ擊破スレハ齒鑪ヲ以テ齒縁ヲ鑪削シ平滑トナスヘシ施術中軟部ヲ損傷セサル様注意スヘシ

齒石 Tartarus dentis. (羅)

療法 鈍外科刀或ハ類似ノ器械ニテ齒齦及齒槽ヲ損セサル様撞破スヘシ沈澱物ヲ去リ齒面ヲ露ハス犬ハ輕石ニテ齒ヲ磨クヘシ齒齦ニ疾患アレハ之ヲ醫シ齒カ弛緩スレハ速ニ拔除ス

齒槽骨膜炎 Periostritis alveolaris. (羅)

齦炎參照

條蟲 Taeniasis. (羅)

療法 馬牛ハ普通ノ下劑ニ依リテ條蟲ヲ驅出ス即チ蘆薈(二〇—二五・〇)・吐酒石(一〇—二二—二〇・〇)ノ如シ尙「テレビン」油(一〇〇・〇)ヲ蓖麻子油五〇〇・〇ニ混與・砒石(日量一—三・〇)漸次増量シテ一・二週間續用・甘汞(四—六・〇)・檳榔子(一日二—三回一食匙宛)・シナ「葉或ハ綿馬根(五〇—一〇〇・〇)ハ更ニ有効ナリ羊ニハ治療前數日間綠飼ヲ與ヘ(殊ニ松葉又ハ杜松子ヲ宜シトス)驅蟲藥ハ「テレビン」油(一茶匙)・「エーテル」製綿馬越幾斯(五—一〇・〇)油ト共ニ「カマラ」(四—六・〇)・「ピクリン」酸(〇・一—〇・二)・「ピクリン」酸加里(〇・五—一・五丸劑)ヲ用フ、以上ノ藥品「カマラ」ヲ

除ク)ヲ與フルト同時ニ又ハ投藥後二—三時間ヲ經テ下劑(吐酒石〇・二—〇・五或ハ蓖麻子油一食匙)ヲ與フ 豫防法トシテハ完全ナル牧場ニ移スニアリ、犬ノ驅條法ハ一日間絶食セシメ且緩下劑又ハ微温湯ノ灌腸ニ依リテ腸管ヲ空虚ナラシメタル後驅蟲劑ヲ與フ、嘔吐ヲ防ク爲投藥前粘滑肉汁ヲ飲用セシメ或ハ胃ヲ豫メ痲醉セシメテ胃「カテーテル」ヲ以テ驅蟲劑ヲ與フルヲ必要トスルコトアリ(胃痲醉ニハ「コカイン」〇・一—「アドレナリン」〇・一%液一〇〇苦扁桃水一〇—三〇滴ノ混合液或ハ「アネステシン」〇・五ヲ用フ)驅蟲劑ハ「カマラ」(二—八・〇)ヲ牛乳・蜜又ハ單舎ニ混合)・綿馬越幾斯(〇・五—一五・〇)丸劑又ハ膠囊トシテ與ヘ一—二時間ヲ經テ蓖麻子油三〇—五〇・〇ヲ與フルカ或ハ本藥ヲ蓖麻子油ト同時ニ服用セシム)・「コソ」花(三—五・〇)ヲ牛乳或ハ水ニ混合シテ每一時二乃至六回内服)・檳榔子(五—一〇・〇)ヲ牛酪ト共ニ丸劑トナス)ヲ用フ

| | | | | |
|---|------|-----------------|---------------------------------|-----------|
| コソ花 | 三〇・〇 | 右爲砥劑頓服(馬) | 綿馬根 | 一〇〇—二五〇・〇 |
| セメンシナ | 五〇・〇 | 臭性獸油 | アルセン | 二〇—五〇・〇 |
| 甘草末 | 適量 | テレビン油 | 蘆薈末 | 三〇・〇 |
| 右爲砥劑頓服、服用後六時間ヲ經テ蘆薈二五・〇軟石鹼適量ニテ丸劑ヲ調ヘ與フ(馬) | | 蘆薈末 | アルテア根末 | 適量 |
| 亞砒酸 | 二・〇 | アルテア根末及水 | 右爲砥劑兩三日ニ與フ | |
| 甘汞 | 四・〇 | 右爲丸劑三個兩三日ニ與フ(馬) | ビクリン酸加里 | 〇・五—一・二五 |
| 蘆薈末 | 一五・〇 | 吐酒石 | 右爲三包每三時一包宛「フランデー」ニ溶シ作用發顯迄與フ(仔羊) | |
| アルテア根末及水 | 適量 | 檳榔子末 | タナセチー草木 | |
| 條蟲 | | 右每食餌ニ二食匙宛混與(馬) | | |

泥葛根・木タール 各一〇〇〇
 食鹽 五〇〇〇
 右水及麩粉ヲ混シテ煮後乾燥シ
 羊百頭ニ與フ
 檳榔子末 五一一〇〇
 右牛酪適量ニテ塊劑トナシ仔羊
 ニ頓服排糞ナケレハ三時間後ニ
 左方ニ處ス
 蓖麻子油 五〇〇
 アラビヤゴム 二五〇
 餾水 一〇〇〇
 右頓服下劑(羊)
 臭性獸油 一一五〇
 吐酒石 〇二一〇三
 右頓服(羊) 五一一〇〇
 コソ 五一一〇〇
 右麥煎汁ニ混シテ頓服(仔羊)
 綿馬越幾斯 二一四〇
 右少量ノ麥煎汁ニ混與三時間後
 ニ下劑ヲ投ス(羊)

綿馬根 一五〇〇
 食鹽 二五〇
 アルテア根末及水 適量
 右爲丸劑十個十頭ノ仔羊ニ與フ
 タナセチー葉末 一五〇
 右粘汁ト混シ振盪劑トナシテ與
 フ六―七時ヲ經テ反覆ス(羊)
 コソ 二〇一五〇〇
 蜂蜜 三〇〇
 右爲砥劑與フ(羊)
 綿馬越幾斯 〇〇五
 右十個ノ丸劑トナシ犬ニ與フ三
 時間後ニ蓖麻子油二〇一三〇
 〇ヲ與フ
 カマラ 各一〇〇
 パラフィン軟膏 各一〇〇
 右犬ニ頓服
 サントニン 〇〇五―〇一五
 右牛乳ニ混シ頓服二時間ヲ經テ
 反覆ス(犬)

エーテル製綿馬越幾斯 二一八〇
 右ニ同シ(犬)
 柘榴根皮 五〇一五〇〇
 水 一〇〇〇〇
 右煎出シ屢々内服(犬)
 コソ花 八〇
 複方センナ浸 五〇〇
 右爲振盪劑一時間ニ二分服
 (犬)
 コソ 四一七一―一五―三〇〇
 蜜及小麥粉 適量
 右爲丸劑頓服爾後二―三時間ヲ
 經テ再三同量ヲ反覆ス(犬)
 カマラ 二一七・五―一―二〇
 右混和爲振盪劑與フ一時間ヲ
 經テ反覆ス(下劑不要犬)
 酸化銅 〇一五
 アルテア根末 三〇
 右一日三回分服爾後反覆ス
 (犬)

綿馬根末 一〇一―二五〇
 右牛乳ト振盪劑トナシ一時間
 二分服(犬)
 臭性獸油 三一三〇滴
 麵粉及水 適量
 右爲三丸每三時一丸宛與フ(犬)
 檳榔子 一〇一―二〇〇
 右牛酪適量ト塊劑トナシ二分
 服三時間後ニ排糞ナケレハ蓖麻
 子油一〇一三〇〇頓服(犬)
 綿馬越幾斯 三一五―一〇〇
 綿馬根末 五一一〇〇
 アルテア根末及水 適量
 右爲丸劑一乃至二時間毎ニ與フ
 (犬)
 甘汞 〇二一―一〇
 ヤラツバ根 〇六一―三七五
 アルテア根末及水 適量
 右爲丸劑下劑ト伍シテ與フ(犬)
 クロロフォルム 四〇〇

蓖麻子油 五〇〇
 右混和二回分服(犬)
 酸化銅 〇〇五
 澱粉 〇〇二
 右爲一包其三包ヲ作り毎日一回
 一包宛(犬)
 綿馬越幾斯 二・五
 綿馬根末 五・〇
 黃蠟 適量
 右爲十包中等大ノ犬ニ頓服
 細挫柘榴根皮 五〇〇
 常水 二五〇〇
 右十二時間浸出シ全量一〇〇
 〇ニ至ル迄煮沸シ二回ニ分與
 (犬)
 酸化銅 〇〇五
 桂皮 〇〇三
 右混和爲散劑一包其三包ヲ作り
 毎日一包宛(犬)
 硫酸銅 〇〇七

白糖 〇・五
 右混和爲散劑一包其三包ヲ作り
 毎日一包宛與フ(中等大ノ犬)
 綿馬越幾斯 四〇〇
 クロロフォルム 五〇〇
 蓖麻子油 三五〇
 巴豆油 二滴
 右混和一時間内三回ニ分與
 (中等大ノ犬)
 綿馬越幾斯 五〇
 エーテル 一〇〇
 單舍利別 四〇〇
 右混和頓服、但本方投藥前後芒
 硝三〇〇ヲ水一〇〇〇ニ溶シ
 與フヘシ(犬)
 綿馬越幾斯 五〇
 グリセリン 二〇〇
 酒精 一〇〇
 右混和一時間内三回ニ分與
 (中等大ノ犬)

綿馬根末 一〇〇〇
 綿馬越幾斯 五〇〇
 アラビヤゴム漿 適量
 右混和爲砥劑三時間内二回ニ分
 與、但投藥後蓖麻子油ヲ與フ
 (右同)
 綿馬根末 一〇〇〇
 綿馬越幾斯 五〇〇
 右混和爲大丸劑四個六時間内ニ
 與フ(犬)
 綿馬越幾斯 各二〇〇
 綿馬根末 適量
 カカオ脂 適量
 右混和爲丸劑五個一回ニ與フ但
 本方投藥後二時間ヲ經テ蓖麻子
 油三〇〇ヲ與フ(中等大ノ犬)
 蘆薈末 二〇〇
 ナフタリン 八〇〇
 綿馬越幾斯 一〇〇〇
 右混和爲丸劑頓服(馬)

ナフタリン 一四〇〇
 菜油 三〇〇〇
 右朝夕一食匙量宛與フ(羊)
 檳榔子末 一五〇
 カカオ脂 各適量
 黃蠟 各適量
 右混和爲丸劑十個一回ニ與フ
 (犬)
 檳榔子末 二〇〇〇
 カマラ 二〇〇〇
 カカオ脂(或ハ羊脂) 適量
 右混和爲丸劑二十五個大ノ大小
 ニ依リ十乃至二十五個宛與フ
 檳榔子末 一〇〇
 右飼料ニ混與(鳩)
 檳榔子末 三〇〇
 右飼料ニ混與(鶏・家鴨・鵝
 鳥)
 檳榔子末 五〇〇
 右飼料ニ混和(七面鳥・孔雀)

檳榔子末 各〇・五
 カマラ 一〇〇
 蓖麻子油 右混和膠囊ニ容レ其四個ヲ作リ
 一回ニ與フ(大犬)(小犬ニハ二
 回分服)
 カマラ 二〇〇—一五〇
 右爲散劑動物ノ大小ニヨリ一回
 ニ與フ(犬)
 カマラ 二〇〇—一五〇〇
 エーテル 五滴
 蜂蜜 一〇〇
 右混和頓服(犬)
 コソ花 一五〇
 カマラ 一〇〇
 糖蜜 五〇〇
 右混和每三十分時一匙量宛與フ
 (犬)
 コソ花浸 (一〇〇) 一〇〇〇
 カマラ 六〇〇

右混和爲振盪合劑頓服(犬)
 コソ花末 二〇〇
 蜂蜜 五〇〇
 右混和每三時其三分ノ一量宛與
 へ最後ノ投藥後二時間ヲ經テ蓖
 麻子油三〇〇ヲ與フ(犬)
 コシン 一〇〇
 白糖 〇・五
 右混和爲散劑頓服(犬)
 コシン 〇・二
 白糖 〇・五
 右混和爲散劑頓服(但投藥後蓖
 麻子油ヲ與フヘシ)(仔羊)

タンニン酸ベレチエリン 〇・三
 グリセリン 三〇〇
 右混和頓服(右)(同中等大ノ犬)
 硫酸ベレチエリン 〇・二—四〇
 グリセリン 三〇〇
 右混和頓服(犬)
 ビクリン酸カリウム 〇・六
 甘草根末 〇・六
 アルテア根末 各適量
 杜松實羔 各適量
 右混和爲丸劑四個二回ニ分與
 (仔羊)
 ビクリン酸カリウム 一・五

右爲散劑三包每三時一包宛牛乳
 ニ混和寄生虫ノ排泄セララル迄
 與フ(仔羊)
 クロロフォルム 四・五
 蓖麻子油 五〇〇
 右混和二回ニ分與(犬)
 精製獸油 一〇〇
 アルテア根末 二〇〇
 右混和爲大丸劑四個毎日一個宛
 與フ(仔羊)

上顎竇及前頭竇蓄膿症

Empyem of the maxillary and frontal sinus. (英)

療法 可成の速ニ圓鋸術ヲ施シ消毒藥ヲ以テ竇内ヲ洗滌スルニアリテ例之微温硼酸水又ハ明礬水
 ノ如キハ頗ル可ナリ或ハ單ニ生理的食鹽水ヲ用フルモ宜シ又要スレハ鼻腔ニ向ツテ人工的排泄路ヲ
 設クヘシ圓鋸術ハ前頭竇ニ在テハ前頭骨上ニ於テ眼弓ノ高サニ沿ヒ中線ヨリ一乃至二仙迷突ヲ隔テ
 テ行ヒ顎竇ニ在テハ上顎骨部ニ於テ顴骨櫛線ヲ距ルコト前方約一仙迷突顴骨櫛ト上唇舉筋トノ中間
 上顎竇及前頭竇蓄膿症

消化不良 硝子體動脈遺殘 硝子體瀰濁 硝子體融化的

五〇〇

眼窩ト顴骨橋下端トノ殆ト中央ニ相當スル部位ニ行フヘシ近時圓鋸術ハ起立ノ儘局所麻醉ヲ以テ施行スルコトヲ得ヘク竇内洗滌後長キ綿紗片ヲ以テ腔内ノ遺殘液ヲ吸收スルヲ宜シトス顎竇ト鼻腔ト交通セサルトキハ治癒甚タ長ク時トシテ鼻腔ニ圓鋸術ヲ施ササルヘカラサルコトアリ

消化不良 不消化症 Dyspepsia. (羅)

胃腸加答兒・馬ノ胃食滯・牛ノ第一胃食滯・便秘等ニ由リテ起ル各其條下參照

硝子體動脈遺殘 Atresia hyaloidea peristens. (羅)

療法 胎生期間血液ヲ運行シタル硝子體動脈ノ遺殘シテ灰白若ハ暗色不透明ノ物質硝子體內ニ止マルモノニシテ視覺ヲ障害スルコトアリ療法ノ之ニ施スヘキナシ

硝子體瀰濁 Dimness of corpus vitreum. (英)

療法 初期ニ於テ濕温法ヲ用フ温卷法ハ吸收ヲ促スノ効アルヲ以テ自然良能ノ未タ吸收機能ヲ停止セサル間ニアリテハ瀰濁ノ消散ヲ督進スルヲ得ヘシト雖經久ノ瀰濁ニアリテハ療法ナシ角膜穿孔術ヲ反覆試用スヘシ

硝子體融化的 Synechysis corporis vitreum. (羅)

療法 硝子躰ノ既ニ久シク病ニ罹レルヲ證明スルモノニシテ常ニ眼球ノ萎縮及瞳孔ノ閉鎖ヲ合併ス治法ナシ

發疹參照

薔薇疹 Roseola, Macula hyperaemia. (羅)

食道異物 食道梗塞 Foreign bodies of the oesophagus. (英)

療法

馬 斷食シ時ニ食ヲ與ヘテ嚥下ノ有無ヲ檢シ嚥下シ得レハ新鮮ノ水ヲ與フ、食道上部ノ異物ハ手ヲ挿入シテ直接ニ除去ルヘシインメルマン氏ハ鹽酸「ピロカルピン」ヲ皮下注射シ唾液分泌ヲ旺盛ニシ異物ヲ除去セシメタリト雖本藥ハ此際往々異物性肺炎ヲ促スノ虞アルニヨリ用量ニ注意ヲ要ス馬ニアリテハ牛ノ如ク食道探子ヲ用フルコト容易ナラス往々粘膜ノ負傷ヲ來シ或ハ探子ニ由リ異物ヲ壓迫硬固ナラシムルノ弊アリ二十四時乃至四十八時間ヲ經過セハ自然降下スルコトアリ又油劑ヲ投シ異物ヲ按摩シ偶然嚥下セシムルコトアリ

牛 牛ニハ屢々本症ヲ發ス異物除去ニ種々ノ方法アリ (一)異物逆進法 術者ハ動物ノ左側ニ立チ右手ヲ動物ノ頸ヲ越ヘテ右側ニ伸ハシ左右兩側ヨリ異物ヲ探リテ之ヲ壓迫シ上方ニ按ミ上クヘシ食塊逆進ノ爲メ食道頭ニ達スレハ動物ハ不穩トナリ頭ヲ伸張ス此ノ瞬間ニ於テ頭ヲ自由ニシ兩手ヲ以テ強キ壓迫ヲ異物ニ與フレハ異物ハ逆進ス一回ニテ足ラサレハ反覆スヘシ異物ハ咽頭ヨリ手ヲ以テ自由ニ口内ニ達セシムルヲ得ヘシ (二)異物細碎法 兩手ヲ以テ強力ニ壓迫ヲ加フ馬鈴薯塊・丸藥・乾草塊等ハ細碎移動シテ胃ニ達ス又異物ノ一方ニ木版ヲ置キ木槌ヲ以テ異物ヲ打碎ス此際食道粘膜ヲ損傷セサルニ注意スヘシ (三)異物胃内壓送法 滑澤ナル面ヲ有スル異物或ハ柔軟ナル異物ハ食

薔薇疹 食道異物

五〇一

道探子ヲ挿入シテ異物ヲ徐々ニ胃内ニ壓入ス牛馬ニハモンローイ氏ノ食道探子之ニ適ス此法ハ尖銳物(魚骨)ニハ行ハス (四)異物摘出法、特別ノ食道鉗子(デルボース氏ヘルトウヒ氏)アリテ之ヲ食道内ニ挿入シ異物ヲ鉗取シテ摘出ス (五)食道切開術 最終ノ手段トシテ尖銳物體ノトキ或ハ前四法ヲ施スモ無効ナルトキハ食道ヲ切開シテ異物ヲ除去ス食道ヲ切開スルニ決シテ異物ノ上部ヲ切開スヘカラス必ス其下部ニ於テスヘシ

前諸法ヲ施スモ効ナク異物胸部ニ嵌留シタルトキハ粘汁油劑ヲ投シテ異物ノ嚥下ヲ試ム但シ飲用ニ注意シ異物性肺炎ヲ發セサル様投藥スヘシ必要ニ應ジテ「アボモルヒネ」ノ皮下注射ヲ行ヒ異物ノ吐出ヲ試ムミヒヤルスキー氏ハ牡牛ニ「ヴェラトリン」(〇・一酒精一〇・〇)ヲ注射シ良効ヲ得タリ

- | | | | | |
|------------|------|----------------|---------------|-------|
| 鹽酸アボモルヒネ | 〇・〇三 | 劑) | 硫酸ヴェラトリン | 〇・〇二 |
| 餵水 | 一〇・〇 | ヴェラトリン | 餵水 | 一〇〇・〇 |
| 鹽酸 | 五滴 | 酒精 | 右爲溶液灌腸料(豚ノ吐劑) | |
| 右黑色瓶ニ容レテ與ヘ | 二・〇 | 右爲溶液皮下注射量一回分(豚 | | |
| 五・〇宛皮下注射トス | (犬一吐 | ノ吐劑) | | |

食道擴張 *Ectasia oesophagi.* (羅)

療法 治療多クハ効ナシ頻次流動又ハ半流動ノ滋養物少量ヲ分與スヘシ食物停滯スレハ按摩シテ除去シ又ハ探子ヲ挿入スルニ過キス息室ヲ生スレハ粘膜ノ縫合或ハ息室切除ニヨリ治スルコトアリ本症ニアリテハ卒然呼吸困難ヲ來スコトアルヲ以テ豫メ氣管截開術ノ準備ヲ怠ルヘカス

食道裂 *Ruptura oesophagi.* (羅)

療法 胸部食道裂ハ治スヘカラス頸部ノ食道裂ハ往々手術ニ依リテ救助スルコトヲ得

食道損傷 *Injuries of the oesophagus.* (英)

療法 豫防法トシテ齒科器械・食道探子ノ使用ヲ慎ミ尖銳丸劑ヲ禁ス膿瘍頸部ニ發スレハ適當ノ時期ニ注意シテ切開スヘシ切開後ハ内容物ノ排泄・唾液及炎症滲出物ノ流利ヲ好クスヘシ食道瘻ヲ發スレハ治療困難ナリ然ルトキハ昇糸線ヲ瘻管内ニ挿入シ或ハ瘻管ヲ擴張ス奏効ハ毎時確實ナラス或ハ瘻管ヲ擴張シテ食道ニ開口スル部分ヲ縫合スルノ法ヲ試ムヘシ

食道麻痺 *Paralysis oesophagi.* (羅)

療法 食道探子ヲ以テ停滯セル食塊ヲ胃内ニ送致スルニ努メ患畜ニハ多液又ハ液狀飼料ノミヲ與フ神經興奮劑(ストロキニン)・「ヴェラトリン」竝電氣ノ應用ハ奏効セス

食道痙攣 *Oesophagismus.* (羅)

療法 痙攣發作時ニハ麻醉劑例之「モルヒネ」ノ皮下注射(馬〇・〇四—〇・〇六、小動物〇・〇一—〇・〇一)・抱水「コロラール」灌腸(大動物二五—五〇・〇小動物〇・〇五—〇・五)ヲ行ヒ間歇時ニハ臭素加里ヲ内服セシム

食道炎 *Oesophagitis.* (羅)

食道裂 食道損傷 食道麻痺 食道痙攣 食道炎

食道狭窄 食道腫瘍 食滯 毒創

五〇四

療法 炎症ヲ緩解セシムル爲氷塊・冷水・冷乳又ハ粘滑汁若ハ收斂藥(亞麻仁煎汁ニ「タンニン」ヲ〇・五—一%ノ比例ニ溶解シタルモノ)ヲ飲用セシム又食道部ニ冷卷法ヲ施ス、腐蝕性毒物ニ原因スル場合ニハ解毒藥トシテ弱キ酸類又ハ「アルカリ」劑ヲ粘滑汁ニ混シテ與フヘシ、疾病劇甚ナレハ麻醉藥(「モルヒネ」ノ皮下注射・抱水「クロラール」若ハ阿片丁幾)ヲ飲水ニ混與ス、患畜攝食ヲ嫌ヘハ滋養灌腸ヲ行フヘシ

食道狭窄 Oesophagostenosis. (羅)

療法 屢々食道探子ヲ挿入シテ擴張ヲ試ミ且食塊ノ停滯ヲ防ク牛ニアリテハ鼓腸症ノ際壓迫狹窄ヲ來ス人醫ニ於テ施スカ如キ強靱探子挿入ニヨリ徐々ニ擴張スル施術ハ家畜ニハ行ヒ難シ食餌ノ攝生ハ擴張ニ同シ異物嵌留スルトキハ「アレコリン」或ハ「ピロカルピン」ノ皮下注射ヲ試ムヘシ

食道腫瘍 Tumors of the oesophagus (Pharynx). (英)

療法 腫瘍ハ摘出ス患畜ハ横臥保定シ頸ヲ伸長シテ喉頭ノ下部ニ於テ中央ニ縱切ヲナシ手ヲ挿入シテ結締織ヲ破切シ腫瘍ニ達スレハ之ヲ裂除スヘシ或ハ絞斷器ヲ使用ス内服ニハ「ヨード」加里ヲ試ム

食滯 Overeating. (英)

食滯症(急性胃擴張)・第一胃食滯・嚔囊食滯参照

毒創 Decubitus. (羅)

療法 壞疽ニ同シ、豫防法トシテ永ク横臥セル動物ハ屢々其體ヲ反轉シ又柔軟ナル寢蓐ヲ多量ニ給ス(壞疽参照)

喰翅病 Feather-eating. (英)

療法 青菜類・肉類・貝殼・骨粉類ヲ最少量ニ給シ飼料中ニ食鹽ヲ混和シテ與フ又運動場内ノ土ヲ掘起シテ和ケ之ニ穀類・粗穀等ヲ埋メ鶏ヲシテ之ヲ撥掘シテ喙食セシメ尙嘴ノ尖端ヲ磨キ羽毛ヲ啣ヘルモ之ヲ拔キ取ル能ハサラシムレハ此癖ヲ矯正スルコトヲ得ヘシ若シ濕疹・皮膚寄生虫ニ由ル場合ニハ其治療ヲ行フヘシ、「アポモルヒネ」ノ皮下注射(〇・〇〇〇五—〇・〇〇〇一)又ハ之ヲ飲料水ニ混シテ與フル(〇・〇〇五—一〇〇〇〇)ノ法賞用セララル

- | | | | | | |
|----------------|-------|------------------|-------|-------------------|-------|
| 昇汞 | 〇・〇六 | 石腦油 | 一〇〇・〇 | アニス實末 | 二五・〇 |
| グリセリン | 三〇〇・〇 | 菜油 | 一〇〇・〇 | 右混和撒布劑トシテ與フ(羽毛寄生) | |
| キナ越幾斯 | 各一・〇 | 右混和爲擦劑塗擦料トス(蝨寄生) | | 鹽酸アポモルヒネ | 〇・〇五 |
| ペルーバルサム | 各一・〇 | 生蟲 | | 餉水 | 一〇〇・〇 |
| 右混和朝夕一回宛刷子ヲ用ヒテ | | アニス油 | 一・〇 | 右爲溶液飲料水ニ混與(鸚鵡) | |
| 羽毛脱落部ニ塗布 | | 水及酒精 | 五〇・〇 | | |
| 白降汞 | 三・〇 | 右混和灌注料トス(皮膚寄生蟲) | | | |
| ワゼリン | 三〇〇・〇 | 除蟲菊花 | | | |
| 右混和爲軟膏外用(濕疹) | | 白藜蘆根末 | 各五・〇 | | |

喰毛病 Wool-eating. (英)

喰翅病 喰毛病

五〇五

療法 喰毛癖アル羊及之ニ咬マレタル羊ヲ隔離ス冬期中ト雖好天氣ノ節ハ時々羊ヲ舍外ニ出シ運動セシムヘシ殊ニ適當ナル營養品及充分ニ鹽類ヲ含有スル食物ヲ與フルコトヲ要ス「アボモルヒネ」(〇・一—〇・二)ノ皮下注射ハ良効アリ(舐病参照)

- 食鹽 杜松實末 各二五〇〇
- 磷酸カルチウム 各五〇〇〇 著草末
- 右混和爲散劑一食匙量宛與フ

暑疹及夏癩 Sommerträude und Sattelträude. (獨)

療法 良性ニシテ治療ヲ加ヘサルモ自然ニ癒ユ若シ治療ノ必要アレハ「グリセリン」・豚脂ヲ塗り痂皮ヲ軟和セシメ「タール」酒精等分又ハ「グリセリン」酒精(一・一—〇)稀釋亮菁丁幾(一・一—〇)若ハ「イヒチオール」ヲ用ヒ生理的食鹽水又ハ「リンゲル氏液」ノ皮下若ハ靜脈内注射ヲ試ムヘシ頑固ノ痒覺アリテ動物不安ナレハ硫黃華五〇分・水銀軟膏二〇分・亮菁軟膏二〇分・「ワゼリン」四〇〇分ノ軟膏ヲ用フ又過「マンガン」酸加里一%溶液ノ洗滌ヲ有効トスル者アリ

- イヒチオール 一〇〇
- 酒精 稀酒精 各一〇〇〇
- 硫酸エーテル 右混和外用 一〇〇
- 右混和豫メ石鹼浴ヲ行ヒタル後 昇汞 各五〇〇
- 刷子ヲ用ヒテ塗擦ス二日ヲ經テ 右同 二〇
- 反覆ス(馬) クレオソート 五〇
- イヒチオール 一〇〇
- 酒精 右混和外用 各一〇〇〇
- 硫酸エーテル 右混和外用 各五〇〇
- 昇汞 右同 二〇
- クレオソート 五〇

- | | | |
|---------------|-------------|----------------|
| 水 六〇〇〇 | 右爲溶液外用 一〇〇〇 | 過マンガン酸加里 一〇〇 |
| 右混和洗滌用(汗疹ノ場合) | 右同 | 右爲滅菌溶液患部周圍數ヶ所ニ |
| 亞砒酸 各一五〇 | 酒精 右同 一〇〇〇 | 一〇宛皮下注射 |
| サビナ葉末 適量 | ピクリン酸 一〇〇〇 | |
| アラビヤゴム及水 | 酒精 一〇〇〇 | |
| 右混和爲泥膏外用 | | |
| 硫酸銅 二五〇 | | |

初生獸膿毒敗血症 Pyo-septicaemia neonatorum. (羅)

療法 臍帶炎ハ外科ノ原則ニ從テ所置シ創傷ハ防腐法ヲ施シ必要アレハ膿瘍ヲ切開ス關節炎ハ初期駒ニアリテハ水銀軟膏ヲ塗擦シ已ニ多量ノ滲出物ヲ滯溜セハ關節ヲ穿刺又ハ切開シ關節腔ヲ消毒スヘシ但此療法ハ炎症殊ニ一關節ニ限局シ内部臟器ノ侵サレサル場合ニ於テノミ行フ而シテ此場合ニ關節腔内ノ滲出物が漿液性又ハ漿液纖維性ナルトキハ單ニ穿刺ヲ爲セハ一ニ週日ニシテ治療スルコト稀ナラス全身傳染ヲ起シタルトキハ衝動劑ノ内服及胃腸加答兒ニ對スル療法ヲ行フ同時ニ適當ナル滋養食例之牛乳・卵ヲ與ヘ又滋養灌腸ヲ行フ患畜ハ溫暖ニシテ通氣善良ナル厩舎ニ容ルヘシ、ゴット氏(Gott)ハ駒ニ「コラーレルゴトル」ノ靜脈内注入(半%溶液八〇〇)ヲ三日間ニ注射ス)ヲ賞揚ス

豫防法 厩舎ノ清潔消毒法ヲ要旨トス之カ爲一ヶ月乃至二ヶ月毎ニ厩舎ノ大清潔法ヲ行フヘシ分娩ニ近付キタル母馬ヲ收容スヘキ厩舎又ハ産房ヲ特設シ置キテ之ニ母馬ヲ收容スルトキハ充分ニ消毒ス

初生獸膿毒敗血症

毒シ新鮮ナル產毒ヲ敷クヘシ化膿創アル患馬ハ產室竝哺乳中ノ駒ヲ容ルル厩舎ヨリ隔離スヘシ又膿瘍切開ノ如キ手術ハ右ノ場所ニ於テ行フヘカラス通氣ノ善良ト厩舎ノ乾燥ハ殊ニ重要ナル關係ヲ有ス母獸外陰部ノ清潔及陰腔ノ消毒藥(例之ニ「リゾール」又ハ「クレオリン」)洗滌ヲ行フヘシ初生獸分娩シタルトキハ臍帶ニハ過「マンガン」酸加里五%ヲ塗リ二重結紮ヲ施シ消毒セル剪刀ヲ以テ切斷スルヲ良シトス

初生獸下痢

白痢

Dysentery neonatorum. (羅)

療法 病初免疫血清五—二〇〇ヲ靜脈内ニ注射ス必要ト認ムレハ反覆ス之ト同時ニ緩下劑例之莖麻子油(犢及駒四〇—五〇〇仔羊一〇—一五〇)甘汞(駒〇・二—〇・三)芒硝若ハ瀉利鹽(三〇〇)大黃根末(犢二—五〇仔羊〇〇・五—一〇)又ハ阿片末(犢一—二〇仔羊〇〇・一—〇)ヲ慣用ス即チ大黃根末四〇阿片末〇三炭酸マグネチウム一〇 右混和「カミルレ」浸若ハ稀釋セル武蘭酒五〇〇ニ混シ一日二回犢ニ分服セシム或ハ阿片ニ代ユルニ阿片丁幾ヲ以テス(犢及駒五—一〇〇仔羊一—二〇)一日三回六時間毎ニ反覆シ下痢ノ止ムニ至リテ止ム又「タンニン」(犢一—二〇仔羊〇〇・二—〇)ヲ單用シ或ハ之ニ同量ノ「サリチール」酸ヲ伍ス例之「タンニン」(犢一—二〇仔羊〇〇)右「カミルレ」浸ニ混シ震盪シテ與フ一〇二回反覆スヘシ又「タンナルビン」(犢三—五〇〇)「タンノビン」(四—八〇〇)「タンノフォルム」(〇〇・五—一〇〇)硝酸銀(半%溶液一食匙ヲ毎三時犢ニ與フ)「クレオリン」(一回量一〇)ヲ水溶液トナシ一日三回犢ニ與フ、「タール」(「リゾール」)「レゾルシン」(「ナフタリン」)「ザロール」次硝酸蒼鉛「コロイド」銀等ヲ用フ或ハ「コラゴール」〇〇五ヲ半%石炭酸溶液

ニ溶解シ靜脈内ニ注入ス劇シキ裏急後重ニハ阿片丁幾ヲ混和シタル澱粉灌腸ヲ行フヘシ又亞麻仁・燕麥・大麥又ハアルテア根煎・ゴム漿・生卵ノ如キ粘滑包攝劑ヲ單用シ又ハ之ニ阿片ヲ伍ス、衰弱セルモノニハ葡萄酒又ハ黑珈琲ノ内服・「カフキイン」皮下注射ヲ行フ、或ハ生理的食鹽水(犢一「リートル」)皮下又ハ靜脈内ニ注射ス或ハ其灌腸(二「リートル」)宛二乃至五時毎ニ反覆)ハ偉效ヲ奏ス、其他酒精ヲ皮膚ニ塗擦シ或ハ腹部ヲ温包ス

豫防法

初生兒ノ傳染ヲ豫防スル爲分娩時ノ清潔及消毒法ヲ肝要トス、(厩舎ノ消毒・新鮮ナル產毒・助産者ノ手指消毒等)本病一たび發生セハ分娩ニ近キ母牛ハ清潔ナル別舎ニ移シ、更ニ分娩ニ際シテハ消毒ヲ施シタル特別ノ產室ニ容ルヘシ、一度發病シタル牛舎ニ於テモ其牀板及飼槽ヲ充分ニ消毒シ初生犢ヲ二週間母牛ト共ニ繋キ他ノ牛房ニ入ラシメサルトキハ發病ヲ免レシムルコトアリ、其他臥藥ノ消毒・産前産後ニ於ケル母獸ノ陰腔及新生兒ノ消毒清潔ヲ要ス之カ爲母獸ノ乳房ハ洗滌シテ常ニ清潔ナラシメ又仔畜ヲ別房ニ置キ規正ノ時間ニ哺乳セシム尙仔畜ハ温暖清潔ナル畜舎ニ入レ感冒ヲ豫防スヘシ犢ヲ消毒乳ヲ以テ飼養スル場合ニハ分娩後初乳ヲ哺乳シタル後ニ與フヘシ其日限ハ分娩後第二日ヨリ早カルヘカラス、此場合ニハ授乳器及介者ノ手指ノ消毒ヲ完全ニスヘキハ勿論ナリトス、牛乳ハ給與直前温メ之ヲ攝氏四十度ニ冷シ清潔ナル哺乳器ニ入レテ與フ本病ノ病毒ハ患畜ノ排泄物中ニ混淆スルヲ以テ豫防法トシテ患畜ハ直チニ隔離シ糞便ハ消毒スヘシ

阿片末

五〇〇

右混和毎日三回一食匙量宛與フ

煨製マグネチア

〇・五

重曹

一〇〇〇〇

(仔豚)

右混和卵黃ニ和シテ與フ(仔豚)

食鹽

二〇〇〇〇

大黃根末

〇・二〇

ナフタリン

一五〇〇

初生獸下痢

蓖麻子油 七五〇
アラビヤゴム 一〇〇〇
水 二〇〇〇
右混和三四回ニ分與(胸)
阿片末 三〇〇—五〇〇
アルテア根末 二五〇〇
水 適量
右混和「アラビヤゴム」ヲ用ヒテ丸劑五個ヲ作り毎三時一個宛與フ(胸)
阿片末 五〇〇
甘朮 二〇〇
甘草根末 三〇〇
右混和二回ニ分與(胸)
硫酸鐵 二五〇
赤葡萄酒 二五〇〇
右混和一日二三食匙宛與フ
レゾルチン 各五〇〇
澱粉 一〇〇〇〇
水 一〇〇〇〇

右振盪合劑トシテ與フ

サリチール酸 一〇〇〇
酒精 一〇〇〇〇
梔皮煎 一〇〇〇〇
右混和シ日々全量若ハ半量ヲ與フ(續・駒・仔羊)
阿片末 〇・三一—一〇〇
大黃 二—五〇〇
炭酸マグネチア 一〇〇
右爲散劑二乃至三食匙ノ武蘭酒ニ混與(續)
硝酸銀 一—四〇〇
餾水 二五〇—五〇〇〇
右爲溶液二回ニ灌腸(駒・續・仔羊)
大黃根末 四〇〇
阿片末 二〇〇
炭酸マグネチア 一〇〇
右混和「カミルレ」浸一〇〇〇〇ニ若ハ稀釋セル武蘭酒五〇〇〇ニ

五二〇

混シ一日二回分服(續)

タンニン酸 各二〇〇
サリチール酸 各二〇〇
以上「カミルレ」浸ニ混シ振盪シテ與フ一二回反覆スヘシ
ナフタリン 三〇〇
梔皮末 五〇〇〇
亞麻仁 二〇〇〇
右溫湯ニ混シ二回分服(續)
梔皮煎 一〇〇〇〇
クレオリン 一〇〇〇
酒精 五〇〇〇
右混和二回分服(續)
タンニン酸 五〇〇
亞麻仁煎 (二〇〇〇) 二五五〇
右爲振盪合劑二回ニ分服(續)
明礬末 各二五〇
梔皮末 各二五〇
右混和一瓶ノ亞麻仁煎ニ混與(續)

炭酸マグネチア

阿片末 五〇〇
護謨末 二〇〇
右混和二分シ其一分ヲ一茶碗量ノ「カミルレ」浸ニ加ヘ振盪シテ與フ(續)
タンナルビン 五〇〇
サリチール酸 一五〇〇
右混和一個ノ生卵ニ和シ出產後半時間ヲ經テ與フ翌日反覆ス(續)
サリチール酸 一〇〇
タンナルビン 二〇〇—三〇〇
右混和爲散劑一包其四包ヲ作り朝夕一包宛與フ(續)
サリチール酸 一〇〇
タンナルビン 二〇〇
右爲一包其四包ヲ作り毎日二包宛一茶碗量ノ「カミルレ」茶劑ニ混與(續)

初生獸下痢

サリチール酸

阿片末 各一〇〇
アラビヤゴム 各一〇〇
右混和爲散劑一包其五包ヲ作り一包宛數回與フ(續)
サリチール酸 各二〇〇
阿片末 各二〇〇
右薄荷茶劑ニ和シ二回分服(續)
タンニン酸 一〇〇〇
阿片末 五〇〇〇
グリセリン 一二〇〇〇
右混和毎三回一食匙量宛牛乳ニ混與(續)
甘朮 〇〇〇五
白糖 〇〇〇五
右混和爲散劑二包生後三日間毎日一包宛與フ但十五分ノ後更ニ「タンノフォルム」四〇〇ヲ少量ノ蜂蜜及單舍利別ニ和シ舌面ニ塗擦シテ與フ(續・豫防ノ目的)

タンノフォルム

甘朮 一〇〇〇
右混和爲散劑一包毎日三四回各二包ヲ少量ノ單舍利和シ舌面ニ塗布シテ與フ或ハ適宜丸劑トナシ與フ(續)
タンノフォルム 二〇〇—三〇〇
アラビヤゴム 一五〇
右爲散劑一包毎日二三回等量宛一茶碗ノ水ニ混與(續)
タンノフォルム 二〇〇
アラビヤゴム 各一〇〇
右混和爲散劑其三包ヲ作り毎日二包宛内服(續)
イヒトフォルム 三〇〇—五〇〇
阿片末 一〇〇
右混和爲散劑一包其三包ヲ作り必要ニ應シテ與フ(續)
イヒタルガン

刺創

アラビヤゴム 各五〇〇
 水 一〇〇〇
 右混和毎日三回一食匙量宛與フ
 (續)
 ナフトール 〇〇・一
 次サリチール酸蒼鉛 一〇〇
 レゾルチン 四〇〇
 右等量四包ヲ作り朝夕一包宛與
 フ(續)
 レゾルチン 八〇〇
 餾水 一〇〇〇
 右爲溶液一日二回二分與(續)
 レゾルチン 一五〇〇
 重炭酸ナトリウム 各五〇〇
 甘草根末 各五〇〇
 右混和爲散劑三—四回二分與
 (續)

刺創 Vulnere puncta. (羅)

乳酸 一〇〇〇
 單舍利別 一〇〇〇
 右混和「リートル」ノ「カミル
 レ」浸ニ和シ二日間四分與
 (續)
 乳酸 一〇〇〇
 グリセリン 五〇〇〇
 右混和一日三回牛乳ニ和シテ與
 フ(續)
 コロイド銀 〇〇五—〇〇一
 滅菌餾水(或ハ〇〇・五%石炭酸水) 五〇—一〇〇
 右爲溶液靜脈内注射料トス(或
 ハ皮下注射)(續)但本方ハ本症
 ノ豫防的處方トシテ生後三日間
 連用スヘシ尙各注入後左ノ處方
 ヲ内用スルヲ可トス

五二二

イトロトル(枸橼酸銀) 各一〇〇
 乳糖 各一〇〇
 右一食匙量ノ「ゴム」漿ニ和シテ
 與フ(續)前方ト伍用スヘシ
 キセロフォルム 一五〇〇
 アラビヤゴム漿 五〇〇〇
 覆盆子舍利別 一〇〇〇
 右混和毎日一—三食匙宛與フ
 (續)
 サリチール酸アルブミナート 二・五
 阿片末 〇・四
 右混和爲散劑一包共十包ヲ作り
 毎時一包宛與フ(續)

療法 創傷療法ノ原則ニ隨ヒ消毒ヲ施シ染毒ノ微アレハ創傷分泌液ノ規則的排泄ヲ計リ場合ニ由

リテハ創傷ノ切開ヲ要ス又防腐液ヲ注意シテ創内ニ注射シ再ヒ外方ヨリノ汚染ヲ防ク爲メ繃帶ヲ施
 ス刺創ヲ「コロヂウム」或ハ同様ノ材料ヲ以テ包攝スルハ唯無敗性ノ場合ニノミ用フ、創傷傳染起リ
 タルトキハ此等ノ包攝ハ有害ナリ是レ創傷分泌液ノ滯溜ヲ容易ナラシムレハナリ刺創ニ屢々強直症
 ヲ結果スルハ土壤ニヨリテ汚レ或ハ強直菌ニ汚染シタル物體ニヨリ傷ケラルルニ由ル此理由ニ依リ
 蹄ノ踏創ハ周到ノ注意ヲ要ス
 刺傷ニ在リテハ創内ニアル異物ハ可及的迅速ニ除去スヘシ異物ノ多クハ染毒シテ炎症ヲ誘發スル原
 因トナルヲ以テ異物ヲ除去セサレハ決シテ終結ニ達セサルノミナラス重劇ノ結果ヲ併來スルコトア
 リ稀ニ異物ハ無菌性ナルトキハ包裹シテ癒ユルコトアリ金屬體(釘・彈丸)及硝子ニ於テ往々目撃ス此
 等ノ異物屢々自己ノ重量ニ依リ或ハ筋肉ノ作用ニ依リテ徐々ニ轉位シテ推出セララルルコトアリ

膝 瘤 腕腫 Knie heule. (獨)

療法 粘液囊水腫及囊腫ニ因ル軟性膝瘤ニ在テハ先ツ之ヲ穿刺シタル後其内部ニ「ヨード」液ヲ注
 入ヲ行ヒ或ハ初ヨリ長ク且廣ク切開シテ防腐灌注法及填塞法ヲ施シ或ハ半月狀ノ皮膚片ヲ切除シ鈍
 性切斷ニ由テ内部ノ包膜ヲ刮削シ創縁ヲ縫合シテ「タール」繃帶ヲ施シ或ハ馬ノ肘腫ニ於ケルト同様
 先ツ之ヲ穿刺シタル後「ヨード」丁幾ヲ注入シ(注射量ハ二〇〇〇乃至三〇〇〇トシ八日後ニ反覆ス)十
 四日後切開シテ其内部ノ死滅セル包膜ヲ除去スル等ノ療法ヲ行フヘシ但本症ハ多クハ單純ナル美
 容失格タルニ過キサコト多シ

膝軟腫 Distension of the knee-joint. (英)

膝痛 膝軟腫

膝輝 膝腫軟腫 出血 蝨

五一四

滑液膜炎參照

膝 痺 Psoriasis carpi. (羅)

繫鞅參照

膝腫軟腫 Knee galls. (英)

腫鞘炎參照

出血 Haemorrhagia. (羅)

療法 創傷ノ出血ハ創傷療法止血法參照、各臟器ノ出血ハ其條下參照

蝨 Pediculidae. (羅)

療法 蝨ノ驅除ニ用フル殺虫藥多シト雖就中良効アルハ「クレオリン」擦劑「クレオリン」及軟石鹼各一分・酒精七分ヲ良トス是レ廉價ニシテ中毒性ニ乏シケレハナリ、本擦劑ヲ全身三分一ニ塗布シ第三日ニ〇・五—一%硫肝浴ヲ行フ「クレゾール」又ハ「タール」擦劑・五%石炭酸水・「ペルーバルサム」(高價ナリ)ヲ用フ二—三%ノ「クレオリン」・「リゾール」・「クレゾール」・「バチロール」液ノ洗滌モ亦良効アルモ數回反覆セサルヘカラス灰白水銀軟膏ハ實用ニ適セス馬ハ榛實大量ヲ裝具ノ内面、牛ハ角間ニ、犬ハ頸環ノ内面ニ其半量ヲ塗抹ス本藥ハ中毒シ易キカ故ニ舍飼ノ馬・幼獸ニハ用フヘカラス又廣ク蔓延セル蝨ハ水銀軟膏ヲ一局所ニ應用スルモ之ヲ驅除スル能ハス、一%昇汞水ヲ以テ注意シテ洗滌シテ良効ヲ擧ケタル者アリ又煙草煎汁(一・二〇—二五)ヲ以テ小區分宛洗滌スヘシ酪農場ニ於

テハ「タール」又ハ「クレゾール」ヲ混スルモノヲ使用スヘカラス是レ牛乳ニ臭氣ヲ移スヘケレハナリ除虫菊粉及他ノ驅蟲藥粉ヲ用フルトキハ其施用部ヲ豫メ濕シ置クカ或ハ糊泥トナシテ塗布スルヲ宜シトス、石油・亞麻仁油又ハ薑薑油ノ合劑ハ殺虫ノ効アルモ皮膚纖弱ナルモノハ皮膚炎ヲ起ス、又「エーテル」油・脂肪ヲ用フヘシ、三日乃至四日毎ニ二—三回治療ヲ反覆スルトキハ卵ヨリ孵化スルヤ否ヤ虫體ヲ剋殺スルノ利アリ醋ヲ以テ洗滌スレハ卵殼溶解シ且仔蝨ヲ殺ス剔毛スレハ一層殺虫ニ便ナリ、鳥類ノ蝨ニ對シテハ壁蝨ノ條下ニ記載シタル殺虫藥ヲ用フヘシ

豫防法 皮膚ヲ清淨スル爲メ梳拭ヲ勵行シ長毛ノモノハ剔毛ス又營養不良ノモノハ殊ニ滋養物ヲ給シ又新鮮ナル大氣ノ流通ヲ能クシ適宜ノ運動ヲナサシメ夏季游泳・水浴後ハ能ク拭ヒ乾燥セシムヘシ又患畜アラハ速ニ之ヲ隔離シ剪毛・臥藁ハ悉ク集メテ之ヲ燒棄スヘク又畜舎・器具・器械等ハ充分清潔ニシタル後消毒ヲ勵行スヘシ

煙草煎汁 二—五・〇—一〇〇・〇

右知覺過敏ノ犬・猫

右牛ノ洗滌ニ用フ

右寄生部ヲ洗滌ス(牛馬但牛ハ

サバデイラ煎 二・〇—一〇〇・〇

サバデイラ軟膏 四〇・〇

中毒シ易キカ故ニ最小局部ニノ

常醋 一〇〇・〇

右小動物特ニ犬ニ塗用

ミ用フ)

右洗滌用牛・馬・犬

ベンゼン 一〇—五〇—一〇〇・〇

水銀軟膏 四〇・〇

亞麻仁油 二〇〇・〇

(動物ノ大小ニヨル)先ツ體ノ半

右馬及豚ニ一日二回塗用ス但小

酒精 四〇〇・〇

部ニ塗布シ他日其殘半部ニ塗布

局部ニ限ル

右局所塗布用

炭酸加里

ペルーバルサム 一六・〇

クレオリン 二五・〇

亞砒酸

エーテルアニス 四〇—八〇・〇

煙草煎汁 一〇〇〇・〇

炭酸加里

蝨

五一五

| | | | | | |
|---------|--------|----------------|------|----------|------|
| 常水 | 各一五〇〇 | フルメント酒 | 七五〇 | 石油ベンジン | 一〇〇〇 |
| 醋 | 右頑症洗滌用 | 右八日間二回用(馬) | 一〇〇〇 | カリ石鹼 | 二〇〇〇 |
| 肝油 | 四〇〇 | 硝酸亞鉛化汞 | 一〇〇〇 | 酒精 | 一〇〇〇 |
| 右一日一回塗布 | | 綠石鹼 | 一〇〇〇 | 右混和洗滌料トス | |
| 炭酸加里 | 五〇〇 | 水 | 適量 | クレオリン | 三〇〇 |
| 清水 | 一〇〇〇 | 右爲軟膏塗擦料 | | 醋 | 三〇〇 |
| 右局所洗滌 | | 灰白水銀軟膏 | 三〇〇 | 清水 | 三五〇 |
| 石油ベンジン | 七・五 | 亞麻仁油 | 四五〇 | 右同 | 一〇〇〇 |
| | | 右混和刷毛ヲ用ヒテ塗擦(馬) | | | |

五一六

銃創 Vulnere sclopetaria. (羅)

療法 銃創療法ノ要旨ハ第一止血ニ在リ此目的ニ丸道ノ切開及擴張ヲ要スルコトアリ、第二ハ彈丸及之ト共ニ攪入セル異物ノ抽出ナリ然レトモ彈丸ノ除去ハ絕對的ノ要旨ニアラスシテ彈丸ノ搜索困難ナル場合ニハ之ヲ廢スルモ害ナク却テ搜索ノ長時ニ亘ルヲ嚴禁トス、容易ニ之ヲ抽出シ得ルノ豫想アレハ拔丸鑷子ヲ以テ除去ス亞米利加式拔丸鑷子之ニ適ス(第四六圖)彈丸抽出ニ着手スル前丸道ノ長サ及彈丸ノ位置ヲ検査スヘシ丸道ノ切開ハ其抽出ヲ容易ナラシムル利アリ彈丸ノ抽出ニハ嚴重ニ消毒セル器械及手指ヲ用フヘシ消毒セサル手指

第四六圖



及不潔ナル消息子等ヲ以テスル創傷検査ノ結果ハ屢々生命ヲ失フノ危險ヲ誘發スルコトアリ、療法ノ第三要旨ハ防腐法ニアリ而シテ射入口ハ染毒シ易キカ故ニ先ツ茲ニ防腐法ヲ施ス即チ創内ニ攪入シタル毛子及馬具斷片ヲ除去シ石炭酸・クレオリン・昇汞溶液ノ洗滌及注射ヲ行フ野外ニ於テハ此目的ニ昇汞錠ヲ用フルヲ便トス既ニ化膿ヲ發スレハ膿汁及其他ノ排泄ヲ便ニシ屢々反對孔・串線或ハ排膿管ヲ裝ス

痔囊腫 Haemorrhoidcyst. (羅)

療法 囊壁ヲ其内容ト共ニ摘出スルカ或ハ腐蝕破壞スレハ全瘵スト雖囊ヲ穿刺シテ内容ヲ排除シタルノミニテハ唯腫瘍ノ縮小シタルノミニテ全治セス囊壁ノ破壞ハ刺戟腐蝕藥ノ注入(「ヨード」・「クロール」・「亞鉛」・酒精等)ニアリ最良ナルハ囊ヲ切開シテ前記腐蝕藥或ハ烙鐵ニテ囊壁ヲ破壞スルニアリ普通ノ施術ハ囊ヲ開カスシテ全囊ヲ周圍組織ヨリ分離シテ摘出ス此法ハ囊ノ隣部ト生着セサルトキハ容易ナリ囊ノ切開後ハ摘出シ難シ内容硬固ナルトキ(毛髮羽毛齒)ハ摘出ヲ必要トス

射入病 散蔓性「フレグモ一ネ」又蜂巢織炎
Einschuss. (獨) Phlegmone diffusum. (羅)

療法 普通ノ射入病ニ對シテハ可成速ニ樟腦及酒精等分ヨリ成レル樟腦精繃帶ヲ施スヲ最良トス即チ之カ應用宜シキヲ得タル場合ニ於テハ往々八日間ニテ既ニ治効ヲ奏スルコトアリ其他樟腦軟膏・「ヨード」・「フォルム」軟膏・「タール」擦劑及灰白水銀軟膏モ亦稱用スルニ足ル而シテ又是等ノ外用療法ハ吸收劑ノ内用ニ依リテ一層之ヲ補助シ得ヘシ即チ「アレコリン」・「エゼリン」又ハ「ピロカルピン」

痔囊腫 射入病

五一七

ノ應用ノ如キ是ナリ總テ急性ノ場合ニ在テハ靜ニ馬ヲ休養セシメ且餘リニ早ク之ヲ使役サセルヲ肝要トス蓋シ本症ハ屢々再發シ易キヲ以テナリ反之次急性及慢性經過ニ在テハ放シ馬房ニ收容シテ適宜運動セシムレハ往々速ニ吸收セララルコトアリ硬化ヲ遺シ象皮病ヲ發シタルモノニ在テハ近時「フイプロリジン」ノ皮下注射ヲ賞用スル人アルモ奏効確實ナラス化膿性射入病ニ對シテハ充分注意シテ總テノ膿瘍ヲ切開シタル後其膿竈ニ向テ制腐的灌注法ヲ行ヒ且時宜ニヨリテハ解熱藥ヲ投與シ又ハ樟腦油ヲ皮下注射スヘシ又膿瘍部ノ燒烙モ確効ヲ奏ス

- 灰白水銀軟膏 各五〇・〇
- ワゼリン 右混和爲軟膏軟化、解凝、防腐性軟膏トシテ與フ
- 灰白水銀軟膏 各三〇・〇
- ヒヨス油 一〇・〇
- 樟腦 右混和爲軟膏軟化、解凝、防腐性軟膏トシテ與フ
- 灰白水銀軟膏 各四〇・〇
- ラウリル脂 右混和毎日一回宛塗擦
- 灰白水銀軟膏 五〇・〇
- アムモニア水 二五・〇

- 菜油 一〇〇・〇
- 樟腦精 右混和毎日二回宛塗擦 二〇〇・〇
- イヒチオール 五〇・〇
- ラノリン 右混和爲軟膏塗擦料 五〇・〇
- イヒチオール 一〇・〇
- 餡水 五〇・〇
- ラノリン 二五・〇
- 豚脂 五〇・〇
- 右混和爲軟膏解凝軟膏トシテ與フ 一〇・〇
- イヒチオール 一〇・〇

- バラフィン軟膏 五〇・〇
- 右混和爲軟膏外用
- クロロフォルム 四〇・〇
- 豚脂 六〇・〇
- 右混和塗擦料トス(劇痛アル場合) 一・五
- ヨード 一〇・〇
- ヨードカリウム 一〇・〇
- 灰白水銀軟膏 五〇・〇
- 豚脂 一〇〇・〇
- 右混和爲軟膏毎日胡桃實大量宛塗擦 一〇・〇
- ヨード 一〇・〇

- ヨードカリウム 各五〇・〇
- グリセリン 一〇・〇
- 右混和爲軟膏塗擦料トシテ與フ
- ヨード 〇・五
- ヨードカリウム 各五〇・〇
- 餡水 五〇・〇
- ラノリン 右混和爲軟膏塗擦料トシテ與フ
- ヨード 〇・五
- ヨードカリウム 各五〇・〇
- 餡水 四〇・〇
- ラノリン 一〇・〇
- 豚脂 右混和爲軟膏塗擦料トシテ與フ
- ヨード 二・五

- ヨードカリウム 七・五
- バラフィン軟膏 五〇・〇
- 右混和爲軟膏吸收性塗擦料トス
- ヨード 一〇・〇
- ヨードカリウム 五〇・〇
- カリ石鹼 一五・〇
- 灰白水銀軟膏 七五・〇
- 右混和爲軟膏吸收性塗擦料トシテ毎日一回塗擦
- ヨード 六〇・〇
- ヨードカリウム 一五・〇
- 軟石鹼 七五・〇
- 酒精 三〇〇・〇
- 右混和塗擦料トシテ與フ
- ヨードフォルム 各二〇・〇
- 樟腦 二〇・〇
- 豚脂 右混和爲軟膏塗擦料
- 軟石鹼 二五・〇
- 樟腦精 一〇〇・〇

- 右混和爲樟腦軟膏解凝性塗擦料
- ヂチオサリチール酸蒼鉛 五〇・〇
- ラノリン 各二五・〇
- ワゼリン 右混和塗擦料
- アントラソール 一〇〇・〇
- 菜油 一〇〇・〇
- 右混和塗擦料
- リゾール 五〇・〇
- グリセリン 二五・〇
- クロロフォルム 一〇〇・〇
- 右混和塗擦料
- ブローム水素酸アレコリン 〇・〇一
- 鹽酸ピロカルピン 〇・〇五
- 餡水 一〇・〇
- 右爲溶液皮下注射料一回分トス(馬ノ腺分泌機能催進劑)

斜頸 Torticollis. (羅)

療法 痲質斯性斜頸ハ温包・刺戟衛動擦劑(四三一合劑)・「サリチール」酸曹達・「アンチピリン」・「アンチフェブリン」内服「ヴェラトリン」或「ピロカルピン」ノ皮下注射ヲ試ム筋肉ノ劇伸頸椎ノ疾患ニ歸因スルモノハ頭ヲ高く繫定シ側副木ヲ頭ヨリ腹帶ニ懸ケ以テ頸ノ運動ヲ防キ正位ヲ保タシムヘシ不全脱臼ニアリテハ整復ヲ試ム二三人ヲシテ頸環ヲ固定セシメ反對舒伸ヲ行ヒ尙數人ヲシテ勒ヲ引カシメ或ハ滑車ヲ用ヒテ舒伸ヲナス同時ニ術者ハ頸ヲ凸側ヲ觸診シテ之ヲ壓抵シテ整復ヲ試ムバツシ氏ハ馬ヲ倒シ頸ノ凹側ヲ土地ニ向ハシメ頸ノ凸側ニ板ヲ抵シ其上ヨリ強ク壓迫シテ整復ヲナシ得タリ一タヒ整位スルモ起立スレハ又轉位スルコトアリ是レ恐クハ斜突起ノ骨折ヲ合併スルモノナルカ故ニ整復スルヤ否ヤ繃帶ヲ施シ保定スヘシ其法二個ノ木製或ハ金屬製ノ副木ニシテ其形狀長短アリ頸側ニ適合スルモノヲ撰ヒ肩ヨリ頸ノ後緣ニ至ラシメ頸ノ上下兩緣ニ於テ紐ヲ以テ兩側ノ副木ヲ結合繼着ス頭ハ高く繫定シ繃帶ハ八乃至十四日間止メ置キ副木ハ木綿或ハ軟布ヲ以テ被包スルヲ宜シトス炎症症候アレハ初メ冷湯後ニ按摩ヲ施ス不絶頭ヲ低垂スレハ大浮腫ヲ起シ鼻孔狹窄呼吸障礙ヲ來シ氣管截開術ヲ要スルニ至ル頭ヲ支ヘ低垂ヲ防ケハ浮腫ハ自ラ消散ス

斜視 Strabismus. (羅)

療法 斜視手術ヲ以テ之ヲ醫セントスルカ如キハ家畜ニアリテ實際殆ント無シ

趾骨瘤 Ring bone. (英)

療法 飼養管理ヲ好クシ幼齡ノ間ハ削蹄・成年ニ至ラハ裝蹄ニ注意シ以テ發病ヲ豫防スヘシ關節骨瘤ハ神經截斷術ノ外良法ナシ、關節周圍骨瘤ハ先ツ鞣帶ノ劇伸及負重不等ノ原因ヲ除キ殊ニ削蹄ニ注意シ蹄ノ負重ヲ平坦ニシ負緣ノ一部他部ヨリ速ニ地ニ着クトキハ之ヲ短削シ蹄腫長キニ過クレハ削正シ若ハ鐵臍ヲ除キ短ニ過クレハ鐵尾ヲ厚クシ或ハ鐵臍ヲ附ス努メテ繫ト蹄前壁ト並行セシム鞣帶及骨膜ノ炎症アルトキハ莖膏軟膏・赤復「ヨード」汞軟膏・昇汞軟膏ノ如キ強刺戟藥ヲ塗布シ可成的乃至六週間休憩ヲ命ス此法効無ケレハ二列乃至三列ノ點狀烙鐵ヲ施スヘシ限局性骨瘤ニハ四五點ヲ烙セハ足ル白熾尖銳ナル烙鐵ヲ以テ皮膚ヲ貫キ骨瘤ニ達セハ往々跛行止ム但シ關節ヲ破ルヘカラス此法効無ク馬價安クシテ永久ノ治療ヲ加フル能ハサルトキハ神經截斷術ヲ行フ即チ正中神經ノ内外兩枝ヲ截斷シ或ハ球節直上ニ於テ内枝若ハ外枝ノ背趾神經或ハ掌趾神經ヲ截斷ス

子宮歇兒尼亞 Hernia uteri. (羅)

療法 繃帶ヲ以テ腹ヲ吊支シ攝養ニ注意スヘシ分娩ニ際シ陳痛弱ク努責起ラス胎兒ノ產出遲滯困難ナルヲ以テ人力若ハ器械力ニ藉リ強ク牽引スル必要アリ然ルニ胎兒ハ深ク腹底ニ沈下シテ捕捉シ難ク綱・產科鉤等ノ裝著亦容易ナラス然ルトキハ布ヲ卷キタル木板ニテ腹ヲ高く擡舉シ或ハ母獸ヲ仰臥セシメ陣痛毎ニ腹上ヨリ子宮ヲ壓迫スヘシ仰臥位置ハ胎兒ヲ產道ニ引キ寄セルニ便ナリト雖母獸ノ苦痛ヲ増スコト亦一段ナルヲ以テ永ク其位置ヲ保タシムルハ慘酷ノ所爲ナリ故ニ五乃至八分毎ニ側臥位置ニ轉シテ暫ク慰安ヲ與ヘ更ニ復ヒ仰臥セシムルヲ可トス、犬ハ仰臥セシメ瘤ヲ按壓シテ子宮ノ還納ニ努メ成功セサレハ麻酔防腐法勵行ノ下ニ歇兒尼亞手術若ハ子宮截斷術ヲ施スヘシ即チ皮膚

子宮歇兒尼亞

膚ヲ截開シ指ニテ子宮ヲ壓迫シツツ還納ヲ試ミ尙ホ成功セスンハ刀ヲ以テ歇兒尼亞輪ヲ割大スヘシ
 割開ノ際刀及ヲ體中線若ハ後方ニ向クレハ腹壁動脈若ハ股動脈ヲ傷クル虞アリ慎マサルヘカラス若
 シ再發ノ虞アリト認ムレハ子宮角ヲ截開シテ胎兒及胎膜ヲ抽出シ探子ヲ以テ同角ノ左腹腔部ヲ検査
 シ尙ホ胎兒ノ存在ヲ認メナハ之ヲ摘定シテ子宮ノ創口ヨリ抽出スヘシ子宮ハ腸線ニテ縫合シテ還納
 シ次ニ鼠蹊輪ヲ縫閉シ終ニ皮膚創ヲ縫合シ適宜ノ壓定繃常ヲ施ス子宮截斷術ノ場合ハ宮角ノ全部(輪
 卵管ヨリ角ノ基始部マテ)ヲ輪外ニ挽出シ角ノ本末ヲ腸線ニテ結紮シ廣靱帶ノ動靜脈ハ別箇ニ結紮シ
 然ル後子宮ヲ截斷スヘシ

子宮脱

Prolapsus uteri. (羅)

療法

牛ノ全宮脱ノ療法ヲ別ツテ整復ノ準備・整復及再發豫防ノ三トス即チ次ノ如シ
 (一)整復ノ準備 (イ)患牛多クハ横臥スレトモ種々ノ方法ヲ用ヒテ起立セシメ前低、後高ノ位置トナ
 シ努責ヲ減少シ脱宮ノ重量ニ依リ自然ニ整復セシムル様ナスヘシ、若シ孰レノ方法ヲ試ムルモ起立
 セサルトキハ束藥ヲ患牛ノ後部ニ用ヒテ其部ヲ高メ腹部ノ藥ヲ除キテ壓迫ヲ防クカ又ハ仰臥位置ト
 ナシテ後部ヲ高クスヘシ、(ロ)全宮脱ニ於テハ前記ノ如ク膀胱及直腸ハ常ニ陰腔ニ近ク牽引セララル
 ニヨリ排尿・通便共ニ困難ナルヲ以テ脱宮後長時間ヲ經レハ之ヲ排泄スヘシ、(ハ)脱宮新鮮ナルトキ
 ハ單ニ冷水若ハ溫湯ヲ以テ洗淨シ一%ノ「リゾール」若ハ二乃至三%ノ硼酸溶液ヲ以テ消毒シ直ニ還
 納スヘシ若シ數時間以上ヲ經過シ浮腫シタルトキハ之ヲ收縮セシムル爲ニ二乃至三%ノ明礬水ヲ十分
 間若ハ粘膜ニ皺襞ヲ生スルマテ灌注スヘシ若シ鬱血浮腫ニ因リ大ニ膨脹スル時ハ亂刺シテ縮小スル

法アリト雖亂刺ハ創傷ヨリ病毒ヲ感染シ或ハ多量ノ出血ヲ來スコトアルヲ以テ成ルヘク避クルヲ安
 全トス、(ニ)婉髓ノ一部若ハ全部附着スルトキハ母體胎盤ヨリ之ヲ剝離スヘシ、(ホ)脱宮ニ裂創ア
 レハ縫合シテ「ヨード」丁幾ヲ塗布スヘシ若シ裂創小ナル時ハ單ニ「ヨード」丁幾ヲ塗布スルノミニテ
 可ナリ

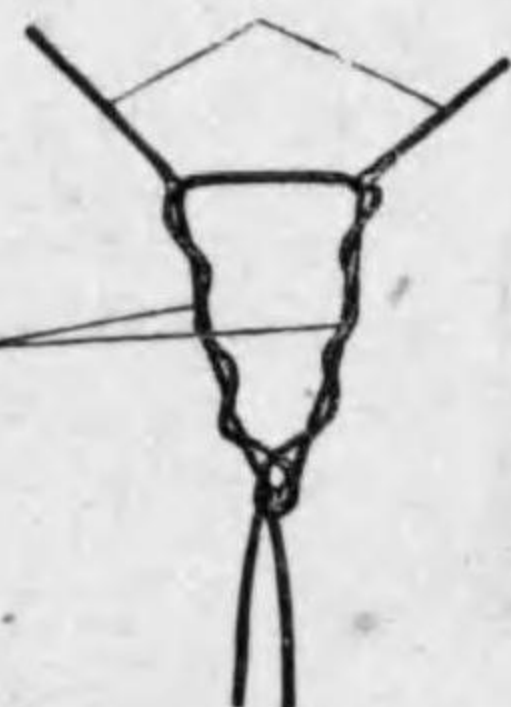
(二)整復 ノ際ハ三人ノ助手ヲ要ス、即チ一人ノ助手ヲシテ頭ヲ持タシメ尾ヲ兩側方ニ牽キテ腹帶
 ニ結ヒ附ケ他ノ二人ヲ尻部ノ兩側ニ起立セシメ消毒シタル布ノ端ヲ持タシメ洗滌消毒シタル脱宮ヲ
 其上ニ載セ適度ノ高サニ擧ケテ之ヲ保持セシメ術者ハ脱宮ノ上部即チ陰門ニ近キ部分ヨリ努責休止

圖七四第



器定保宮子狀球 (氏ゲンミレフ)

圖八四第



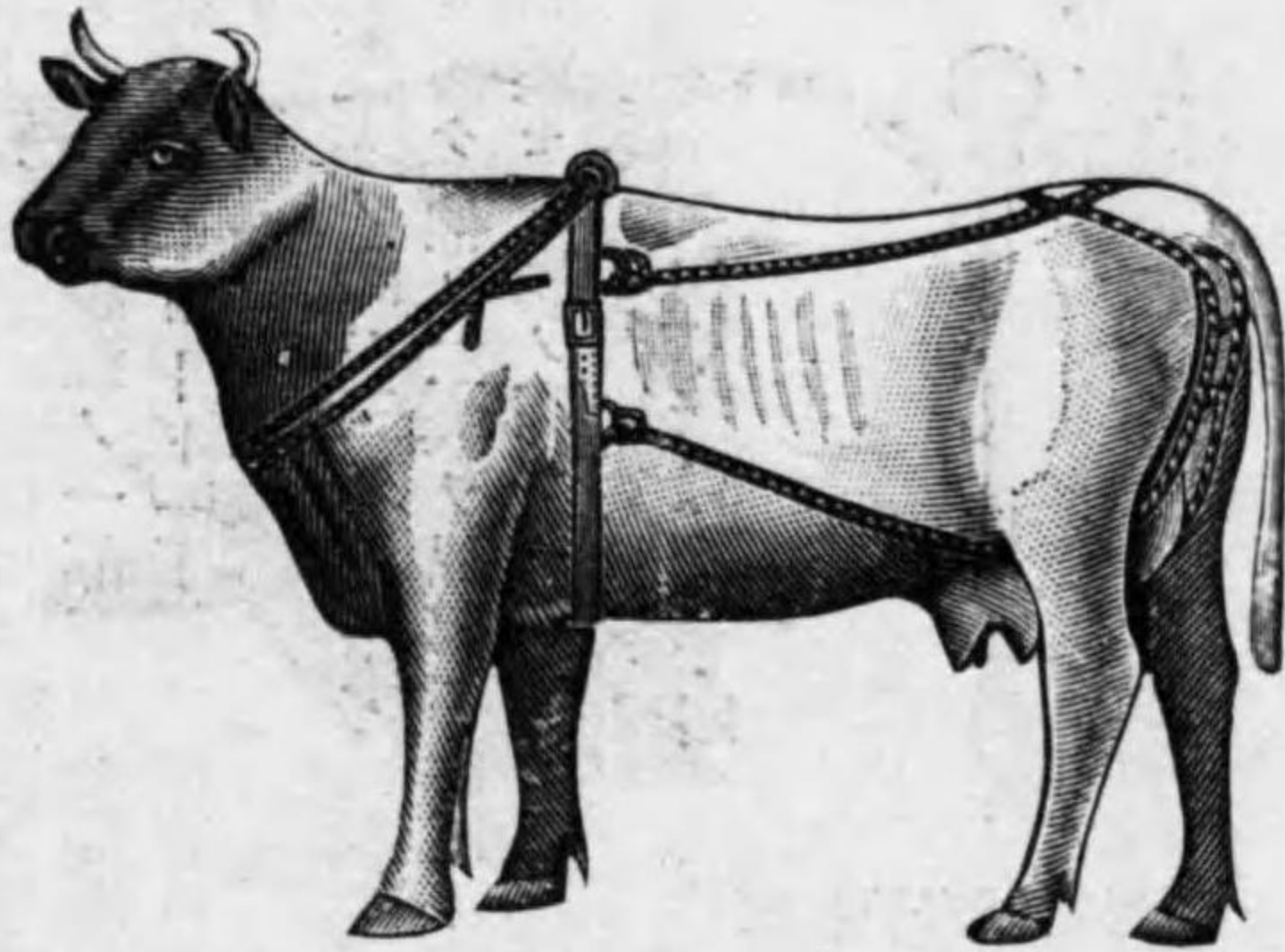
綱腹 帶宮脱氏トルワルデ ノモルタシ長改

間ニ徐々陰腔内ニ推シ込ミ努責スル時ハ再脱セサル様手ニテ壓迫シ(若シ著シク努責スルトキハ抱水「クローラール」二五〇〇乃

至五〇〇ヲ多量ノ冷水ニ混シテ飲用セシムヘシ)努責ノ間歇スルヲ待テ順次一部分ツツ出來得ル限
 リ多ク壓入シ次ニ術者ハ脱宮ノ最下部ニアル裂樣孔ノ部ヲ握リ骨盤腔ニ推シ込ミ更ニ手ヲ伸張シテ
 姪角ヘ充分ニ壓入シテ復位シ皺襞ヲ伸張シ其前部ノ再ヒ翻轉セサルヲ確認シタル後ニ手ヲ牽キ出ス

（三）再發豫防（イ）前身ヲ低クシ後身ヲ高クスヘシ、（ロ）努責強劇ナルトキハ抱水「クロラール」ヲ飲用セシムヘシ、（ハ）努責ヲ減少スル爲ニ健康ナルモノニハ徐々牽運動ヲナスヘシ、（ニ）

圖九四第



ノモルダシ施ヲ帶宮脱良改

圖〇五第



器定壓氏ドンル

（ホ）整復シタル後ハ努責止ミテ再脱ノ虞ナキマテ手ヲ其儘子宮内ニ保チ置クヘシト雖疲勞ノ爲ニ之ヲ行ヒ能ハサルトキハ脱宮帶若ハ壓定器等ヲ適宜ニ用ユヘシ、上記ノ子宮保定器ヲ要セサルトキハデルワルト氏脱宮帶ヲ改良

圖一五第



ノモルダシ施ヲ器定壓氏ドンル

抱水クロラール二五〇—三五〇
右粘漿ニ和シ灌腸料トス

鹽酸モルヒネ
餉水

〇〇・一
一〇〇〇

右爲溶液體重十「キログラム」ニ
付三〇宛皮下注射（犬）

子宮損傷

Injuria of the uterus. (英)

療法

娩隨停滯スレハ子宮ノ收縮ヲ妨ケ傳染ヲ來ス虞アルヲ以テ速ニ之ヲ除去シ催陣痛藥（牛ニ

子宮損傷

ハ麥角越幾斯五〇〇「グリセリン」五〇〇ノ皮下注射ヲ用ヒテ子宮ノ收縮ヲ促シ努責腹壓強劇ナレハ該藥ヲ廢シ鎮靜藥(抱水「コロラール」等)ヲ用フ淺創ハ善ク消毒シ達シ得ヘクンハ「コロラール」亞鉛・明礬・五百倍昇汞等ニテ輕ク腐蝕スヘシ透穿創ニハ液體ノ注入ヲ爲スヘカラス是レ腹腔ニ流入シ腹膜炎ヲ起シ易キヲ以テナリ不透穿創ト雖強ク液體ヲ注入スレハ透穿創ニ變スルコトアルヲ以テ子宮創ニ對スル注入ハ凡テ慎重ヲ要ス若夫透穿創ナルカヲ將タ不透穿創ナルカヲ確メンカ爲ニ故サラニ注入ヲ行フ必要アルトキハ患畜ヲ屠肉ニ利用シ得ル様ニ無臭ノ藥液(明礬水・タンニン溶液・槲皮煎等)ヲ用フヘク石炭酸・「クレオリン」等ヲ用フヘカラス果シテ透穿創ナルコトヲ知ラハ速ニ屠殺シテ肉ヲ利用スヘク漫リニ治療ヲ加フヘカラス若シ畜主ニ於テ強テ治療ヲ要求スルコトアラハ胎膜ヲ除去シ「ヨードホルム」綿ノ「タンボン」ヲ挿入シ多量ノ食鹽ヲ皮下若ハ靜脈内ニ注入シ「サリチール酸ナトリウム」コヒーネ」ヲ皮下注射シ三・四日後ニ至リ慎重ニ防腐液ノ注入ヲ行フヘシ若シ亦縫合シ得ヘクンハ之ヲ試ムヘシ

- | | | | |
|--------------------|-------|------------------|------------------------------------|
| サビナ葉末 | 三〇〇〇 | 右混和三「リートル」ノ熱湯ヲ加 | 要アル場合ニ) |
| 精製炭酸カリウム | 二〇〇〇 | ハ每三乃至四時其四分ノ一量宛 | 流動ヒドラスチス越幾斯 一〇〇〇 |
| 右混和浸劑トナシテ與フ(牛ノ) | | 與フ(牝牛)子宮牽縮ヲ惹起 | 右一壺ノ赤酒ニ和シテ與フ(馬ノ子宮牽縮ヲ起サシムル要アル場合) |
| 子宮牽縮ヲ惹起セシムルノ要アル場合) | | 流動ヒドラスチス越幾斯 三〇〇〇 | 流動ヒドラスチス越幾斯 一〇〇〇 |
| サビナ葉末 | 一〇〇〇〇 | アルテア根末及水 | 右混和爲丸劑四個毎日二個宛與(馬ノ子宮牽縮ヲ惹起セシムル要アル場合) |
| ゲンチアナ根 | 七〇〇〇 | | |
| テレピン油 | 二五〇〇 | | |

- | | | | |
|----------------|-----|------------------------|------|
| 場合) | | シムル要アル場合) | |
| ヒドラスチス越幾斯 | 一〇〇 | 麥角末 | 五〇〇〇 |
| 麥角越幾斯 | 〇・六 | 右裸麥粉及少量ノ水ヲ加ヘテ砥 | |
| 甘草根末 | 適量 | 劑トナシ一日内二回ニ分與 | |
| 右混和爲丸劑十個毎日三回二個 | | (牛馬ノ子宮牽縮ヲ惹起セシムルノ要アル場合) | |
| 宛與フ(犬ノ子宮牽縮ヲ惹起セ | | | |

子宮捻轉 Torsio uteri. (羅)

療法 先ツ患畜ヲ仰臥位置ニ保定シ手ヲ子宮内ニ挿入シ胎兒ノ一肢ヲ握リ之ヲ固定シテ子宮ト共ニ捻轉ト反對ノ方向ニ廻轉スヘシ若シ効ナキトキハ胎兒ト共ニ子宮ヲ固定シ母體ヲ捻轉ノ反對ノ方向ニ廻轉スヘシ即チ(イ)患畜ノ尾・肛門・外陰部等ヲ洗淨シ乳房膨大スルトキハ搾乳シ(ロ)畜舎ノ土間ニテ施術スルトキハ近隣ノ畜類ヲ他所ニ移スヘシ又天候ニ差支ナキトキハ舎外ノ草生地ニ患畜ヲ出シテ施術スヘシ(ハ)施術場ニハ寢藥ヲ充分敷キ(ニ)患畜ヲ之ニ導ケハ多クハ自然ニ横臥スレトモ然ラサルトキハ靜ニ之ヲ轉倒シ(ホ)前肢ト後肢トハ別々ニ保定スルカ又前肢ト後肢ト共ニ縛定スルカ孰レニスルモ前肢ト後肢トノ間ニ約三分ノ一米迷突ノ餘地ヲ設ケ廻轉ニ便ナラシムヘシ(ホ)後身ノ下方ニ束藁ヲ入レテ高クシ前身ヲ低クシ(ト)術者ハ手ニ良ク消毒シタル油ヲ塗布シ胎兒ノ肢ヲ握リ子宮ト共ニ之ヲ固定シ(チ)例ヘハ四分ノ一乃至二分ノ一以內ノ右方捻轉ニ在リテハ先ツ患畜ヲ左側ニ横臥セシメ次ニ仰臥位置ニ轉シ更ニ右側ニ横臥セシムレハ二分ノ一反對ノ方面ニ廻轉セシムルヲ以テ捻轉ハ解脫シ胎兒ハ娩出スヘシ(リ)全捻轉ニ在リテハ更ニ右側横臥ヨリ伏臥ニ轉シ再ヒ左

子宮膿腫 子宮口閉鎖 子宮出血 子宮炎

五二八

側ニ横臥セシムヘシ 前記ノ方法ニテ効ヲ奏セサレハ腹壁截斷術ヲ施シテ整復スヘシ

子宮膿腫 Pyometra. (羅)

子宮水腫參照

子宮口閉鎖 Atrisia uteri. (羅)

療法 痙攣性子宮閉鎖ニアリテハ多クハ早期陣痛ヲ發シ胎水ノ流出セサル間或ハ子宮回轉ノ解ケサル間持續スルヲ常トス陣痛甚シケレハ抱水「クロラール」ヲ内服又ハ灌腸シ或ハ苜蓿越幾斯ヲ子宮口ニ塗付ス又指ヲ以テ子宮頸ヲ觸診シ其開大ヲ試ムルモ可ナリ或ハ溫湯(攝氏三六—三八度)ヲ腔内ニ注入ス

抱水クロラール

三〇〇—苜蓿越幾斯

五〇〇—

右混和爲軟膏子宮塗布(牛)

右粘液ニ混シ内服(牛)

パラフィン軟膏

二〇〇—

子宮出血 Haemorrhagia uteri. (羅)

産後子宮出血參照

子宮炎 Metritis. (羅)

加答兒性子宮内膜炎

Endometritis catarrhalis.

療法 局所療法ニ重キヲ置キ子宮ノ洗滌消毒ヲ行ヒ腔内ニ蓄積スル炎性分泌物ノ洗除又排泄ヲ圖

ルヘシ、注入器ハ「ゴム」管ト漏斗ヨリ成リ宮口潤開サセルトキハ「ゴム」管ニ嘴管ヲ附ス嘴管ハ子宮管ト稱シ末端球狀ニ膨大シテ中央孔ノ外ニ側面ニモ數孔アリ堅「ゴム」製・金屬製・木製等アリ、此嘴管ヲ宮頸ヲ通過シテ正シク子宮内ニ挿入シ洗滌液ヲ注入ス斯クテ注入シタル液ヲ排泄センニハ漏斗ヲ急ニ降下スヘシ若シ胎膜ノ殘片・滲出物ノ凝塊等ニ由リ管口ヲ閉鎖シテ注入液ノ排泄ヲ防碍スルトキハ管ヲ推進シ或ハ方向ヲ轉シ或ハ漏斗ヲ高舉シテ復ヒ水液ヲ注入シ其水壓ニ依リテ障劑ヲ排除シ努メテ管ノ疏通ヲ圖ルヘシ、注入液ハ輕症ニハ單ニ滅菌水又ハ生理的食鹽水ノ灌注ニ依リ治療スルトモ稍重症ニハ硼酸(二%)・「サリチール」酸(〇・五%)・枯礬若ハ粗製明礬(〇・五%)・石灰水牛乳等分「バチロール」(〇・五%)・「ヒノゾール」(一%)・「クレオリン」(〇・五%)・「イヒタルガン」(一%)・「イトロール」(四千倍)・過「マンガ」酸加里(〇・五%)・硼砂(〇・五%)・重曹(一%)・炭酸「ナトリウム」(〇・五%)・「バリゾール」(〇・五%)・「ゾルヴェオール」(一%)・「スブラミン」(三千倍)・「テラボーゲン」(二%)等ヲ用フ、注入量ハ牛馬ハ一回六一〇「リートル」、犬ハ約半「リートル」ニシテ溫度ハ約體溫即三五乃至四〇度ヲ適當トス

子宮口潤開スルトキハ洗滌後ニ「イトロール」・「デルマトール」若ハ「タンノフォルム」ノ如キ粉末ヲ撒布器ニテ腔内ニ撒布スルコトアリ或ハ「タンノフォルム」二五・〇ニ「グリセリン」ヲ加ヘテ團子(坐藥)ヲ作り之ヲ腔内ニ送入スルコトアリ、内服ニハ子宮藥(麥角・麥角越幾斯・流動「ヒドラスチス」越幾斯・「サビナ」等ヲ用フ(子宮藥ノ處方ハ子宮損傷參照)

慢性加答兒性子宮内膜炎

白帶下

Endometritis catarrhalis chronica. (羅)
Fluor albus. (羅)

子宮炎

五二九

療法 牝牛ニ於テハ宮口緊縮閉鎖シテ藥液ヲ注入シ得サル場合多キハ治療上ノ一大妨碍ニシテ大抵藥液ハ膈ニノミ入リテ宮内ニ入ラス徒ニ宮口ニ向テ藥液ヲ注射スルニ過キサルハ世間ノ通弊ナリ豫メ抱水「クロラール」ノ灌腸若ハ硫酸「アトロピン」(〇・〇五—〇・一)ノ靜脈注射ヲ行ヒ或ハ此二法ヲ並施シ置キテ宮内注入ニ著手スレハ大抵目的ヲ達シ得ヘク療法ヲ合理的ニ且完全ニ實施セントナラハ手数數ノ煩ヲ厭ハス須ラク左記ノ順序ヲ履行スヘシ

(第一)準備 尾・肛門・陰部・及注入用ゴム管及嘴管ヲ消毒シ防腐液ニテ陰腔ヲ洗滌スルコト、(第二)一—二%「テラボーゲン」溶液若ハ他ノ防腐液ヲ宮内ニ注入ス、(第三)子宮ノ内容ヲ「サイフホン」作用ニ由リ排泄ス、(第四)攝氏三五—四〇度ノ滅菌水一・五乃至二「リットル」ヲ注入ス、(第五)宮内ノ液ヲ再「サイフホン」作用ニ由リ排泄ス、(第六)防腐液ヲ宮内ニ注入ス、(第七)直腸ヨリ子宮及卵巢ヲ摩擦シテ子宮ノ收縮ヲ促ス、(第八)内服ニハ子宮ノ收縮ヲ起シ發情ヲ促スノ目的ヲ以テ子宮藥及「ヨヒムビン」ヲ處ス

馬ニ於テハ毎日強明礬水「クレオリン」水ヲ注入シ頑固ノ症ニハ〇・五%ノ「クロール」亞鉛溶液ヲ注入シ或ハ又硫酸銅若ハ硝酸銀溶液ヲ注入ス
子宮著シク膨大スルトキハ牛馬ニ於テハ直腸若ハ陰腔ヨリ、犬ニ於テハ腹壁ヨリ套管鍼ニテ子宮ヲ刺スコトアレトモ腹膜ノ化膿性傳染ヲ起ス虞アルヲ以テ輕々シク決行スヘカラス、犬ニ於テハ子宮切除術 Hysterectomy ヲ行フ

白帶下ハ賣買ノ際排液ヲ拭ヒ取りテ病症ヲ隱蔽シ購入後ニ至リテ始メテ之ヲ發見シ契約解除若ハ損害賠償ノ訴因ト爲ルコト屢々之アリ訴訟鑑定ハ購入ノ目的ニ由リテ異ナリ購入ノ目的種用ニアラハ

本病ハ重大ノ瑕疵ト斷定スヘク役用又乳用ニアラハ大瑕疵ト認定スベク肉用ニアラハ重大ナラサル瑕疵ニ屬ス發病ノ時期ニ關シテハ斷定ヲ下スニ難カラス經産動物ニ於テハ最後ノ分娩ヲ未經産動物ニ於テハ最後ノ種付ヲ以テ發病ノ時期ト認定スヘシ

- | | | | | |
|-------------------|-----------|--|---|------|
| セプトフォルム | 一〇—二〇 | 一個 | 内洗滌(牛) | |
| 餉水 | 一〇〇〇〇 | 右一個半乃至三個ヲ一日量トシテ與フ(牛) | 芒硝 | 四〇〇〇 |
| 右爲溶液洗滌料トス(傳染性ノ場合) | | | アブシント | 五〇〇〇 |
| アクトール | 一〇〇 | 右亞麻仁煎汁「リットル」ニ混シテ頓服(牛) | 梔皮 | 五〇〇〇 |
| 餉水 | 二〇〇〇—四〇〇〇 | 右三乃至六個ヲ一日量トシテ與フ(豚羊山羊) | 昇汞 | 五〇 |
| 右爲溶液洗滌料トス(傳染性ノ場合) | | | 食鹽 | 二・五 |
| 硼酸 | 二〇〇 | ヨヒムビン錠(黃色)一個ノ含量 | 酒精 | 一〇〇〇 |
| 水 | 二〇〇〇〇 | 右四分ノ三乃至一個半ヲ一日量トシテ與フ(體量十「キログラム」迄ノ犬但體量二十五「キログラム」迄ノ犬ニハ三乃至六個ヲ與フ) | 右溫湯五「リットル」ニ溶解シ子宮内洗滌(馬) | 三〇〇 |
| 右爲溶液洗滌料トス(微溫湯トシテ) | | | 右溫湯三「リットル」ニ溶ス(牛ノ慢性子宮炎(硼酸ハ他ノ防腐藥ニ比シ動物ヲ努責セシムルコト尠シ) | 三〇〇 |
| 炭酸カリウム | 一五〇 | クレオリン | | |
| 梔皮煎 | 五〇〇〇 | 右水三「リットル」ニ溶解シ子宮 | | |
| 右注入料トシテ與フ(牛) | | | | |
| ヨヒムビン錠(赤色)一個ノ含量 | | | | |

子宮炎

サビナ 一〇〇・〇
 龍膽根末 七〇・〇
 テレピン油 二五・〇
 右混和シ三「リートル」ノ温湯ヲ
 注キ其四分ノ一量ヲ毎三時乃至
 四時ニ與フ
 粗製明礬 一五〇・〇
 水 七〇〇・〇

右爲溶液毎日子宮内注入

硫酸鐵 一五〇
 水 七〇〇・〇
 右爲溶液毎日三回子宮内注入
 石炭酸 二〇—三〇
 水 一〇〇・〇
 右混和一日三四回子宮内注入
 クレオリン 三〇—五〇

水 右混和用法同前

石炭酸 八〇—一二〇
 酒精 一〇〇
 常水 七〇〇・〇
 右爲溶液一日四五回子宮洗滌

五三二

化膿性子宮炎

Endometritis suppurativa. (羅)

加答兒性子宮内膜炎參照

子宮實質炎

Endometritis parenchymatosa. (羅)

加答兒性子宮内膜炎參照

子宮外膜炎

Perimetritis. (羅)

療法

先ツ發病ノ本源タル傳染部位即子宮内膜炎ニ對シ局所療法ヲ施シ次ニ腹痛ヲ緩解シ腹膜炎ノ蔓延ヲ阻止スル目的ヲ以テ「モルヒネ」ノ皮下注射ヲ行ヒ或ハ阿片劑ヲ處シ腹壁ニ刺戟擦劑ヲ塗リプリースニツツ氏罷法ヲ行ヒ強心劑トシテ「チキタリス」丁幾・酒精劑ノ内服・樟腦精若ハ油ノ皮下注射ヲナス

本病患畜ノ肉ハ全身ノ腐敗又ハ惡臭アル物質ノ吸收ニ由リ公衆ノ食用ニ利用スルヲ得ス

子宮周圍炎

Parametritis. (羅)

療法

子宮及陰腔ヲ探檢スルニ疼痛ヲ感シ骨盤壁ト陰腔トノ間若ハ會陰ニ腫脹ヲ發ス此腫脹ハ化膿シテ限局性ノ腫瘍ヲ形成シ波動ヲ呈シ適當ノ時期ニ穿刺若ハ切開シテ消毒ヲ行ヘハ屢々癒ユルコトアリ

子宮水腫

Hydrometra. (羅)

療法

子宮内ニ貯溜スル膿及水液ヲ全ク排除ス動物ノ後體ヲ低ク斜ニスルヲ便トス排除後微温防腐液ノ注入ヲ行フ石炭酸液(一〇・一〇〇—一五〇)「サリチール」酸水・明礬水(一・六〇—一〇〇)昇汞水(一・五〇〇〇)之ニ適ス又一・五—二%明礬水・一%「クレオリン」水ヲ子宮内ニ注入シ一〇—一五分時間子宮内ニ止メ置キ三四回反覆應用スレハ慢性症モ癒ユルコトアリ某實驗家ハ子宮頸管ヲ切開シテ套管針ヲ挿入シテ百「キログラム」ノ液ヲ排除シ治ヲ致シタル實驗ヲ報告セリ

腫瘍

Neoplasma. (羅)

療法通則

往時ハ腫瘍ノ療法ニ内服藥例之水銀劑・砒石・「ヨード」・鐵劑等ヲ用ヒ尙刺絡・下劑等ヲ用ヒタルモ全ク効ナシ良性腫瘍ノ施療ハ腫瘍ニヨリ動物ノ用役ヲ障害スル場合ニ行ヒ惡性腫瘍ハ全然除去シ得ル場合ニ行フ、腫瘍ノ除去ニ左ノ數法アリ

子宮水腫 腫瘍

五三三

基腫瘍ニハ複結紮ヲ施ス皮膚ヲ腫瘍ト共ニ結紮スルトキハ施術容易ナリ結紮ニハ強靱絲例之絹絲・麻絲稀ニ金屬線ヲ用フ小動物ニハ護膜線ヲ適當トス皮膚ヲ結紮スルトキハ動物ニ劇痛ヲ與フルニ由リ皮下結紮ヲ行フコトアリ小腫瘍ハ結紮ノ儘放置スルモ大腫瘍ニアリテハ三四日ノ後ニ改裝ス場合ニヨリ去勢術搾木ヲ用フ結紮持久スルトキハ結紮部ヲ過「マンガン酸カリウム」液ニテ洗滌スヘシ

二、牽裂法 多クノ腫瘍例之牛ノ咽頭内腫瘍ハ手ヲ挿入シテ捻轉破壞シ又外表腫瘍例之牛馬ノ纖維腫・粘液腫等ハ手指ヲ以テ牽裂シ場合ニヨリテハ絞斷器・鉗子等ヲ用フ刀切若ハ鋏切ヨリ出血少ナシ
三、腐蝕法 烙鐵・「テルモコテール」・「ガルバノコテール」等ヲ用ヒテ腫瘍ヲ破壞ス小腫瘍ハ「ガルバノコテール」ヲ用フルヲ便トス其他腐蝕藥(苛性加里・「クロール」・亞鉛・砒石・硫酸等)ニテ腫瘍ヲ腐蝕除去スルハ獸醫術ニアリテハ便法ナリ腐蝕藥ハ濃液或ハ純品ヲ用フ

四、摘出法 最良ノ法ナリト雖出血ノ危険アリ腫瘍ノ形狀及位置ニヨリテ或ハ單式或ハ複切皮ヲ行フ惡性腫瘍ニシテ皮膚或ハ粘膜ト生着セルモノハ共ニ摘出ス先ツ腫瘍ヲ周圍組織ヨリ分離シ出血アルハ血管ヲ壓迫結紮シテ止血シ鬆疎組織ニアリテハ手指ヲ以テ破切分離スルヲ宜シトス出血多量ナレハ烙鐵ヲ抵ス惡性腫瘍ハ其周圍一二仙迷ノ健全組織ヲ共ニ摘除ス尙殘株アル疑アレハ摘出後烙鐵或ハ腐蝕藥ヲ施用ス手術ノ結果ハ動物ノ種類・腫瘍ノ性質・部位等ニヨリ一様ナラス惡性腫瘍ハ再發シ易シト雖良性ノモノハ通常全治ス出血其他ノ危険アリテ摘出ヲ行フ能ハサル場合ニハ腫瘍血管特ニ動脈ヲ結紮シテ腫瘍ノ萎縮ヲ來サシメ或ハ藥液(酒精・「ヨード」・丁幾・硝酸銀・醋酸・麥角・砒石・「レビン」油)「ピオクタンニン」等ヲ腫瘍實質内ニ注射シテ破壊ス又摘出數週前「ピオクタンニン」水溶液(一%)ヲ日々注入シ施術ノ際ノ出血ヲ豫防ス

濕疹 Eczema. (羅)

療法 先ツ原因ヲ除去ス即寄生蟲ハ殺蟲藥ヲ以テ驅除シ塵埃及污垢ハ刷子ヲ以テ擦除スヘシ、治療ヲ施スニ便ナラシムル爲患部ノ毛子ハ剪去ス搔痒ハ大動物ニアリテハ縛繫又ハ被包シ小動物ハ口網・頸環又ハ患部繃帶ニ依リテ摩擦ヲ防クヘシ然ラサレハ大ニ治機ヲ妨ク、以上ノ處置ヲ施シタル後急性濕疹ニハ水及石鹼ヲ用ヒシテ油類ニ浸セル綿花ヲ以テ輕ク患部ヲ擦過シテ痂皮及滲出物ノ凝塊ヲ除去ス次テ乾燥及保護ノ目的ヲ以テ撒布劑又ハ軟膏ヲ塗布ス撒布劑ニハ滲出物ヲ吸收シタル後ニ糊ノ形トナリテ皮膚ヲ保護スル植物性粉末ヲ最良品トシ即小麥粉・澱粉・米粉・「タンニン」酸等トス礦物質ニテハ酸化亞鉛・炭酸亞鉛・滑石・諸種ノ蒼鉛化合物(次硝酸蒼鉛・「アイロール」・「デルマトール」・「キセロフオルム」・「チオフォルム」)・「ヨードフォルム」等ヲ植物性粉末ト混合(五―一〇)シテ用フヘシ劇症ニハ粉劑ヲ患部ニ厚ク撒布シ上ニ繃帶ヲ施ス其他「クレオリン」又ハ「イヒチオール」ヲ「コロヂウム」ト混シ(一〇%)或ハ「グッタヘルカ」ヲ「クロロフォルム」(六倍)ニ溶解シタルモノヲ用フ、軟膏又ハ泥膏ハ亞鉛華軟膏・鉛軟膏・「タンニン」酸軟膏・「ワゼリン」・「バラフィン」・單軟膏・硼酸軟膏等ヲ用フ、搔痒ハ撒布劑又ハ軟膏ノ應用ニ依リテ緩和セラル劇シキ痒覺アレハ「イヒチオール」泥膏(「イヒチオール」・酸化亞鉛・澱粉各一分「ワゼリン」二分)卓効アリ又鉛糖水若ハ「ブロー氏」ノ冷盪ヲ行ヒ或ハ「アネステシン」三%酒精溶液・「コカイン」軟膏(「コカイン」一分・「バラフィン」二十五分)ヲ用フヘシ滲出旺盛ナルトキハ患部ヲ清拭シタル後其面ニ前記乾燥劑ヲ厚ク撒布シ一日二・三回治療ヲ施スヘシ此目的ニハ「チオール」ヲ最良トシ同藥ヲ粉末トシ或ハ水及「グリセリン」溶液(一・五)トシテ用フ又白糖末ヲ賞用スル者アリ、重症ニハ硝酸銀溶液(二―六%)或ハ「ピクリン」酸(一・八六

水)ヲ用ヒ滲出減少スレハ軟膏又ハ泥膏ヲ應用スヘシ
 慢性濕疹ハ結痂ヲ除去シ皮膚ノ贅生産物ヲ切除シ石鹼ニテ洗淨ス患部濕潤ナレハ急性濕疹ノ濕潤期
 ニ於ケル療法ト同一ノ處置ヲ爲シ滲出減少スレハ「タール」ヲ用フ即チ木「タール」ヲ酒精溶液トナシ
 又ハ軟膏トシテ用フ通常木「タール」・加里石鹼・稀酒精二・二・一ノ合劑、木「タール」・稀酒精等分合
 劑ヲ用フ該軟膏又ハ油劑ハ多量ニ患部ニ塗布シ三日乃至五日間放置シテ後厚キ痂皮ヲ除去シテ再ヒ
 同藥ヲ反覆ス、「クレオリン」・「リゾール」亦「タール」ト同様ニ用フレハ効アリ、其他「ナフトール」・
 「ナフタリン」(五―一五%軟膏)・「ヨードグリセリン」(「ヨード」丁幾一分「グリセリン」四分)・「レ
 ゴルチン」・「サリチール」酸(五―一五%軟膏)等ヲ用フ、馬ノ慢性濕疹ニシテ皸裂ヲ呈スルモノニ
 ハ硫黃及水銀軟膏ニ芫菁ヲ加ヘテ塗用シ犬ノ慢性濕疹ニハ硫黃浴又ハ硫化加里浴ヲ賞用ス甚タシキ
 慢性ノ濕疹ニシテ皮膚ノ肥厚ヲ來セルトキハ(馬ノ水疔)刀又ハ剪刀ヲ以テ切除シ或ハ銳匙ヲ以テ削
 除シ若ハ烙鐵ヲ以テ燒烙スルコトアリ總テ有毒性ノ藥物ヲ用ヒタルトキハ患畜カ之ヲ舐嘗スルヲ豫
 防スルノ注意ヲ怠ルヘカラス又一時ニ皮膚ノ廣面ニ藥品ヲ塗擦スヘカラス病機大ニ恢復シ僅ニ鱗屑
 ヲ遺ストキハ「オレーフ」油又ハ單軟膏ノ塗布ニテ足ル、濕疹ニ於テ内服藥ハ唯外用藥中毒ノ虞アル
 トキ緩下劑ヲ要シ又「ホーレル」水(馬一食匙・犬五―一〇滴)ヲ用フルコトアリ「クロールカルチウム」
 (日量三・〇)ノ内服ハ痒覺ヲ消散セシムル効アリト云フ患畜ノ飼養管理ニ注意シ刺戟性ナキ消化シ易
 キ食物ヲ給スヘシ

- 軟石鹼・木タール 各三〇〇
- 右患部塗布 豚脂 三〇〇
- 赤降汞 一〇〇
- 昇汞 右爲軟膏毎日二三回塗用 〇・一

- 餽水 一〇〇〇
 - 右患部塗用
 - ベンゼン 一〇〇〇
 - 軟石鹼 六〇〇
 - 餽水 八五〇
 - 右爲溶液患部洗淨用(犬)
 - イヒチオール 一〇〇〇
 - 餽水 一〇〇〇
 - 右毎日屢々患部塗布
 - 石炭酸 一・五〇
 - 水 五〇〇
 - 右腫起鱗屑部ニ朝夕二回塗用
 - ベンゼン 一〇〇〇
 - 軟石鹼 二〇―四〇〇
 - 右鱗屑部ニ屢々塗布
 - 亞鉛華軟膏 四〇〇
 - 右一日一回塗布
 - 酸化亞鉛 五〇〇
 - 澱粉 二〇〇
 - 右爲粉劑撒布用(犬)
-
- 鉛糖水 二〇〇
 - 右「リトリトル」ノ水ニ稀釋シ劇
 - 痛アル時冷湯用
 - 鹽酸ココイン 一〇〇
 - 餽水 五〇〇
 - 右劇痛アル時毎日二三回塗用
 - 昇汞 〇・〇三―〇・〇五
 - 餽水 三〇〇
 - 右水疱疹冷湯用
 - デヤヒロン硬膏 各二五〇
 - 亞麻仁油
 - 右爲軟膏水疱疹ニ用フ
 - 鉛軟膏 四五〇
 - オレーフ油 三〇〇
 - タンニン酸・石炭酸 各〇・四
 - 右爲軟膏塗用(用前「カミルレ」
 - 浸ニ過「マンガ」酸加里少量ヲ
 - 加タル液ニテ患部洗滌)
 - 苛性加里 五〇〇
 - 餽水 一〇〇
-
- 右皮膚變性ヲ起シタル時ニ一週
 - 一回塗布シ其後冷水ニテ冷湯ス
 - グリセリン或ワゼリン 四〇〇
 - 右軟和塗布用
 - 硫酸 一・五七
 - 豚脂 一五〇
 - 木タール 五八〇
 - 石灰末 二八〇
 - 右毎日一回塗布(慢性鱗屑疹)
 - 石灰水 五〇〇
 - 右水疱疹冷湯用
 - オレーフ油 一五〇
 - 酸化鉛 四〇〇
 - 右爲軟膏「ラゲンデル」油二・五
 - ヲ加ヘテ用フ
 - 白降汞 一〇〇
 - 豚脂 三〇〇
 - 右爲軟膏水疱疹ニ用フ
 - 過クロール鐵 二〇〇
 - 豚脂 四〇〇

濕疹

右濕潤性濕疹ニ用フ
 醋酸鉛 五〇〇
 酸化鉛 三・五
 グリセリン 二〇〇
 右爲擦劑水疱疹ニ用フ
 タール・酒精 各二五〇
 右塗用
 タール・軟石鹼 五〇〇
 右酒精適量ヲ混シ爲擦劑塗用
 (犬)
 軟石鹼 五〇〇
 テレピン油 三〇〇
 右調和塗用
 クレオリン・軟石鹼 各五〇〇
 酒精 二五〇
 右爲擦劑慢性濕疹ニ用フ(犬)
 亞鉛華軟膏 五〇〇
 クレオリン 五〇〇
 右爲軟膏膿疱濕疹ニ用フ
 タンニン酸 二〇〇

バラヒン軟膏 二〇〇
 右爲軟膏單純濕疹ニ用フ
 木タール 五〇〇
 豚脂 五〇〇
 右爲軟膏右同
 木タール 五〇〇
 オレーフ油 二〇〇
 右爲擦劑右同
 ヨード 五〇〇
 グリセリン 一〇〇
 右爲溶液右同
 硝酸銀 三〇〇
 餾水 五〇〇
 右同
 クレオリン 各一〇〇
 綠石鹼 各一〇〇
 酒精 五〇〇
 右爲軟膏犬鱗屑濕疹ニ用フ
 ベタナフトール 一〇〇
 酒精 一〇〇

五三八

右爲溶液右同
 ヨードフォルム 二五〇
 タンニン酸 四〇〇
 右撒布劑
 タンニン酸 五〇〇
 グリセリン 五〇〇
 右爲溶液塗布(犬鱗屑濕疹)
 ホーレル水 三〇〇
 右馬ニ三〇―八〇滴、犬ニ五―
 一〇滴毎日二三回宛與フ(頑固
 慢性症)
 黑硫化アンチモニー 二五〇
 茴香末 一〇〇
 右毎日二三匙宛食餌ニ混與
 (牛右同)
 ヨード加里 〇・一二―〇・二
 右十四包ヲ作り毎日一包宛水ニ
 溶解シテ與フ(犬右同)
 亞鉛華軟膏 四〇〇
 右毎日三回痂皮ヲ洗除シタル後

濕疹

塗布
 軟石鹼 五〇〇
 クレオソット 三・五
 右同
 硫酸銅 五〇〇
 餾水 一〇〇
 右同
 酸化亞鉛 二五〇
 ワゼリン 一〇〇
 サリチール酸 二〇〇
 右同
 ナフタリン 一〇〇
 タンニン酸 四〇〇
 右爲撒布劑
 ナフタリン 二〇
 硼酸 二〇―四〇
 右同
 亞砒酸 二〇―五〇
 甘草末 三〇〇
 アルテア根末及水 適量

右爲丸劑十個朝夕一丸宛與フ
 (馬)
 ヨードカリウム 五〇
 右十個ヲ調ヘ毎日本ニ混與
 (馬)
 溶製硝酸銀 六〇
 餾水 一〇〇
 右爲溶液屢々患部洗滌及塗布
 タンニン酸 五〇
 パラフィン軟膏 五〇
 右爲軟膏濕潤性濕疹ニ用フ
 クレオリン 二―四
 硼酸 一〇〇
 右爲撒布劑
 硝酸銀 二〇
 パラフィン軟膏 三〇
 餾水 適量
 右爲軟膏犬ニ用フ
 硼酸 二五
 明礬・檳皮末 各五〇

五三九

右爲撒布劑
 炭酸カリウム 一〇〇
 假性石灰 六〇
 水 適量
 豚脂 四〇
 酒精 四〇
 グリセリン 一五
 右爲軟膏塗擦
 甘汞 各三
 白糖 各三
 ラノリン 三〇
 右混和爲軟膏毎日二回宛塗布
 酸化亞鉛 各五
 次硝酸蒼鉛 各五
 炭酸鉛 三〇
 滑石 一〇
 右混和爲乾燥撒布劑
 酸化亞鉛 一〇
 麥粉 五〇

濕疹

右混和爲粉末毎日二回撒布
 酸化亜鉛 一〇〇
 滑石 一〇〇
 右混和包攝・刺戟緩和性撒布劑
 トナス 一〇〇
 酸化亜鉛 一〇〇
 タンニン酸 二・五
 小麥澱粉 一〇〇
 右混和分泌制限劑トシテ與フ
 酸化亜鉛 各二五〇
 小麥澱粉 五〇〇
 黄色ワゼリン 各二五〇
 右混和爲軟膏與フ
 酸化亜鉛 各一〇〇
 白糖 五〇〇
 グリセリン 各一〇〇
 羊毛脂 各一〇〇
 豚脂 各一〇〇
 右混和爲軟膏與フ (ホター氏乾
 燥軟膏)

五四〇

酸化亜鉛 各二〇〇
 オレーフ油 各二〇〇
 右混和爲軟膏外用
 豚脂 一〇〇
 ラノリン 三〇〇
 水 二〇〇
 右混和ヘブラ氏冷涼軟膏トシテ
 與フ
 ラノリン 各二〇〇
 ワゼリン 各二〇〇
 水 各二〇〇
 右混和爲冷涼軟膏
 豚脂 一〇〇
 ラノリン 五〇〇
 石灰水 三〇〇
 右混和爲軟膏鎮痒性冷涼軟膏ト
 シテ與フ
 シテ與フ
 トラガカント末 五〇
 グリセリン 二〇
 餾水 一〇〇

右混和ビツク乾燥擦劑トシテ與
 フ
 ラノリン 各二〇〇
 パラフィン軟膏 各二〇〇
 白糖 各一五〇
 酸化亜鉛 各一五〇
 右混和爲軟膏毎日二回塗布
 ゲラチン 二五〇
 白糖 各一五〇
 酸化亜鉛 各一五〇
 右同 三〇
 ヨードナトリウム 各六〇
 ヨード鉛 各六〇
 オレーフ油 各六〇
 右混和爲軟膏繃帶料トス
 重炭酸ナトリウム液(二〇%) 一七〇
 グリセリン 各一五〇
 酒精 各一五〇
 右混和角質減少劑トシテ與フ

濕疹

鉛水 各一〇〇
 豚脂 一五〇
 ラノリン 一五〇
 右混和爲軟膏冷涼軟膏トシテ與
 フ
 次醋酸鉛液 一〇〇
 ラノリン 二五〇
 豚脂 五〇〇
 右同 五〇〇
 安息香酸脂 一〇〇
 ラノリン 二〇〇
 薔薇水 二五〇
 次醋酸鉛水 五〇
 右同 五〇
 單鉛軟膏 各三〇〇
 パラフィン軟膏 各三〇〇
 右混和ヘブラ氏軟膏トシテ與フ
 (刺戟緩和・冷涼・包攝劑トシテ)
 硝砂 三〇〇

五四一

硝酸カリウム 九〇〇
 醋 一八〇
 水 三六〇
 右混和シニウムツケル氏布劑ト
 シテ與フ
 キセロフォルム 五〇
 椰皮末 五〇
 右混和爲粉末防腐・收斂劑トシ
 テ與フ
 デルマトール 一〇〇
 澱粉 六〇
 滑石 三〇
 右混和防腐收斂劑トシテ撒布ス
 デルマトール 各五〇
 タンニン酸 各五〇
 右同 各五〇
 デルマトール 二〇
 藥用石鹼末 二〇
 右同或ハ「イヒチオールワソ
 ー」ヲ加ヘテ塗擦料トナス

ヂチオサリチール酸蒼鉛 二〇〇
 (チオフォルム) 右爲撒布劑
 ギチオサリチール酸蒼鉛 一五〇
 タンノフォルム 三〇〇
 右同 三〇〇
 硝酸銀 二〇
 白色ワゼリン 二〇
 右混和防腐性軟膏トシテ與フ
 硝酸銀 三〇
 パラフィン軟膏 三〇
 右同 三〇
 醋酸鉛 五〇
 硫酸亜鉛 五〇
 ミルラ丁幾 一〇
 ワゼリン 五〇
 右混和爲軟膏外用
 醋酸鉛 一〇
 樟腦 一〇

濕疹

明礬 各二・五
 豚脂 一〇〇〇〇
 右混和爲軟膏塗擦
 タンニン酸 二〇〇
 白糖 五〇〇
 パラフィン軟膏 四〇〇
 安息香丁幾 九〇〇
 右混和爲軟膏毎日二回塗擦
 タンノフォルム 一〇〇〇
 滑石 二〇〇〇
 右混和爲散劑收斂・防腐撒布劑
 トシテ與フ
 タンノフォルム 各二〇〇
 ヨードフォルム 一五〇〇
 滑石 右同
 タンノフォルム 各一五〇〇
 硼酸 右同
 小麥澱粉 各一五〇〇

五四二

タンノフォルム 一〇一五〇
 グリセリン 一〇〇〇〇
 右混和爲防腐劑
 イヒチオール 一〇〇
 グリセリン 一〇〇
 水 三〇〇
 右混和鎮痒劑トシテ外用
 イヒチオール
 酸化亞鉛 各一二〇
 澱粉 二五〇
 ワゼリン
 右混和エツスネル氏「イヒチオ
 ール」軟膏トシテ與フ
 イヒチオール 各一〇〇
 ビロガロール 一〇〇
 彈力コロヂウム 右混和慢性濕疹ノ場合ニ與フ
 右同 各五〇〇
 イヒチオール 各五〇〇
 黄色酸化汞

サリチール酸 二〇〇
 ラノリン 各二五〇
 緩和軟膏 右同
 イヒチオール 五〇〇
 コロヂウム 五〇〇
 右混和外用
 アントラソール 五〇〇
 ラノリン 各二五〇
 ワゼリン 右混和濕潤性濕疹ニ用フ
 ナラアラン 五〇〇
 酸化亞鉛 二〇〇
 パラフィン軟膏 一〇〇
 ラノリン 二〇〇
 右混和爲軟膏毎日一回塗擦
 乾燥チオール 七五〇
 ラノリン 各一〇〇
 豚脂及タール水 右混和慢性症ニ與フ

濕疹

流動チオール 一〇〇〇
 餾水 三〇〇〇
 グリセリン 二〇〇
 右混和皮膚軟化劑
 ベルバールサム 一〇〇
 パラフィン軟膏 九〇〇
 右混和爲軟膏外用
 ベルバールサム 六〇〇
 硝酸銀 〇〇三
 パラフィン軟膏 九〇〇
 右混和爲軟膏潰瘍性創傷ニ用フ
 アムモニア水 各一四〇
 グリセリン 二四〇
 水 右混和皮脂分泌制限劑
 クリサロビン 一〇〇
 彈力コロヂウム 一〇〇
 右混和皮膚寄生微病ノ場合ニ與
 フ
 クリサロビン 五〇〇

亞鉛華軟膏 五〇〇
 右混和爲軟膏毎日一回塗擦
 サリチール酸 一〇〇
 クリサロビン 二〇〇
 カリ石鹼 各二五〇
 黄色ワゼリン 右混和慢性濕疹ニ用フ
 サリチール酸 三〇〇
 沈降硫黃 一〇〇
 樺タール油 五〇〇
 豚脂 一五〇
 右同
 サリチール酸 一〇〇
 炭酸マグネチウム 四〇〇
 右混和撒布劑トス
 石炭酸 各五〇
 綠石鹼 各五〇
 酒精 五〇〇
 右混和毎日一回塗布

五四三

クレオリン 二〇〇
 酒精 一〇〇
 右混和溶解シ毎日一回塗布
 ヨードフォルム 二・五
 クロロフォルム 一五〇
 オレーフ油 五〇〇
 右混和爲擦劑知覺脫失・鎮痒性
 劑トナス 一〇〇
 ビクリン酸 一〇〇
 餾水 一〇〇
 右混和乾燥劑トシテ毎日二回塗
 擦
 木タール 各一〇〇
 硫黃華 各一〇〇
 カリ石鹼 各二〇〇
 酒精 右混和ウキナー「タール」擦劑
 トシテ與フ(慢性濕疹) 各二〇〇
 石炭タール 三〇〇
 酒精 二〇〇

濕疹

エーテル 一〇〇〇
 右混和「タール」酒精トシテ與フ
 焦性杜松實油 二五〇〇
 酒精 一〇〇〇〇
 右混和慢性濕疹ニ用フ
 レゾルチン 一〇〇
 デルマトール 二〇〇
 グリセリン 二〇滴
 石灰水 三五〇
 右毎日三回塗擦（慢性濕疹ノ場
 合）
 ベトロスルフオール 各五〇〇
 レゾルチン 九〇〇
 カイセン軟膏 右混和毎日一回塗擦（右同）
 ベトロスルフオール 各五〇〇
 クロロフォルム 各五〇〇
 グリセリン 各二〇〇
 酒精 各二〇〇

右混和外用
 ナフトール 各一〇〇
 硫黃華 各一〇〇
 カリ石鹼 各二五〇
 豚脂 右混和爲ウイルキンソン氏軟膏
 皮膚硬化・落屑甚シキ場合ニ用
 ナフトール 一五〇
 白堊 一〇〇
 カリ石鹼 五〇〇
 豚脂 右混和皮膚軟化劑トナス
 ナフトール 各三〇〇
 酒精 六〇〇
 ワゼリン 右混和爲軟膏外用
 ナフアラン 二〇〇
 酸化亞鉛 各一〇〇
 小麥澱粉 各一〇〇

五四四

メントール 一〇〇
 右混和爲泥膏痒覺著シキ場合ニ
 用フ
 サポラン 各四〇〇
 鉛水 適量
 豚脂 右同
 單ヂアヒロン軟膏 各二〇〇
 黄色ワゼリン 右混和カボシー氏軟膏トシテ毎
 日塗擦（紅斑アル場合）
 鹽酸コカイン 〇・一
 酸化亞鉛 各二〇〇
 オレーフ油 右混和外用
 鹽酸コカイン 一〇〇
 パラフィン軟膏 二五〇
 右混和毎日二三回塗擦
 乳酸オイカイン 一〇〇
 メントール 〇・二

オレーフ油 二〇〇
 ラノリン 一〇〇
 右混和爲泥膏痒覺著シキ場合ニ
 用フ
 アネステシン 三〇〇

クロロフォルム 各三〇〇
 オレーフ油 右同
 亞鉛華軟膏 五〇〇
 クレオリン 各三〇〇

アネステシン 各五〇〇
 右混和爲軟膏化膿性・帶痒性濕
 疹ノ場合ニ用フ

十二指腸蟲症(犬) Dochmiasis. (羅)

療法 本蟲驅除ノ特效藥ハ「チモール」ナリ、藥用前病犬ヲ一・二回絶食セシメ置キテ後「チモール」
 〇・五―一・〇ヲ膠囊ニ容レテ内服セシメ半時間ヲ經テ、蓖麻子油三〇・〇ヲ與フ病犬ニハ牛乳・生肉及
 鶏卵等ヲ與ヘテ營養ノ改善ニ努メ又貧血ニ對シテハ鐵劑ヲ與フ、豫防法トシテハ犬舎及食器ハ毎日
 清潔ニ洗淨シ蟲卵ノ飲食物ニ混入スルヲ除キ又清水ヲ充分ニ給シテ汚水ノ飲用ヲ豫防シ病犬ハ健犬
 ヨリ隔離シ且病犬ノ糞ハ燒却スヘシ

ヘノボヂ油 餵水
 アラビヤゴム 各五〇〇 橙皮舍利別 各四五〇〇
 右混和爲乳劑一匙宛與フ(犬)

住肉孢子蟲症 Sarcopriodiasis. (羅)

療法 治療ハ効ナシ「ヨード」加里ノ内服後腫脹減退シ運動自由トナリシ實例アリト云フ

蹴傷 Injuries by kick. (英)

十二指腸蟲症 住肉孢子蟲症 蹴傷 五四五

縮腫症 種子骨跛行 瞬膜損傷 瞬膜腫瘍

五四六

療法 皮創アレハ一般創傷療法ニ從ヒテ處置シ之ナケレハ挫傷ト同様ノ療法ヲナス

縮腫症 Myosis. (羅)

療法 原因療法ヲ施シ對症療法トシテ「アトロピン」・「ヒヨスチン」・「ホムアトロピン」・「ゾボイシ」等ノ散瞳藥點眼

種子骨跛行 Sesamoiditis. (羅)

療法 急性炎症存シ屈腿ノ腫脹アル間ハ動物ニ安靜ヲ命シ球節ニ繃帶ヲ緊纏シブリースニツツ氏卷法ヲ行フ劇痛アレハ冷卷法或冷水灌漑ヲ施スマーシエル氏ハ刺戟軟膏及烙鐵ニテ良効ヲ得タリ但六乃至八週間休憩ス慢性頑固症ニアリテハ是等ノ療法ハ効ナシ跛行ヲ去ル爲メ神經截斷術ヲ行フ外ナシ即正中神經截斷術ヲ行フ

瞬膜損傷 Injuries of membrana nicticans. (英)

療法 自然ニ癒ユルモ若シ創傷頑拗ニシテ癒ヘサレハ瞬膜稍ヤ全部ヲ截去スヘシ又過剩ノ贅生物ヲ繼發セハ剪刀ニテ截除スヘシ其法ハ捻撮子又ハ結紮糸ヲ以テ瞬膜ヲ引出シ剪刀ニテ截去スルニアリ術後ノ出血ニハ眼瞼ヲ閉鎖シ壓迫ヲ加ヘ以テ自カラ止マルヲ俟ツヘシ

瞬膜腫瘍 Tumors of membrana nicticans. (英)

療法 纖維腫・上皮腫・軟骨腫・ハルヴェル氏腺ノ腺腫等アリ剪刀ニテ切除ス之ト同時ニ瞬膜ヲモ摘

出ス

仔食癖(豚) Ferkelfressen. (獨)

療法 妊娠中ハ廣キ清潔ナル室ニ入レ成ヘク新鮮ナル空氣中ニ運動セシメ肉類ノ殘屑其他動物質ノ飼料ヲ禁シ其代リニ磷酸石灰ヲ給シ妊娠ノ末期ニ至レハ屢々乳房ヲ輕ク按摩シテ分娩後授乳ヲ厭ハサル様ニ馴致シ分娩ノ際ニハ產蓐ニ短ク切りタル藥ヲ用フヘシ長キ藥ハ初生兒ノ足ニ纏絡シ逃走ニ不便ニシテ危害ヲ避クルニ不利ナルノミナラス窒息ヲ來スコトアリ又看守ヲ附シ置テ各胎兒ノ娩出毎ニ其娩隨ヲ取り除カシメ初生兒ヲ喰フ傾向ヲ表ハシタルトキハ前端ニ螺旋形ノ彈機ヲ具フル口籠ヲ施シ以テ鼻ニテ仔ヲ壓殺シ又ハ咬ミ殺シ得サル様ニシ或ハ鼻口ノ周圍ニ古キ長靴ノ脚部若ハ深キ環ヲ嵌著スレハ滿盛シタル飼槽ニ就テ食スルニハ差支ナク仔ニハ危害ヲ加ヘ得サルヘシ或ハ吐酒石・白藜蘆根末各〇・五ヲ牛乳ニ混シ與ヘテ嘔氣ヲ催サシメ或ハ仔體及母頭ニ酒精類ヲ塗布スレハ目的ヲ達シ得ルコトアリ興奮亂心ノ狀アルトキハ抱水「クローラル」(體重一〇〇基瓦ニ付一六一一八・〇)ヲ與ヘテ鎮靜ヲ謀リ或ハ樟腦精一〇—二〇〇阿片丁幾一—三〇ヲ母豚ノ耳ニ注入スレハ專ラ耳ノ方ニ氣ヲ奪ハレ仔ヲ襲フノ念ヲ生スルニ違アラズ、乳房炎ハ速ニ治療ヲ加ヘ乳類ノ咬傷ハ能ク洗淨消毒シタル後五%ノ「コカイン」軟膏若ハ一萬倍ノ「アドレナリン」溶液ヲ塗布スヘシ

白藜蘆根

白藜蘆根

吐酒石

吐酒石

右「リートル」ノ熱湯ヲ加ヘテ

吐酒石

吐酒石

浸出シ微温トナシ灌腸料トシニ

右混和爲散劑一食匙量ノ蜂蜜ニ

右混和爲散劑一食匙量ノ蜂蜜ニ

回ニ用フ

和シ舌面ニ塗布シテ與フ

和シ舌面ニ塗布シテ與フ

仔食癖

五四七

視神經頭炎 視神經幹炎 心動間歇 心動緩徐

五四八

右混和外用、母獸ノ乳房ニ塗布
(仔豚ガ哺乳ニ際シ乳房ノ疼痛
ニ由リ本症ヲ發セル場合)

| | | | |
|----------|----------------------|-----------------------|-----------|
| 吐酒石 | 各〇・五 | 樟腦精 | 一〇・〇—一五・〇 |
| 白藜蘆根 | 右混和牛乳和シ内用トス(催吐 劑) | 阿片丁幾 | 一・〇—三・〇 |
| 硫酸ヴェラトリン | 〇・〇二—〇・〇五 | 右混和母豚ノ耳内ニ注入(噴息 轉向) | 〇・五 |
| 餉水 | 一〇〇・〇 | 鹽酸コカイン | 一〇・〇 |
| | | ラノリン | 一〇・〇 |

療法網膜炎ニ同シ 視神經頭炎 Neuroretinitis s. papillitis. (羅)

視神經幹炎 Neuritis retrobulbaris. (羅)

療法 眼球内或ハ腦ニ於ケル炎症作用ヲ制止スルハ本病療法ノ最要點トス其他ハ食物攝生ニ注意
シ且光線空氣等眼ノ生理的刺戟ヲ避クヘク時ニ由リテ下劑ヲ投ス

心動間歇 Actio cordis intermittens. Arrhythmia cordis. (羅)

療法 原病療法ノ外動物ヲ寛待シ使役ヲ輕減スヘシ心筋ノ器質病ニ因ルモノハ強心劑往々効ヲ
奏ス

心動緩徐 Brachycardia. (羅)

療法 神經衝動劑例之「アトロピン」(大動物〇・〇二—〇・〇五犬〇・〇〇五—〇・〇〇八)「エーテ
ル」・「アルコホール」ヲ處シ身體ヲ摩擦シ消化器病ヲ治療スヘシ

心 裂 心臟破裂 Ruptura cordis. (羅)

療法 施スヘキ術ナシ

心臟擴張 Dilatatio cordis. (羅)

療法 過劇ノ勞働ニ由リテ一時ノ心臟擴張ヲ來シタルモノハ治癒ス此場合ニハ患畜ヲ絶對ニ靜養
シ強心劑(チギタリス)ヲ與フレハ暫クニシテ恢復ス、急性傳染病ノ經過中ニ發スル心臟擴張又之ト同
一ナリ然レトモ以前心臟病ヲ患ヒ又ハ血行障礙アリ若ハ變性ノ徵アルモノハ治療ニ依リ一時輕快ス
ルモ根治スルコト能ハス斯ル動物ハ輕役ニノミ服セシメ滋養物ヲ給スルノ外ナシ

| | | | |
|------------------------------|-------|---------------------------|--------------------------------|
| チギタリス葉末 | 〇・一 | 水 | 適量 |
| 白糖 | 〇・三 | 右混和爲大丸劑毎日三回胡桃大 量宛與フ(馬) | 右混和爲丸劑十個毎日三個宛與 フ(犬) |
| 右混和爲散劑一包其五包ヲ作り 毎日一包宛與フ(犬) | | チギタリスチアリザート 三〇・〇 | チギタリス 〇・〇一 |
| チギタリス葉末 | 各二五・〇 | 右一罐量宛ノ赤酒ニ和シ三回ニ 與フ(馬) | 餉水 一五・〇 |
| 重炭酸ナトリウム | 各二五・〇 | チギタリスチアリザート 一・〇 | 酒精 五・〇 |
| 食鹽 | 各四〇・〇 | 杜松實末及アラビヤゴム漿 適量 | 右爲溶液一・〇乃至二・〇ヲ一回 量トシテ皮下注射(犬) |
| アルテア根末 | 各四〇・〇 | | ストロファンツス丁幾 四・〇 |

心臟擴張

五四九

心臟内膜炎

カフエイン 〇・〇六
 餉水 一〇・〇
 右混和毎日三回一〇乃至一五滴
 宛與フ(犬)
 カフエイン 五・〇
 アルテア根末 各適量
 水 右混和爲大丸劑一個其六個ヲ作
 リ毎日二回一個宛與フ(馬)
 プローム水素酸スコポラミン 〇・〇二
 餉水 一〇・〇
 右爲溶液體重一〇庇ニ付一〇
 乃至二・〇ノ割合ヲ以テ皮下注
 射(犬)
 樟腦 五〇・〇
 流動パラフィン 二〇〇・〇
 右溶解濾過シ毎二時五・〇乃至

心臟内膜炎

Endocarditis. (羅)

一〇・〇宛皮下注射、但注射前温
 ム(シ)馬) 五・〇
 樟腦 五・〇
 エーテル 各一五・〇
 オレーフ油 右混和一〇・〇宛皮下注射(馬・
 牛)
 羊・山羊・豚ニハ二・〇乃至五・
 〇宛ヲ用フ
 樟腦油 二五〇・〇
 右每三時二〇・〇乃至五〇・〇宛
 皮下注射(馬)
 樟腦油 五〇・〇
 右每二時五・〇宛皮下注射(犬)
 エーテル 一〇・〇
 樟腦油 五〇・〇
 右混和毎時一五・〇宛數回皮下
 注射(牛)

五五〇

エーテル 一〇・〇
 樟腦油 二五・〇
 右混和五・〇宛數回皮下注射
 (犬)
 硫酸ヴェラトリン 〇・二
 右爲一包蠟紙ニ包ミ其二包ヲ作
 リ容器ニ毒藥ト記載シテ與フ
 用法 各包ヲ一蠟ノ亞麻仁粘汁
 ニ和シテ與フ(牛)
 硫酸アトロピン 一・〇
 甘草蒸及甘草根末 適量
 右混和爲丸劑十個毎日一個宛與
 フ(犬)
 硫酸アトロピン 〇・一
 餉水 一〇・〇
 右爲溶液皮下注射料二回分トス
 (馬)

急性心内膜炎

Endocarditis acuta. (羅)

療法 全然休養ヲ必要トス 氷嚢ヲ心臟部ニ抵シ又冷水灌注ヲ行フ心臟ノ作用亢進且不正トナレハ
 「チギタリス」其他ノ心臟藥ヲ注意シテ用ヒ心臟衰弱スレハ衝動劑例之酒精・葡萄酒・黑珈琲・茶・カフ
 エイン」・樟腦・麝香・「アムモニア」水等ノ内服又ハ「エーテル」・樟腦油・麝香丁幾等ノ皮下注射ヲ行フ
 高熱ニハ「ラクトフェニン」・「アンチピリン」・「アスピリン」・「アンチヘブリン」等ヲ用フ、儂麻質斯性
 心内膜炎ニハ「サリチール」酸又ハ其製劑ヲ試ムヘシ

チギタリス葉末 一五・〇
 硫酸キニン 三〇・〇
 アルテア根末 八〇・〇
 右爲三丸毎日一丸宛與フ(馬)
 硫酸キニン 五・〇
 稀硫酸 二・五
 大黃舍利別 一五〇・〇
 右日々三・四回一茶匙乃至一食
 匙宛與フ(犬)
 アンチピリン 二〇・〇
 樟腦 三〇・〇
 アルテア根末 一五・〇
 右爲丸劑必要アレハ反覆ス(牛)

心臟内膜炎

馬) 五・〇
 ザロール 一五〇・〇
 葡萄酒 右一日三・四回一食匙宛與(犬)
 チギタリス葉末 八・〇
 杜松實末 七五・〇
 アルテア根末及水 各適量
 右混和爲丸劑其三個ヲ作り一日
 一個宛與フ(馬ノ強心劑)
 チギタリス葉末 一〇・〇
 右二分シ其各ヲ半「リートル」ノ
 珈琲ニ和シテ二回二分與(馬・牛
 ノ強心劑)

五五一

チギタリス葉末 一〇・〇
 甘汞 八・〇
 アルテア根末 適量
 右混和爲丸劑二日間三回ニ與フ
 (馬ノ強心劑及吸收劑)
 チギタリス葉末 一五・〇
 アルテア根末 一〇〇・〇
 水 適量
 右混和爲丸劑三個二日間三回ニ
 與フ(馬・牛ノ強心劑)
 チギタリス葉末 一二・〇
 稠厚杜松實蒸 適量
 右混和爲砥劑壺ニ容レテ與ヘ二

心臟内膜炎

日間四回ニ分與(馬・牛ノ強心劑及利尿劑)
 ギタリス葉末 五・〇
 ストロファンツス丁幾 二五・〇
 アルテア根末 五〇・〇
 水 適量
 右混和爲丸劑二個朝夕一個宛與
 フ(馬ノ強心劑)
 ギタリス葉末 五・〇
 醋酸カリウム液 二五・〇
 アルテア根末 五〇・〇
 水 適量
 右混和爲丸劑二個毎日一個宛與
 フ(馬ノ右同)
 ギタリス葉末 六・〇
 右一罐ノ酒ニ和シ一回ニ與フ
 (馬ノ右同)
 ギタリス葉末 〇・一
 右爲散劑一包其十包ヲ作り毎日
 一包宛與フ(中等大ノ犬)

五五二

ギタリス葉浸(一・〇)一〇〇・〇
 右毎日一茶匙量(小犬)乃至一食
 匙量(大犬)宛與フ(犬ノ強心劑
 及吸收劑)
 ギタリス葉 二・〇
 右熱湯適量ヲ加ヘテ浸出シ濾液
 一五〇・〇トナシ
 單舍利別 二五・〇ヲ
 加ヘ毎四時一食匙量宛與フ(犬
 ノ強心劑及利尿劑)
 ギタリス葉浸(二・〇)一七五・〇
 硝酸カリウム 三・〇
 單舍利別 二五・〇
 右混和毎二時一食匙宛(小犬ニ
 ハ一茶匙宛)與フ(犬ノ利尿劑)
 ギタリス葉浸(一・〇)二〇〇・〇
 單舍利別 二五〇・〇
 右混和一日三回一匙量宛與フ
 (犬ノ心臟衰弱ノ場合)
 ギタリス葉浸(一・〇)二二〇・〇

醋酸カリウム液 二五・〇
 甘草越幾斯 一〇・〇
 右混和毎日一乃至二回一茶匙量
 乃至一食匙量宛與フ(犬)
 ギガールン 一〇・〇
 右一日二回其一・〇宛筋肉内注
 射、但注射後輕ク按摩スヘシ
 (犬)
 ギガールン 二・〇
 右筋肉内注射料二回分トス(猫)
 結晶ギトキシン 〇・〇一
 酒精 一〇・〇
 水 一九〇・〇
 右灌腸料トス、但一日一乃至三
 回(初メハ三回、次ニ二回、後ニ
 ハ一回)其一〇・〇宛ヲ一〇〇・
 〇ノ温湯ニ稀釋シテ用フ(犬)
 結晶ギトキシン 〇・〇〇〇三
 グリセリン 五・〇
 右混和筋肉内注射料二回分トス

(犬ノ強心劑)

ギタリサート 一五・〇
 右每三時十五滴宛與フ(犬ノ心
 臟性喘息)
 ギタリサート 一五・〇
 枸橼酸カフェイン 〇・五
 右混和毎日三回十五乃至二十滴
 宛與フ(犬ノ強心劑)
 ギタリサート 一〇・〇
 扁桃水 五・〇
 右混和毎日三回二十五滴宛與フ
 (犬ノ心臟性水腫)
 ギタリサート 各一〇・〇
 額草丁幾 各一〇・〇
 右一日三回三十滴宛與フ、但投
 藥前振盪スヘシ(犬ノ心臟性水
 腫・心悸亢進ノ場合)
 ギタリサート 各一〇・〇
 額草酸薄荷腦(ワリドール) 各一〇・〇

心臟内膜炎

右一日三回二十滴宛與フ、但投
 藥前振盪スヘシ(犬)
 ストロファンツス丁幾 三〇・〇
 重炭酸カリウム 一〇・〇
 杜松實末 五〇・〇
 アルテア根末 適量
 右混和爲丸劑二回ニ與フ(馬ノ
 強心劑)
 ストロファンツス丁幾 三・〇
 單舍利別 一〇・〇
 水 一五〇・〇
 右混和毎日一乃至二食匙量宛與
 フ(犬ノ強心劑)
 ストロファンツス丁幾 一〇・〇
 複方キナ丁幾 五〇・〇
 橙花水 一〇〇・〇
 右混和一日一食匙宛與フ(犬ノ
 衰弱狀態)
 ストロファンツス丁幾 一〇・〇
 右一日二回其二十五滴ヲ一食匙

量ノ赤酒ニ混シテ與フ(犬ノ心
臟衰弱)

ストロファンツス丁幾 五・〇
 リーピツヒ肉越幾斯 一〇・〇
 餉水 一二〇・〇
 右混和爲溶液一日三回一食匙量
 宛與フ(犬ノ衰弱狀態ノ場合)
 ストロファンツス丁幾 五・〇
 單舍利別 一〇・〇
 餉水 一八五・〇
 右混和毎日一食匙量宛與フ(犬
 ノ心臟衰弱)
 ストロファンツス丁幾 五・〇
 サルチール酸ナトリウムテオプロ
 ミン 二・五
 橙皮舍利別 二五・〇
 餉水 一五〇・〇
 右混和三乃至四日間ニ分與(中
 等大ノ犬ノ水腫)
 ストロファンツス丁幾 五・〇

五五三

心臟内膜炎

稠厚杜松實蒸 一五〇〇
 餾水 一五〇〇
 右混和毎日一匙量宛與フ(犬ノ
 心臟瓣膜病)
 ストロファンチン(メルク製)
 〇〇〇三
 餾水 一〇〇〇
 右爲溶液二日間三回ニ皮下注射
 (犬ノ腹水)
 樟腦 四〇〇
 流動パラフィン 一六〇〇
 右溶解濾過シ皮下注射料二回分
 (犬ノ虚脱)
 枸橼酸鐵キニーネ 二・五
 樟腦 一〇〇
 桂皮舍利別 五〇〇
 アラビヤゴム 適量
 右混和爲丸劑十個毎日一乃至二
 個宛與フ(犬ノ傳染病經過中ノ
 心臟衰弱)

五五四

プロロム水素酸スコボラミン 〇〇〇三
 餾水 二〇〇〇
 右混和爲溶液皮下注射料三回分
 (馬ノ強心劑)
 硫酸アトロピン 〇〇〇五
 餾水 一〇〇〇
 右爲溶液其一〇乃至一〇〇宛
 皮下注射(犬ノ虚脱)
 サリチール酸ナトリウム 二五〇〇
 右爲散劑一包其四包ヲ作り毎三
 時一包宛「リートル」ノ水ニ和
 シテ與フ(牛ノ癩麻質斯性心内
 膜炎)
 サリチール酸ナトリウム 一五〇〇
 裸麥粉及水
 右混和爲散劑一日二―三回適量
 ニ分與(馬―右同)
 鹽酸キニーネ 二五〇〇
 甘草根 七五〇〇

アラビヤゴム漿 適量
 右混和爲丸劑二個一日間ニ與フ
 (馬ノ敗血性熱)
 鹽酸キニーネ 五〇〇
 昇汞 〇・一
 アルテア根末
 右混和爲丸劑二十個毎日飼與後
 一個宛與フ(犬ノ解熱劑)
 鹽酸キニーネ 二〇〇〇
 杜松實油 二〇〇
 アルテア根末及水 適量
 右混和爲丸劑二個一日間ニ與フ
 (馬ノ解熱・強壯劑)
 甘汞 〇〇五
 ギギタリス葉末 〇〇一
 白糖 〇〇五
 右混和爲散劑一包其六包ヲ作り
 毎日一包宛與フ(犬ノ利尿劑)
 甘汞 〇〇一
 白糖 一〇〇

慢性心内膜炎

瓣膜閉鎖不全

Insufficiencia valvularis. 脈口狹窄 Stenosis ostium. (雜)

瓣膜病

Endocarditis chronica. Vitiacordis. (雜)

右混和一回ニ與フ(犬ノ緩下劑・
 利尿劑)
 サリチール酸ナトリウムカフェイ
 ン 五〇〇
 餾水 一〇〇〇
 右爲溶液皮下注射一回分(馬・牛
 ノ強心劑)
 安息香酸ナトリウムカフェイン 二・〇
 硫酸キニーネ 一・五
 アラビヤゴム及餾水 適量

右混和爲丸劑十個毎日二個宛與
 フ(犬)
 サリチール酸ナトリウムテオプロ
 ミン 五〇〇
 餾水 一五〇〇
 右爲溶液毎三時一乃至二匙量
 宛與フ(犬ノ利尿劑)
 サリチール酸ナトリウムテオプロ
 ミン 五〇〇
 白糖 五〇〇
 餾水 一八〇〇

右爲溶液一匙量宛二日間ニ與フ
 (犬ノ右同)
 サリチール酸ナトリウムテオプロ
 ミン 二・五
 ストロファンツス丁幾 五〇〇
 橙皮舍利別 二五〇〇
 餾水 一五〇〇
 右混和三乃至四日間ニ與フ(中
 等犬ノ犬ノ水腫)

療法

本病ハ全治セサルヲ以テ唯適當ノ攝生ニ依リ病症ノ重劇トナルヲ豫防スルニ過キス故ニ患
 畜ニ對シテハ心臟ノ作用ヲ増進スル諸感作ヲ防止スルヲ療法ノ第一義トス之ヲ以テ刺激性ノ飼料ヲ
 避ケ且一時ニ過食セシメス少量宛度々食ヲ與フヘシ又患畜ニハ新鮮ノ空氣ヲ給シ且輕役ヲ課シ使用
 ニ注意スレハ數年間農用ニハ供スルヲ得ヘシ便秘ニ注目シ若シ其徵アレハ直ニ下劑ヲ投スヘシ此目

心臟内膜炎

的ニハ鹽類下劑・蓖麻子油・大黃或ハ蘆薈ヲ處ス。心臟代償作用衰フレハ絶對ノ休養ヲ命シ且心臟力ヲ強盛ナラシム之ニハ「ヂギタリス」ヲ最良藥トス。新鮮ナル「ヂギタリス」葉末馬ニハ日量二―四・〇〇牛ニハ四―六・〇〇ヲ與ヘ犬ニハ浸劑(ヂギタリス一―二・〇〇水二〇〇・〇〇一日ニ乃至三食匙宛與フ)之ニ硝石又ハ醋酸加里ヲ加ヘ利尿ヲ増加セシム「ヂギタリス」ハ反芻獸ノ胃中ニ於テ藥効ヲ失フニ依リ皮下注射ヲ爲シ得ル製劑ヲ撰用スヘシ「ストロファンツス」丁幾(大動物日量一〇―五〇・〇〇小動物一〇―五〇滴)又「ストロファンツス、デビユラーツム」ヲ四十倍ノ水ニ溶解シ皮下注射(馬〇・〇〇二―〇・〇〇三犬〇・〇〇〇二五―〇・〇〇一)ヲ行フ「カフェイン」モ卓効アリ(安息香酸「ナトリウム」カフエイン)或ハ「サリチール」酸「ナトリウム」カフエイン「ヲ大動物ニ六―八・〇〇小動物ニ〇・五―一・〇〇ヲ皮下注射ス)

肺鬱血及全身鬱血ニハ適量ノ刺絡放血効ヲ奏ス。心悸跳動スレハ心臟部ニ冷罨法ヲ施シ或ハ「モルヒネ」(〇・二―〇・五又ハ〇・〇一―〇・〇三)ヲ皮下注射ス皮下結締織ノ浮腫ニハ甘汞ヲ應用ス(犬ニハ〇・〇五―〇・一ヲ一日三四回與フ)其他利尿藥例之醋酸加里ヲ用ヒ飲水ヲ減量ス又「アグリ」(犬一―三・〇〇)「テオシン」(同量)「テオフィリン」(同量)ヲ用フ皮下水腫ノ減量ト同時ニ體腔滲漏液モ減少スルモ尙時々穿刺ヲ行ヒ滲漏液ヲ排除スヘシ、貧血ニ對シテハ鐵劑ノ内服及適正ノ飼養法ヲ行フヘシ

- ヂギタリス葉末 一〇〇・〇
- 單舍利別 一五〇・〇
- 右毎日一食匙宛舌ニ塗布ス(馬) 〇・一
- ヂギタリス葉末 一〇〇・一
- 右毎日二食匙宛與フ(犬) 〇・一
- 白糖 適量
- 右爲一包其十包ヲ作り毎日一包宛與フ(犬)

- ストロファンツス丁幾 五〇・〇
- 白糖 一〇〇・〇
- 右爲溶液一日一食匙宛與フ(犬) 一五〇・〇
- ヂギタリス葉末 一五〇・〇
- 白糖 五〇・〇
- 右日々二―三茶匙―食匙與フ(犬)
- ストロファンツス丁幾 五〇・〇
- 橙皮舍利別 一五〇・〇
- 餾水 一五〇・〇
- 右一日一乃至二茶匙―食匙ヲ與フ(犬)
- ヂギタリス葉末(一・〇)―二〇〇・〇
- 醋酸カリウム液 二五〇・〇
- 甘草蒸 一〇〇・〇
- 右混和毎日一―二回一匙量宛與フ(犬)
- エルゴチン 三〇・〇
- ヂギタリス葉末 二〇・〇
- ゲンチアナ根末 適量
- 右混和爲丸劑五十個毎二―三時二―三個宛與フ(犬)
- 安息香酸ナトリウムカフエイン 二〇・〇
- 硫酸キニーネ 一・五
- アラビヤゴム及水 適量
- 右混和爲丸劑十個毎日一―二個宛與フ(犬)
- コンヴアルラマリン浸 (五・〇)―一五〇・〇
- 單舍利別 二〇・〇
- 右混和毎二時一茶匙(小犬)乃至一食匙量(犬)宛與フ
- 硫酸スバルテイン 〇・三
- 橙皮舍利別 三〇〇・〇
- 蒸餾水ヲ加ヘテ 三〇〇・〇ト
- ナシ毎日三―四回一食匙宛(犬)
- 急性心内膜炎參照

心臟肥大 Hypertrophica cordis. (羅)

療法 心臟筋肉力ノ衰弱ヲ豫防スルニアリ即動物ニ適度ノ役務ヲ課シ且飼養法ニ事意ス就中患畜ハ長期間一樣ニシテ且輕易ナル役務ニ就カシムルヲ肝要トス是レ劇働ハ病機ヲ増悪ナラシメ頓死ヲ招來スルコトアレハナリ心臟衰弱ヲ來セハ心臟擴張ノ條下ニ述フル藥物ヲ用フヘシ

心臟肥大

五五七

心囊炎 Pericarditis. (羅)

療法 本病ハ豫後善良ナル診斷ヲ下シタル場合ニ於テノミ治療ヲ加フ即チ絶對ノ靜養ヲ與ヘ緩下劑ヲ投シ飼料ニ注意シ良乾草ニ綠飼又ハ粉汁若ハ麩汁ヲ混與ス心臟部ニ冷盪及壓迫ヲ施シ炎症ヲ緩解ス即雪又ハ氷ヲ充シタル囊ヲ心臟部ニ抵テ之ヲ廣キ帶ニテ固定シ不絶冷水ヲ灌注スヘシ藥物ハ心囊炎ニハ「サリチール」酸鹽類、高熱ニハ「ラクトフェニン」・「サリチール」酸・「アンチフェブリン」・「アソチピリン」・「ザリピリン」等ヲ用フ心臟衰弱ニハ強心劑ヲ處ス即「ヂギタリス」(大動物ニハ日量二—四〇〇、小動物ニハ二〇〇—一五〇〇ノ浸劑ニ五〇硝酸加里ヲ加ヘ毎二時一食匙)・「カフェイン」(大動物二〇—五〇小動物〇二—一〇皮下注射)・樟腦(樟腦油大動物二〇—三〇〇小動物二—三〇皮下注射)・葡萄酒・酒精又ハ「エーテル」等ヲ用フ、滲出液ノ吸收ヲ促ス爲利尿劑及緩下劑ヲ試ムヘシ液狀滲出物多量ニシテ心臟ヲ壓迫スレハ心囊穿刺術ヲ施ス

- | | | | |
|-----------------------|------|------------|----------|
| ヂギタリス葉末 | 一〇〇〇 | 塗シテ與フ(馬) | 三・五〇〇 |
| 右一瓶ノ水ニ混シ振盪合劑トナシテ與フ(牛) | | 蘆薈末 | 五〇〇 |
| 吐酒石 | 一五〇〇 | 甘朮 | 一五〇〇 |
| 芒硝 | 七五〇〇 | アルテア根末 | 一五〇〇 |
| アルテア根末及水 | 適量 | 右爲丸劑與フ(下劑) | 二〇〇—二〇〇〇 |
| 右爲低劑二日間三・四回ニ分與(馬) | | ヂギタリス浸 | 二〇〇—二〇〇〇 |
| | | 吐酒石 | 〇〇—一〇〇 |
| | | 大黃舍利別 | 二五〇〇 |

炎診斷ノ目的)

- | | | | |
|---------------------|------|----------------|-------|
| 右一日四回一茶匙乃至一食匙宛與フ(犬) | | フ(犬) | 〇〇五ヲ |
| ヂギタリス丁幾 | 一〇〇〇 | ヂギタリン | 五〇〇ニ溶 |
| 醋酸加里水 | 二五〇〇 | 稀酒精 | |
| 茴香水 | 二〇〇〇 | 餽水 | 二〇〇ヲ加 |
| 右一日三回一茶匙—一食匙宛與 | | へ皮下注射ス(牛ノ創傷性心囊 | |

心囊氣腫 Pneumopericardium. (羅)

療法 心囊炎ノ療法ニ依ル然レトモ多クハ手術ヲ要ス

心囊水腫 Hydrops pericardii. (羅)

療法 他病ノ症候トナリテ現ハルルモノナレハ其療法モ亦原病ニ由リテ取捨ス、利尿劑・發汗劑・下劑ノ適當ナル應用ニ依リ心囊内滲液ヲ減少スルコトヲ得ヘシ滲液多量ナレハ心囊穿刺術ヲ施ス

心悸亢進 Palpatio cordis. (羅)

療法 靜養シテ精神ノ興奮ヲ避ケ心臟部ヲ冷湯シ「モルヒネ」(馬〇・三—〇・五犬〇・〇—二—〇〇五皮下注射)・抱水「コロラール」(馬二〇—四〇〇犬一—二〇〇微温湯ニ溶解シ内服又ハ灌腸)・臭素加里(馬一〇—一五〇犬一—二〇〇)・飲水ニ混與等ヲ投シ心臟衰弱ノ徵アレハ強心劑ヲ處ス

臭素加里 三五〇—鹽酸モルヒネ 〇・五
右飲水ニ混シ二回分服(馬) 餽水 三〇〇〇 右皮下注射用(馬)

心囊氣腫 心囊水腫 心悸亢進 五五九